

特許庁委託事業

韓国企業の技術動向調査 追 補 版

(サムスン電子、LG電子編)

日本貿易振興機構

2013年12月

目 次

第1編 はじめに.....	1
第1章 概要.....	1
1. 調査の背景と目的.....	1
2. 調査の進め方.....	1
2-1 粗調査の進め方.....	1
2-2 詳細調査の進め方.....	2
3. 調査範囲.....	2
3-1 分析対象の特許検索DB及び検索範囲.....	2
3-2 分析の対象となる技術の選定.....	2
第2編 サムスン電子.....	5
第1章 新興国7ヶ国における特許動向.....	5
1. 概要.....	5
1-1 新興国7ヶ国別特許出願動向.....	5
1-2 家電製品分野における国別出願件数.....	6
1-3 移動通信/情報通信分野における国別出願件数.....	7
1-4 ディスプレイ分野における国別出願件数.....	8
1-5 半導体分野における国別出願件数.....	9
1-6 その他の分野における国別出願件数.....	10
1-7 サムスン電子の製品群別特許出願動向<台湾>.....	12
1-8 サムスン電子の製品群別特許出願動向<ロシア>.....	22
1-9 サムスン電子の製品群別特許出願動向<インド>.....	33
1-10 サムスン電子の製品群別特許出願動向<ブラジル>.....	43
1-11 サムスン電子の製品群別特許出願動向<南アフリカ>.....	51
1-12 サムスン電子の製品群別特許出願動向<ベトナム>.....	54
1-13 サムスン電子の製品群別特許出願動向<シンガポール>.....	57
第2章 主要4ヶ国におけるデザイン（意匠）動向.....	67
1. 概要.....	67
1-1 サムスン電子の国家別デザイン登録動向<日本特許庁>.....	67
1-2 サムスン電子の製品群別デザイン登録動向<日本特許庁>.....	68
2-1 サムスン電子の国家別デザイン登録動向<米国特許庁>.....	72
2-2 サムスン電子の製品群別デザイン登録動向<米国特許庁>.....	73
3-1 サムスン電子の国家別デザイン登録動向<欧州特許庁>.....	77
3-2 サムスン電子の製品群別デザイン登録動向<欧州特許庁>.....	78

4-1	サムスン電子の国家別デザイン登録動向<中国特許庁>.....	82
4-2	サムスン電子の製品群別デザイン登録動向<中国特許庁>.....	83
第3編	LG電子	88
第1章	新興国7ヶ国における特許動向.....	88
1.	概要.....	88
1-1	新興国7ヶ国別特許出願動向.....	88
1-2	家電製品分野における国別出願件数.....	89
1-3	移動通信/情報通信分野における国別出願件数.....	90
1-4	ディスプレイ分野における国別出願件数.....	91
1-5	その他の分野における国別出願件数.....	92
1-6	LG電子の製品群別特許出願動向<台湾>.....	94
1-7	LG電子の製品群別特許出願動向<ロシア>.....	102
1-8	LG電子の製品群別特許出願動向<インド>.....	110
1-9	LG電子の製品群別特許出願動向<ブラジル>.....	119
1-10	LG電子の電子の製品群別特許出願動向<南アフリカ>.....	126
1-11	LG電子の製品群別特許出願動向<ベトナム>.....	133
1-12	LG電子の製品群別特許出願動向<シンガポール>.....	138
第2章	主要4ヶ国におけるデザイン（意匠）動向.....	142
1.	概要.....	142
1-1	LG電子の国家別デザイン登録動向<日本特許庁>.....	142
1-2	LG電子の製品群別デザイン登録動向<日本特許庁>.....	142
2-1	LG電子の国家別デザイン登録動向<米国特許庁>.....	147
2-2	LG電子の製品群別デザイン登録動向<米国特許庁>.....	147
3-1	LG電子の国家別デザイン登録動向<欧州特許庁>.....	151
3-2	LG電子の製品群別デザイン登録動向<欧州特許庁>.....	152
4-1	LG電子の国家別デザイン登録動向<中国特許庁>.....	156
4-2	LG電子の製品群別デザイン登録動向<中国特許庁>.....	157
第4編	日本企業との比較	162
第1章	各国別における特許出願動向の比較.....	162
1-1	各国別における特許出願動向の比較<台湾>.....	162
1-2	各国別における特許出願動向の比較<ロシア>.....	162
1-3	各国別における特許出願動向の比較<インド>.....	163
1-4	各国別における特許出願動向の比較<ブラジル>.....	164
1-5	各国別における特許出願動向の比較<南アフリカ>.....	164
1-6	各国別における特許出願動向の比較<ベトナム>.....	165
1-7	各国別における特許出願動向の比較<シンガポール>.....	165
第2章	各企業におけるデザイン登録動向の比較.....	166

1-1 各企業におけるデザイン登録動向の比較 <日本>	166
1-2 各企業におけるデザイン登録動向の比較<米国>	167
1-3 各企業におけるデザイン登録動向の比較<欧州>	167
1-4 各企業におけるデザイン登録動向の比較<中国>	168
1-5 各企業におけるデザイン登録動向の比較<韓国>	169

第1編 はじめに

第1章 概要

1. 調査の背景と目的

2012年度において、サムスン電子、LG電子をターゲットに、両社における特許・デザイン・商標に関する出願状況を調査、整理し、研究開発の動向、出願がなされている国・地域の動向及び当該国・地域に出願されている技術の動向について網羅的な調査を行った。その結果、両社とも米国について特許出願・登録を伸ばす一方、予想に反し、中国における特許出願・登録は、近年急速に減少させている状況が明らかとなった。

また、両社とも、予想以上にデザイン（意匠）を重視しており、先の調査で対象とした米国に対するデザイン登録を近年急増させていることが明らかとなった。

そこで、両社の特許出願・登録状況について、新興国に調査対象を広げ、これらの国・地域に対する知財戦略をより明確にすることを本追補の目的の一つとする。

また、予想以上にデザインを重視している状況にかんがみ、両社の各国におけるデザイン登録の状況について日本企業との比較を行い、デザインに関する知財戦略の相違を明らかにすることを本追補のもう一つの目的とする。

2. 調査の進め方

調査対象企業が特許出願を行っている全ての出願案件を対象に、該当分野を各企業の事業部門に従って整理し、粗調査を行う。その中から出願数、出願数の増減を考慮した上で、重要技術分野の特定を行い、さらに詳細調査を実施する。この調査により、調査対象企業における研究開発動向を網羅的、俯瞰的に整理すると共に、さらに重要技術分野について、研究開発動向及び技術の流れを把握する。

2-1 粗調査の進め方

特許に関する粗調査は、調査対象企業の全ての出願のうち台湾、台湾、ロシア、インド、ブラジル、南アフリカ共和国、ベトナム、シンガポールなどの新興国7ヶ国、デザインに関する粗調査は、調査対象企業の全ての出願のうち日本特許庁、米国特許庁、欧州特許庁、中国特許庁に対する各出願を対象とし、各企業の事業部門の製品群単位で区分けする。デザイン区分けしたものは、調査期間における総累計数と年度別による件数の推移を把握する。また、全体件数における各単位の件数が占める割合を整理することで、単なる年度比からの件数の増減に関わらず、調査対象企業の重視する分野を客観的に眺めることができるようにした。

なお、ファミリー出願と各国別出願を比較において、これらの出願件数は、優先権主張の関係により、最大1年の相違が生じ得る点に留意されたい。

2-2 詳細調査の進め方

粗調査により特定された重要技術分野について、当該各国特許庁への出願に対し、IPCサブクラス単位、技術用語を用い、更に詳細調査を行った。詳細調査の結果についても粗調査と同様に各国別における出願件数の年度別推移と各サブクラスが占める割合を整理する。

また、製品群分類は、2012年度に作成した「韓国企業の技術動向調査」における例により、以下のとおりとする。

(サムスン電子) 移動通信/情報通信、半導体、家電製品、ディスプレイ、その他
(LG電子) 移動通信/情報通信、家電製品、ディスプレイ、その他

3. 調査範囲

3-1 分析対象の特許検索DB及び検索範囲

1) 特許

対象国特許	調査対象期間	調査対象
台湾特許	2000年1月～2010年12月までに 出願または登録された資料	サムスン電子及びLG電子の 特許出願又は特許登録
インド特許		
南アフリカ特許		
ブラジル特許		
ロシア特許		
ベトナム特許		
シンガポール特許		

2) デザイン

対象国特許	調査対象期間	調査対象
日本特許	2000年1月～2012年12月までに 登録された資料	サムスン電子及びLG電子の デザイン登録
米国特許		
欧州(OHIM)特許		
中国特許		

3-2 分析の対象となる技術の選定

以下、今回の調査で用いた製品群の仕分け表である。本報告書中の特許統計などで出てくる製品がどの製品群に属するのか参考にして頂きたい。ただし、それぞれの企業において製造されている製品の違いにより、同じ製品群であっても詳細商品が異なっているので、留意されたい。

(1) サムスン電子製品群別詳細分類

〈表1〉サムスン電子の製品群による区分け

製品群	詳細製品	
移動通信/情報通信	ネットワークシステム、携帯電話、プリンター、PC	
半導体	メモリー、LSI、イメージセンサー、ハードディスク	
家電製品	TV/AV	ゲーム装置、光ディスク、リモコン、モニター、オーディオ、プロジェクター、TV、VCR
	生活家電	エアクリナー、洗濯機、エアコン、衣類乾燥器、清掃機、トイレ製品
	台所家電	冷蔵庫、食器洗浄機、軟水器、オーブン、電子レンジ、浄水器、製パン器
	カメラ	カメラ、ビデオカメラ
	ホームネットワーク	
ディスプレイ	液晶、有機EL、PCB、LED、電子ペーパー、FED、PDP、CRT	
その他	ソフトウェア、バイオ、保安装置、ナビゲーション、太陽電池、ロボット、モーター、医療機器、二次電池、燃料電池、金型/射出、包装、ワイヤレス充電、車両用装置	

(2) LG電子製品群別詳細分類

〈表2〉LG電子の製品群による区分け

製品群	詳細製品	
移動通信/情報通信	携帯電話、ネットワークシステム、PC、プリンター	
家電製品	TV/AV	光ディスク、歌伴奏機、リモコン、モニター、スイッチ、オーディオ、電子玩具、コネクター、プロジェクター、TV、VCR
	生活家電	加湿器、エアクリナー、その他-家電製品、ドア/ヒンジ装置、酸素発生器、洗濯機、エアコン、除湿機、清掃機
	台所家電	その他-家電製品、冷蔵庫、排気フード、ビルトイン、食器洗浄機、オーブン、ワインセラー、生ごみ処理器、電気釜、電子レンジ、浄水器、コーヒーメーカー
	カメラ、ホームネットワーク	
ディスプレイ	PDP、液晶、有機EL、LED、PCB、CRT、FED、電子ペーパー、AMOLED	

その他	圧縮機、モーター、ナビゲーション、照明装置、太陽電池、保安装置、燃料電池、二次電池、検査/測定装置、医療機器、包装、車両用装置、発電システム、金型/射出、塗装及びコーティング、ロボット、キホン、センサー、ワイヤレス充電、バイオ
-----	---

第2編 サムスン電子

第1章 新興国7ヶ国における特許動向

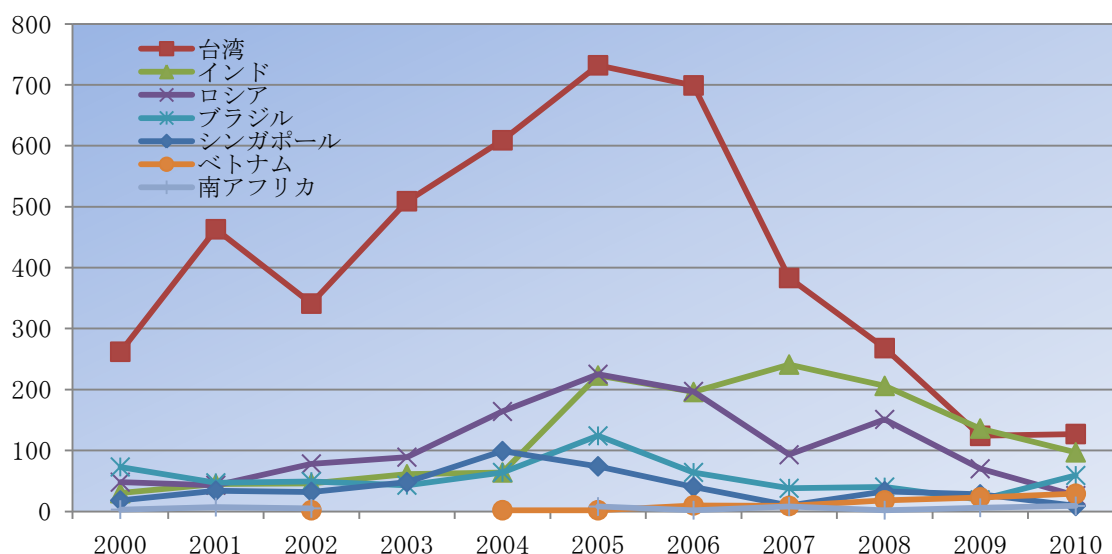
1. 概要

サムスン電子による新興国7ヶ国（台湾、インド、南アフリカ共和国、ブラジル、ロシア、ベトナム、シンガポール）に対する特許動向において、各製品別に出願動向および出願状況を調査し、示した。

1-1 新興国7ヶ国別特許出願動向

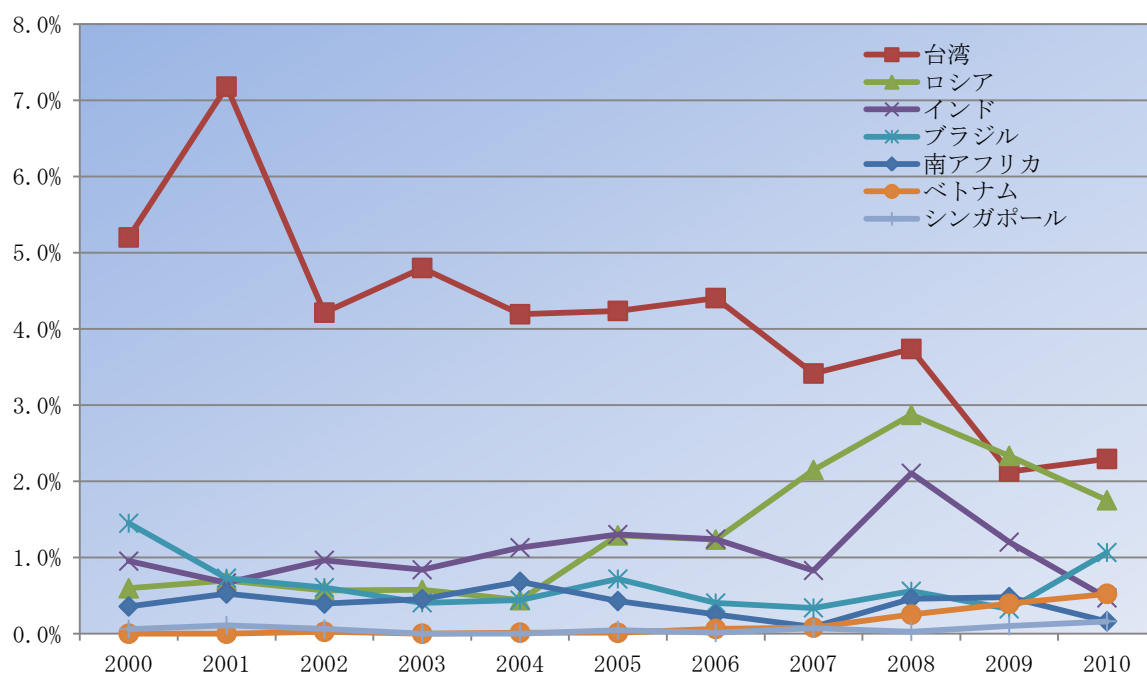
下記のグラフは、各国別出願動向の推移である。グラフを見て分かるように、圧倒的に台湾への特許出願が多い。また台湾、インド、ロシア、ブラジルにおいては2005年に大幅に増加している。台湾は、2002年から2005年までの間に2倍以上出願件数を伸ばし、台湾への特許出願を重点的に取り組んでいたのがうかがえる。その後は急減少して、2010年は過去10年間で極めて低い出願件数となっている。インドにおいては、2005年に急激に増加、近年は緩やかに減少してきている。ロシアも2005年に一時増加したが、その後は2007年に急激に減少し、2008年に再び増加したが近年はかなり減少している。ブラジルも2005年に増加、その後は緩やかに減少。シンガポールは2004年に増加を見せたが、2007年に大きく減少し近年は横ばい状態である。ベトナムは2004年から少しずつ増加、一時期減少したが、近年は増加傾向を維持している。南アフリカは小幅ながら出願の増減がある。

〈表1〉サムスン電子の各国別出願動向の推移



次に、サムスン電子の韓国出願を100とした各国出願の比率を下のグラフで示す。台湾は2001年、前年から急激に比率を伸ばし、その後は2002年から近年まで増減しながら低下傾向。ロシアは2008年に比率を大きく伸ばしたがその後は低下。インドは2006年までほぼ横ばい状態であったが、2007年に低下し2008年に大きく比率を伸ばし、近年は急激に低下した。ブラジルは2000年以降横ばい状態であったが、2010年は比率を伸ばしている。南アフリカは2007年に低下後、若干比率を伸ばしたが再び低下。ベトナムは近年になって緩やかに比率を伸ばし、シンガポールは比率が低いまま横ばい状態となっている。

〈表2〉サムスン電子の韓国出願を100とした各国出願の比率

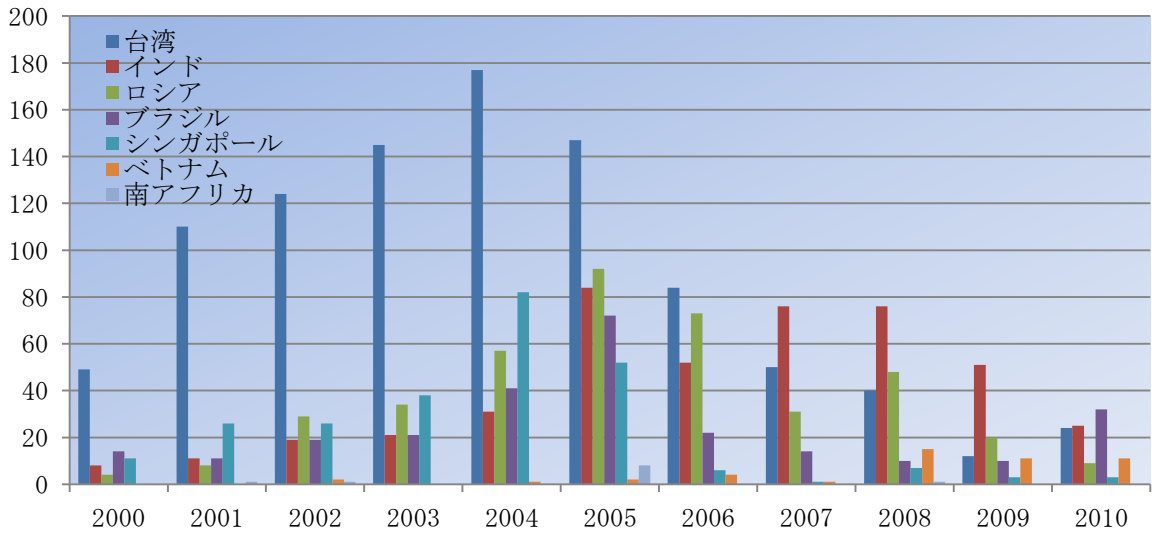


1-2 家電製品分野における国別出願件数

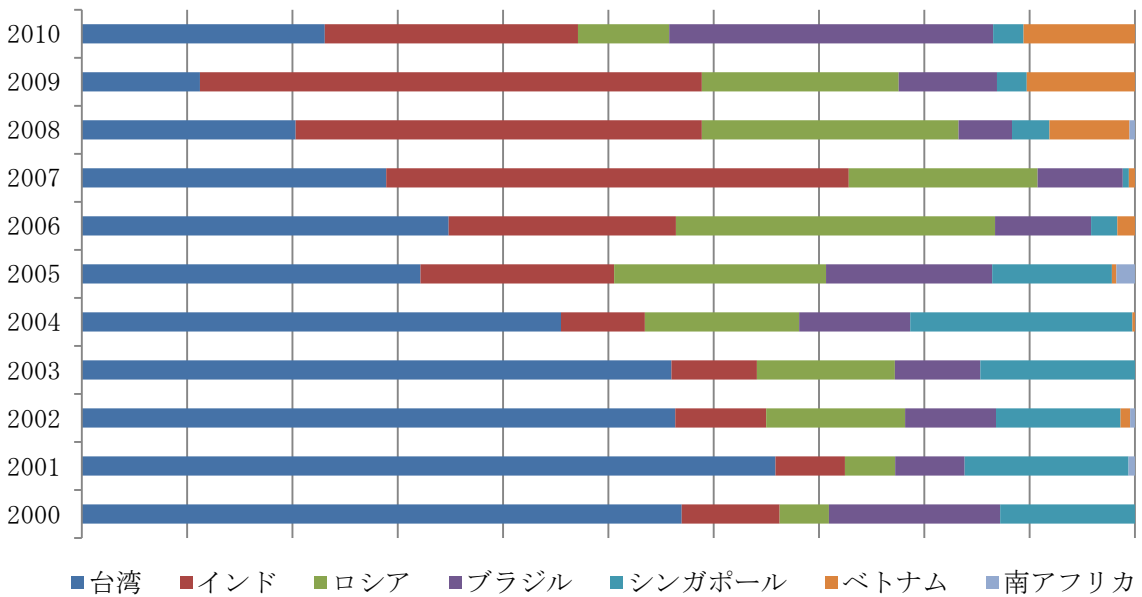
次は、製品分野別に国別出願件数と比率について見てみる。

まず、家電製品分野では、台湾が2005年まで圧倒的に出願件数がトップであったが、2006年には急激に減少、その後減少傾向となり2010年に若干増加した。インドにおいては、2005年以降増減を繰り返し、近年は減少。ロシアも2005年以降増減を繰り返している。ブラジルもインドとロシアと同様、2005年に大きく増加したが、その後は一気に減少、2010年は他国の中でトップとなった。シンガポールは、2004年に前年の2倍以上増加したが、2006年以降は急激に減少した。ベトナムは、2008年に増加したが、その後小幅ながら減少している。南アフリカは、ここ10年間で僅かながら2005年のみ出願件数が多い。

〈表3〉サムスン電子の家電製品分野における国別出願件数



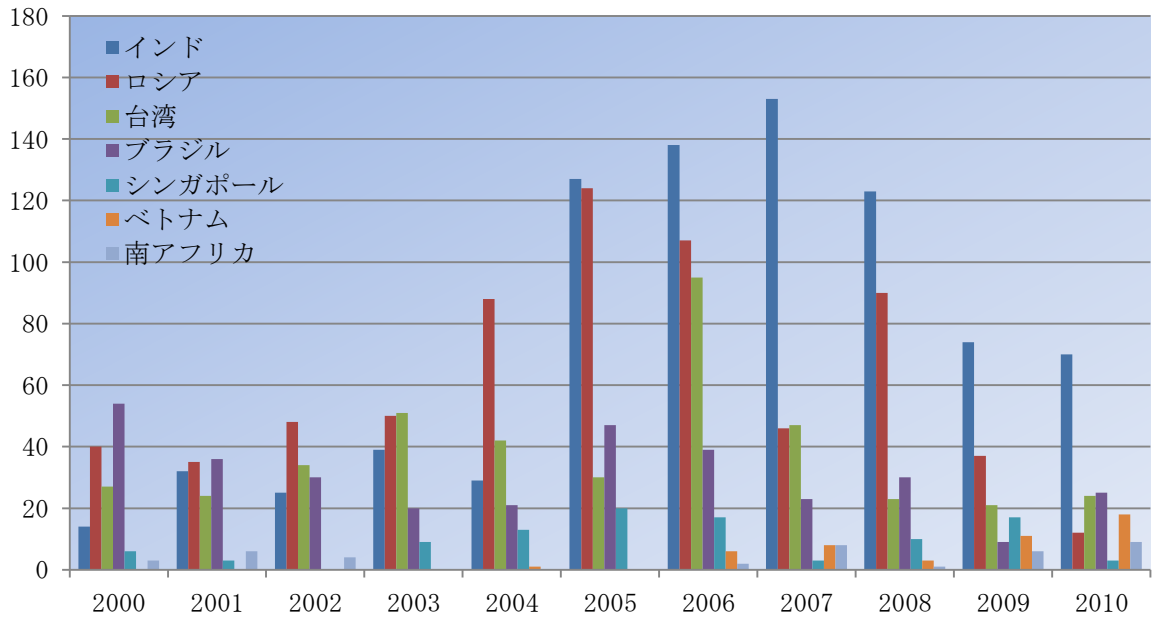
〈表4〉サムスン電子の家電製品分野における国別出願件数の比率



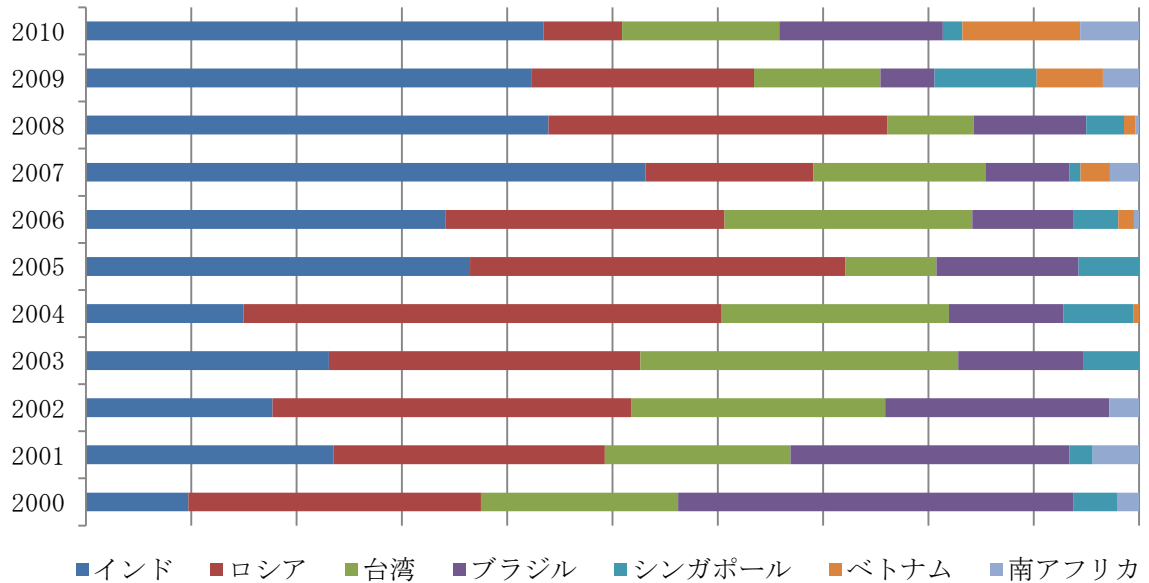
1-3 移動通信/情報通信分野における国別出願件数

移動通信/情報通信分野においては、2005年以降インドへの出願件数が増加、2007年にピークとなりその後は減少しているが、近年はインドがトップを占めている。ロシアは、2005年以降増減を繰り返している。台湾は2007年に大きく減少し、その後は横ばい状態が続いている。ブラジルは、ここ10年間増減を繰り返している。シンガポールは、2005年が最も多く、その後は小幅ながら増減傾向。ベトナムは、2006年以降徐々に出願件数が増え、2010年は近年で最も多い。南アフリカは、2003年から2005年出願が無かったが、2006年より徐々にまた出願しており、2010年はここ10年で最も多い。

〈表5〉サムスン電子の移動通信/情報通信分野における国別出願件数



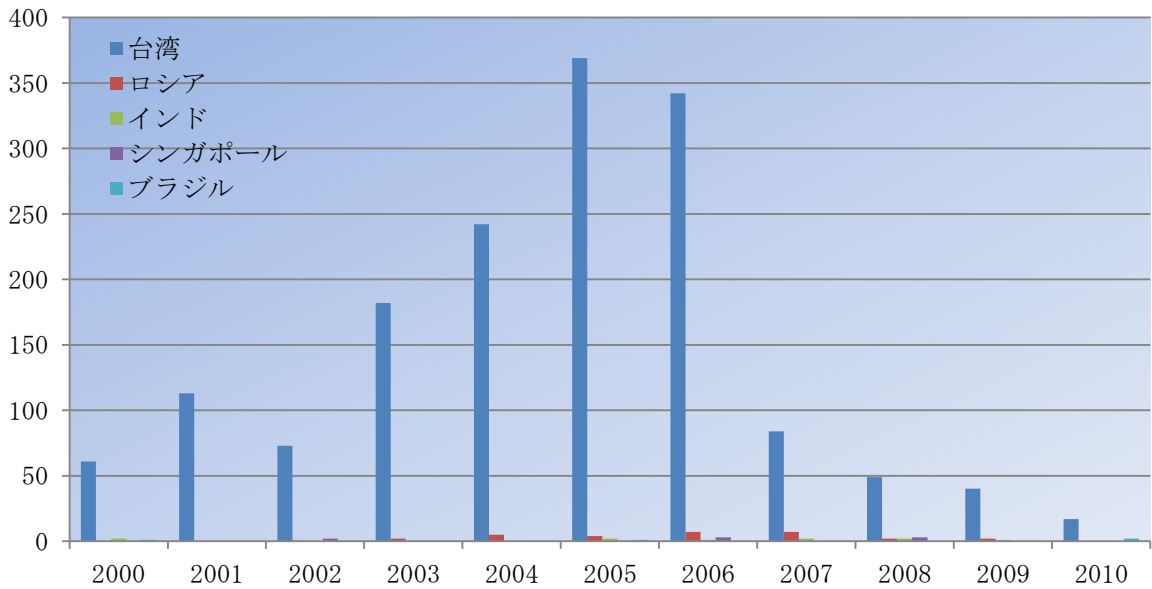
〈表6〉サムスン電子の移動通信/情報通信分野における国別出願件数の比率



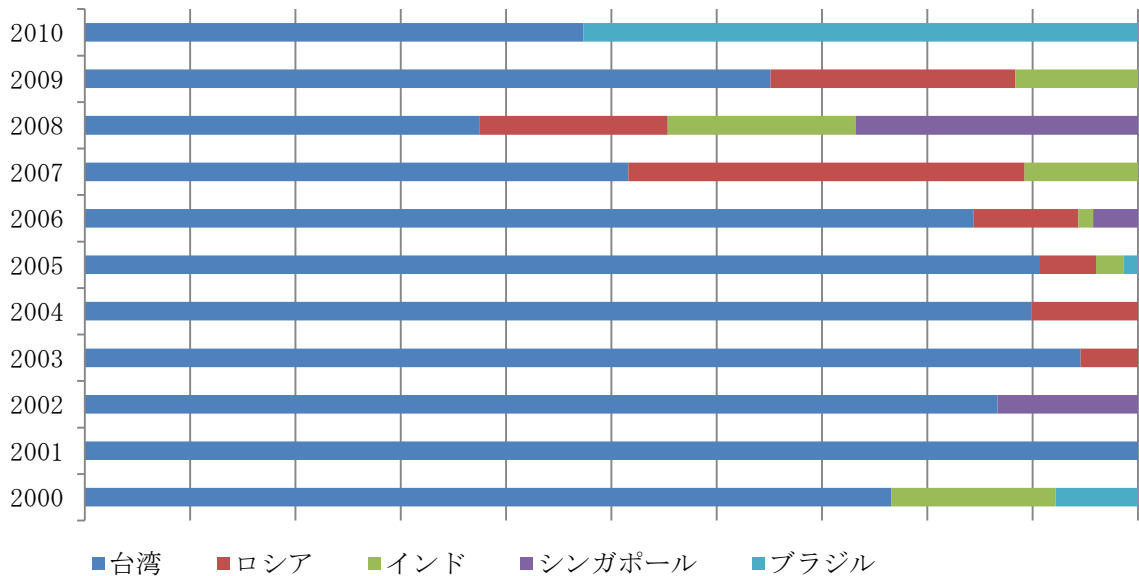
1-4 ディ스플레이分野における国別出願件数

ディスプレイ分野においては、台湾への出願件数が圧倒的に多い。2005年にピークを迎えたが、2007年には前年の4分の1程度まで減少し、その後は引き続き減少している。ロシアは2006年及び2007年に若干出願件数が増加した。インド、シンガポール、ブラジルにいたっては、僅かに出願している状態である。

〈表7〉サムスン電子のディスプレイ分野における国別出願件数



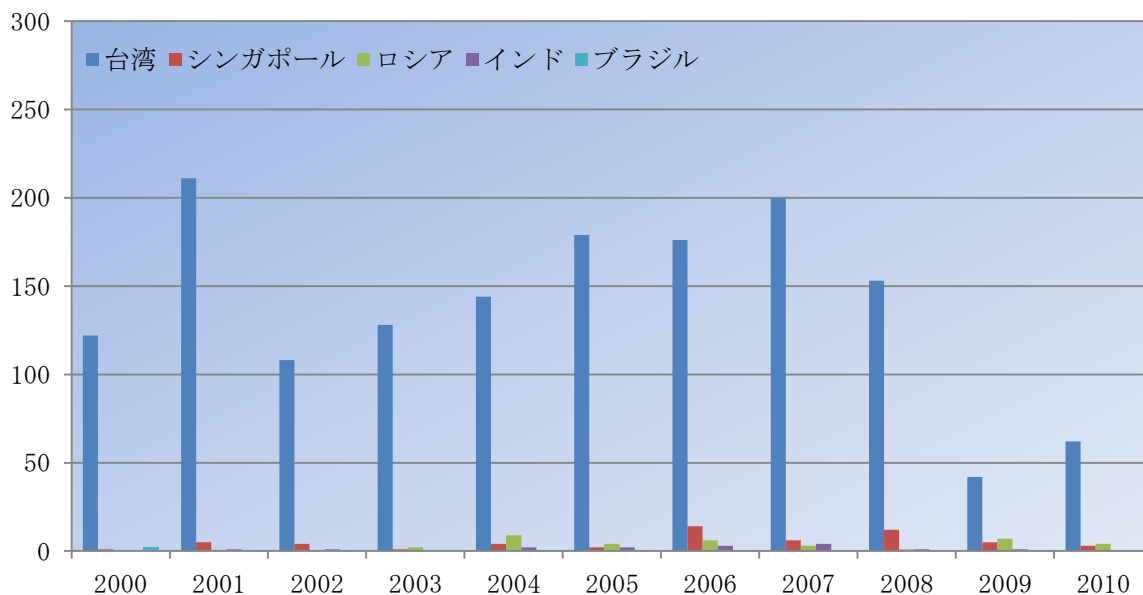
〈表8〉サムスン電子のディスプレイ分野における国別出願件数の比率



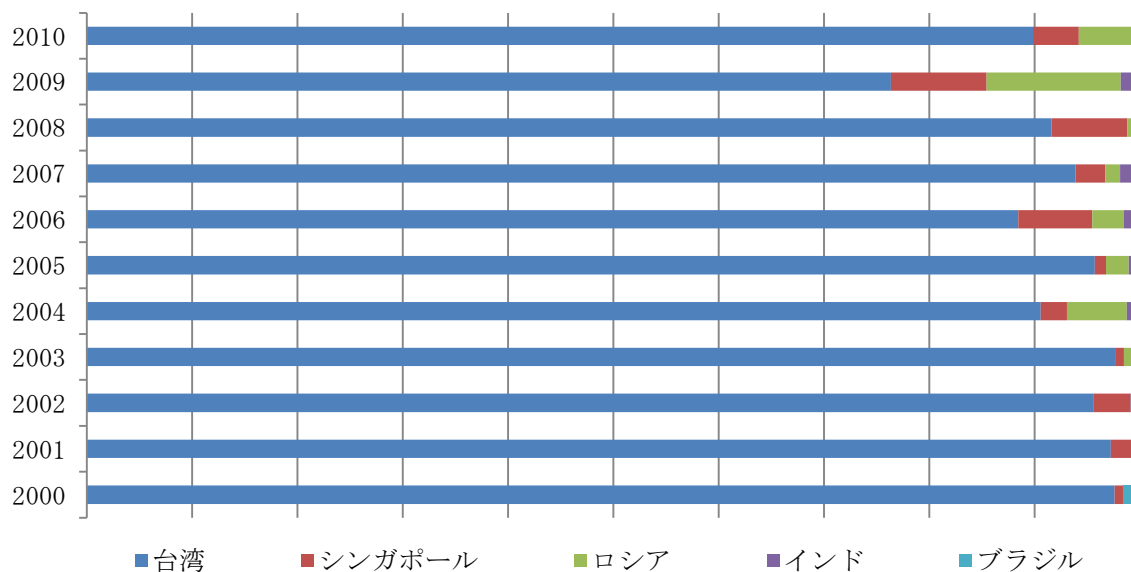
1-5 半導体分野における国別出願件数

半導体分野においては、ディスプレイ分野同様、台湾が群を抜いてトップを占めている。2008年までは毎年100件以上出願していたが、2009年大幅に減少し、2010年は僅かながら増加した。シンガポール、ロシア及びインドは、出願件数が少ないながら増減を繰り返している。ブラジルは、ここ10年間で2000年のみ僅かだが出願している。

〈表9〉サムスン電子の半導体分野における国別出願件数



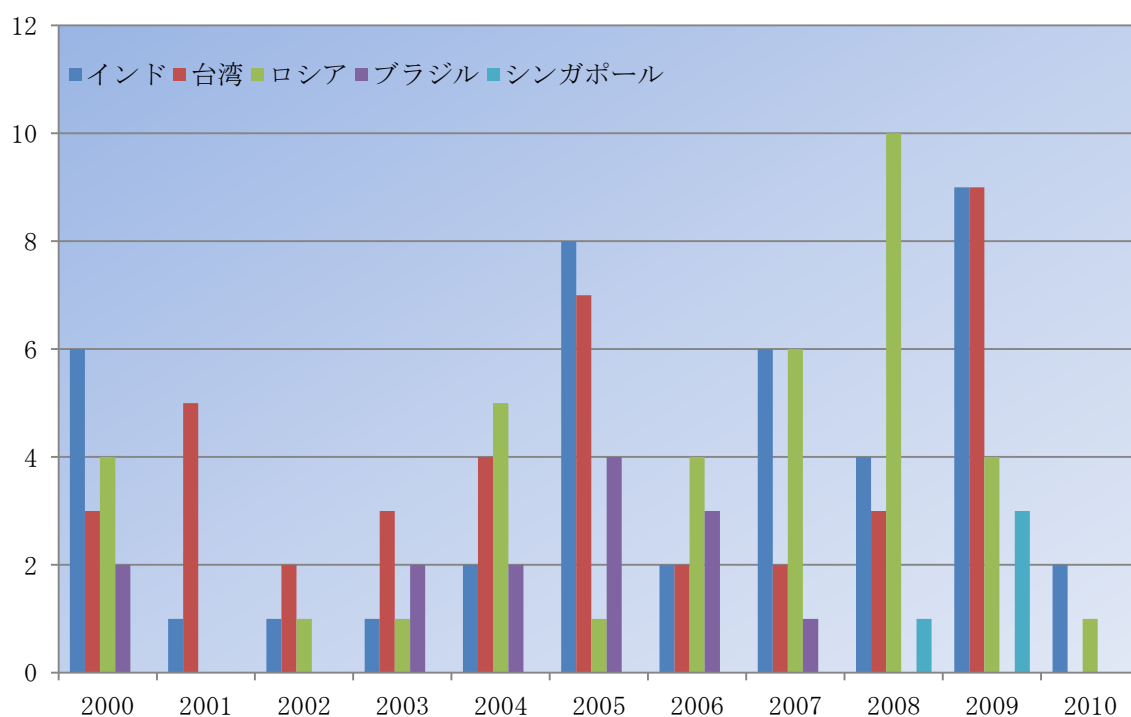
〈表10〉サムスン電子の半導体分野における国別出願件数の比率



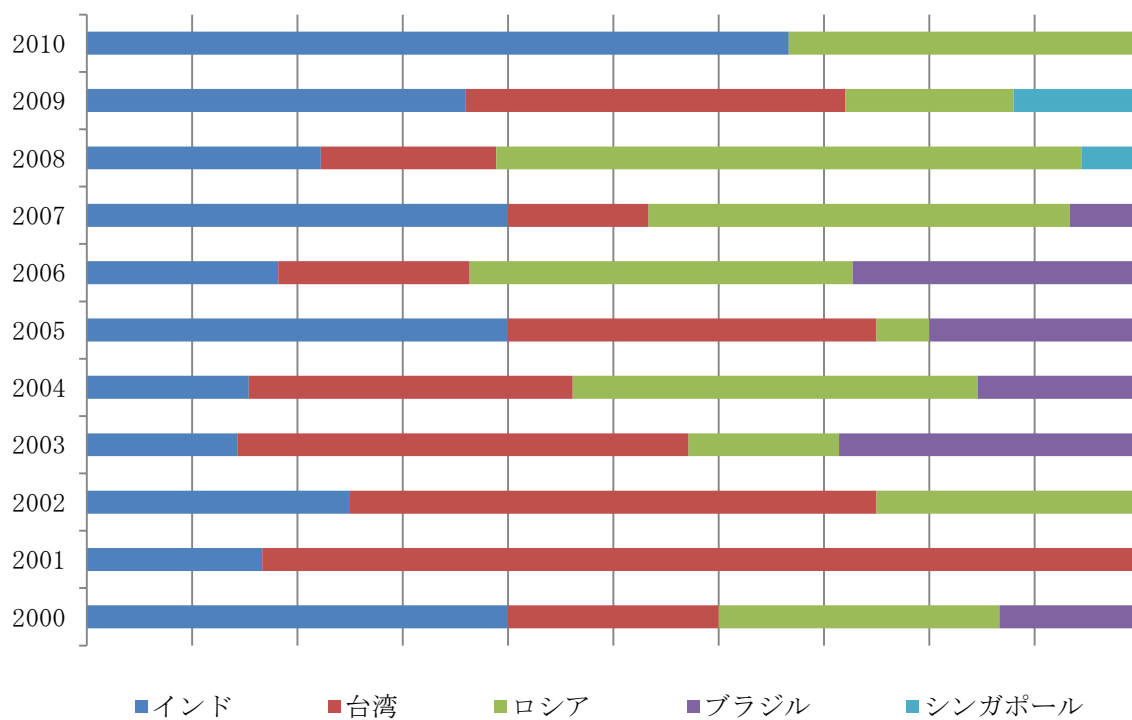
1-6 その他の分野における国別出願件数

その他の分野は、上記に示した家電製品分野、移動通信/情報通信分野、ディスプレイ分野、半導体分野以外の分野である。全体的に見てインドへの出願件数が最も多い。2005年以降増減を繰り返して2009年にピークを迎えたが、2010年は大幅に減少した。台湾はここ10年間大幅に増減を繰り返しており、2009年にピークとなった後、2010年は出願されていない。ロシアは2008年に群を抜いて出願件数が多かったが、その後は減少傾向。ブラジルは2005年に最も多く出願したが、2007年以降は出願されていない。シンガポールは、ここ10年間で2008年と2009年のみ出願された。

〈表11〉サムスン電子のその他の分野における国別出願件数



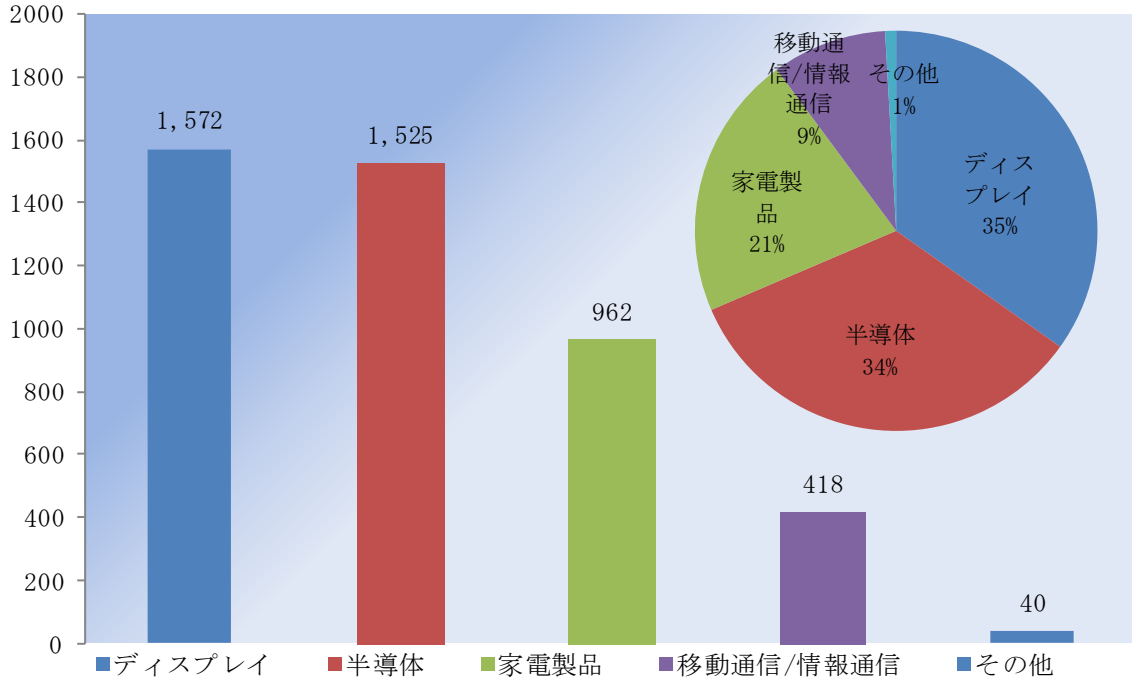
〈表12〉サムスン電子のその他の分野における国別出願件数の比率



1-7 サムスン電子の製品群別特許出願動向<台湾>

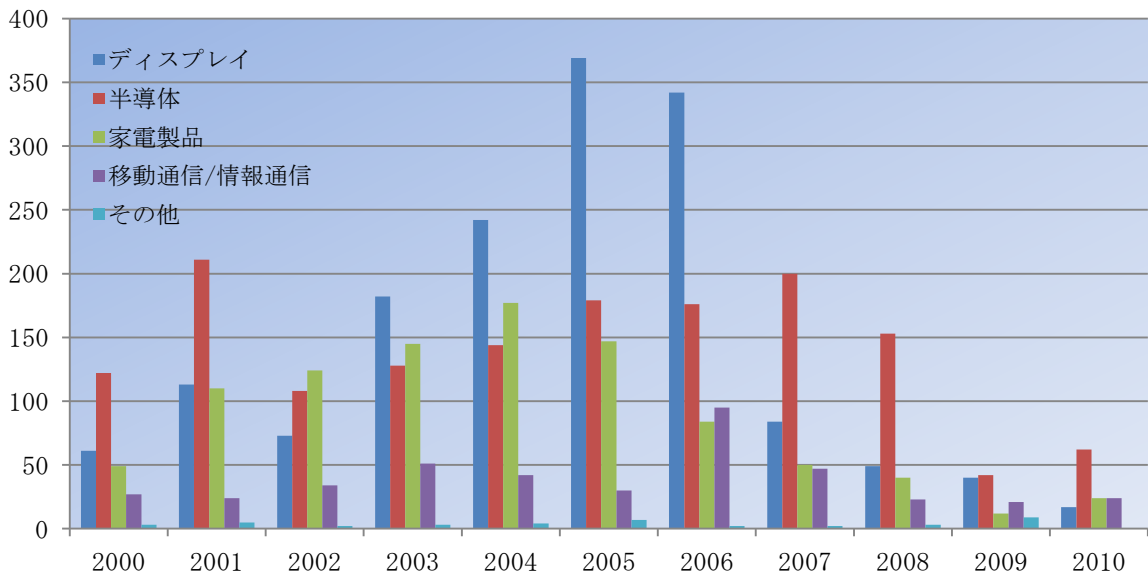
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

<表13> サムスン電子の製品群別による累計出願件数 (台湾)



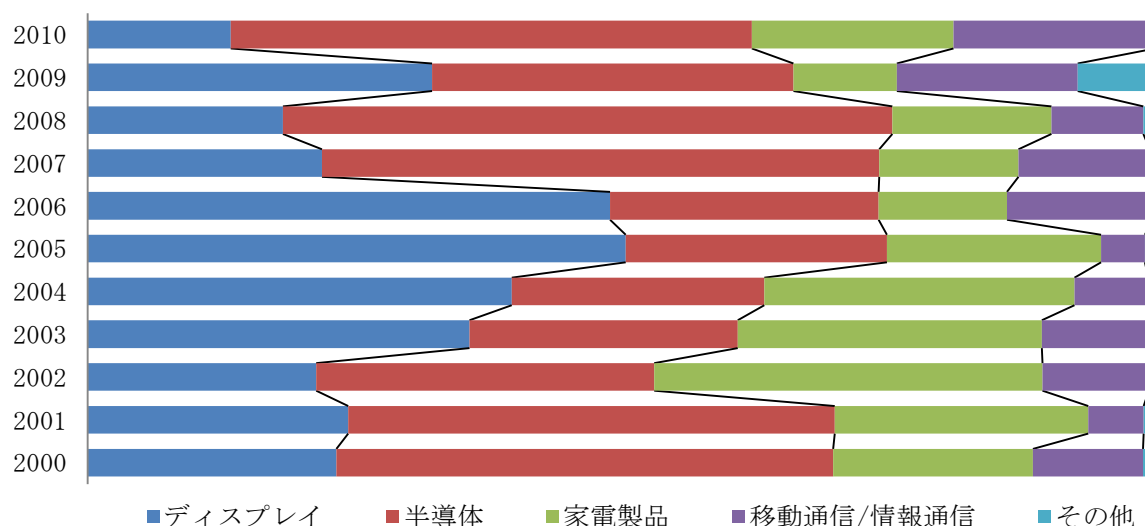
台湾への出願件数において製品群別に見ると、ディスプレイと半導体が最も多く、これらの分野に注力しているのがよく分かる。次に家電製品、移動通信/情報通信分野となっている。

<表14>サムスン電子の製品群別出願件数の推移 (台湾)



ディスプレイ分野は、2005年をピークに近年大幅に減少している。半導体は、2008年までほぼ横ばい状態であったが、その後大幅に減少している。家電製品は、2005年以降大幅に減少。移動通信/情報通信は、2006年に最も多く出願されたがその後は減少している。

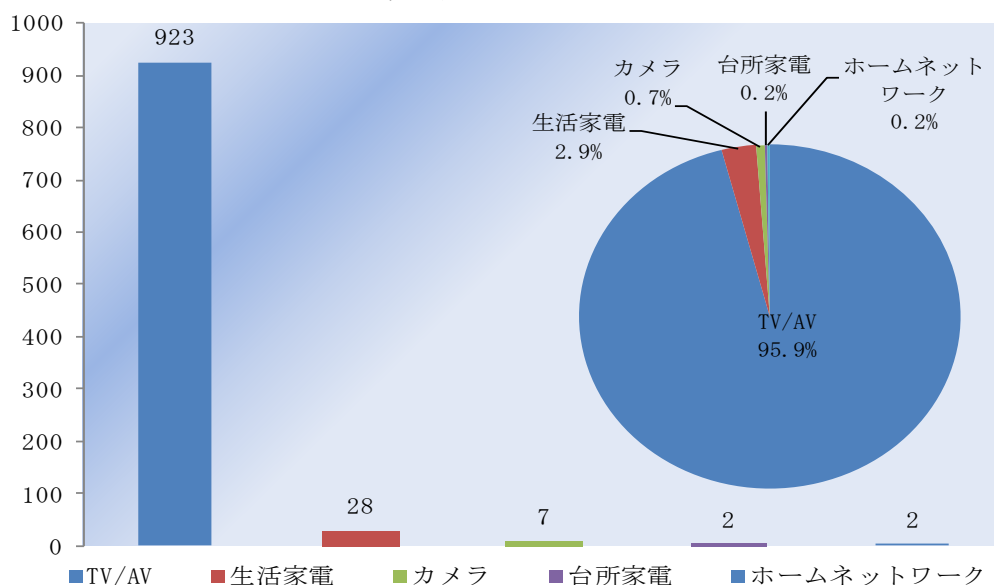
〈表15〉サムスン電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合 (台湾)



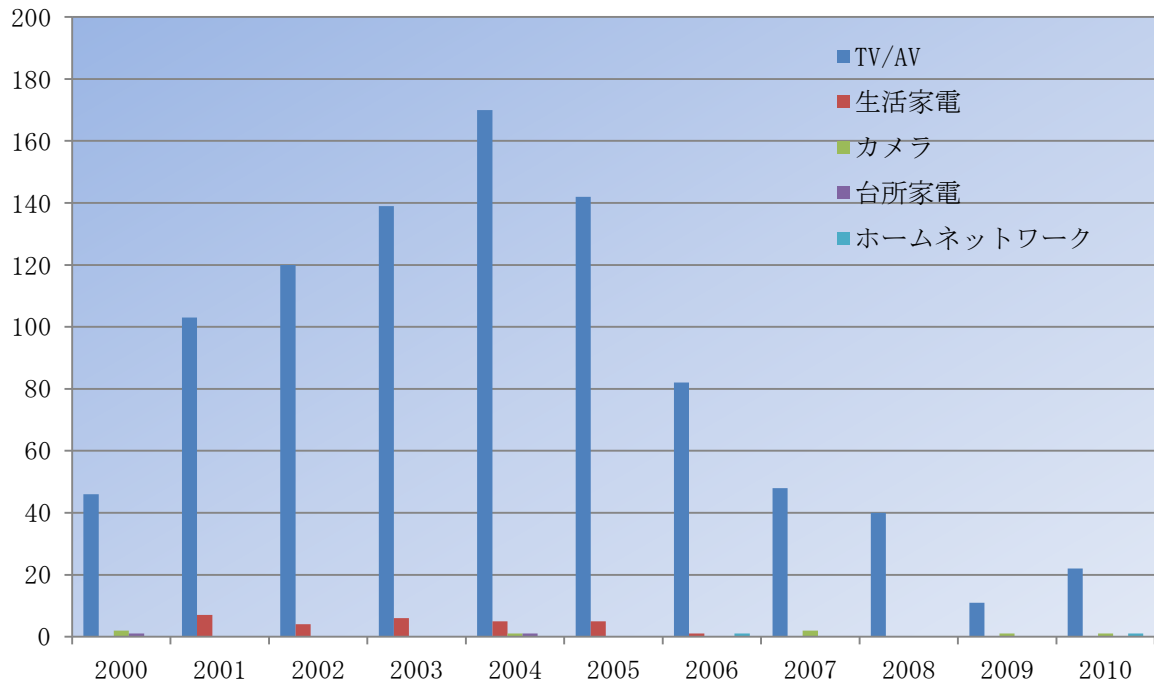
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における各分野の累計出願件数およびその比率の推移を示す。圧倒的にTV/AVの出願件数が多い。次の生活家電は毎年10件にも至らない。カメラ、台所家電およびホームネットワークは、ここ10年間で出願件数が10件にも至らない。

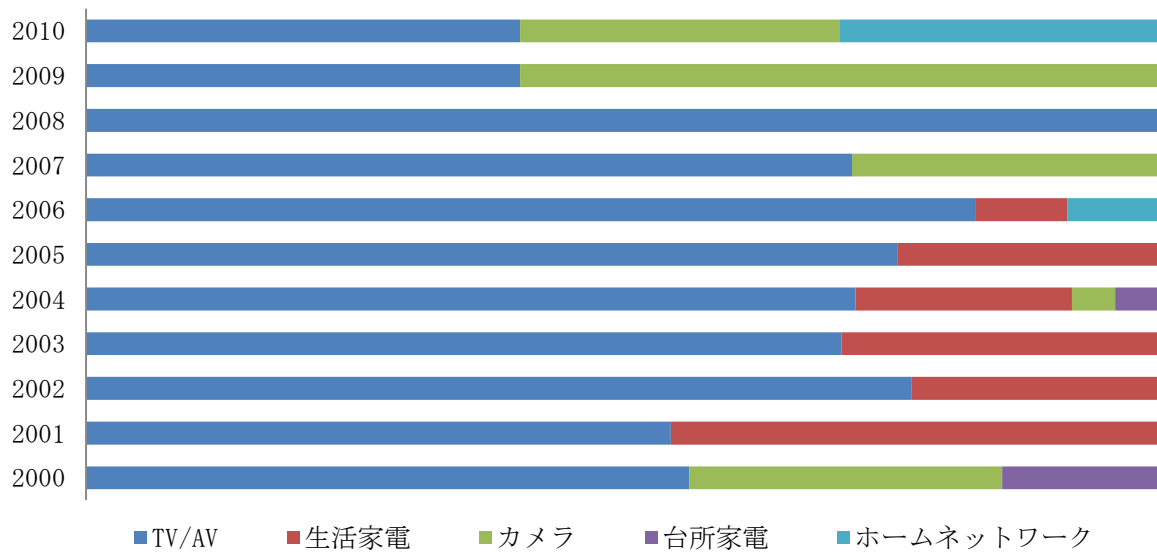
〈表16〉サムスン電子の家電製品群における各分野の累計出願件数 (台湾)



〈表17〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（台湾）



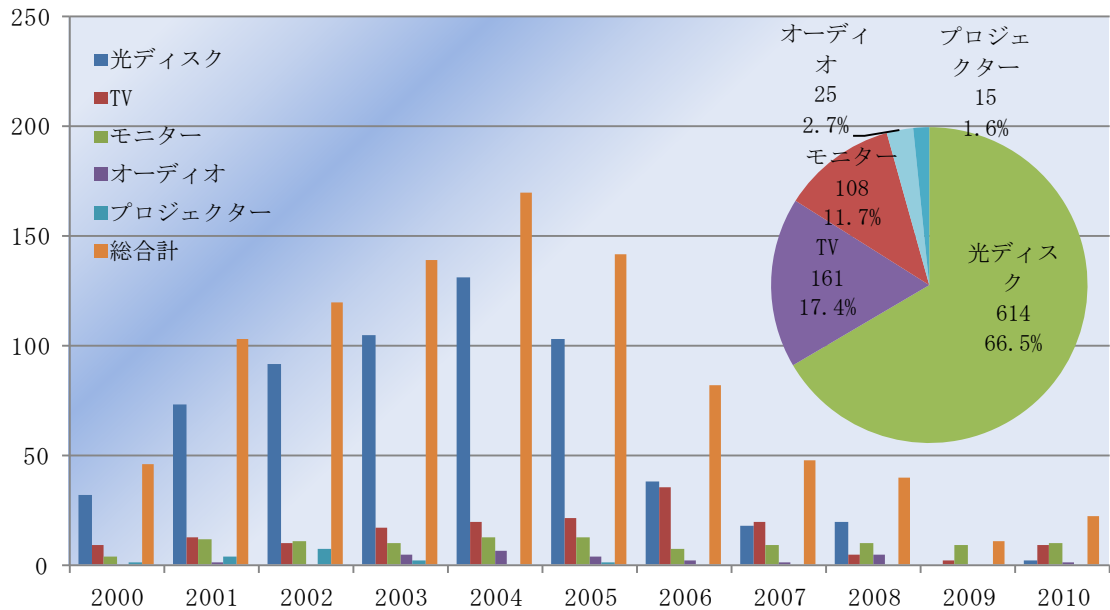
〈表18〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（台湾）



(2) TV/AV の特許出願動向

全体的に見ると、光ディスクが最も多い。2004 年以降減少している。TV は、2006 年増加したが、その後は減少。モニターは、ほぼ横ばい状態。オーディオおよびプロジェクターは出願件数が少数である。

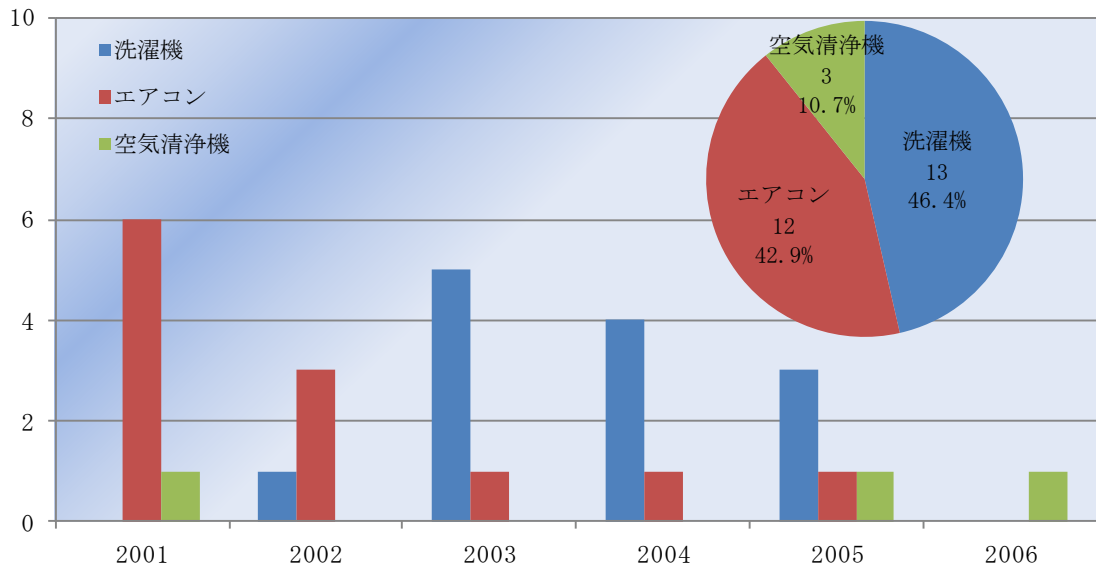
〈表19〉サムスン電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移（台湾）



(3) 生活家電の特許出願動向

2006年以降、生活家電の特許出願がされていないため、ここでは2001年から2006年までの統計を見てみる。エアコンは2001年から翌年急激に減少、2005年以降出願がされていない。

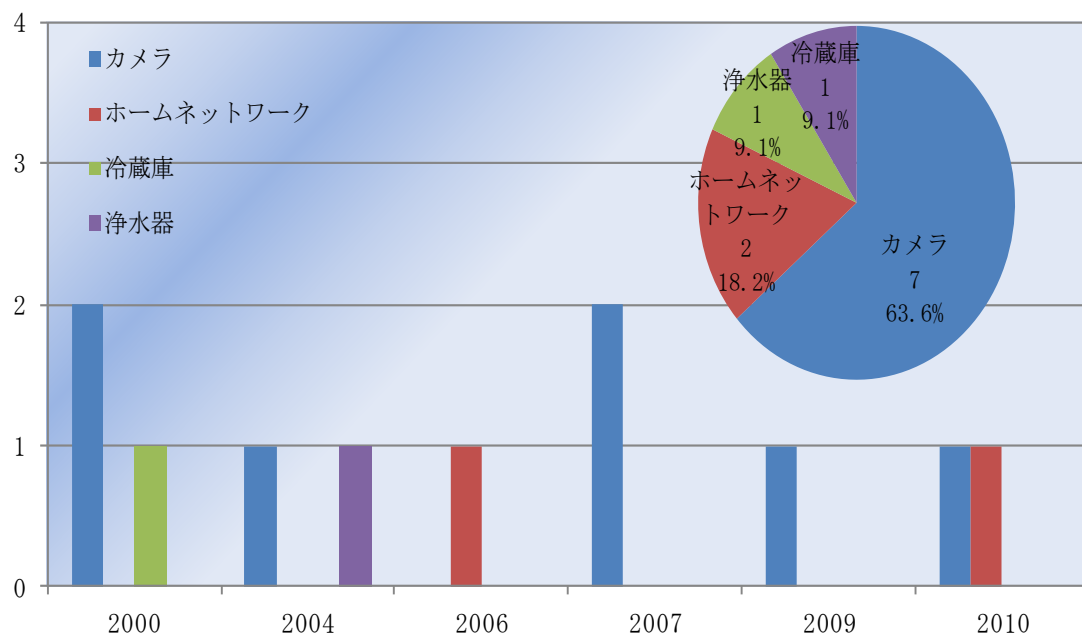
〈表20〉サムスン電子の生活家電に関する細部製品の年度別推移（台湾）



(4) 台所家電/ホームネットワーク/カメラの特許出願動向

カメラが2006年以外毎年出願され、全体の6割程度を占めている。浄水器、冷蔵庫にいたっては2004年以降出願がない。ホームネットワークは2006年と2010年に出願されるなど、バラつきがある。

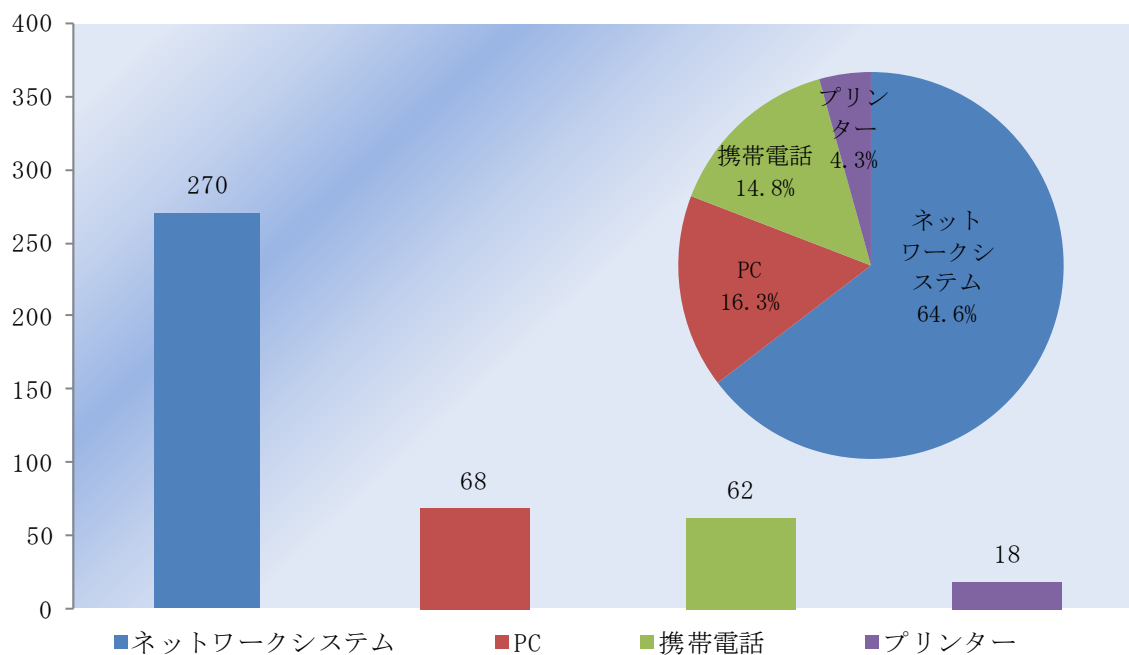
〈表21〉サムスン電子の台所家電/ホームネットワーク/カメラに関する細部製品の年度別推移（台湾）



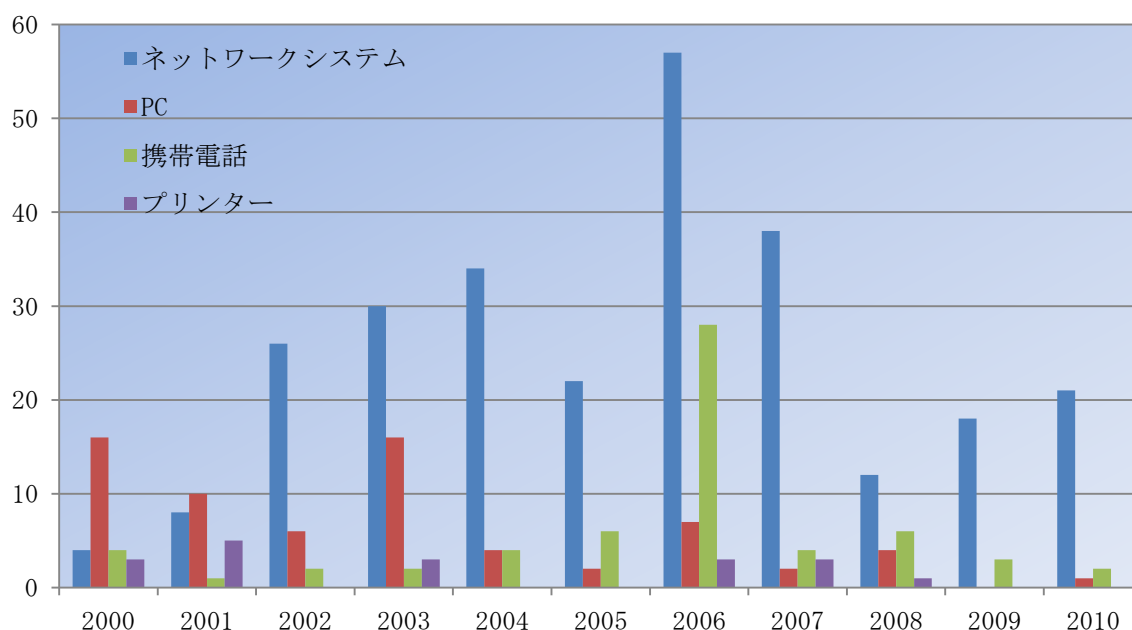
(5) 移動通信/情報通信製品群の特許出願動向

全体的に見てネットワークシステムが最も多いが、2006年をピークに減少。続くPCは、ここ10年間増減が激しい。携帯電話は、2006年をピークに減少傾向。プリンターは近年ほとんど出願されていない。

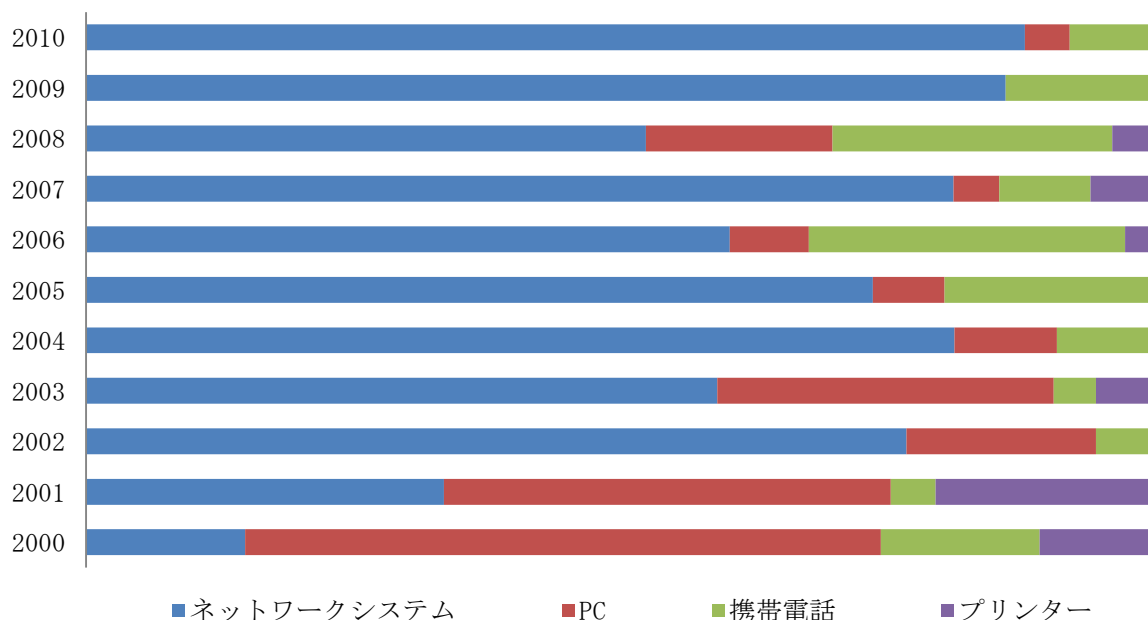
〈表22〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の累計出願件数（台湾）



〈表23〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（台湾）



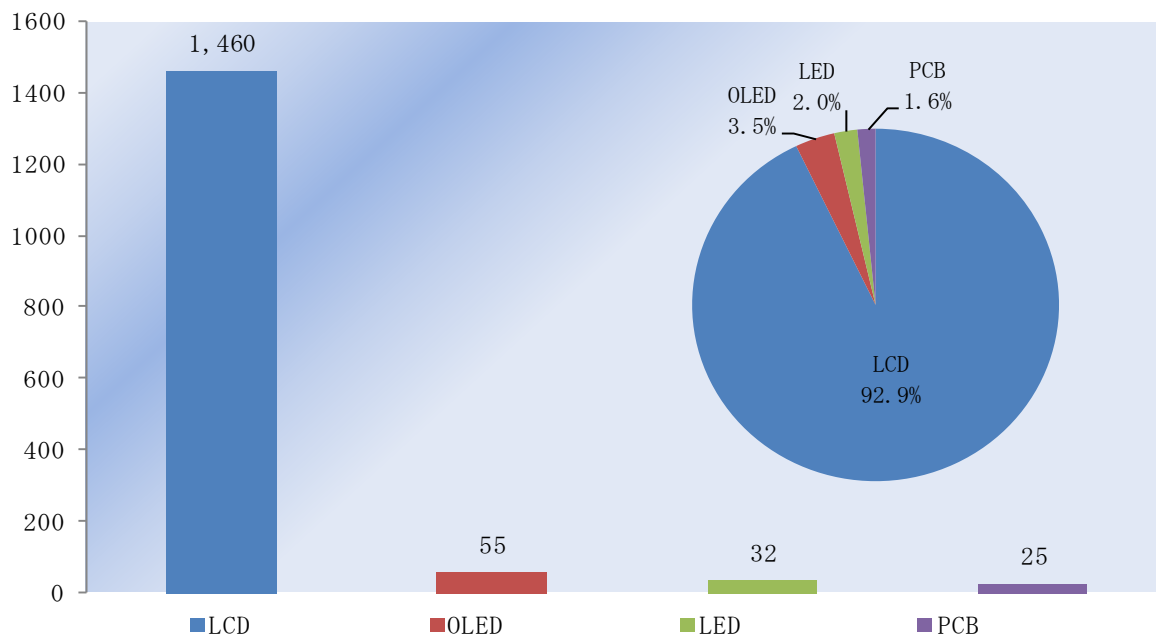
〈表24〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（台湾）



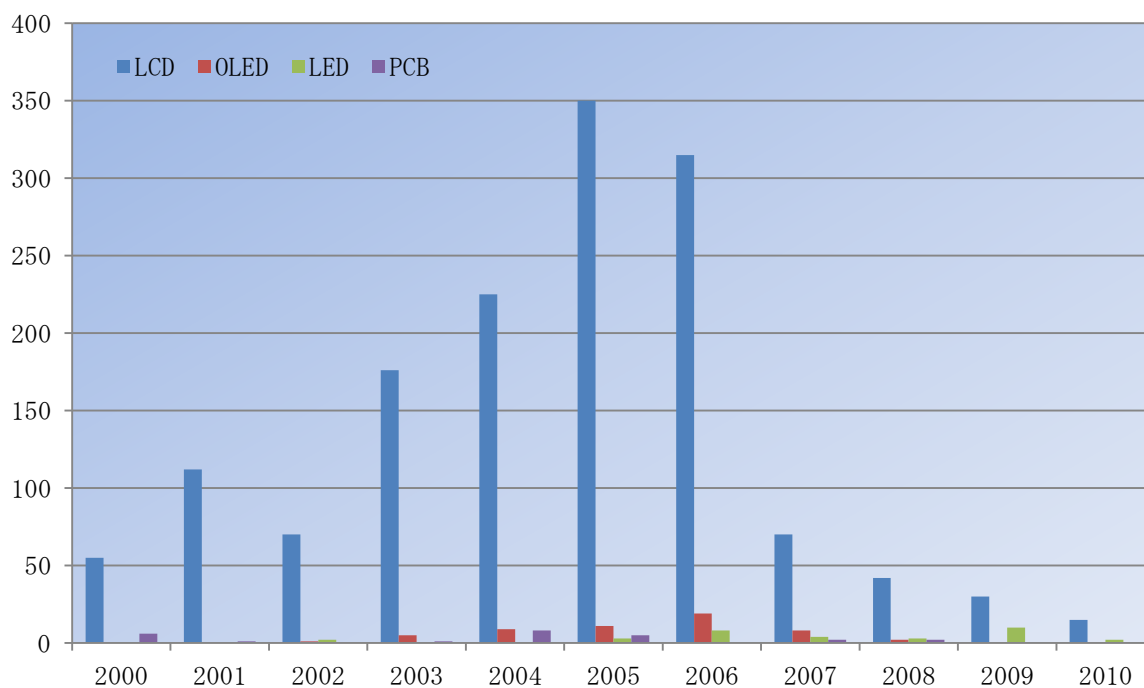
(6) ディスプレイ製品群の特許出願動向

LCD は、2005 年をピークに近年は大幅に減少しているが、全体の 9 割強を占めている。OLED は 2008 年以降出願がない。LED は、出願件数に多少の増減はあるが近年着実に
出願されている。PCB は、近年出願件数が減り、2008 年以降出願されていない。

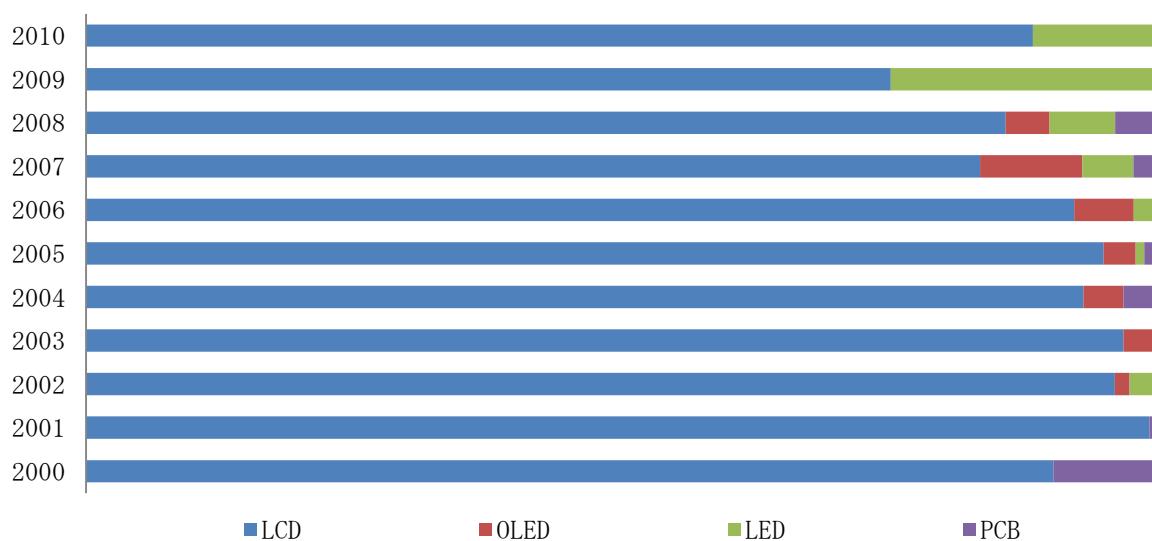
〈表25〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の累計出願件数（台湾）



〈表26〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（台湾）



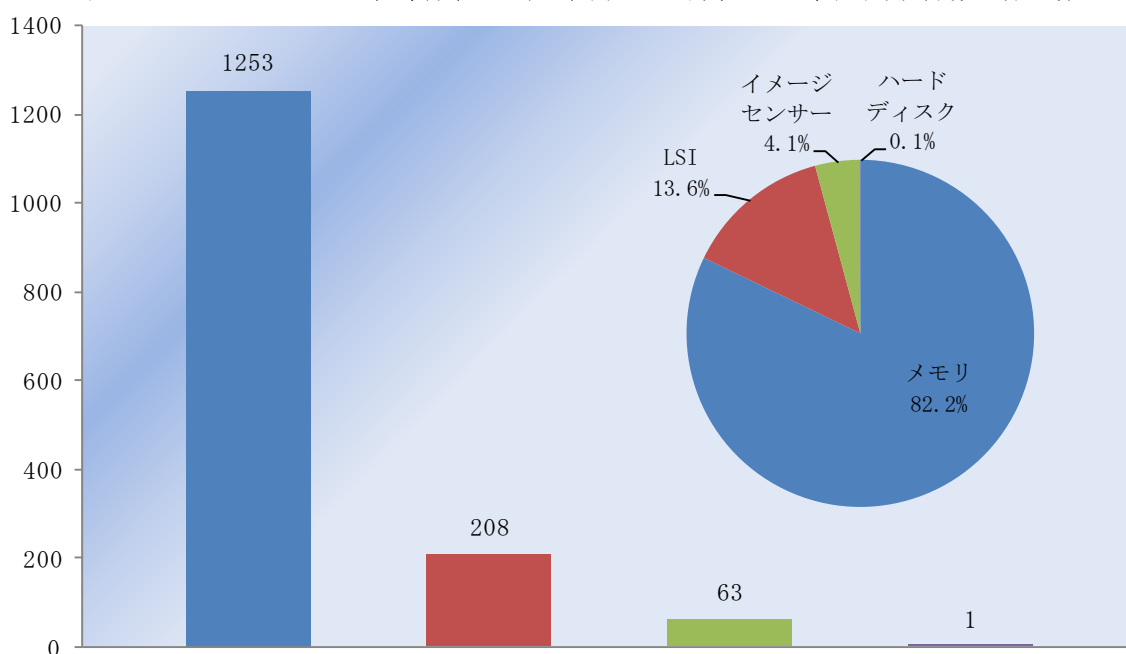
〈表27〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（台湾）



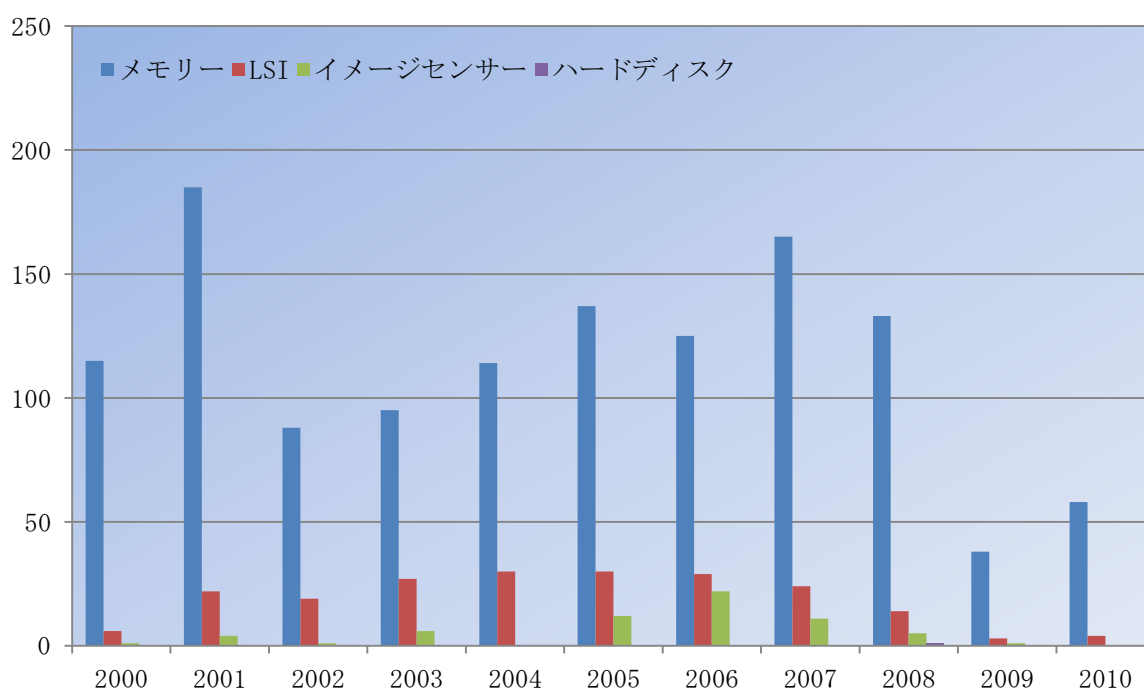
(7) 半導体製品群の特許出願動向

2007年をピークに近年は減少傾向だが、メモリーが全体の8割を占めている。LSIは、2007年頃まで横ばい状態だったが、それ以降大幅に減少している。イメージセンサーは2006年をピークに減少。ハードディスクの出願はここ10年間非常に少ない。

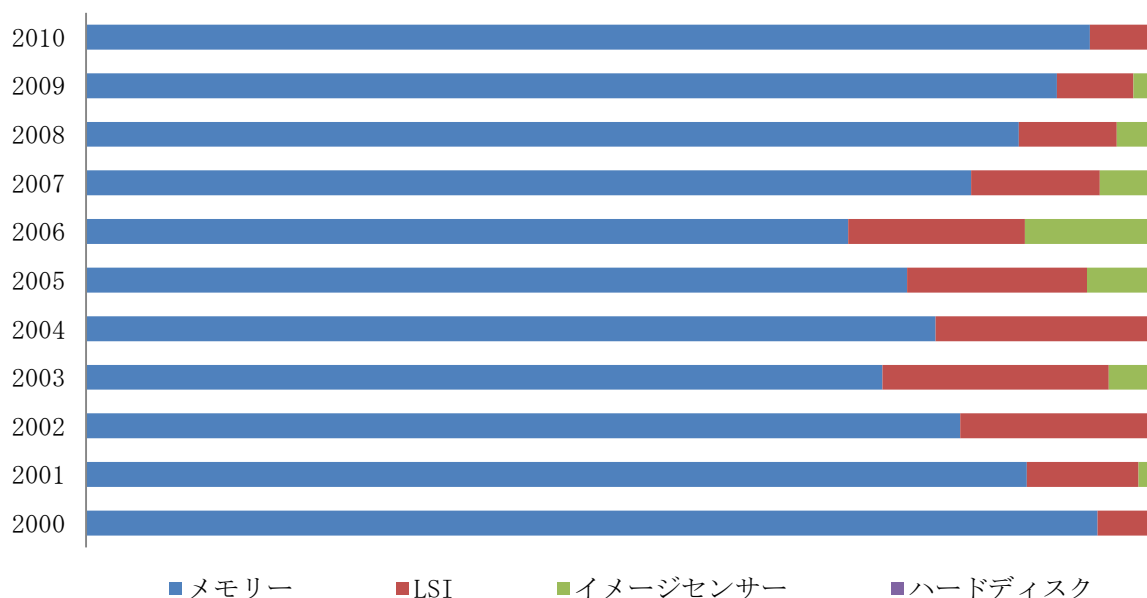
〈表28〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の累計出願件数（台湾）



〈表29〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移
(台湾)



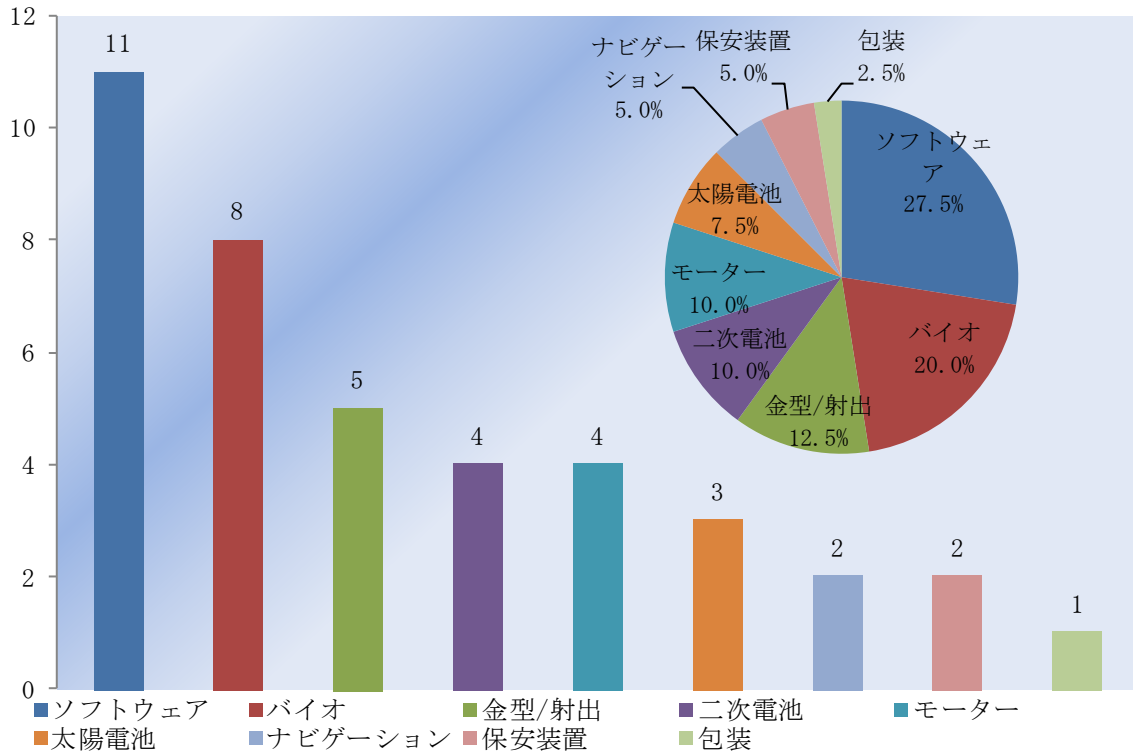
〈表30〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(台湾)



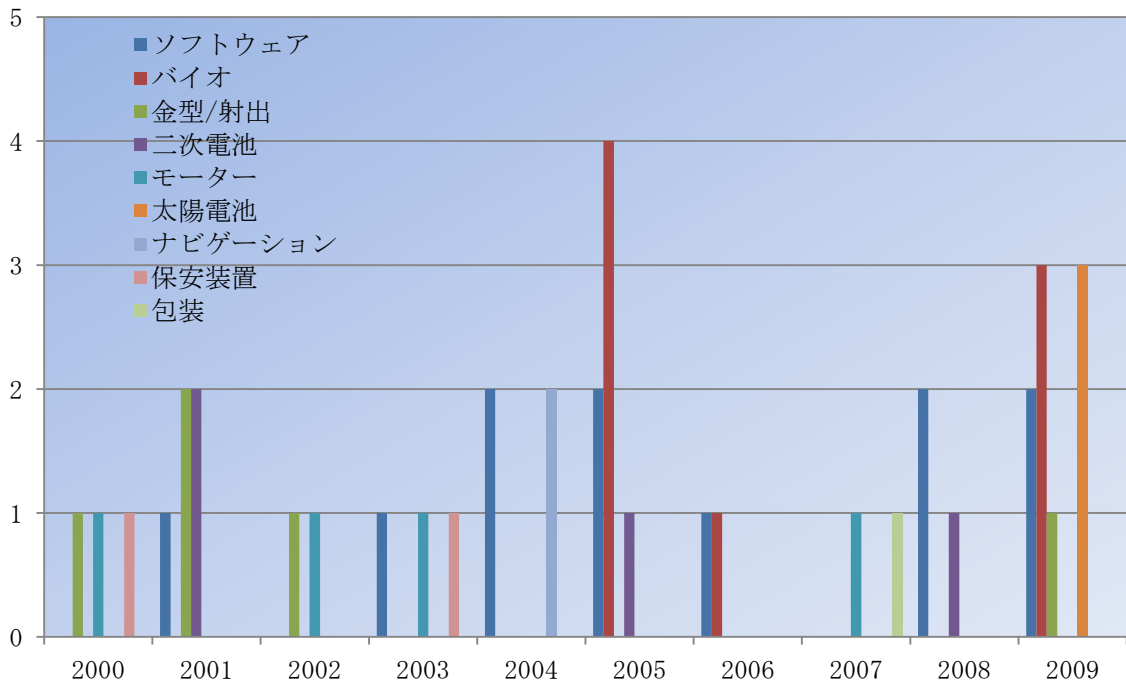
(8) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は毎年ばらつきがあるが、ソフトウェアが最も多い。次いでバイオ、金型/射出、二次電池、モーター。太陽電池は2009年になってから出願されている。ナビゲーション、保安装置は件数が少なく近年は出願されていない。包装はここ10年間で2007年のみ出願された。

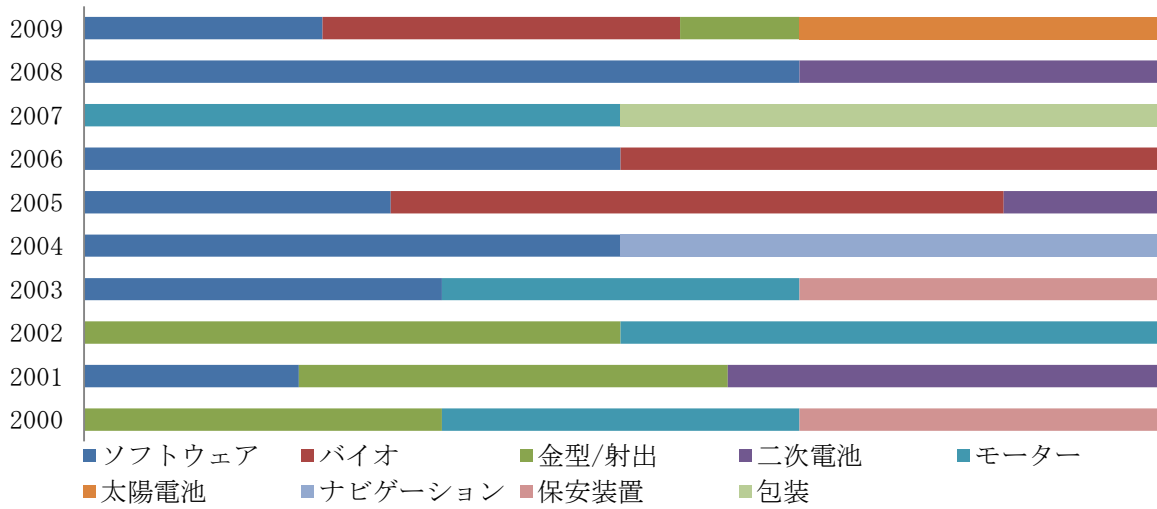
〈表31〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の累計出願件数（台湾）



〈表32〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（台湾）



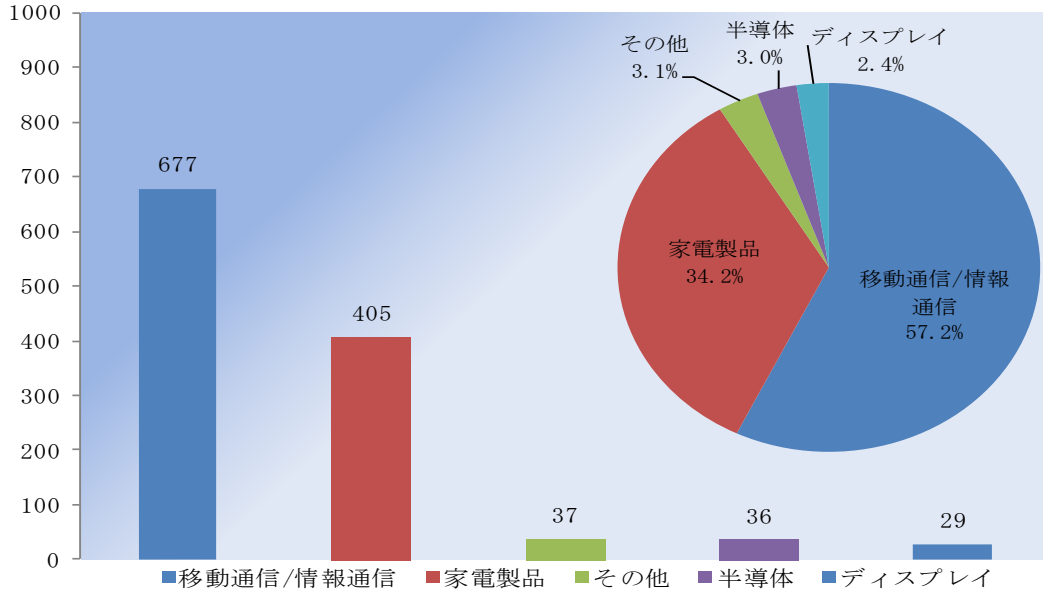
〈表33〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(台湾)



1-8 サムスン電子の製品群別特許出願動向〈ロシア〉

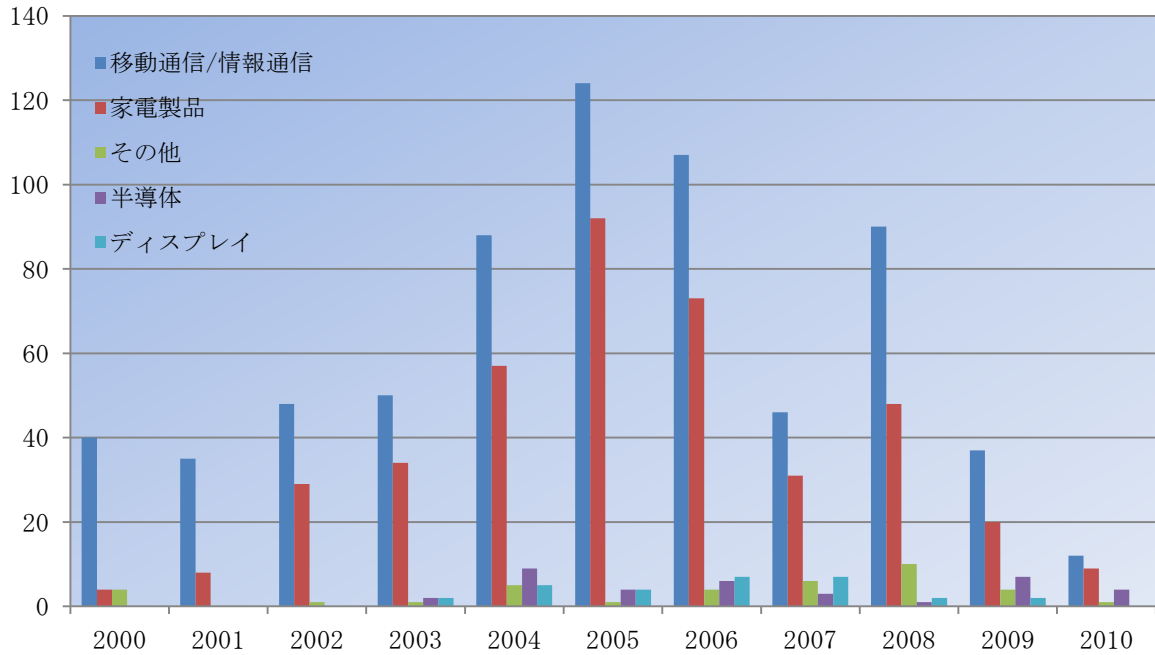
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

〈表34〉サムスン電子の製品群別による累計出願件数 (ロシア)

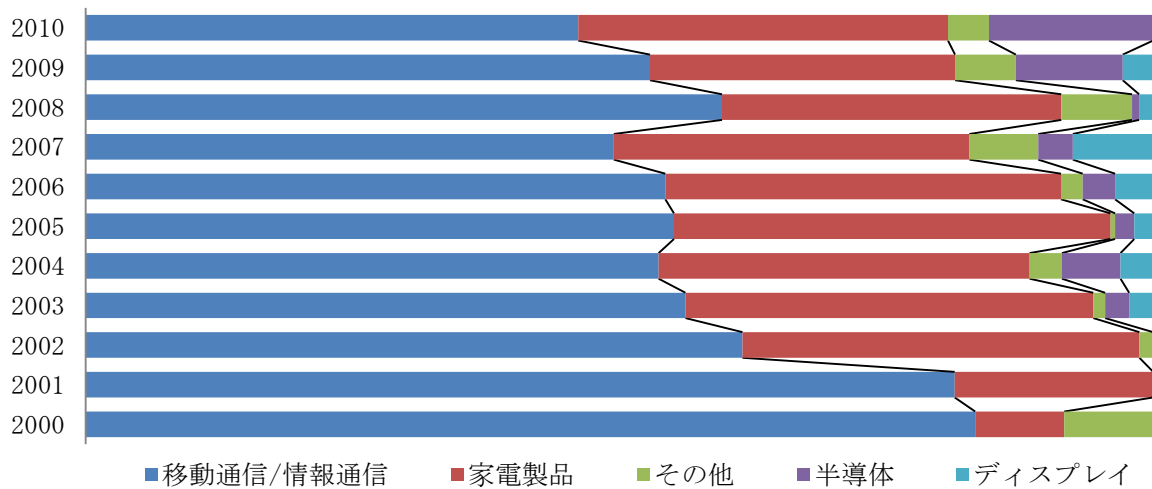


ロシアへの出願件数において製品群別に見ると、移動通信/情報通信分野が6割弱と最も多く、これらの分野に注力しているのがよく分かる。しかし、2005年のピーク時から一転、2007年に大幅に減少。2008年に再び増加するも、近年はまた大幅に減少している。次の家電製品は、2005年のピーク後、移動通信/情報通信分野と同様な推移を見せている。その他分野は、2008年に最も多く出願されたが、その後は大幅に減少。半導体およびディスプレイは、ほぼ横ばい状態。

〈表35〉サムスン電子の製品群別出願件数の推移（ロシア）



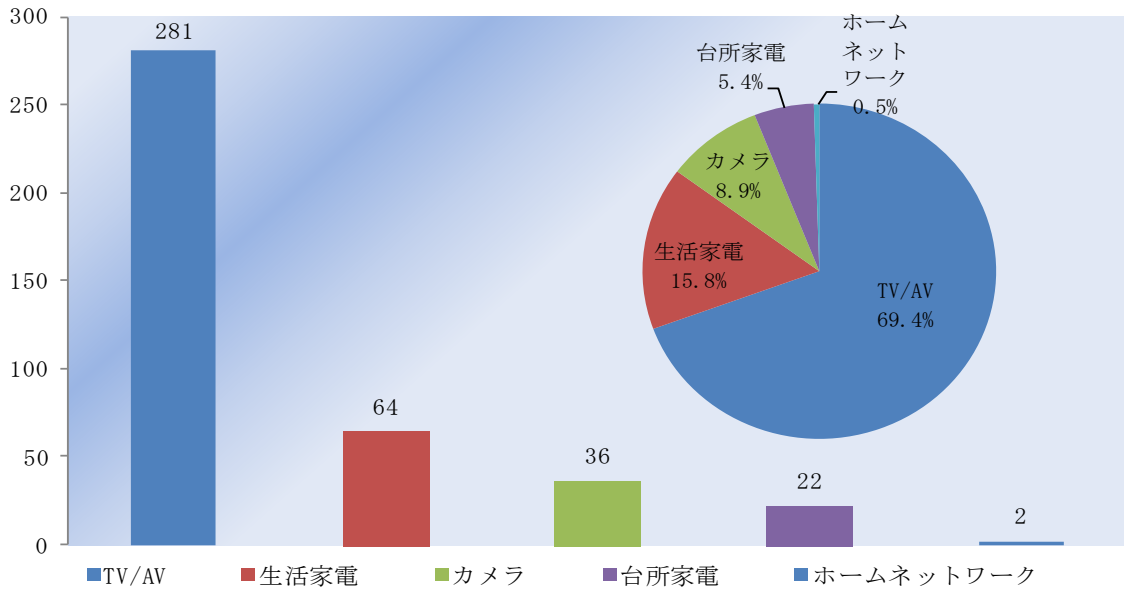
〈表36〉サムスン電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合（ロシア）



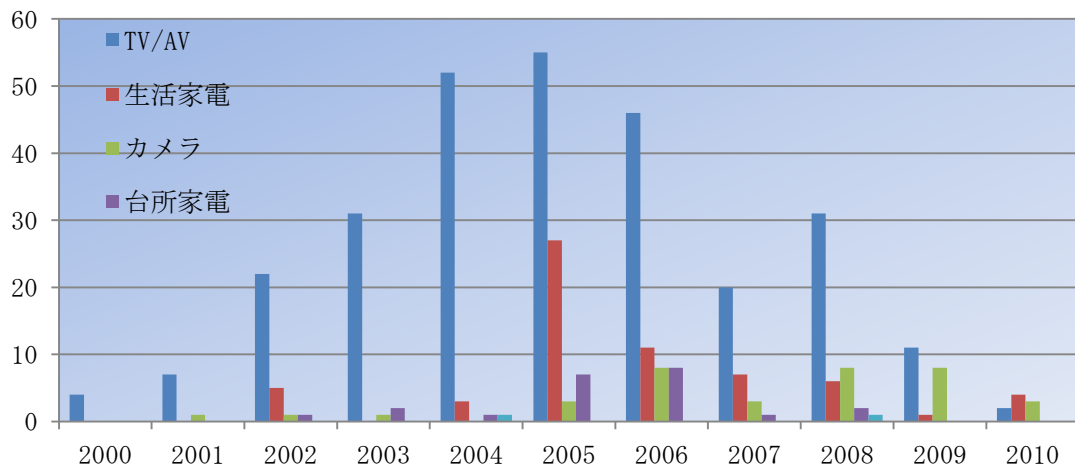
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における各分野の累計出願件数およびその比率の推移を示す。TV/AV の出願件数が 7 割近くで最も多く、2005 年がピークであったが、近年は大幅に減少している。生活家電も 2005 年がピークであったがその後大幅に減少。カメラは、2005 年から増減幅が激しい。台所家電は、2008 年以降ほとんど出願されていない。ホームネットワークはここ 10 年間で 2 件のみの出願である。

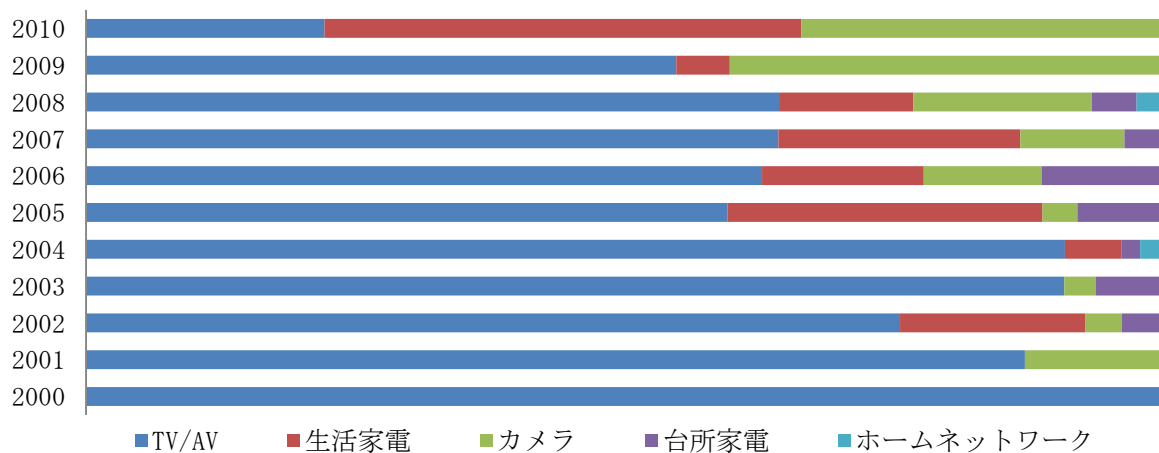
〈表37〉サムスン電子の家電製品群における各分野の累計出願件数（ロシア）



〈表38〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（ロシア）



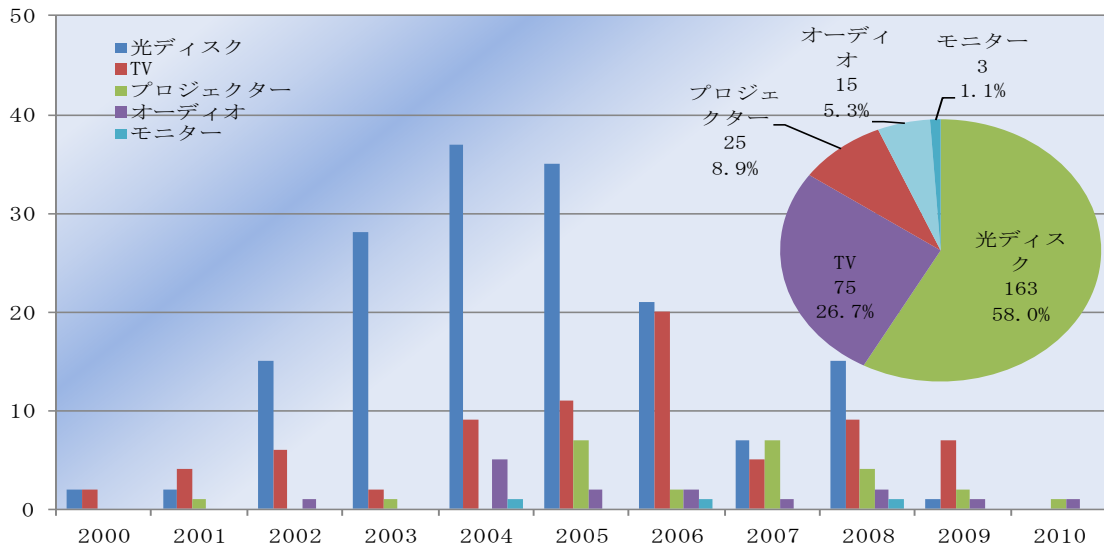
〈表39〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（ロシア）



(2) TV/AVの特許出願動向

光ディスクが最も多い。2005年以降徐々に減少し、2009年以降は著しく減少している。TVは、2006年をピークにその後大幅減少。プロジェクターは、2008年以降徐々に減少。オーディオは、横ばい状態。モニターは、ここ10年間で3件のみ。

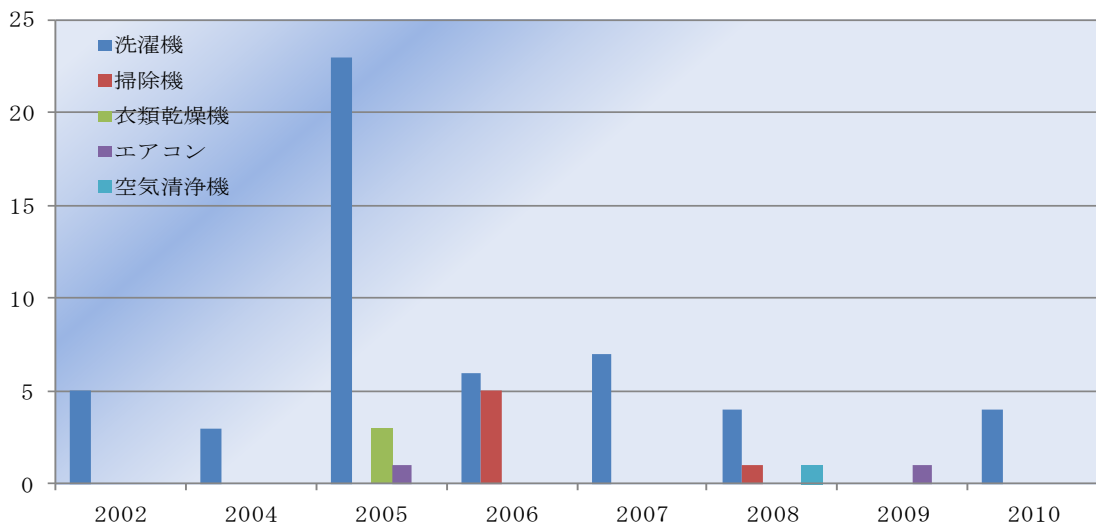
〈表40〉サムスン電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移（ロシア）



(3) 生活家電の特許出願動向

洗濯機が最も多く、2005年のピーク後は大幅に減少している。掃除機は、2006年最も多く出願されたが、近年は出願件数が少ない。衣類乾燥機は、2005年に出願されたが、それ以外はされていない。エアコンも非常に少なく、空気清浄機は、ここ10年間で1件のみの出願となっている。

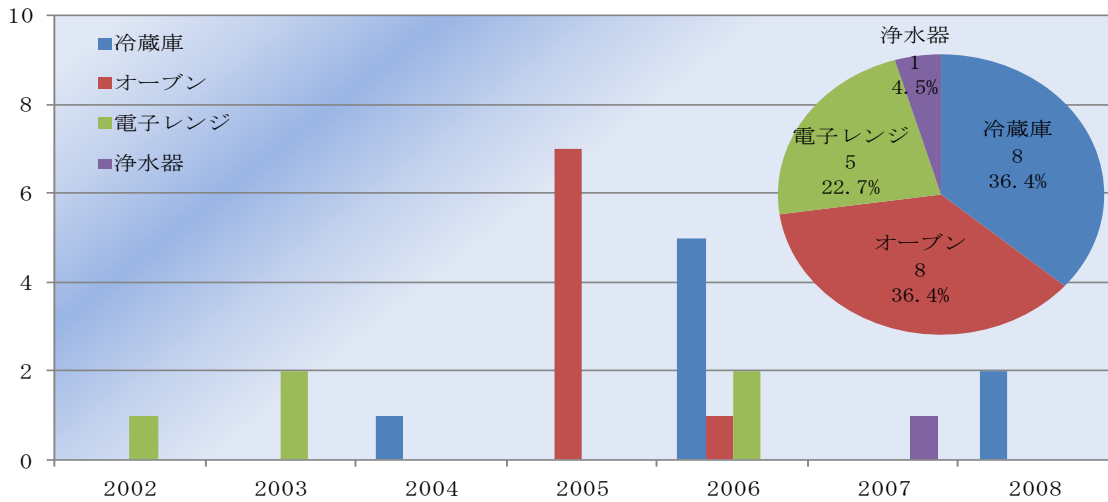
〈表41〉サムスン電子の生活家電に関する細部製品の年度別推移（ロシア）



(4) 台所家電の特許出願動向

冷蔵庫とオーブンの出願件数が同数の8件。冷蔵庫は、2006年に多く出願されたが2007年は出願がなく、2008年に再び出願された。オーブンは、2005年に最も多く出願されたが2006年は大幅に減少。それ以降は、出願されていない。電子レンジは、バラつきが激しく、2006年以降は出願されていない。浄水器は、2007年にのみ1件出願されている。

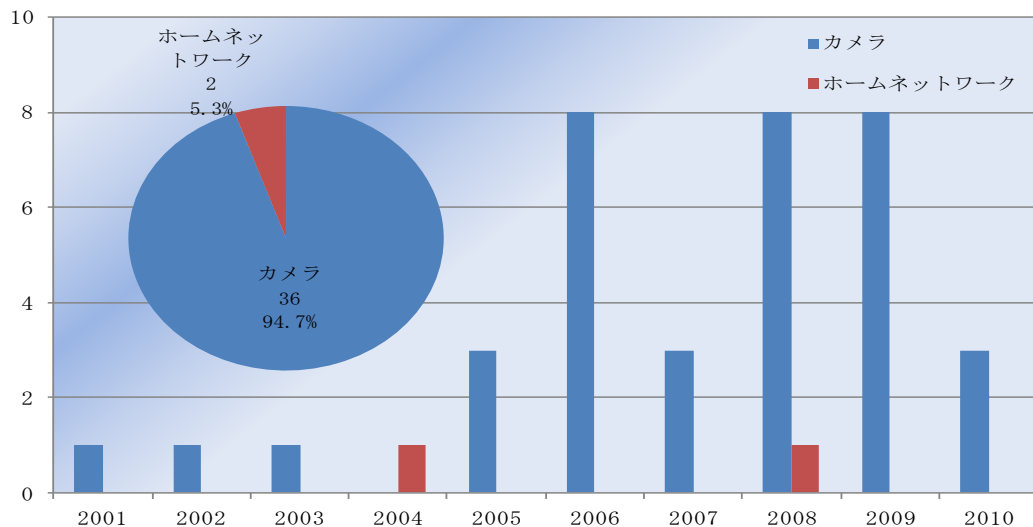
〈表42〉サムスン電子の台所家電に関する細部製品の年度別推移（ロシア）



(5) ホームネットワーク/カメラの特許出願動向

カメラが9割強と圧倒的である。出願件数の増減幅が激しく、2010年は前年より大幅に減少した。ホームネットワークは、2004年および2008年に1件ずつ出願された。

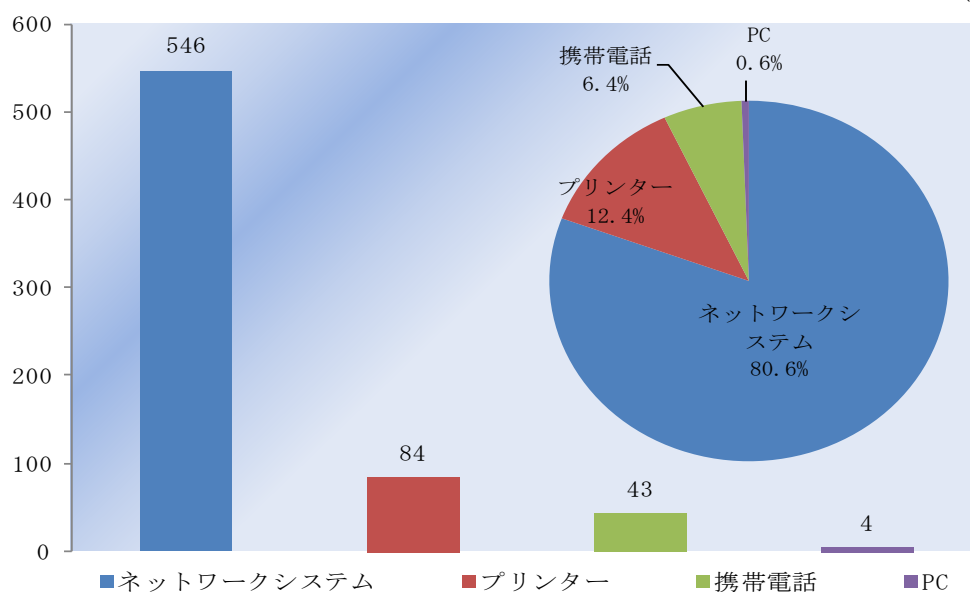
〈表43〉サムスン電子のホームネットワーク/カメラに関する細部製品の年度別推移（ロシア）



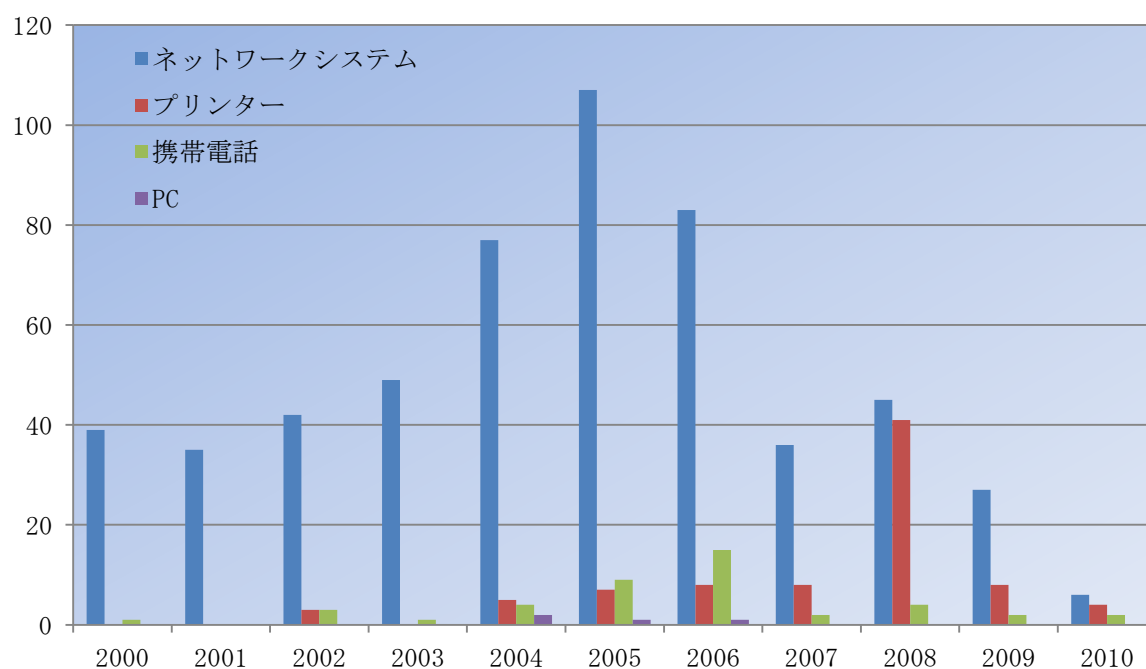
(6) 移動通信/情報通信の特許出願動向

ネットワークシステムが最も多く、2005年まで着実に増加していたが、その後は、徐々に減少し、2010年はここ10年間で最も少ない。プリンターは、2008年にピークであったが、その後大幅に減少している。携帯電話は、近年減少傾向である。PCは、2006年以降出願されていない。

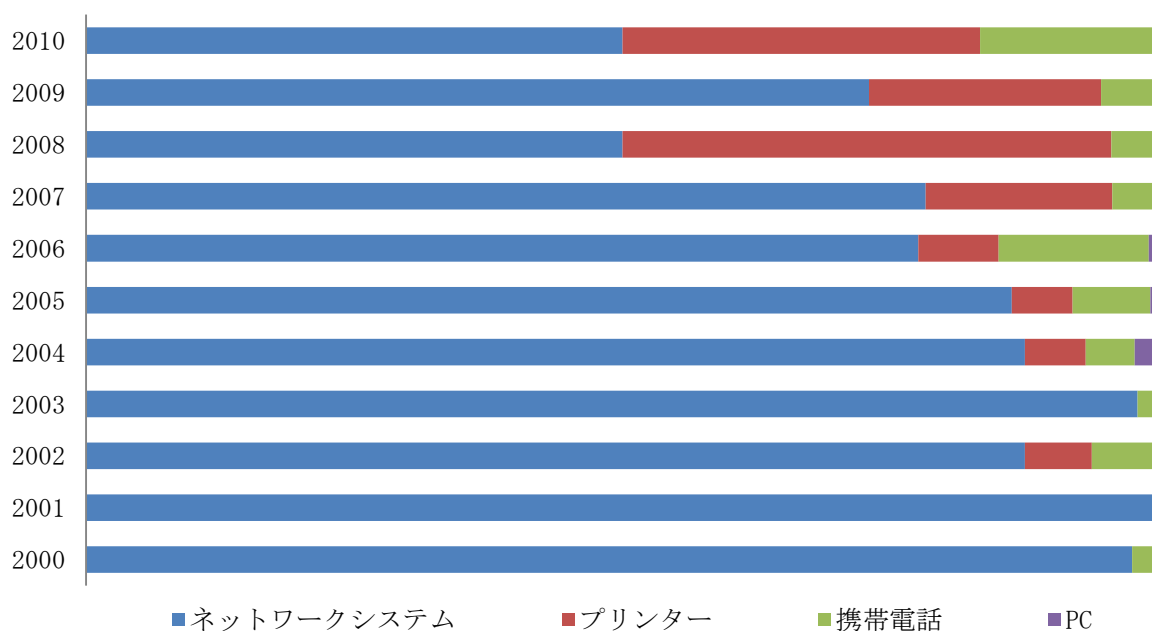
〈表44〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の累計出願件数
(ロシア)



〈表45〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移 (ロシア)



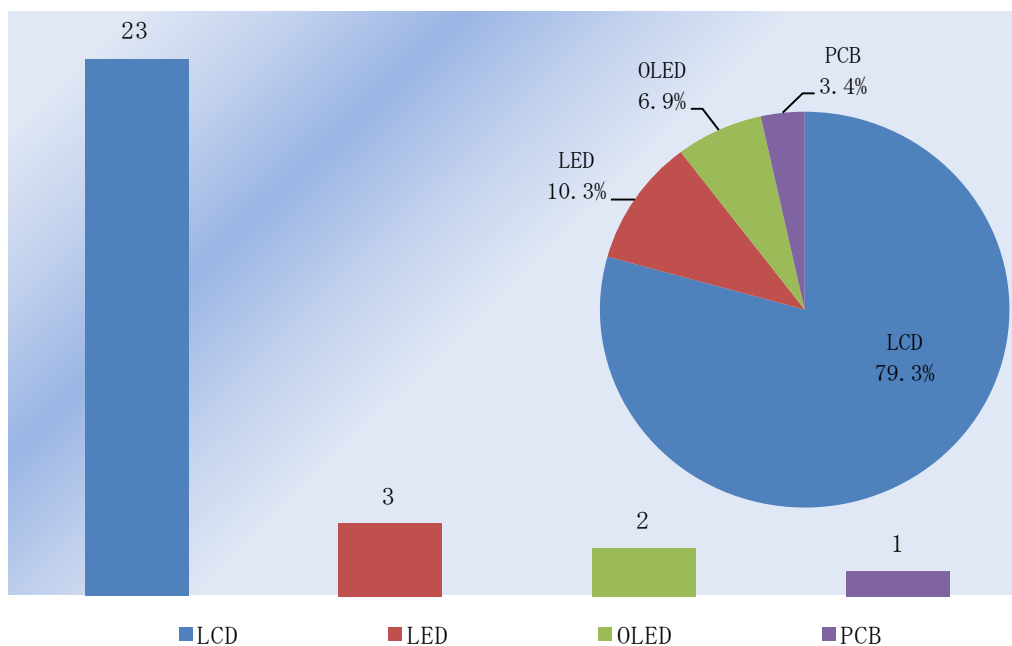
〈表46〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（ロシア）



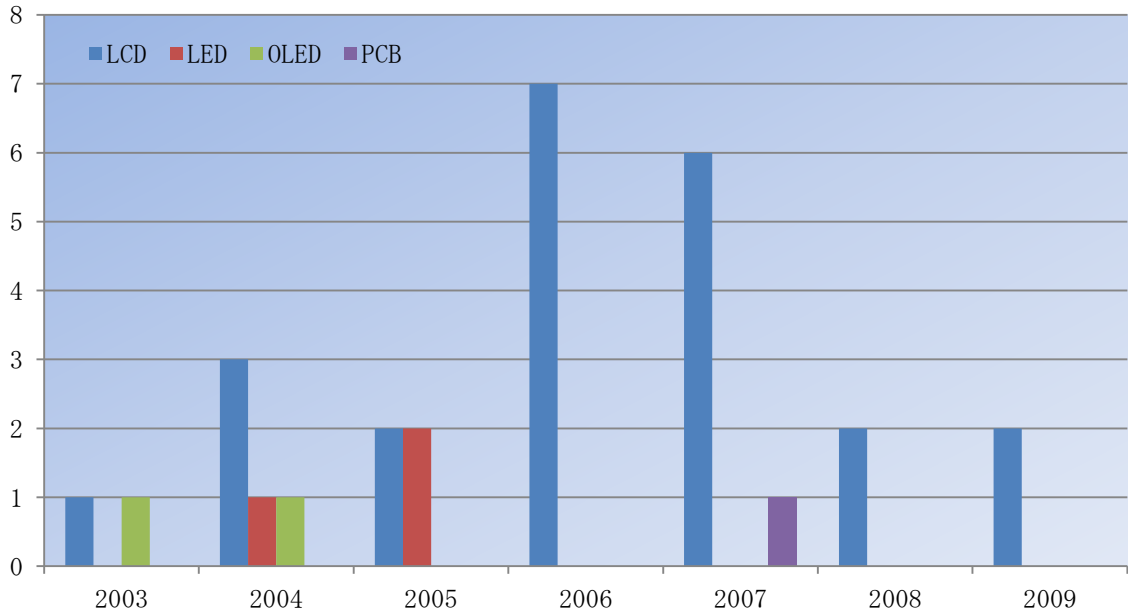
(7) ディスプレイ製品群の特許出願動向

LCD が、全体の約 8 割を占めているが、2007 年以降は大幅に減少している。次の LED は、2006 年以降出願されていない。OLED は、2005 年以降出願されていない。PCB は、2007 年のみ 1 件出願された。

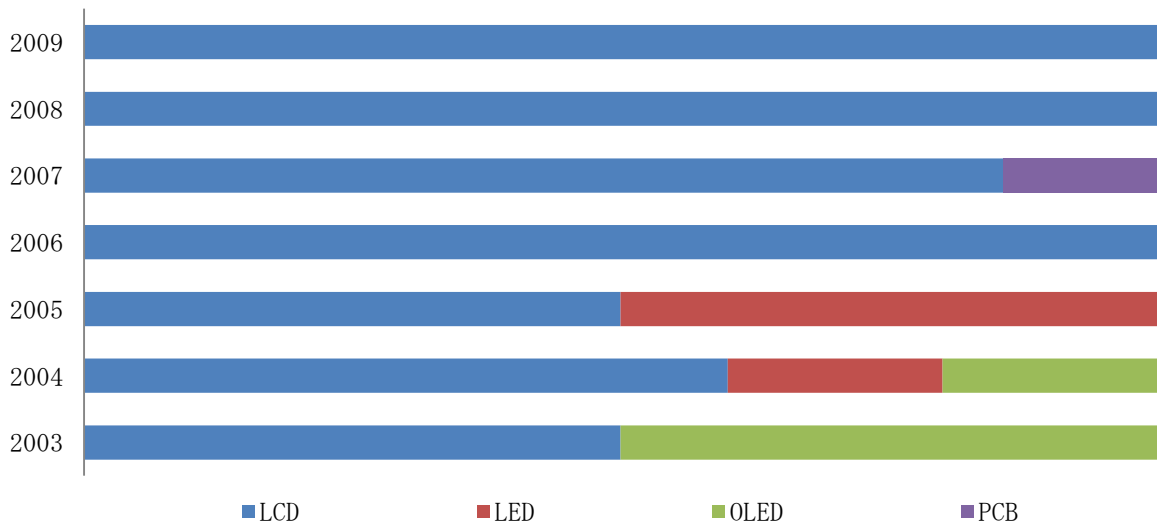
〈表47〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の累計出願件数（ロシア）



〈表48〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（ロシア）



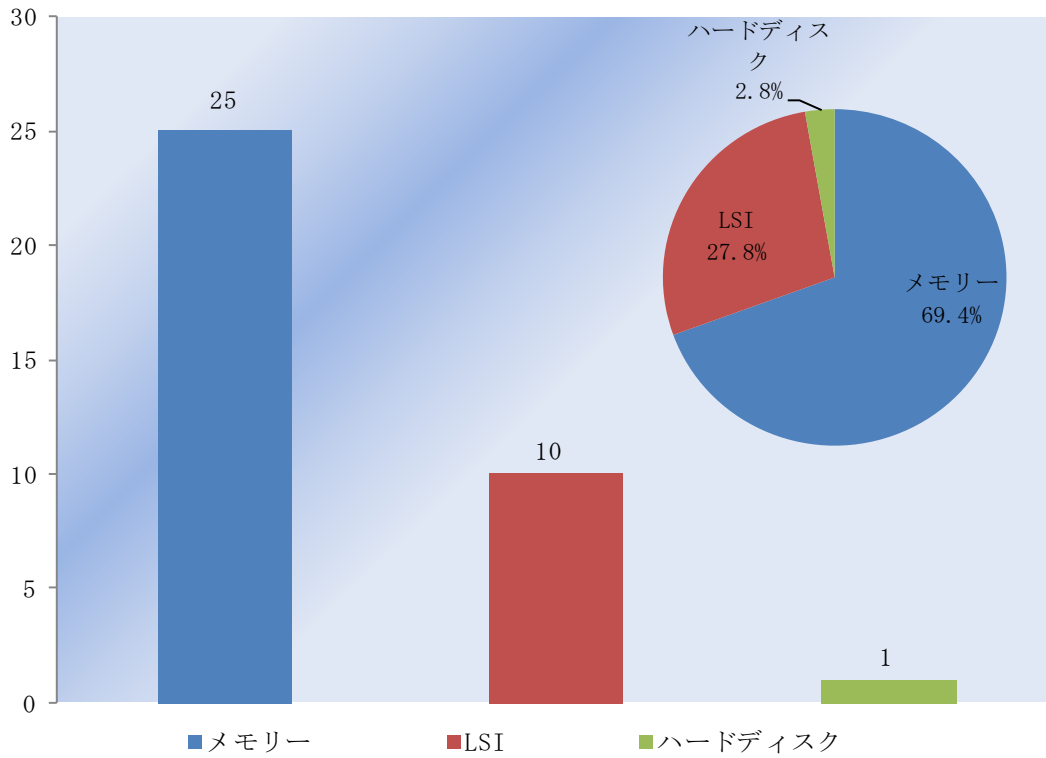
〈表49〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（ロシア）



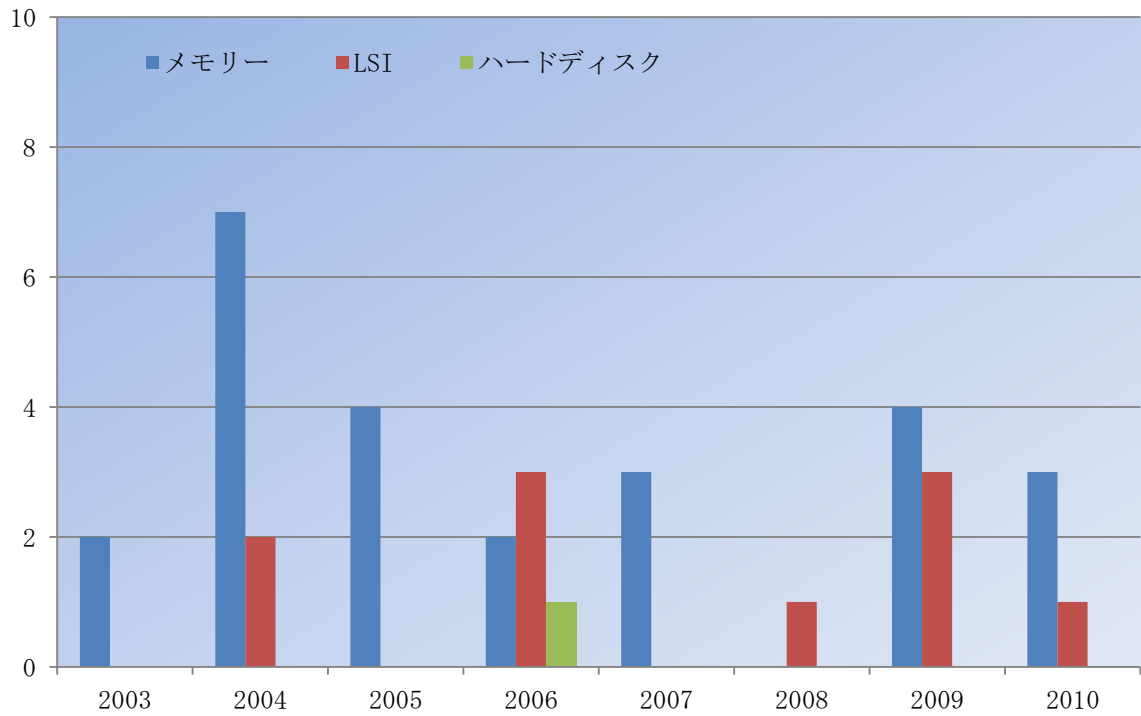
(7) 半導体製品群の特許出願動向

メモリーが、全体の約7割を占めている。2005年以降減少傾向である。次のLSIは、ほぼ横ばい状態である。ハードディスクは、ここ10年間で2006年に1件のみ出願されている。

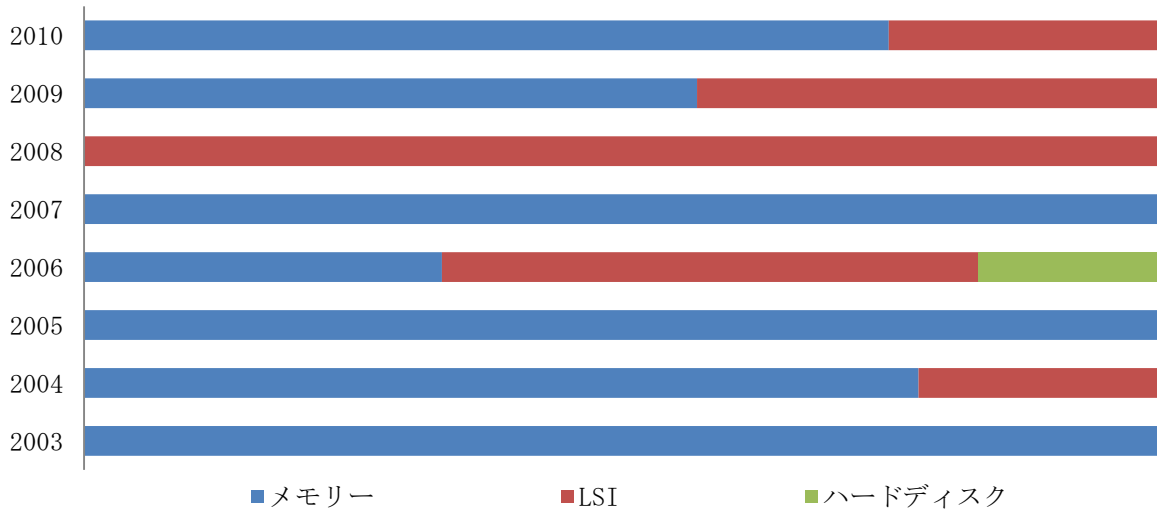
〈表50〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の累計出願件数（ロシア）



〈表51〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（ロシア）



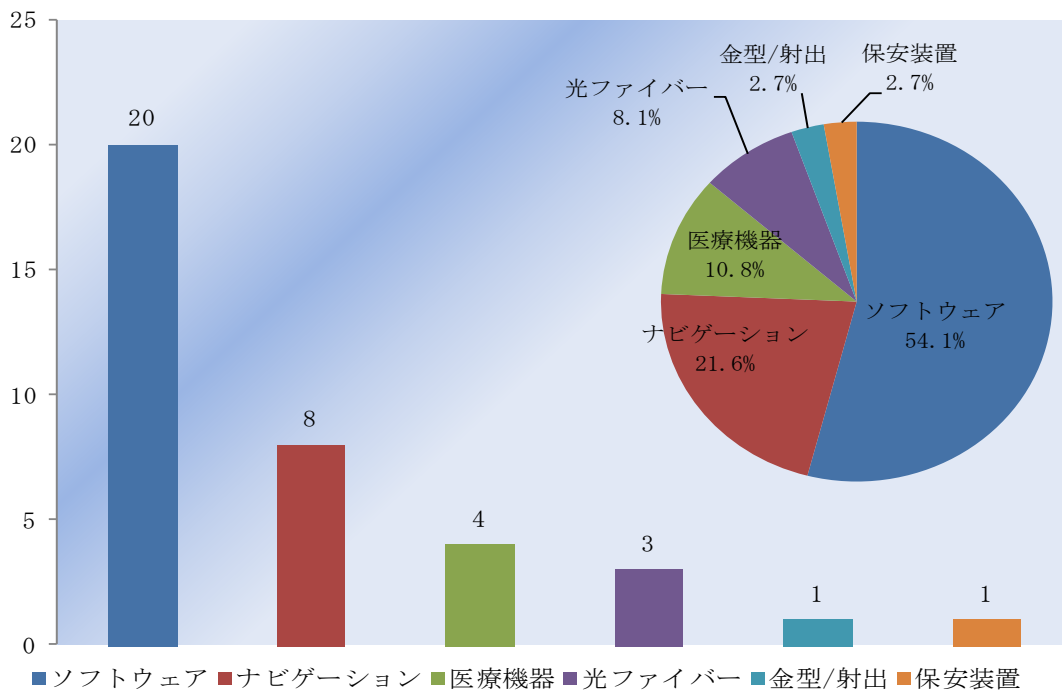
〈表52〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(ロシア)



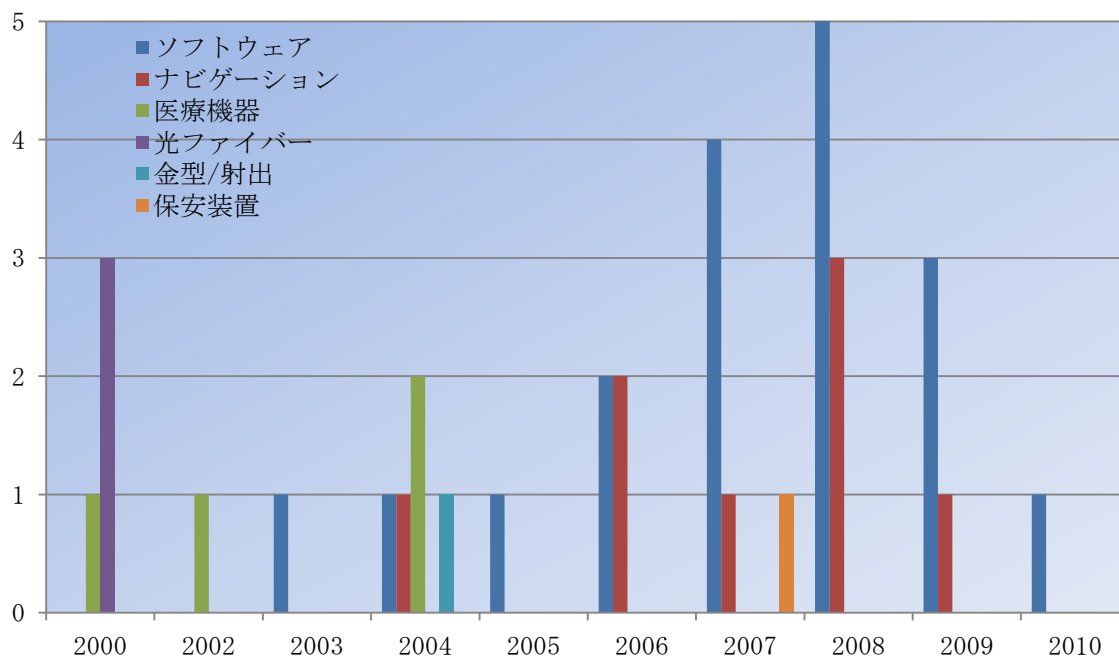
(8) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は、ソフトウェアが最も多く、2008年が出願件数のピークであったがその後は減少、2010年は、ソフトウェアのみ出願されている。次のナビゲーションも2008年のピーク後減少している。医療機器は、4件で2005年以降出願されていない。光ファイバーは、2000年にのみ出願され、金型/射出は2004年に1件、保安装置は2007年に1件出願されている。

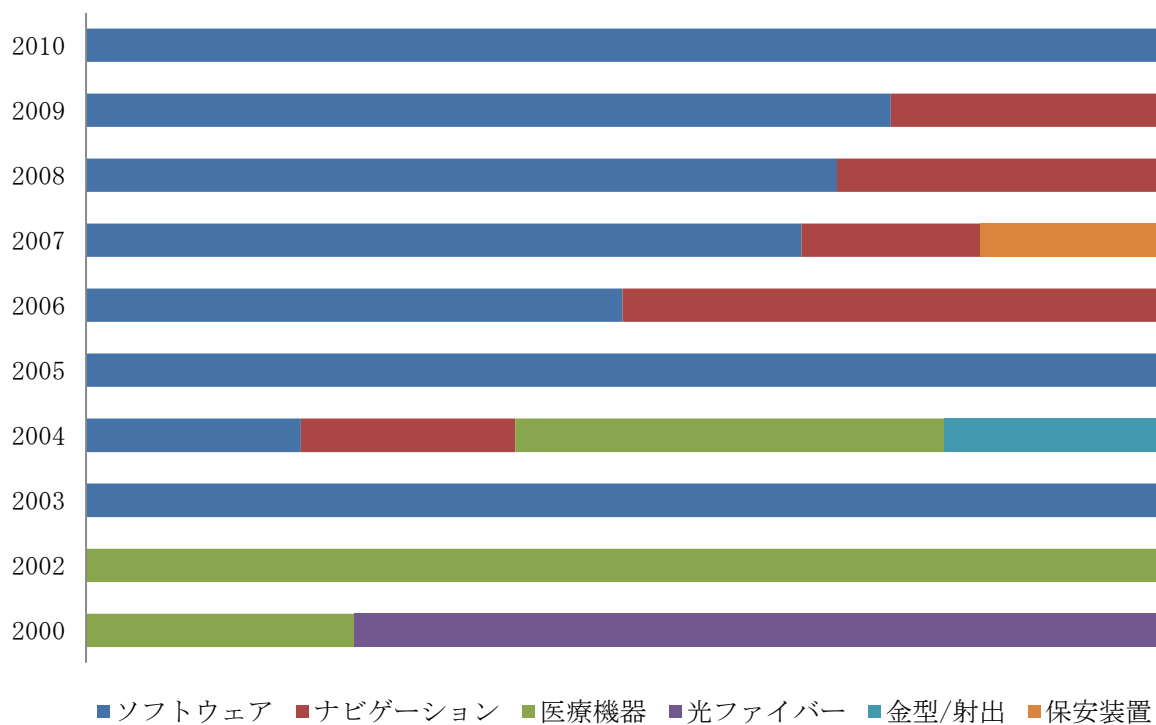
〈表53〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の累計出願件数 (ロシア)



〈表54〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移
(ロシア)



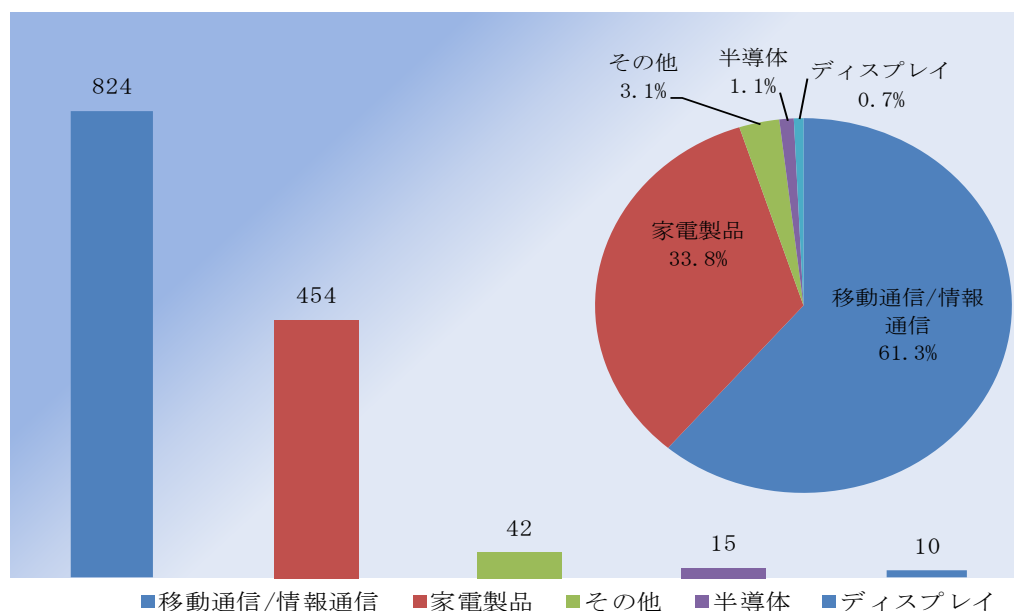
〈表55〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(ロシア)



1-9 サムスン電子の製品群別特許出願動向<インド>

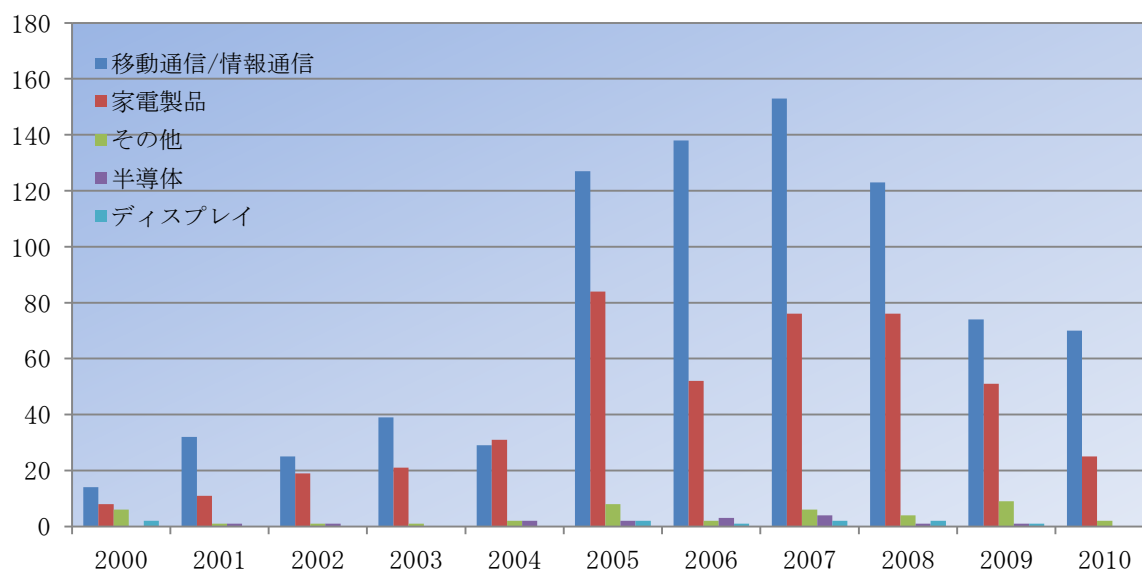
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

<表56> サムスン電子の製品群別による累計出願件数 (インド)

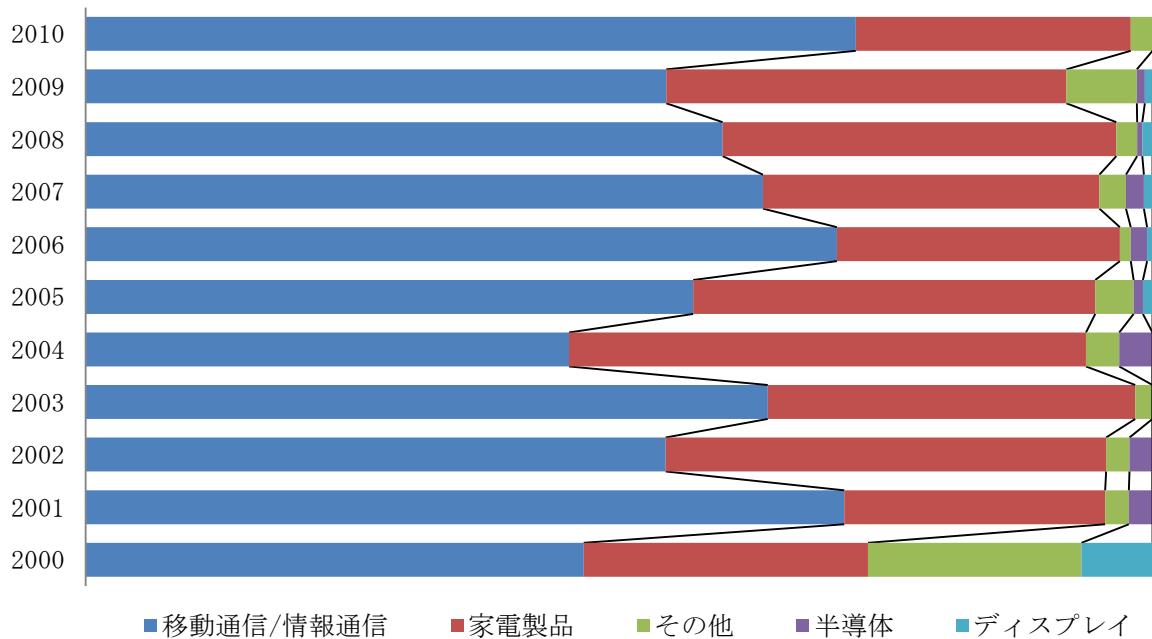


インドへの出願件数において製品群別に見ると、移動通信/情報通信分野が6割強を占めているが、2007年のピーク時から徐々に減少し、2010年はピーク時の半分にも満たない。次の家電製品は、2005年のピーク後、増減を繰り返し、減少傾向。その他分野は、近年増減幅が激しい。半導体は、2007年に最も多く出願しているがその後は大幅に減少。ディスプレイは、2005年からほぼ横ばい状態であったが近年は減少傾向。

<表57>サムスン電子の製品群別出願件数の推移 (インド)



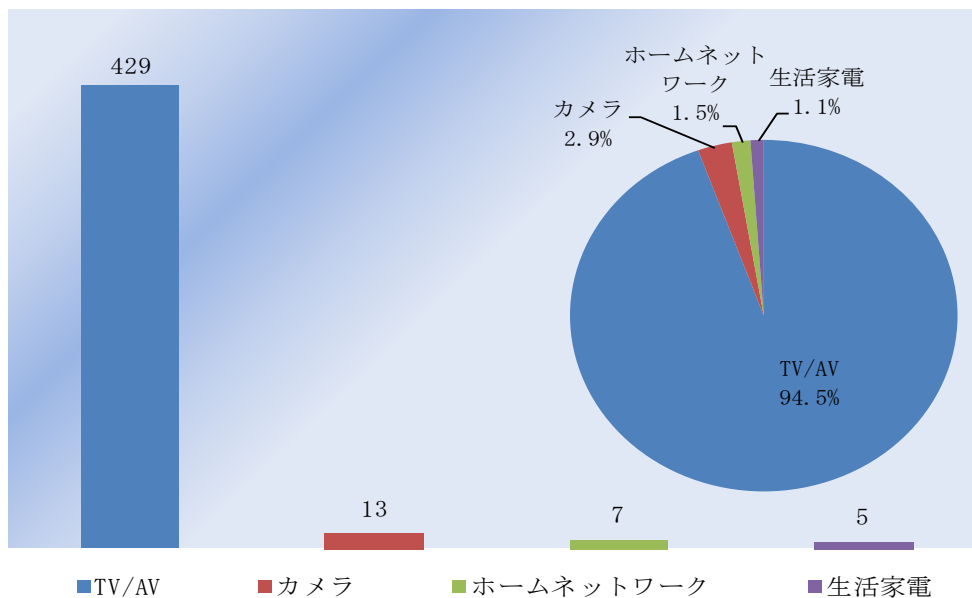
〈表58〉サムスン電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合
(インド)



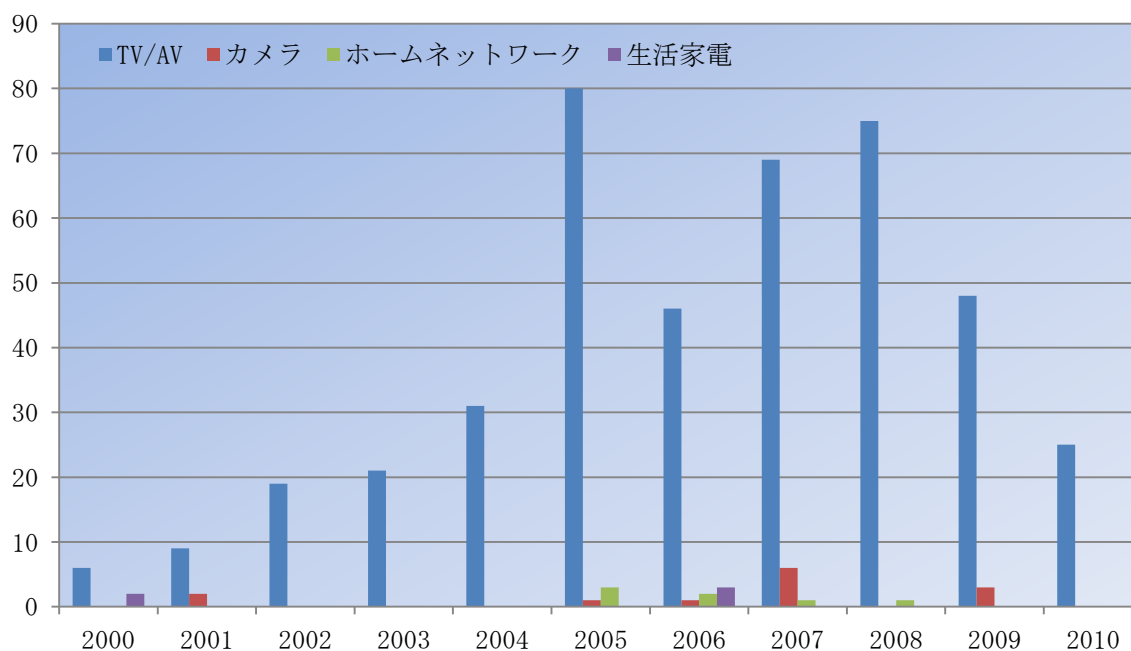
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における各分野の累計出願件数およびその比率の推移を示す。TV/AV の出願件数が圧倒的に多く、これらの分野に注力しているのがよく分かる。2005 年がピークであったが、近年は大幅に減少している。次のカメラは、2007 年がピークであったがその後大幅に減少。ホームネットワークは、近年大幅な減少傾向。生活家電はここ 10 年間で 5 件、2007 年以降出願されていない。

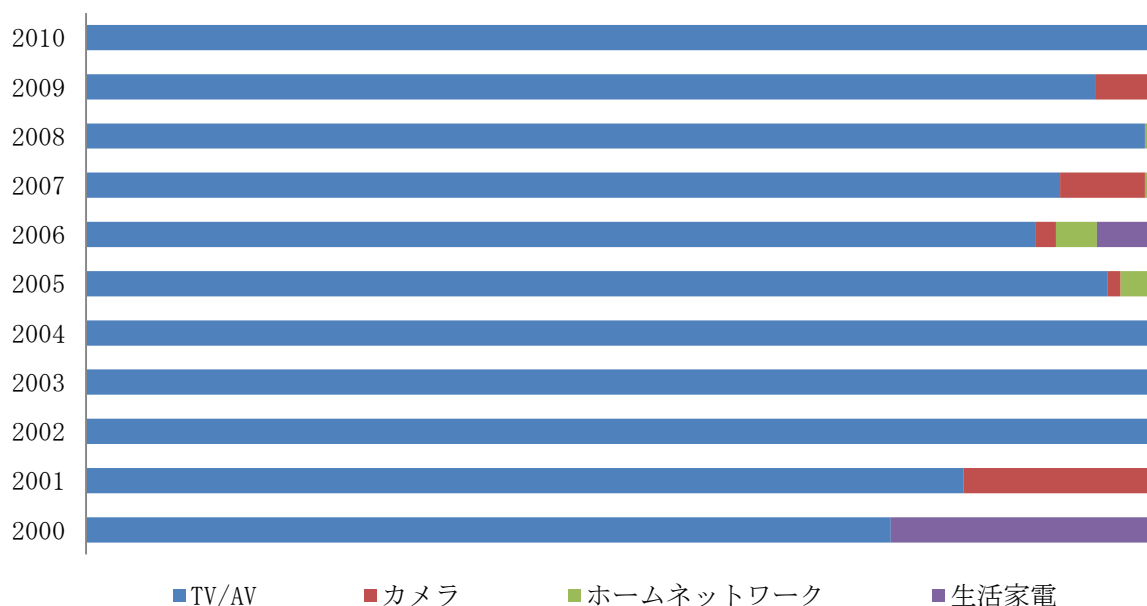
〈表59〉サムスン電子の家電製品群における各分野の累計出願件数 (インド)



〈表60〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（インド）



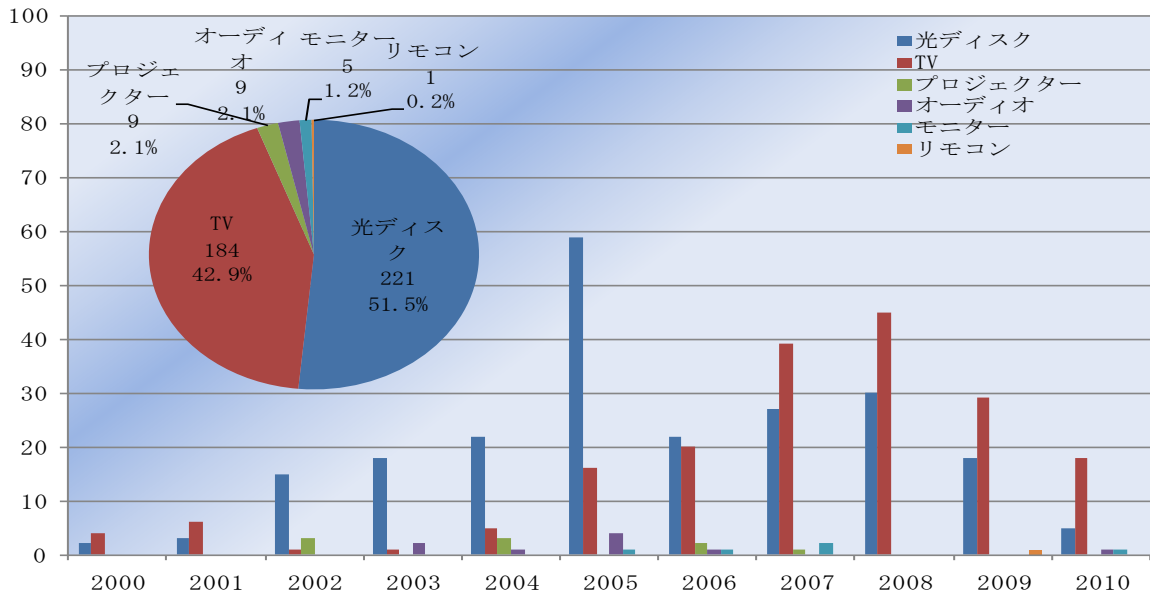
〈表61〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（インド）



(2) TV/AV の特許出願動向

光ディスクが全体の半分以上を占めている。2005 年がピークであったが近年は著しく減少している。TV は、2008 年をピークにその後徐々に減少。プロジェクターは、2008 年以降出願されていない。オーディオおよびモニターともに、近年は減少傾向。リモコンは、ここ 10 年間で 2009 年に 1 件のみ出願されている。

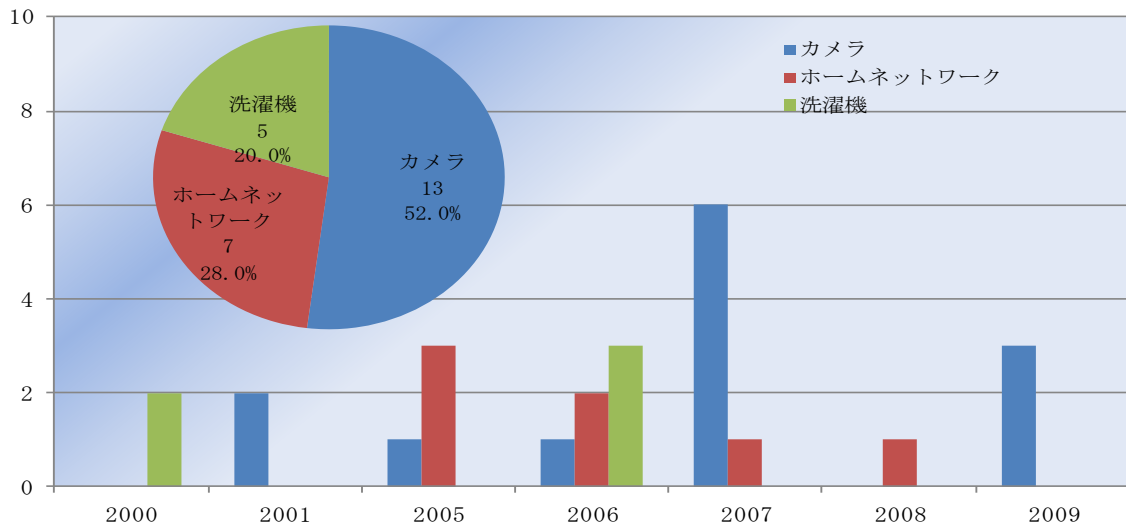
〈表62〉サムスン電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移（インド）



(3) 生活家電/ホームネットワーク/カメラの特許出願動向

カメラの比率が最も多いが、2007年のピーク後は大幅に減少している。ホームネットワークは、2006年から減少している。洗濯機は、ここ10年間で5件のみ。

〈表63〉サムスン電子の生活家電/ホームネットワーク/カメラに関する細部製品の年度別推移（インド）

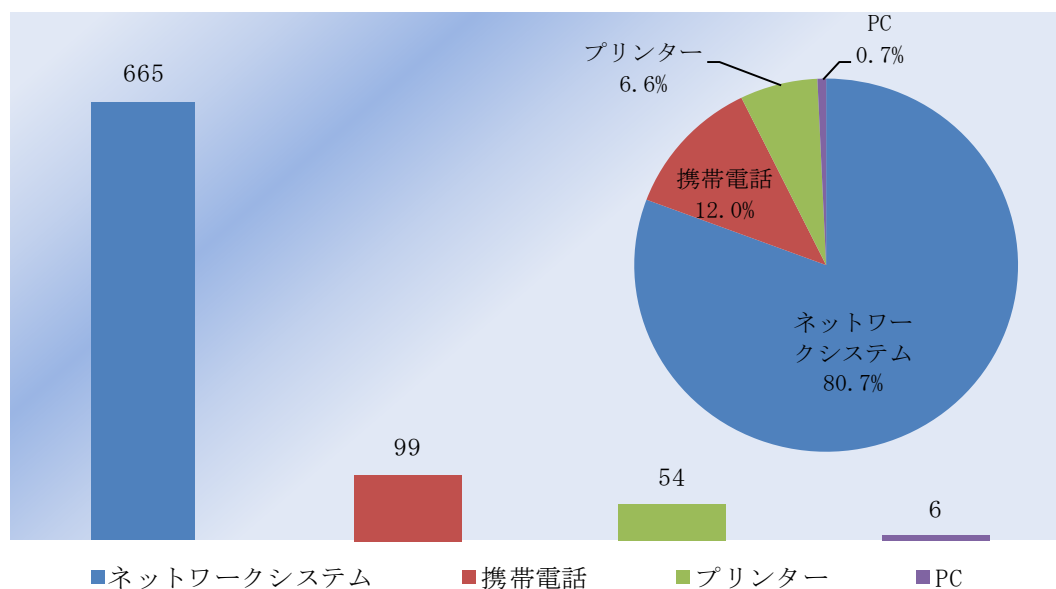


(4) 移動通信/情報通信の特許出願動向

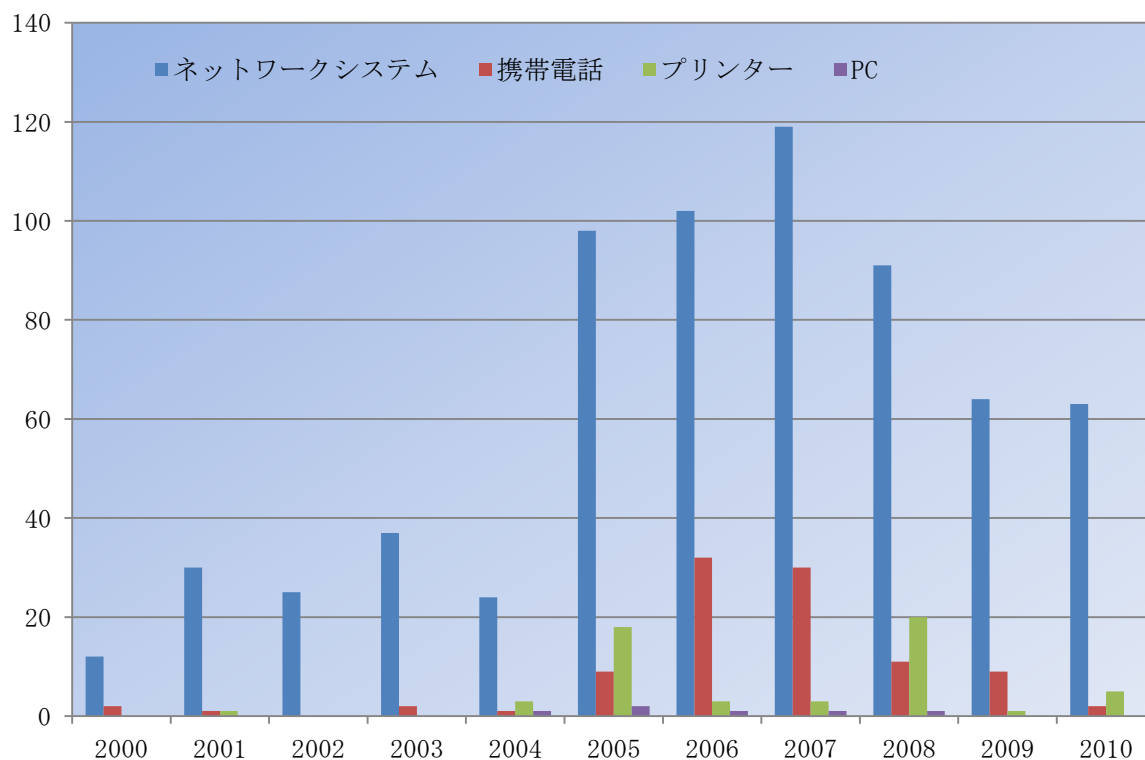
ネットワークシステムが約8割と最も多い。2005年に出願件数が急増し、2007年まで着実に増加していたが、その後は大幅に減少している。次の携帯電話は、2006年をピークに近年は大幅に減少している。プリンターは、毎年出願件数の増減が激しい。PC

は、ここ10年間で6件。2009年以降出願されていない。

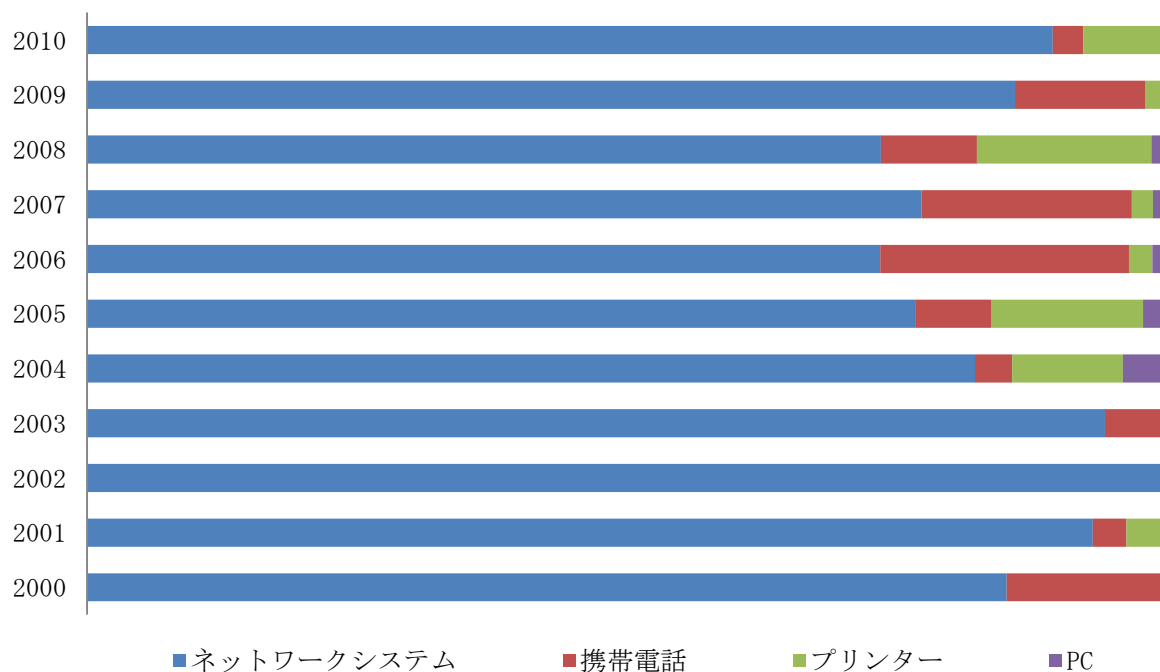
〈表64〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の累計出願件数
(インド)



〈表65〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移 (インド)



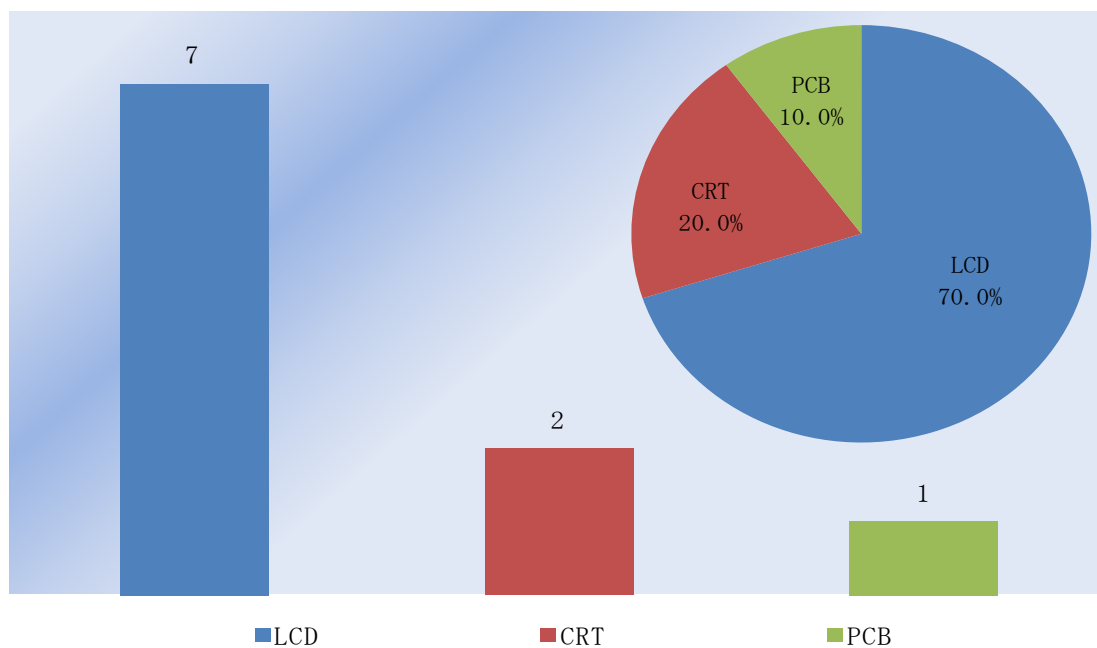
〈表66〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（インド）



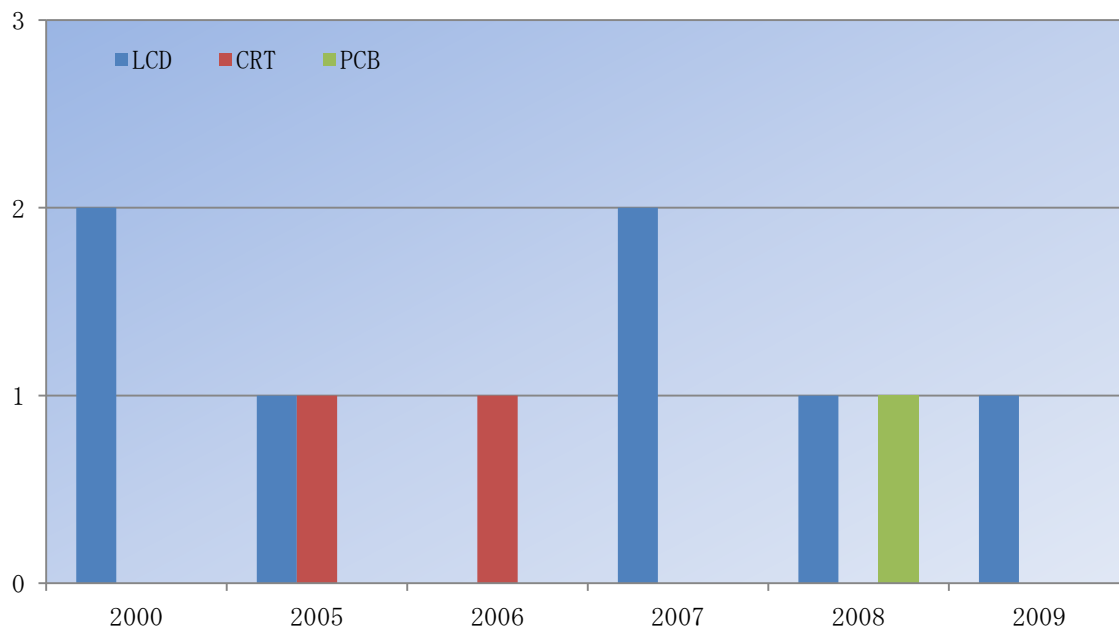
(5) ディスプレイ製品群の特許出願動向

LCD が 7 割を占めている。次の CRT は、出願件数 2 件で 2007 年以降出願されていない。PCB は 2008 年の 1 件のみ。

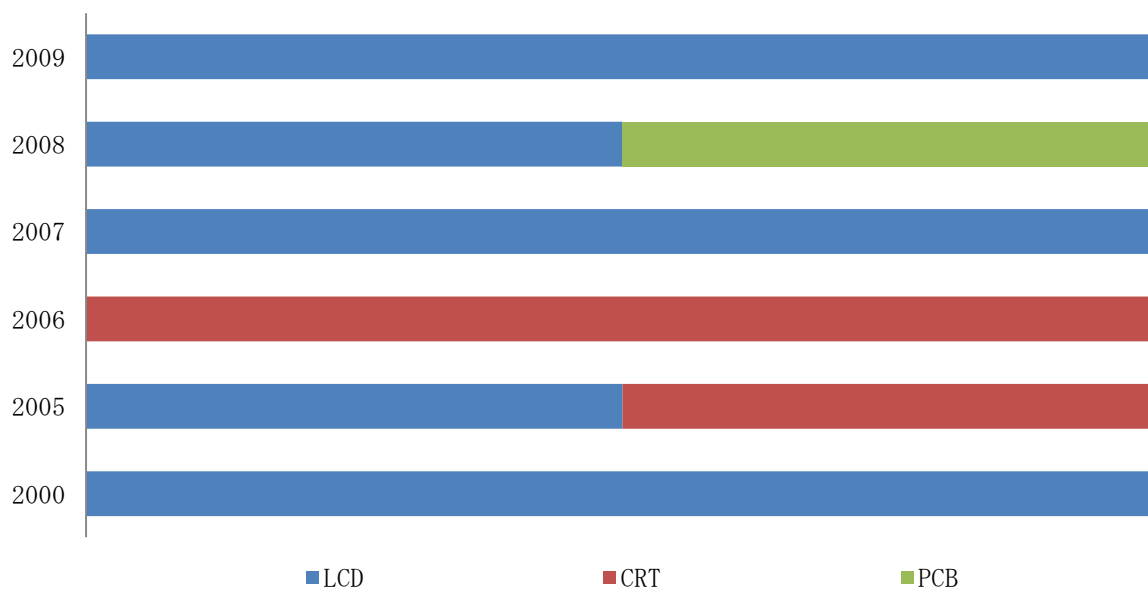
〈表67〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の累計出願件数（インド）



〈表68〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（インド）



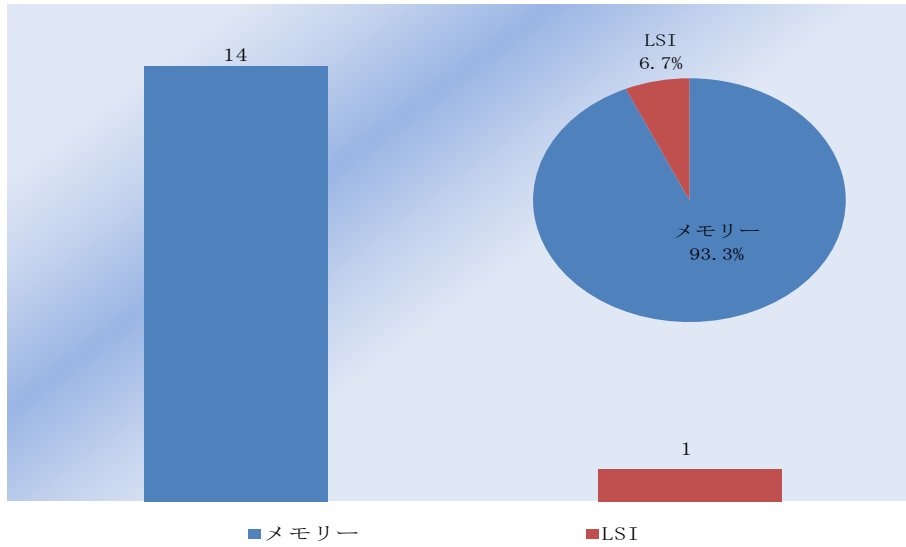
〈表69〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（インド）



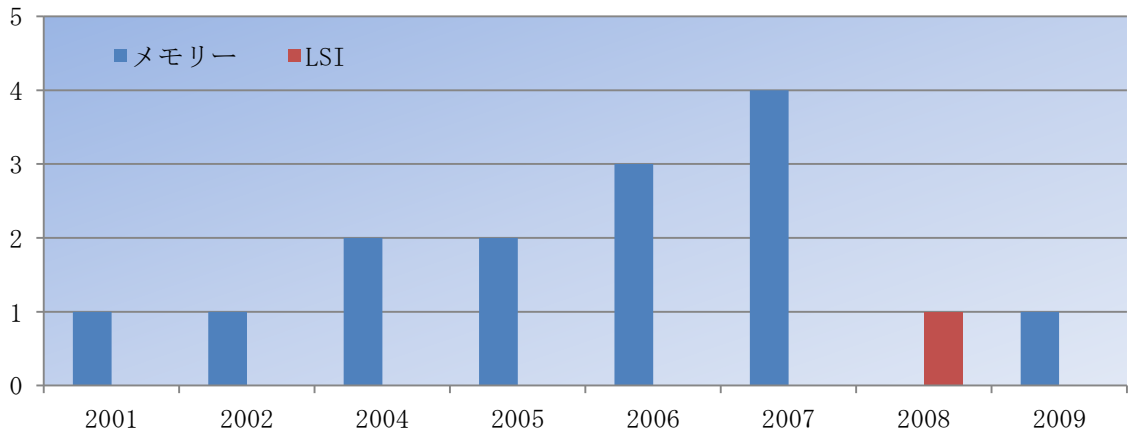
(6) 半導体製品群の特許出願動向

メモリーが、圧倒的に多い。2007年をピークに減少傾向である。LSIは、ここ10年間で2008年に1件のみ出願されている。

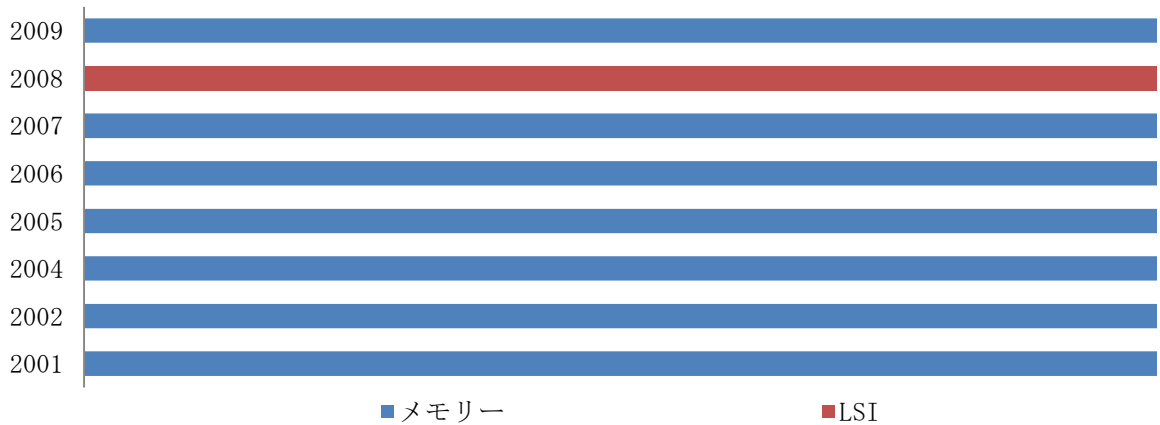
〈表70〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の累計出願件数（インド）



〈表71〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（インド）



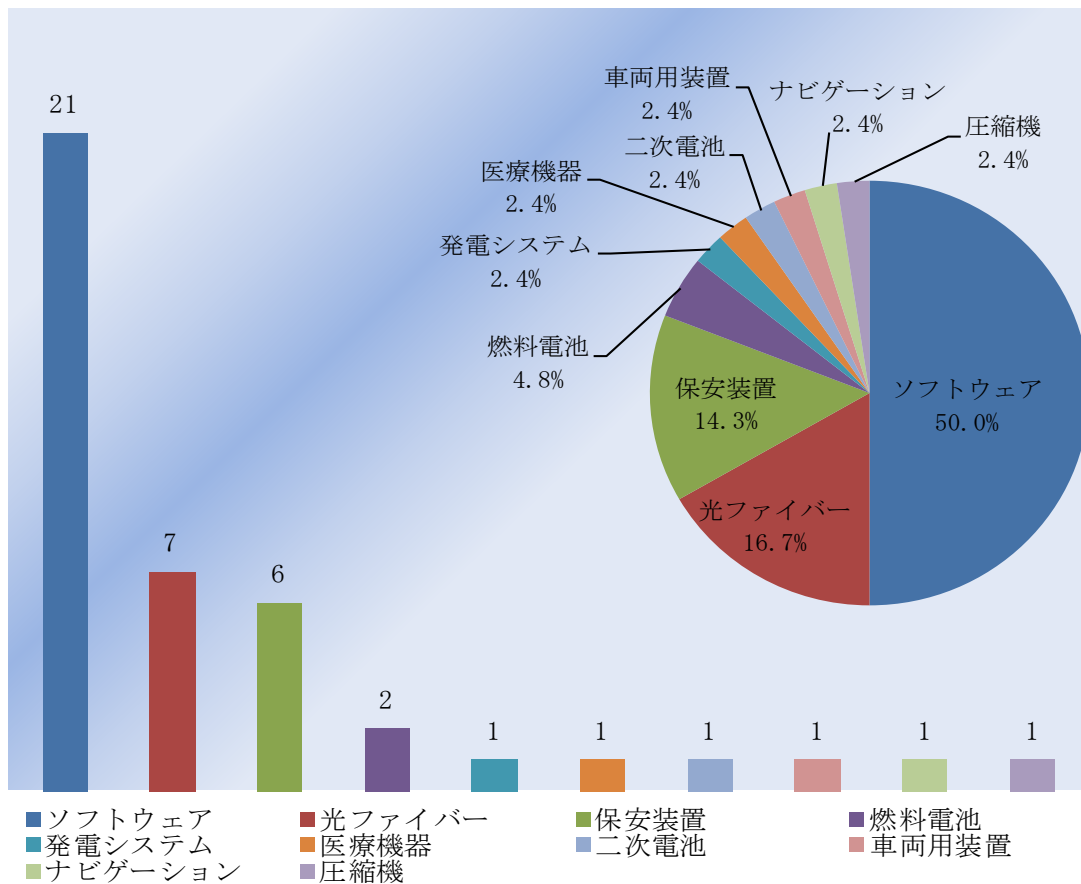
〈表72〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（インド）



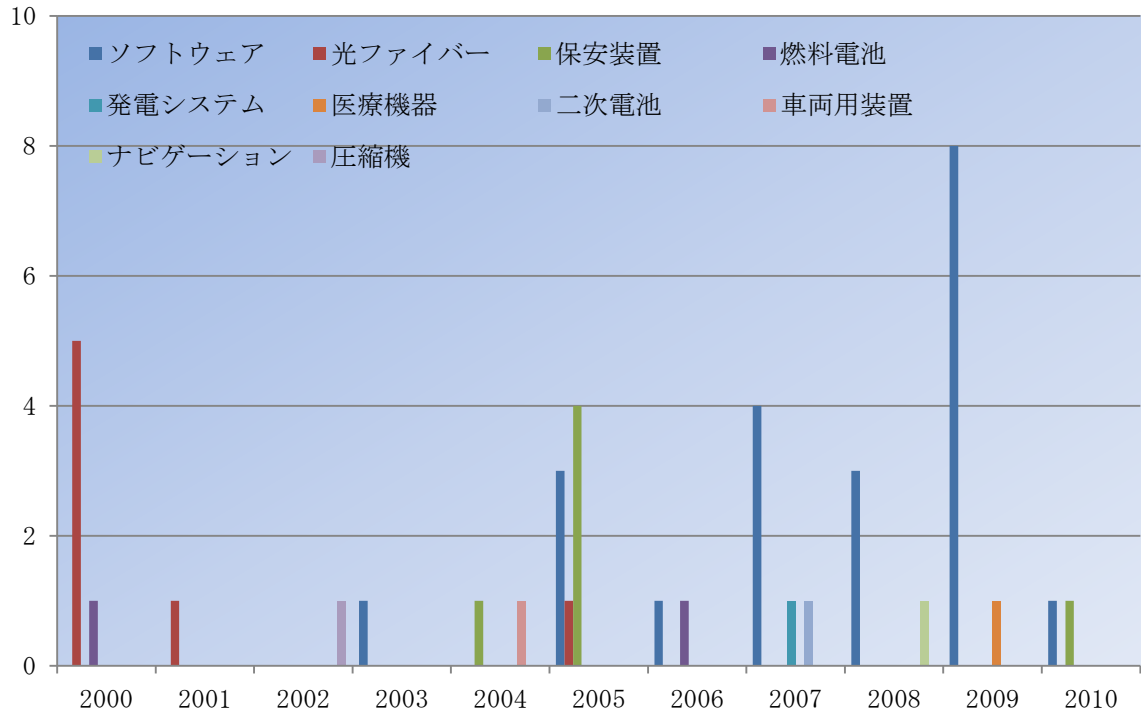
(7) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は、ソフトウェアが半分を占めている。2009年に出願件数が増加したがその後は減少している。次の光ファイバーは、2006年以降出願されていない。保安装置は、2005年に多く出願されたが近年は1件のみである。燃料電池は、2006年に1件出願されて以降、近年は出願されていない。発電システム、医療機器、二次電池、車両用装置、ナビゲーション、圧縮機はここ10年間で1件のみ出願されており、近年においては医療機器が2009年に出願された。

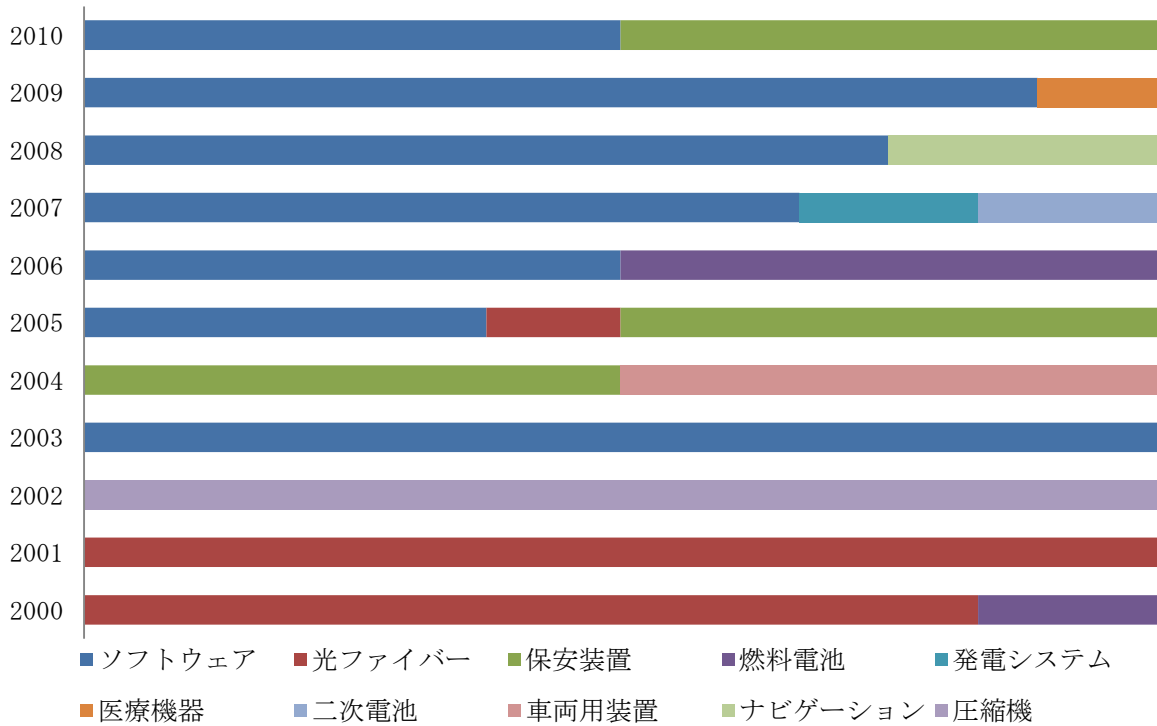
<表73>サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の累計出願件数（インド）



〈表74〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移
(インド)



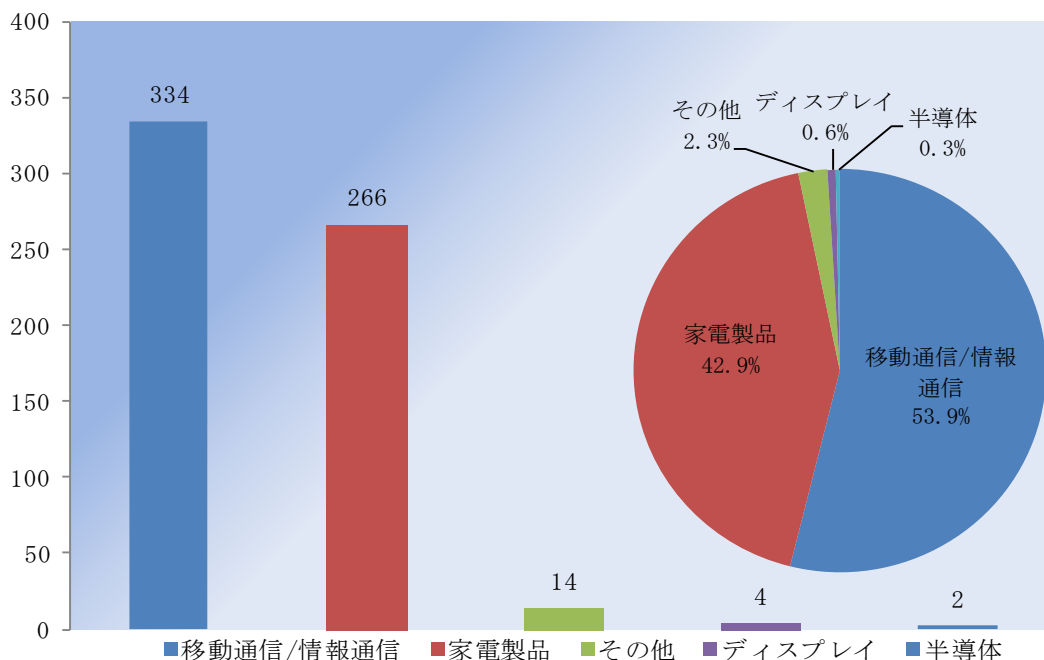
〈表75〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(インド)



1-10 サムスン電子の製品群別特許出願動向<ブラジル>

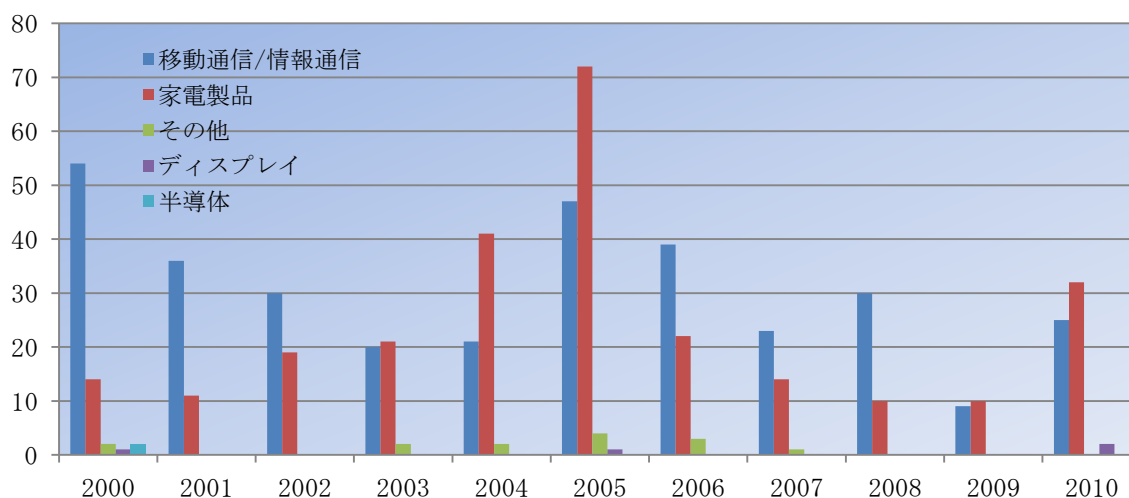
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

<表76> サムスン電子の製品群別による累計出願件数 (ブラジル)

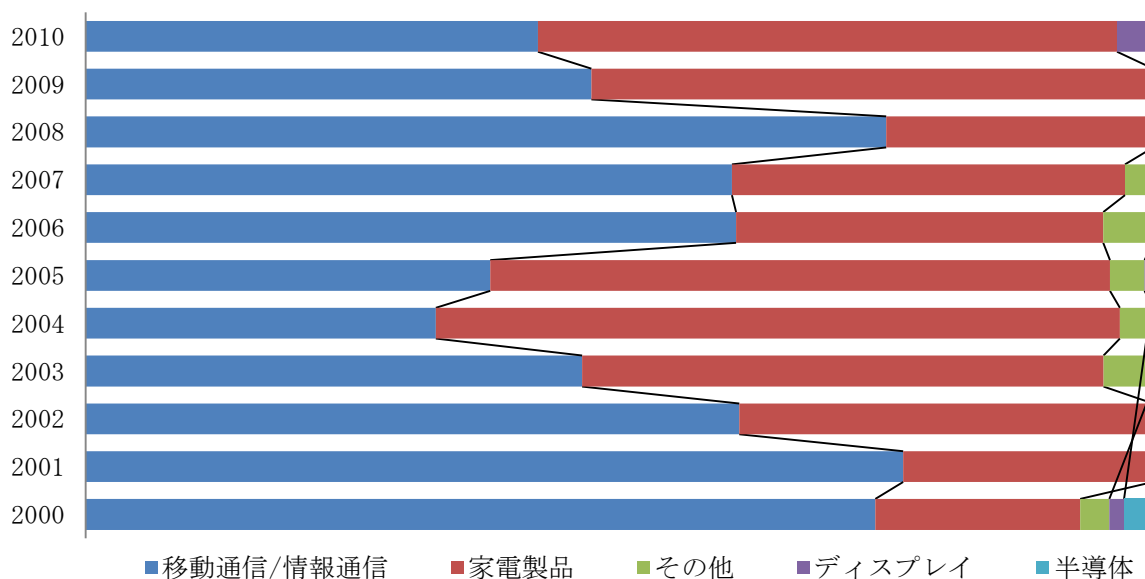


ブラジルへの出願件数において製品群別に見ると、移動通信/情報通信分野が5割強を占め、2005年のピーク時から徐々に減少し、2009年に大幅に減少したが2010年は急増している。次の家電製品は、2005年のピーク後に大幅に減少したが、移動通信/情報通信分野同様に2010年急増している。その他分野は、近年減少傾向で2008年から出願されていない。ディスプレイは、2006年から暫く出願されていなかったが2010年に再び出願された。半導体は、ここ10年間で2000年の2件のみ。

<表77>サムスン電子の製品群別出願件数の推移 (ブラジル)



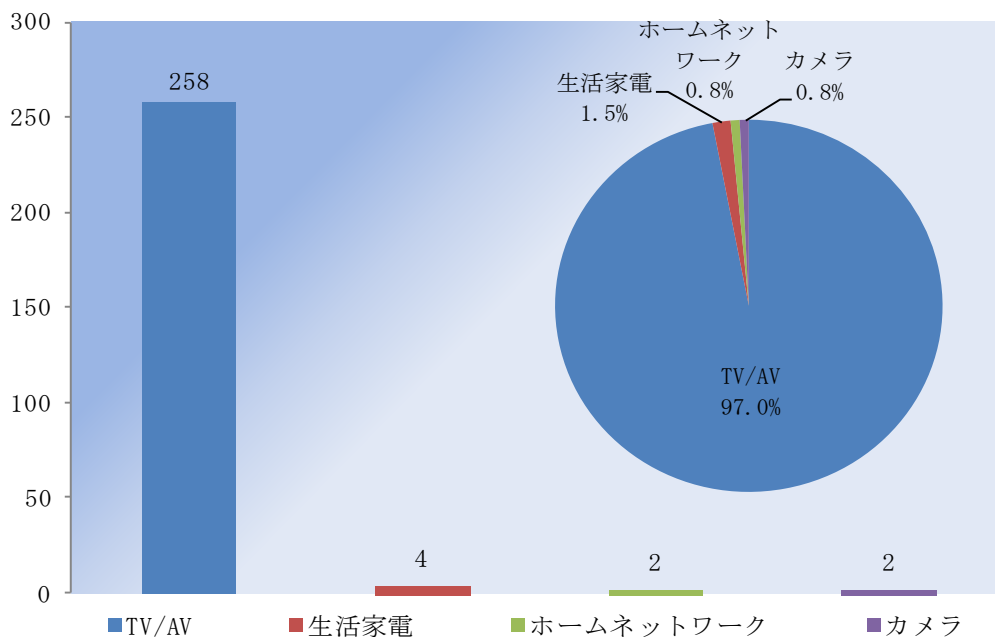
〈表78〉サムスン電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合
(ブラジル)



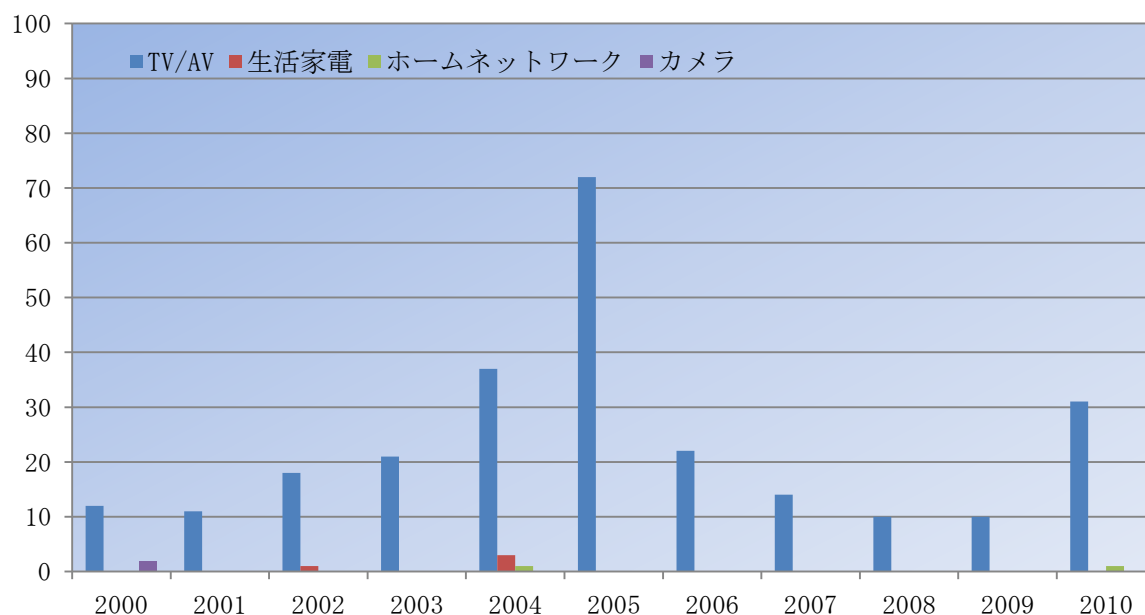
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における各分野の累計出願件数およびその比率の推移を示す。TV/AV が圧倒的に多く、これらの分野に注力しているのがよく分かる。2005 年をピークに激減したが、近年は出願件数が伸びてきている。次の生活家電は、2004 年に 3 件出願されて以降、出願されていない。ホームネットワークおよびカメラは、ここ 10 年間で 2 件のみ。カメラにいたっては、2000 年以降出願されていない。

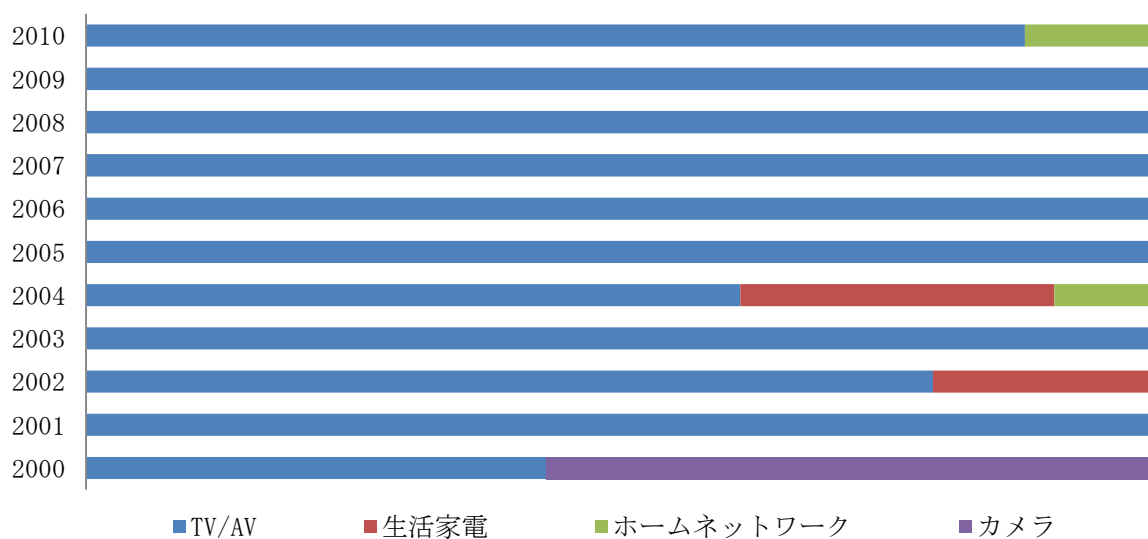
〈表79〉サムスン電子の家電製品群における各分野の累計出願件数 (ブラジル)



〈表80〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（ブラジル）



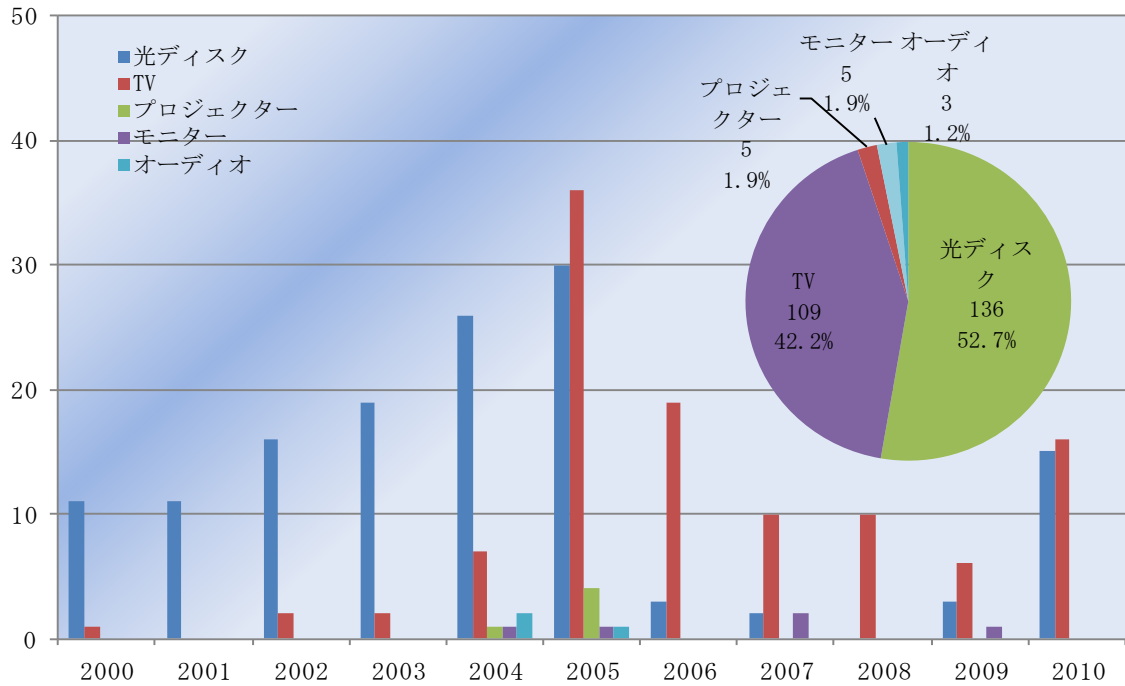
〈表81〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（ブラジル）



(2) TV/AV の特許出願動向

光ディスクが全体の半分以上を占めている。2005 年がピーク後著しく減少し、その間 TV の出願件数が伸びている。2010 年はやや増加した。TV も 2005 年のピーク後に徐々に減少したが、2010 年に再び増加している。プロジェクターは、2006 年以降出願されていない。モニターは、近年は減少傾向。オーディオは、ここ 10 年間で 2009 年に 3 件のみ出願され、2006 年以降は出願されていない。

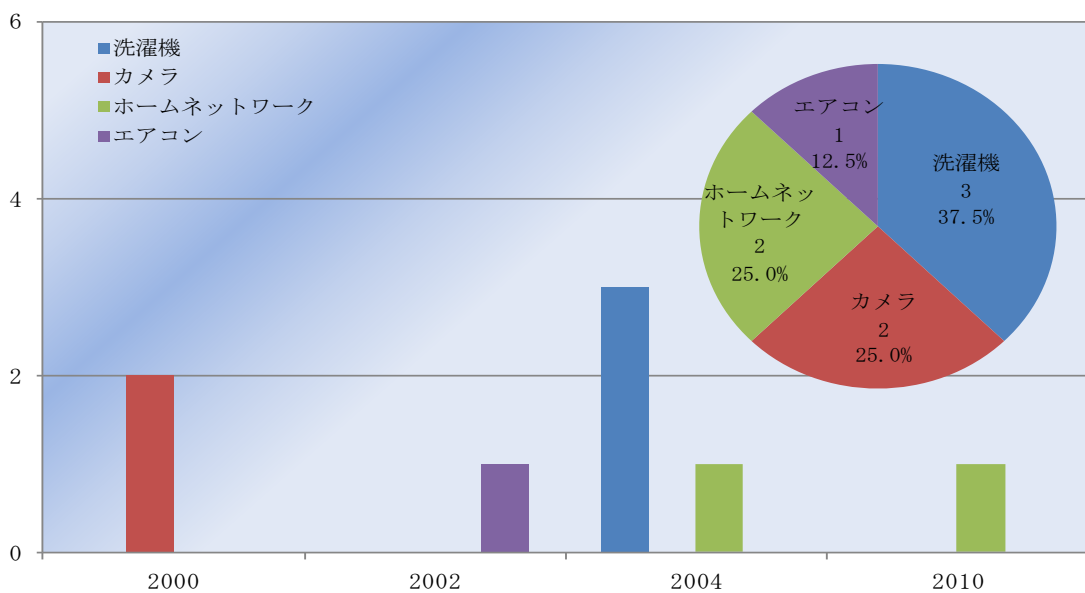
〈表82〉サムスン電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移（ブラジル）



(3) 生活家電/ホームネットワーク/カメラの特許出願動向

洗濯機の比率が最も多いが、2004年以降出願されていない。次のカメラは、2000年のみの出願。ホームネットワークは2件のみ。エアコンは1件のみの出願で、全体的に出願件数が多くない。

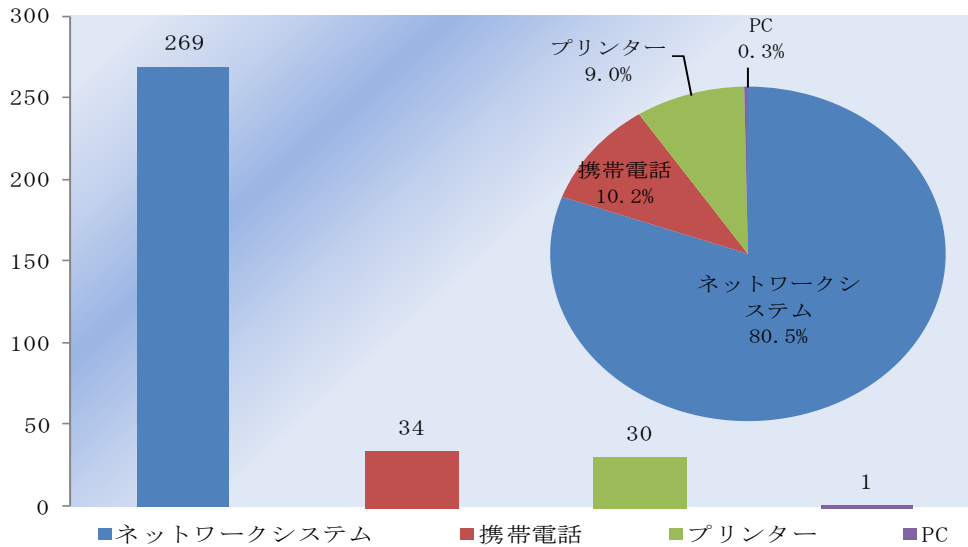
〈表83〉サムスン電子の生活家電/ホームネットワーク/カメラに関する細部製品の年度別推移（ブラジル）



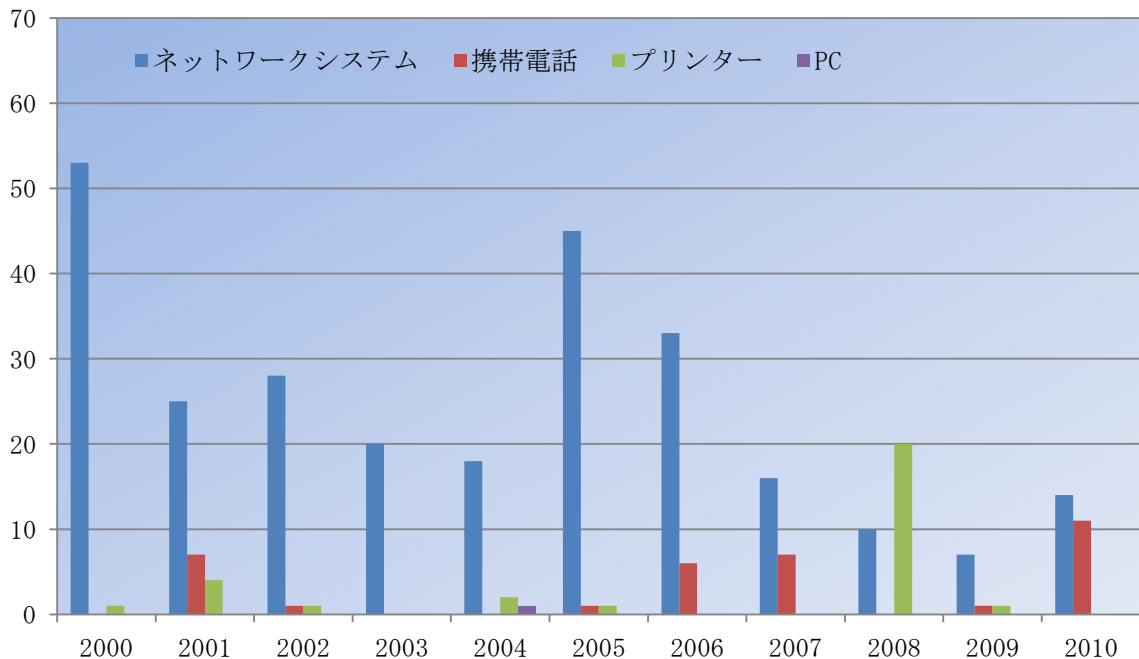
(4) 移動通信/情報通信の特許出願動向

ネットワークシステムが約8割と最も多い。2005年に出願件数が最も多かったが、その後は大幅に減少、2009年に再び増加している。次の携帯電話は、2010年に最も多く出願している。プリンターは、2008年に急増したが翌年は1件と急減した。PCは、ここ10年間で2004年の1件のみの出願である。

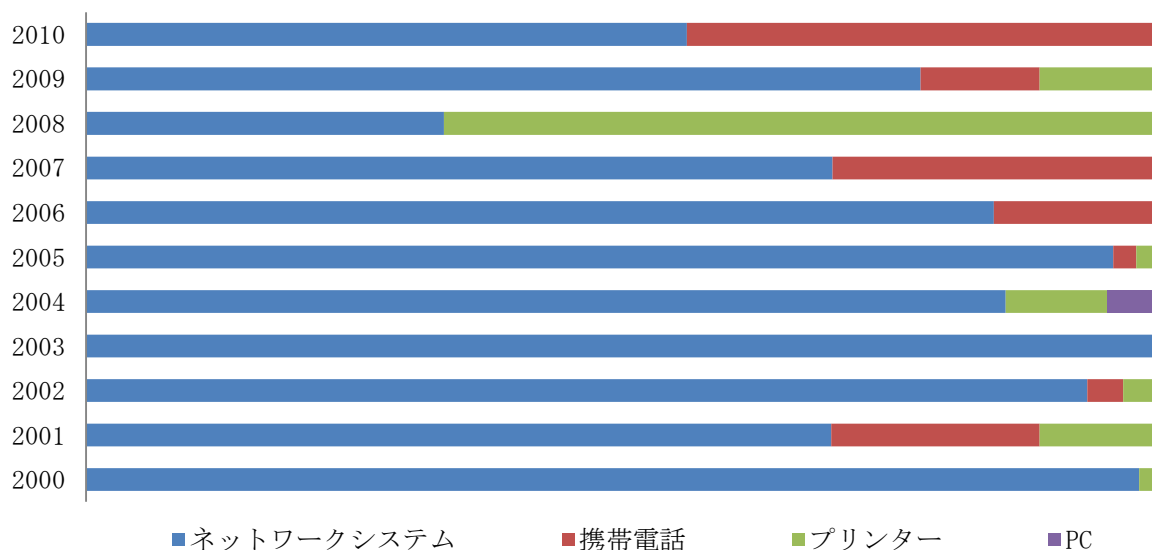
〈表84〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の累計出願件数 (ブラジル)



〈表85〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移 (ブラジル)



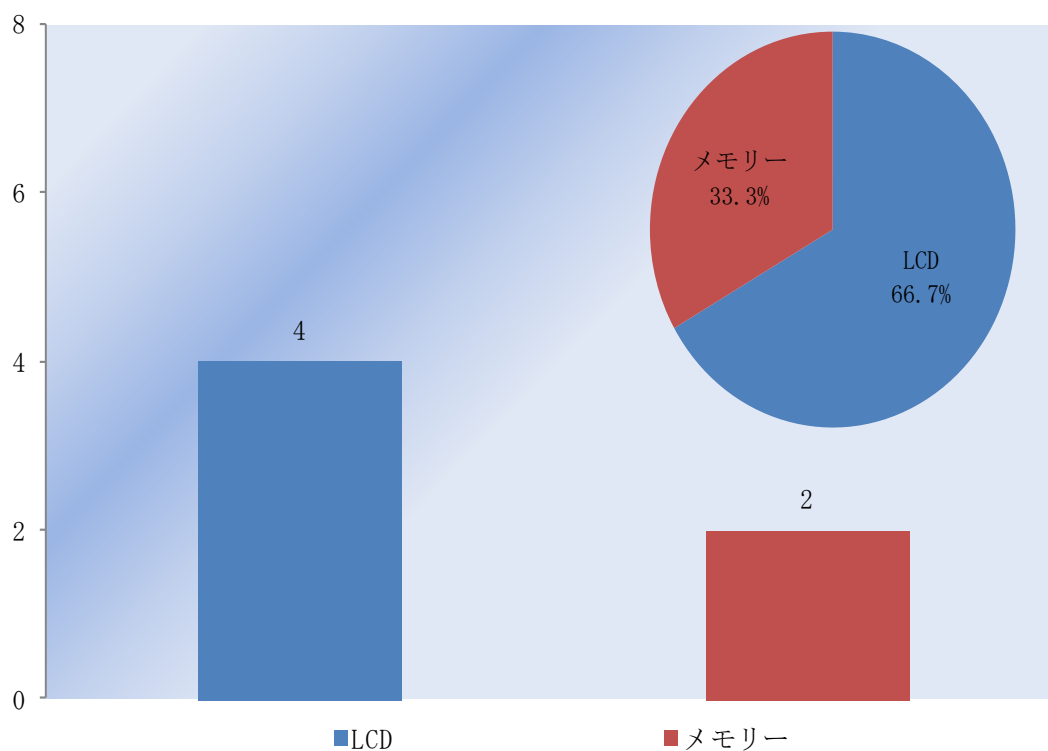
〈表86〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（ブラジル）



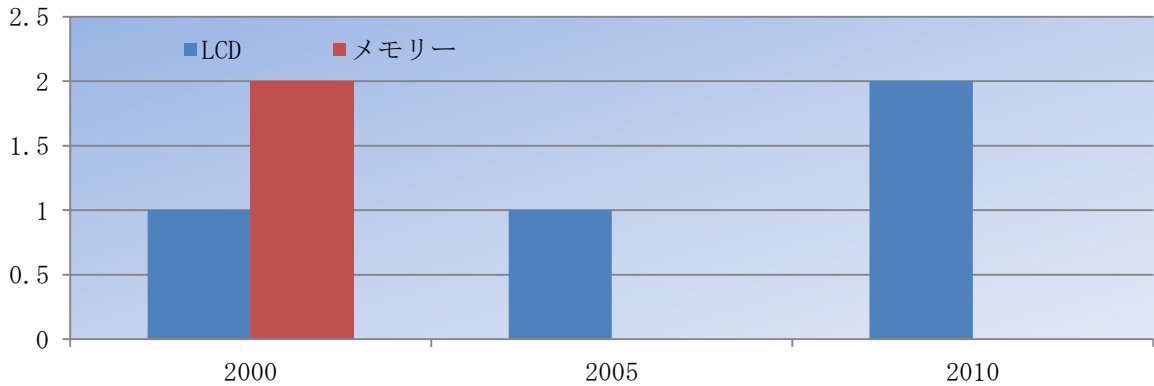
(5) ディスプレイ/半導体製品群の特許出願動向

LCD が 6 割強を占めている。メモリーは、2000 年以降出願されていない。

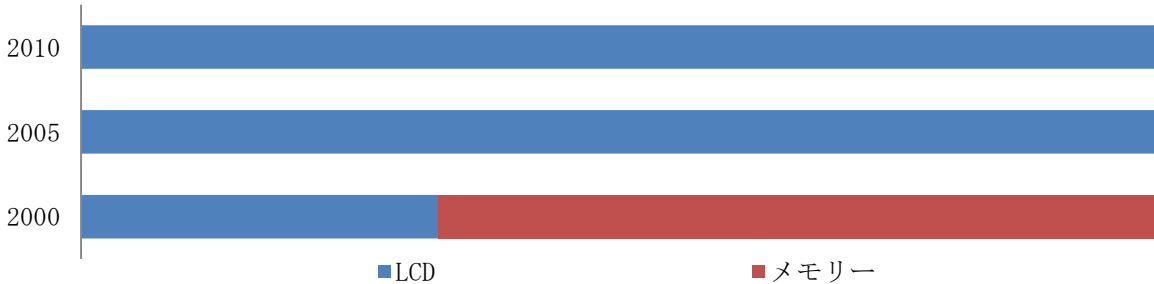
〈表87〉サムスン電子のディスプレイ/半導体製品群に関する細部製品の累計出願件数（ブラジル）



〈表88〉サムスン電子のディスプレイ/半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（ブラジル）



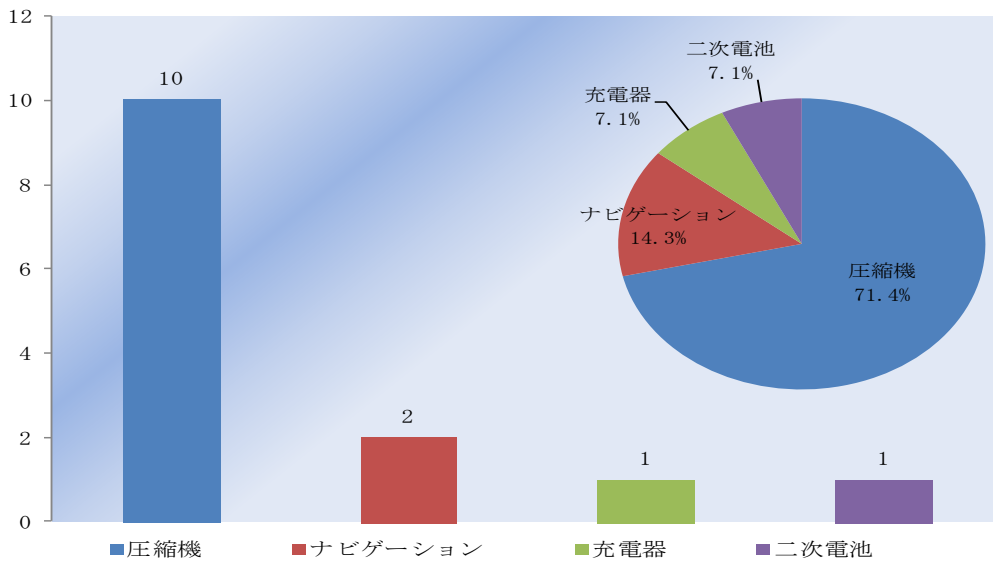
〈表89〉サムスン電子のディスプレイ/半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（ブラジル）



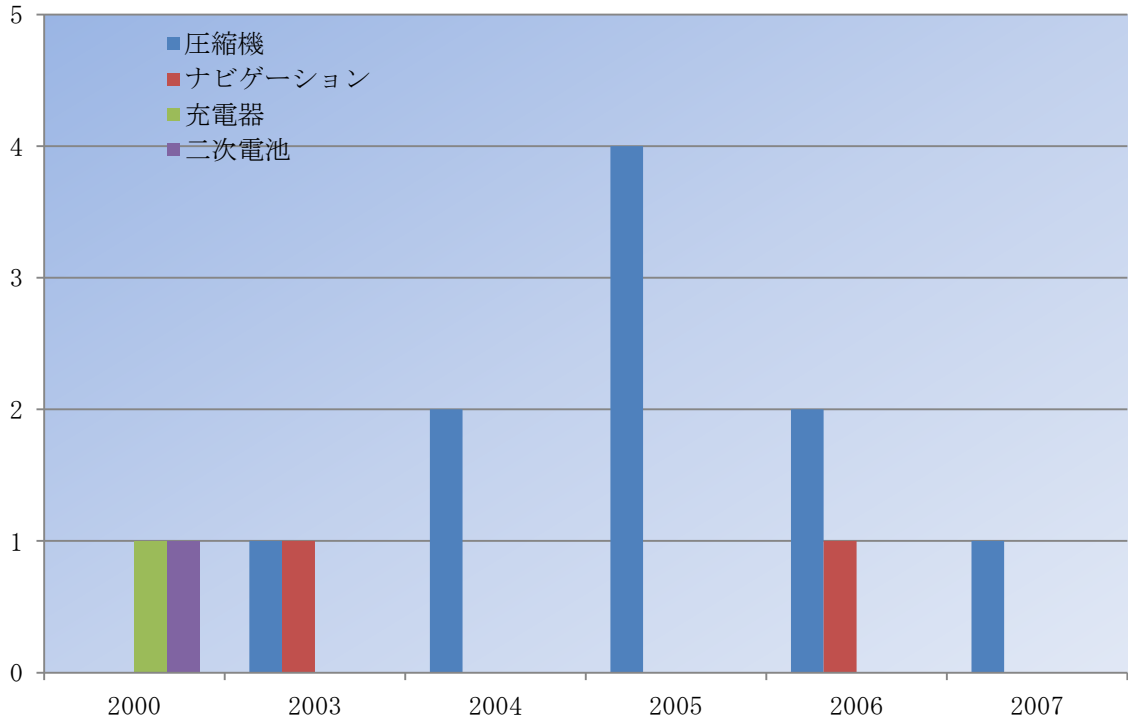
(6) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は、圧縮機が約7割を占めている。2005年に出願件数が増加したがその後は減少している。次のナビゲーションは、2件で2007年以降出願されていない。充電器および二次電池は、2000年の1件のみである。

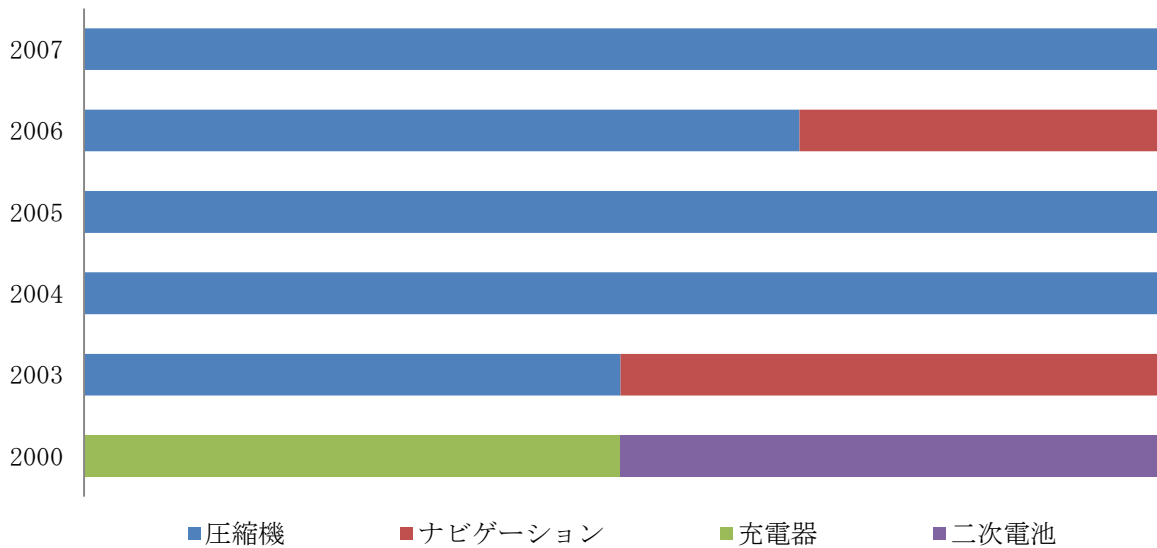
〈表90〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の累計出願件数（ブラジル）



〈表91〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移
(ブラジル)



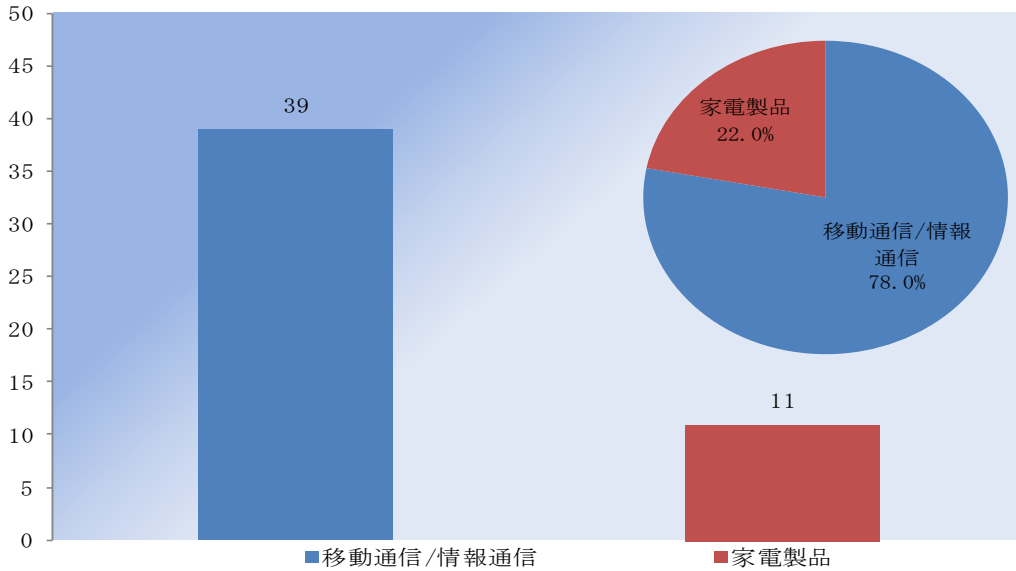
〈表92〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(ブラジル)



1-11 サムスン電子の製品群別特許出願動向<南アフリカ>

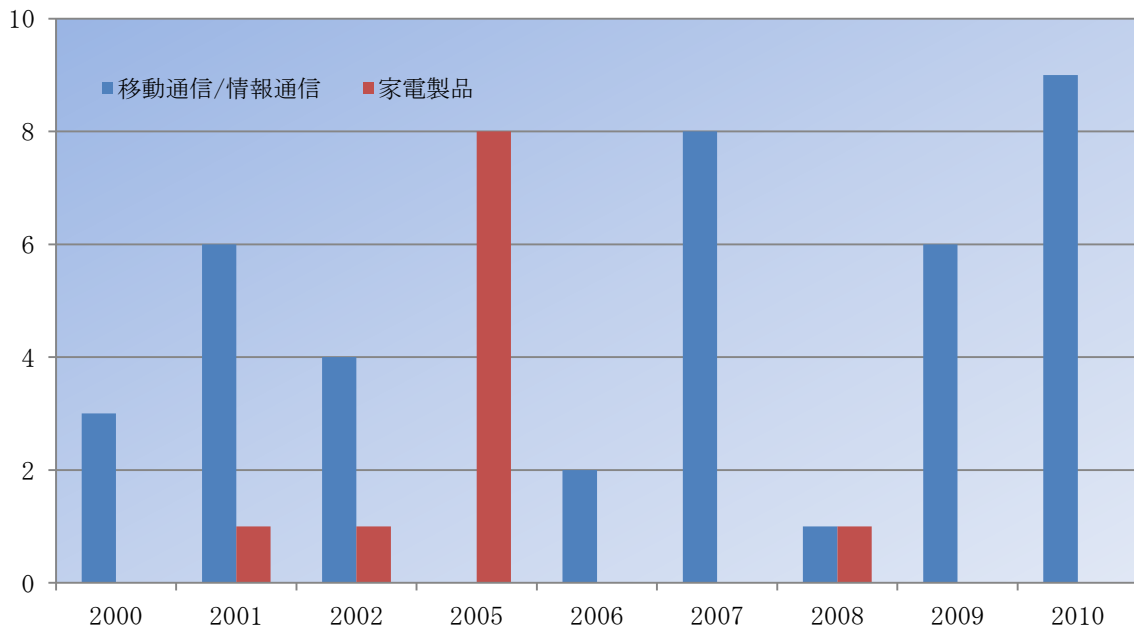
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

<表93> サムスン電子の製品群別による累計出願件数 (南アフリカ)

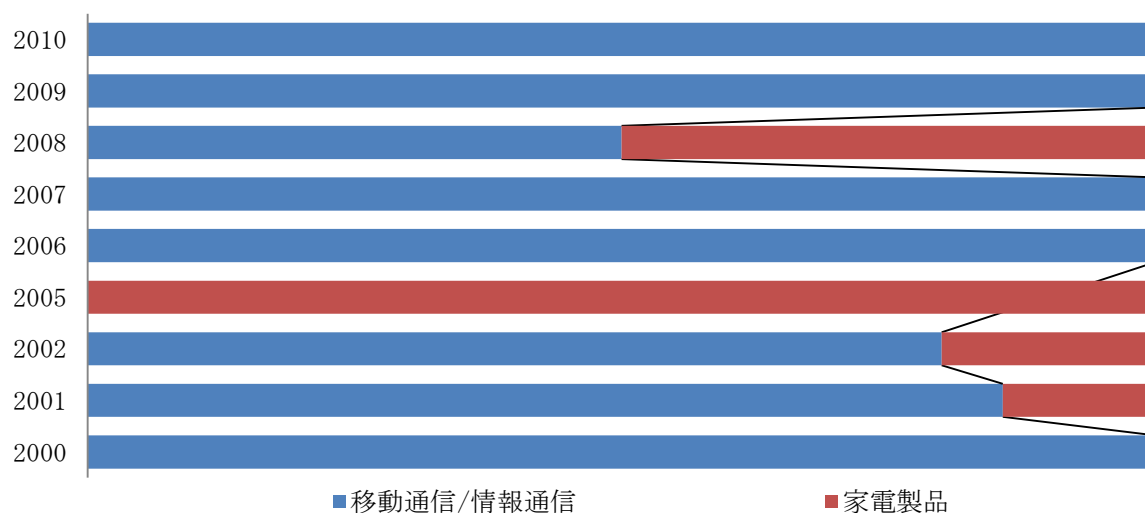


南アフリカへの出願件数において製品群別に見ると、移動通信/情報通信分野が8割弱占めており、2008年に急減したが近年再び出願件数が増加している。家電製品は、2005年のピーク以降減少している。

<表94>サムスン電子の製品群別出願件数の推移 (南アフリカ)



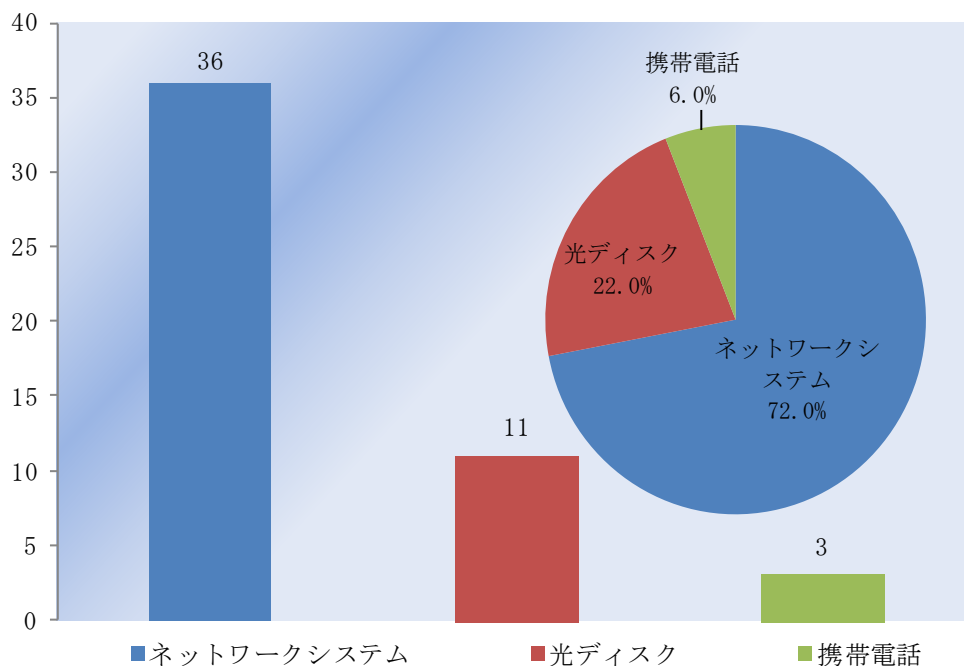
〈表95〉サムスン電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合
(南アフリカ)



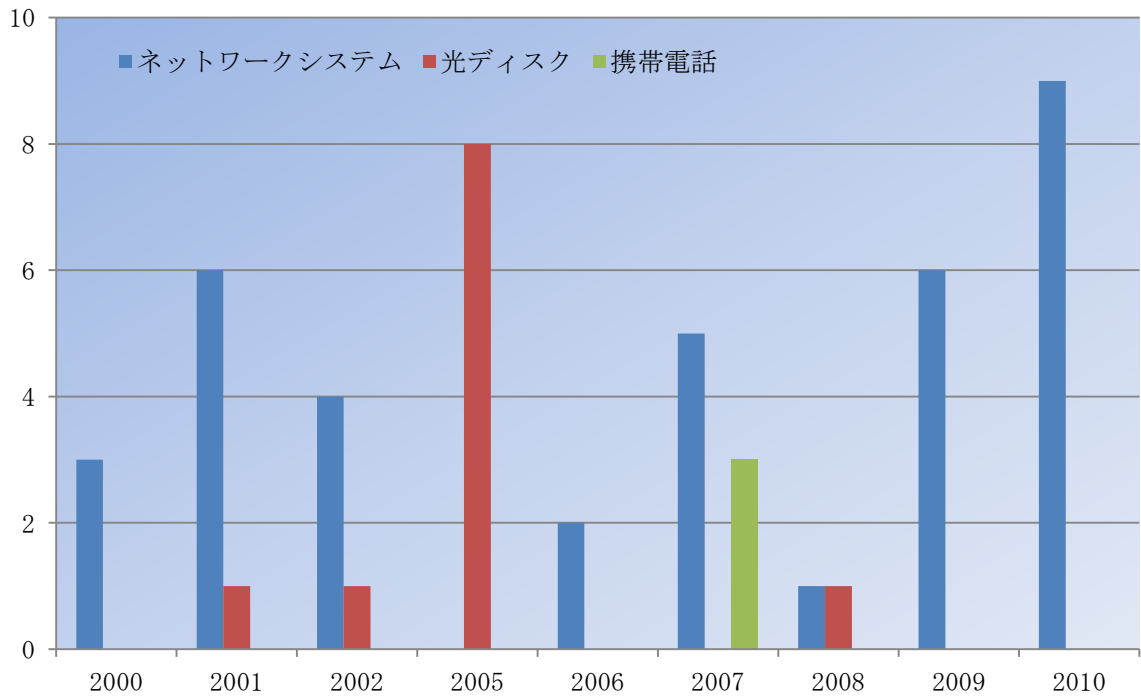
(1) 細部製品の特許出願動向

下記の表においては、細部製品における累計出願件数およびその比率の推移を示す。ネットワークシステムが比率が多く、2009年頃から出願件数が伸びてきている。次の光ディスクは、2005年に最も多く出願されたが、その後は出願件数が少ない。携帯電話は、2007年の3件のみの出願である。

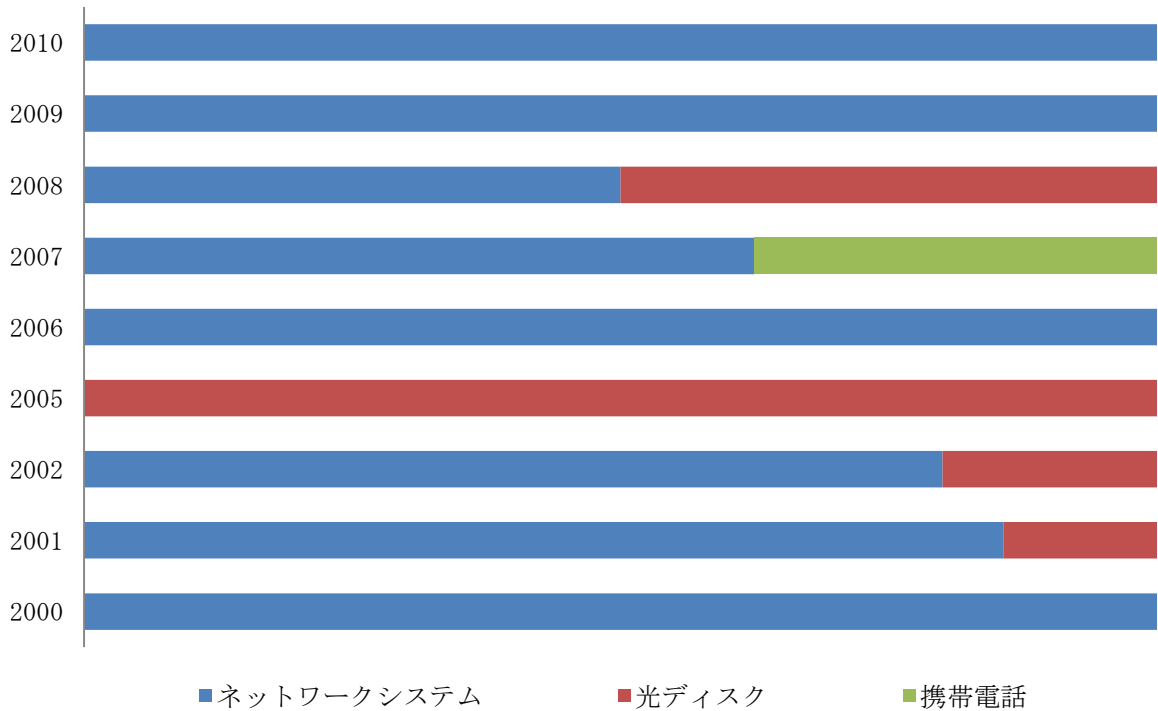
〈表96〉サムスン電子の細部製品における累計出願件数 (南アフリカ)



〈表97〉サムスン電子の細部製品における年度別出願件数の推移（南アフリカ）



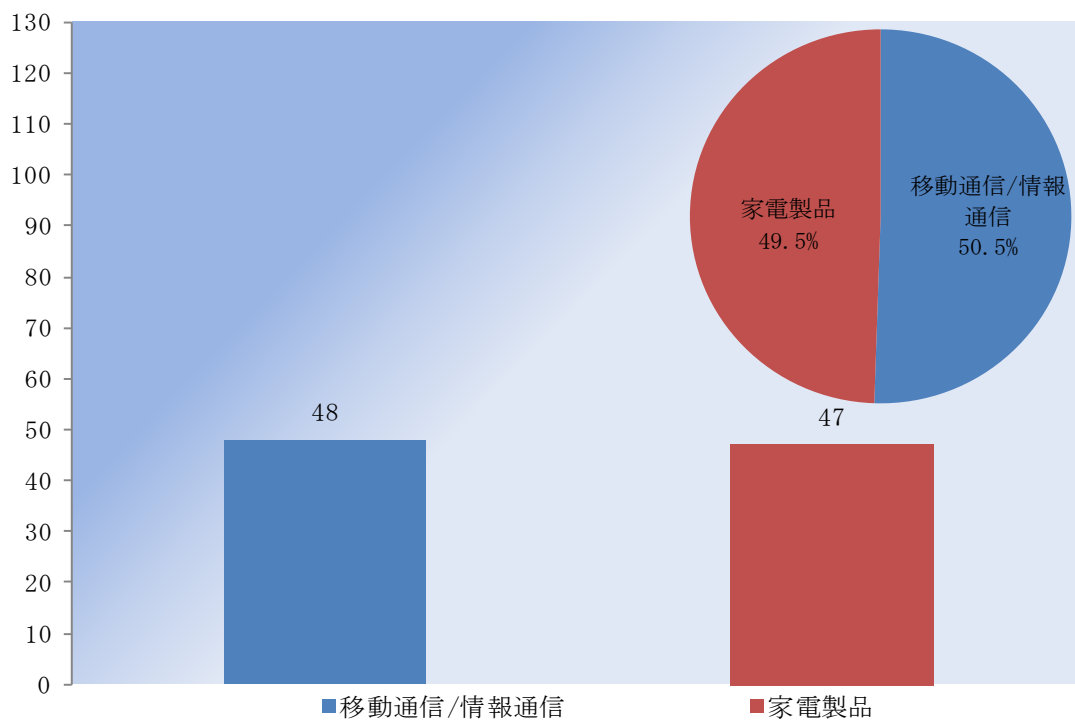
〈表98〉サムスン電子の細部製品における年度別出願件数の比率（南アフリカ）



1-12 サムスン電子の製品群別特許出願動向<ベトナム>

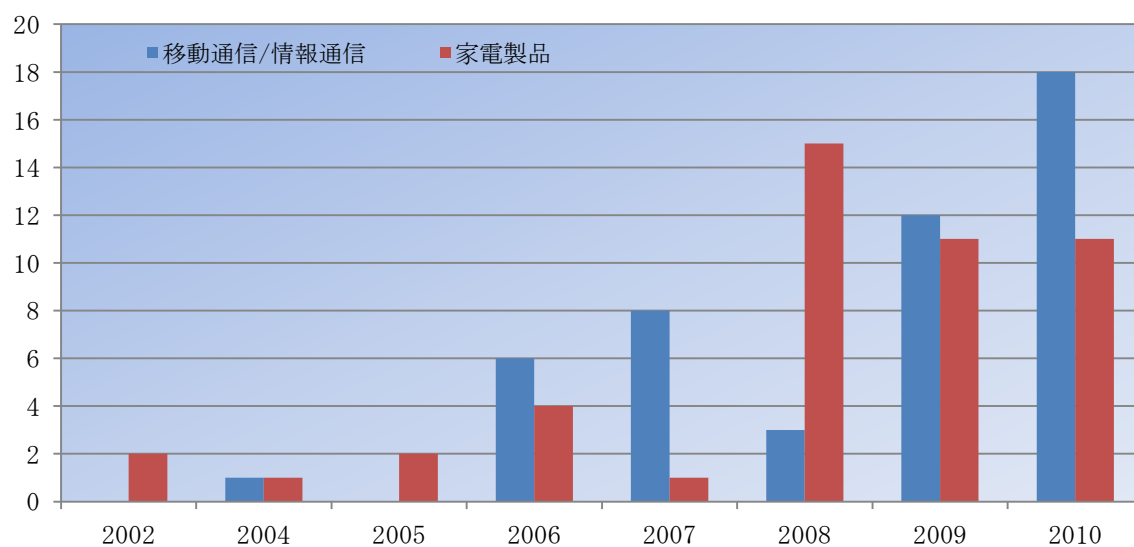
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

<表99> サムスン電子の製品群別による累計出願件数 (ベトナム)

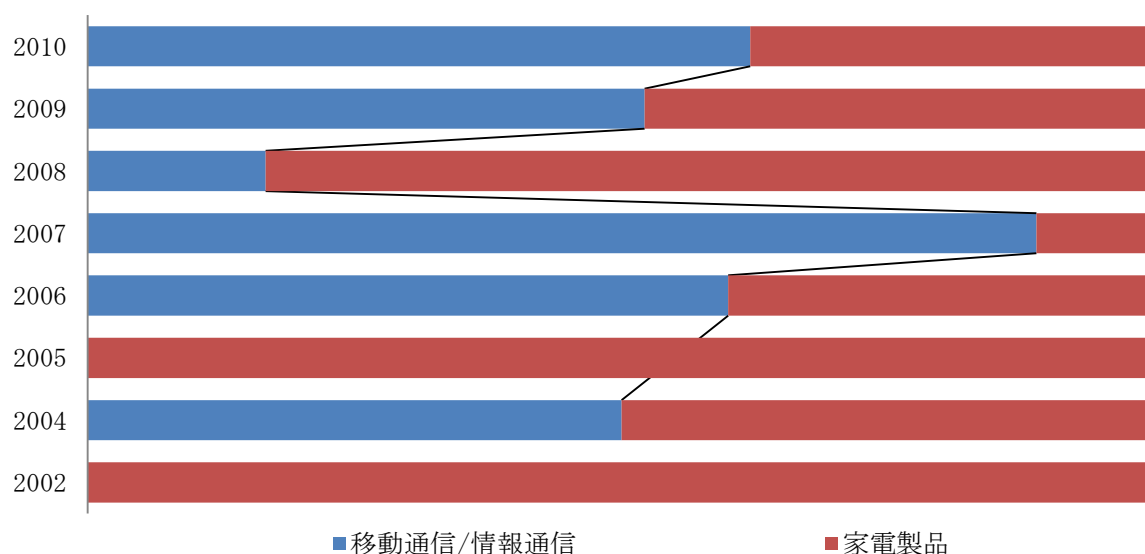


ベトナムへの出願件数において製品群別に見ると、移動通信/情報通信分野が家電製品よりも若干多い。移動通信/情報通信分野は、2009年より急激に増加し、家電製品は、2008年に急増、翌年から横ばい状態である。

<表100>サムスン電子の製品群別出願件数の推移 (ベトナム)



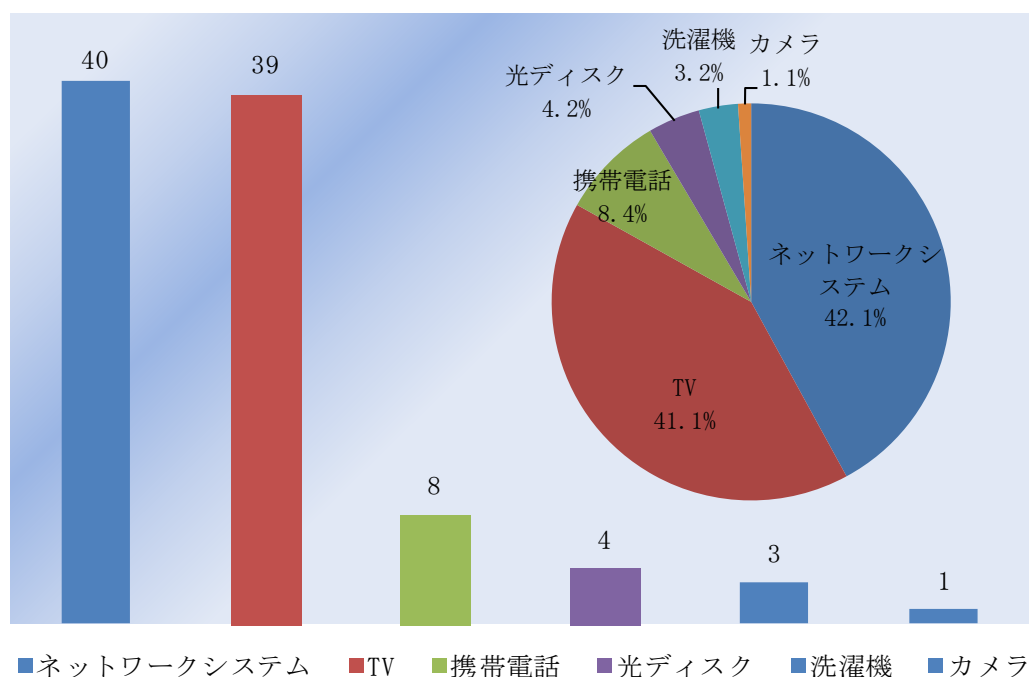
〈表101〉サムスン電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合
(ベトナム)



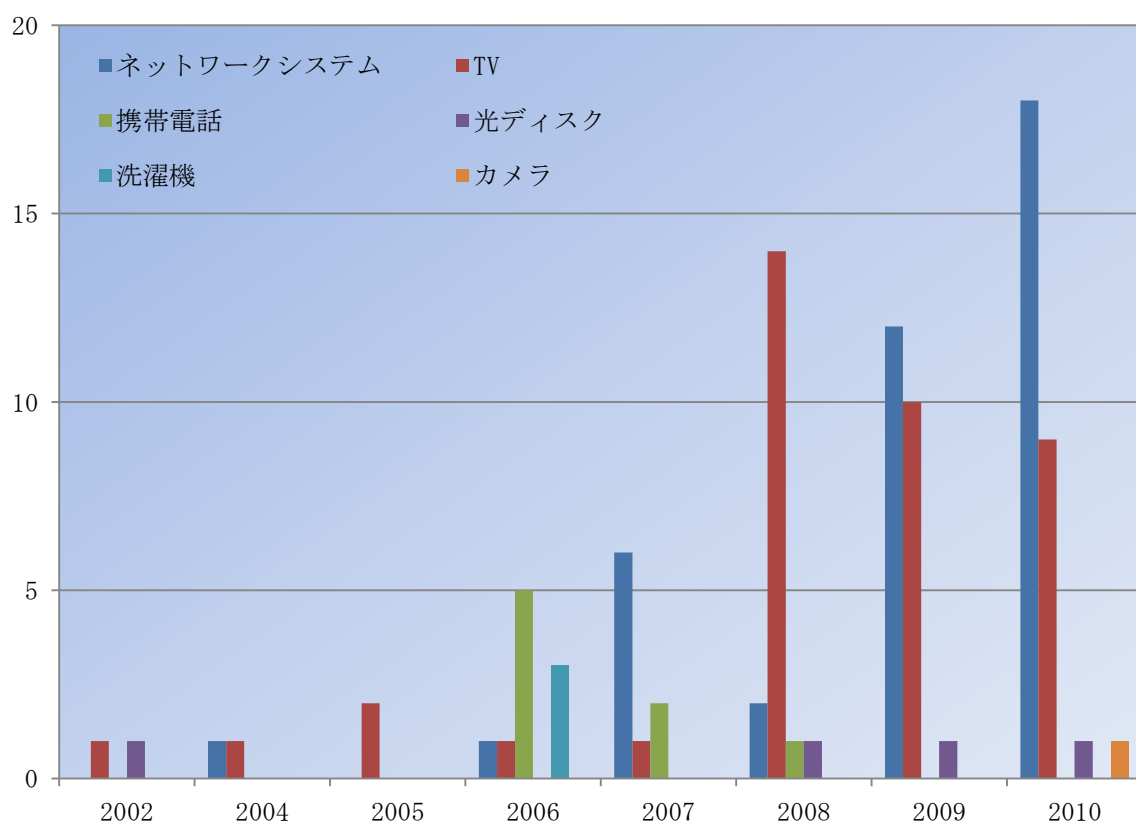
(1) 細部製品の特許出願動向

下記の表においては、細部製品における累計出願件数およびその比率の推移を示す。ネットワークシステムとTVがほぼ同率である。ネットワークシステムは2009年から急激に増加、TVは2008年に急激に増加し、その後減少傾向である。携帯電話は、2006年に最も多く出願されたが、その後は激減。光ディスクは、近年横ばい状態である。洗濯機は、2006年に3件のみ。カメラは、2010年に1件のみ出願されている。

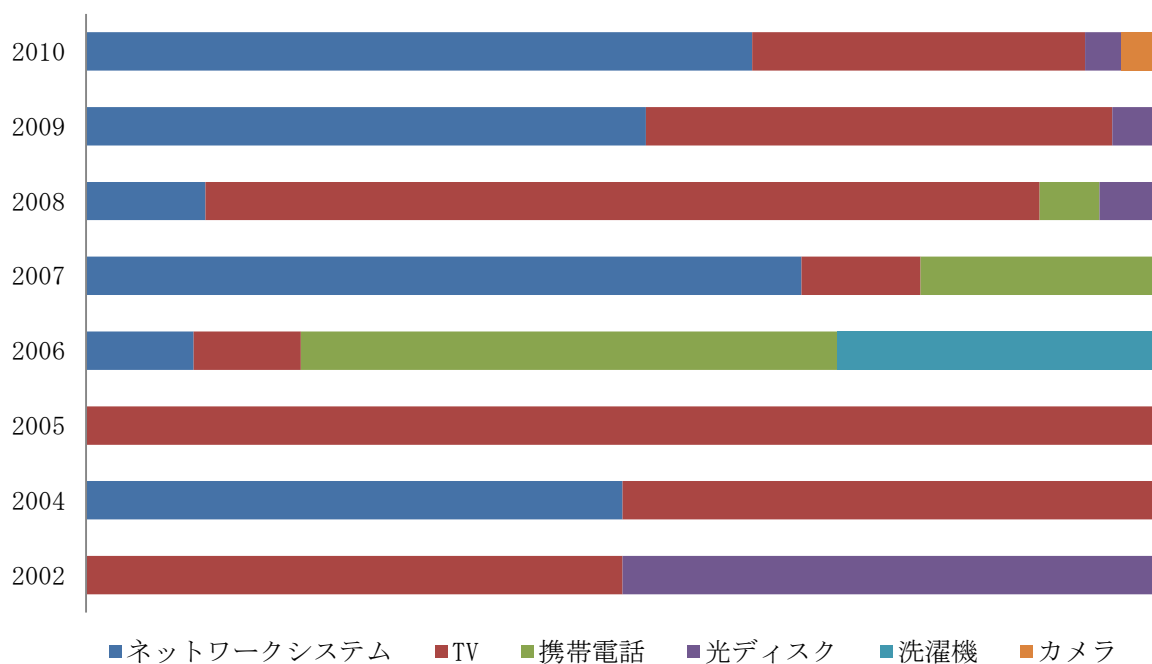
〈表102〉サムスン電子の細部製品における累計出願件数 (ベトナム)



〈表103〉サムスン電子の細部製品における年度別出願件数の推移（ベトナム）



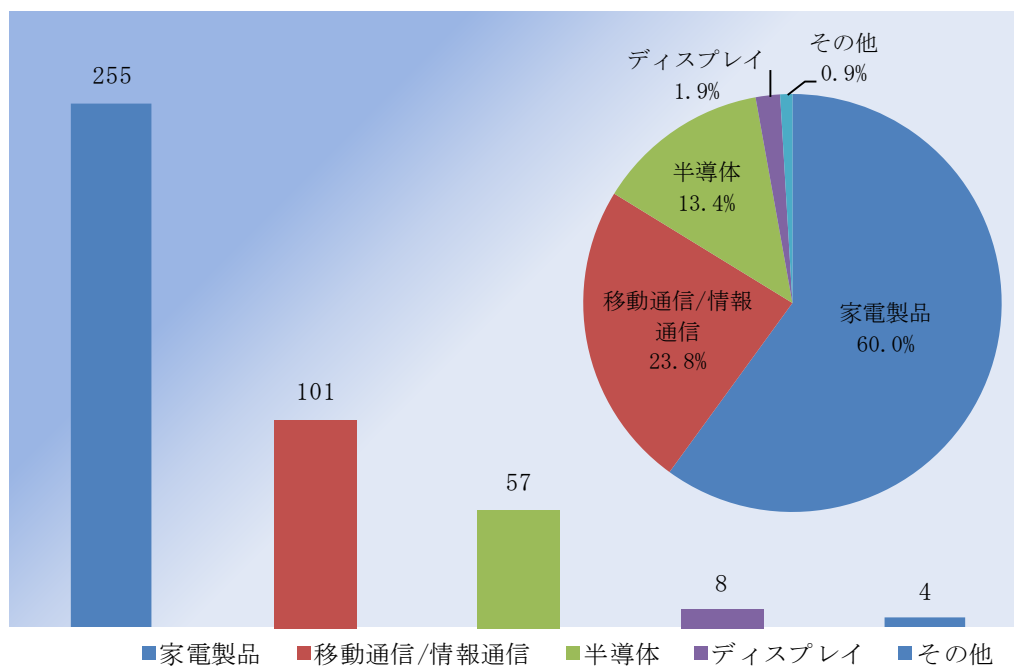
〈表104〉サムスン電子の細部製品における年度別出願件数の比率（ベトナム）



1-13 サムスン電子の製品群別特許出願動向<シンガポール>

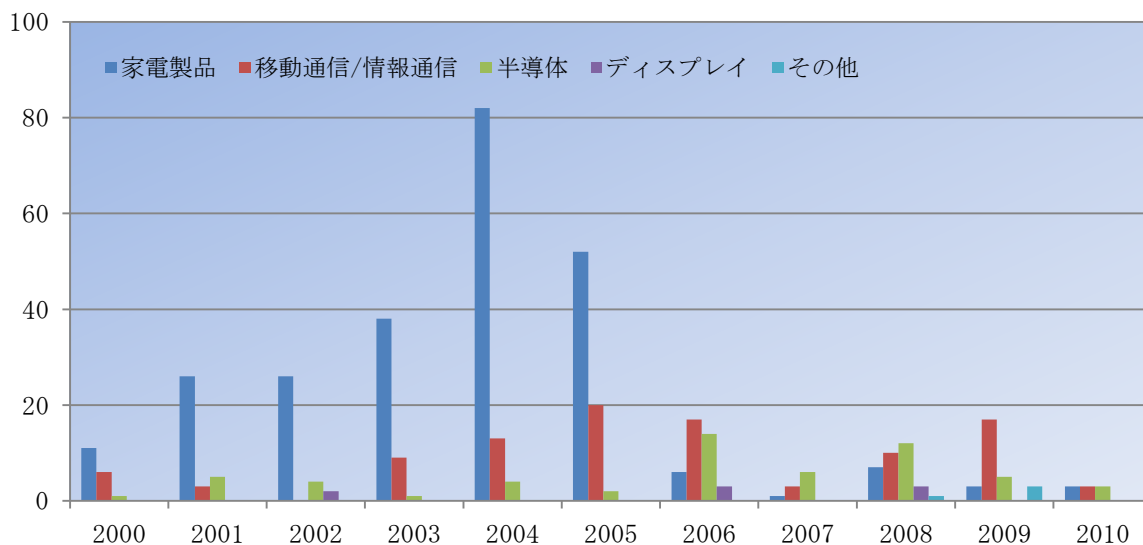
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

<表105> サムスン電子の製品群別による累計出願件数 (シンガポール)

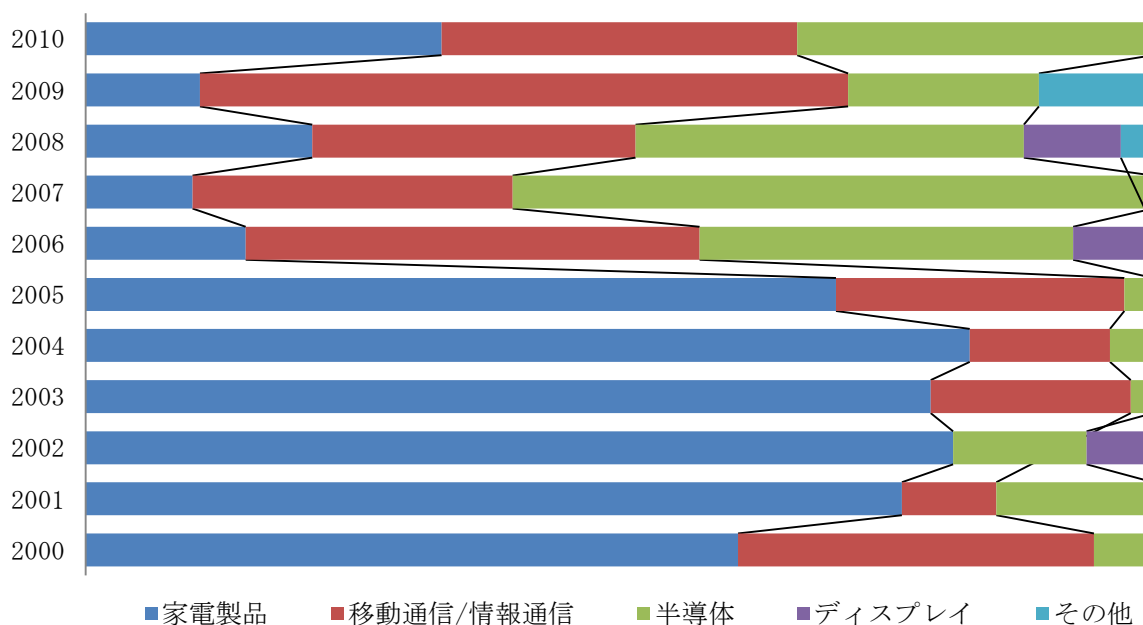


シンガポールへの出願件数において製品群別に見ると、家電製品が全体の6割を占めている。2004年まで着実に増加を辿っていたが2005年に減少し、その後は著しい減少傾向を見せている。移動通信/情報通信分野は、2005年のピーク以降増減を繰り返している。半導体は2006年のピーク以降、移動通信/情報通信分野と同様である。ディスプレイの出願は、ここ10年間まばらである。その他は、2009年に出現率を伸ばしたものの2010年は出願されていない。

〈表106〉サムスン電子の製品群別出願件数の推移（シンガポール）



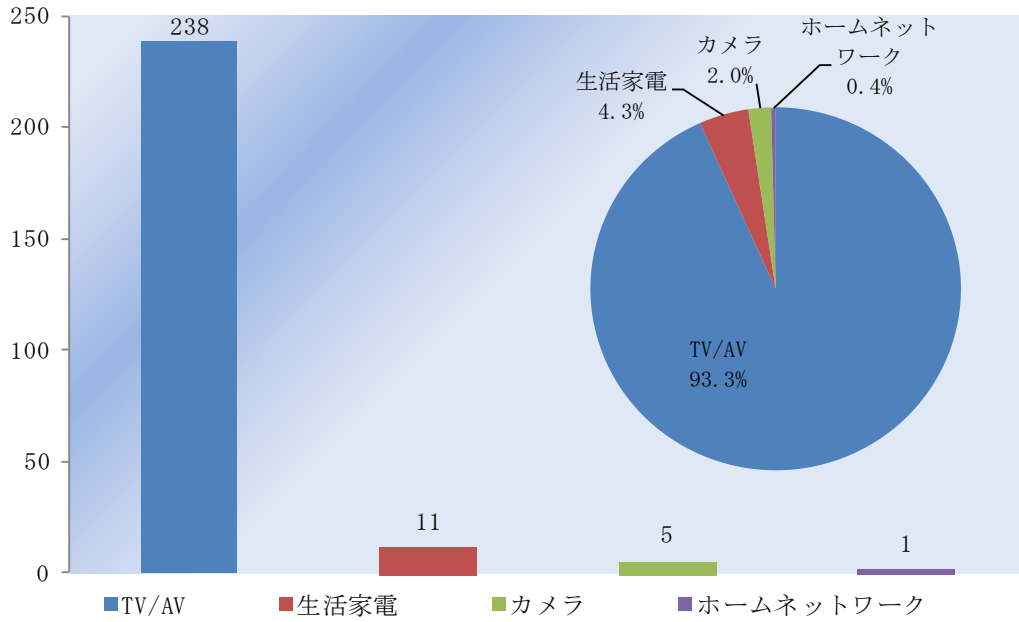
〈表107〉サムスン電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合（シンガポール）



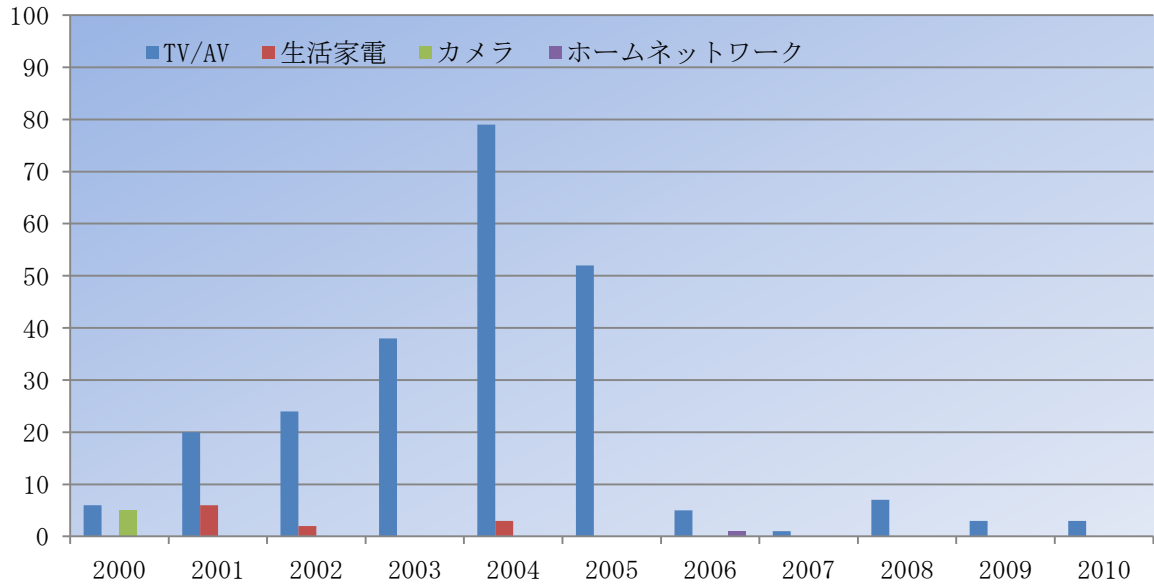
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における各分野の累計出願件数およびその比率の推移を示す。TV/AV が圧倒的に多く、2004 年まで顕著に出願件数が増加していたが、2006 年以降は大幅に減少している。次の生活家電は、2005 年以降出願されていない。カメラは、2000 年に 5 件出願されたのみ。ホームネットワークは、2006 年に 1 件のみ出願されている。

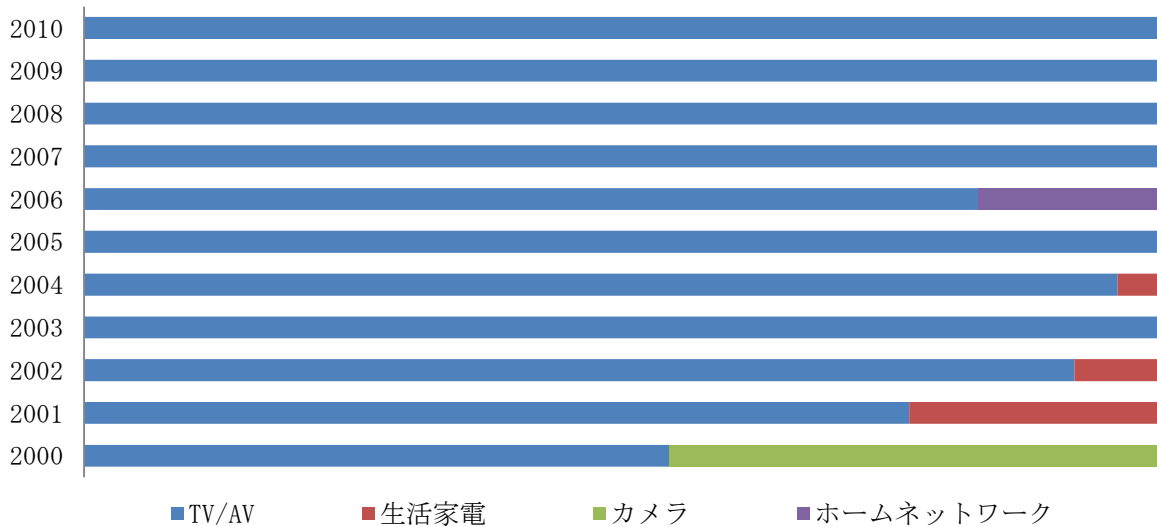
〈表108〉サムスン電子の家電製品群における各分野の累計出願件数（シンガポール）



〈表109〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（シンガポール）



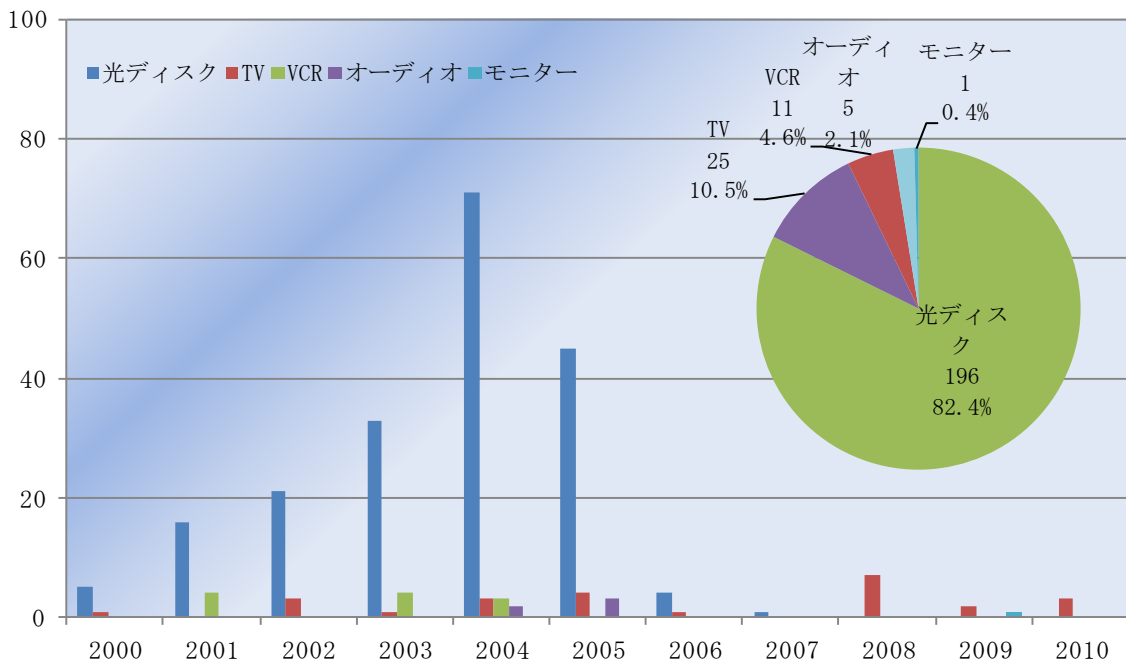
〈表110〉サムスン電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率
(シンガポール)



(2) TV/AVの特許出願動向

光ディスクが8割以上占めているが、2004年のピーク後大幅に激減し、2008年以降は出願されていない。次のTVは、2008年のピーク後減少傾向である。VCRは、ここ10年間で11件で2005年以降は出願されていない。オーディオは、2004年と2005年のみ出願され、近年は出願されていない。モニターは、ここ10年間で2009年に1件のみ出願されている。

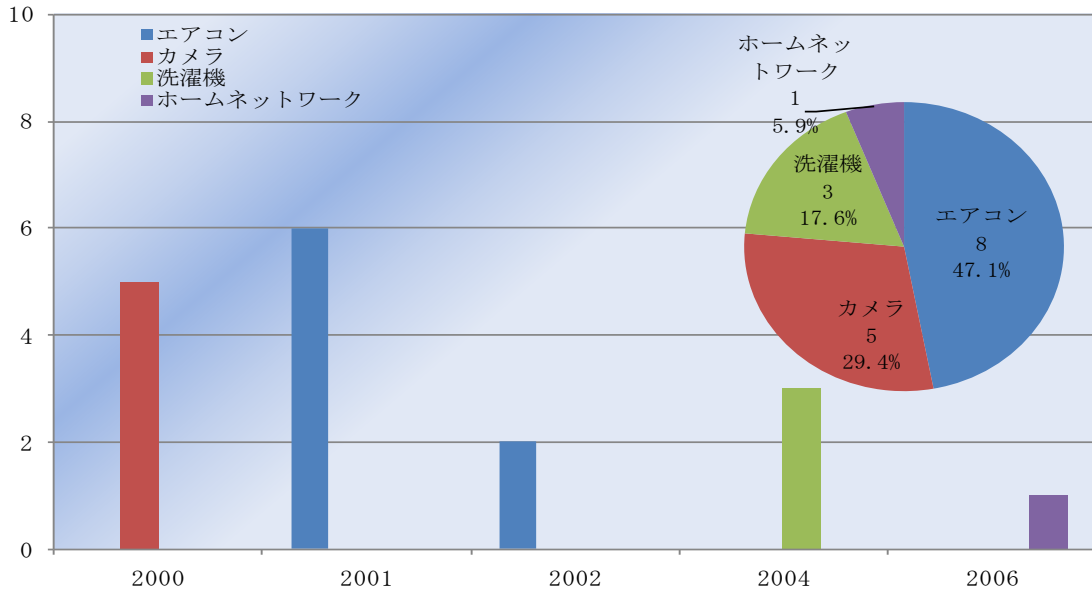
〈表111〉サムスン電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移 (シンガポール)



(3) 生活家電/ホームネットワーク/カメラの特許出願動向

エアコンの比率が最も多いが、近年は出願されていない。次のカメラは、2000年だけの出願されている。洗濯機は、2004年に3件。ホームネットワークは2006年に1件のみ出願されている。

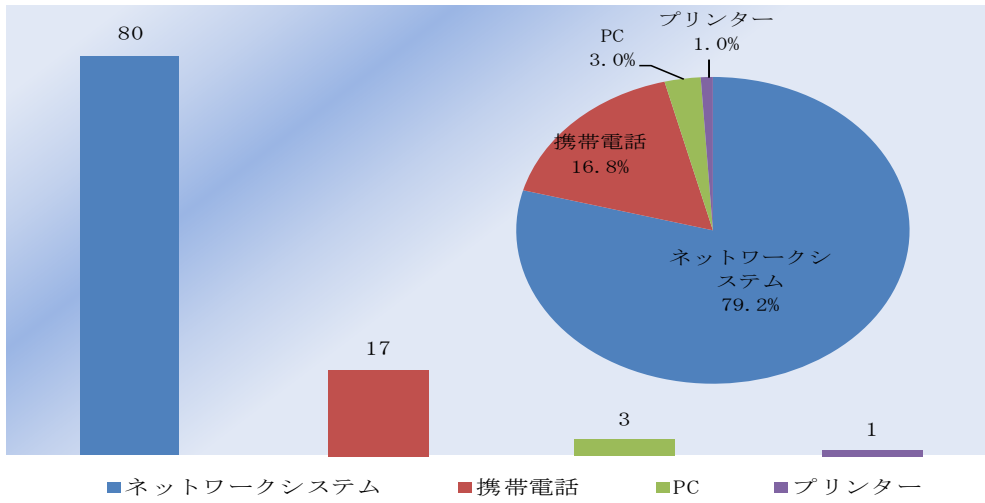
〈表112〉サムスン電子の生活家電/ホームネットワーク/カメラに関する細部製品の年度別推移（シンガポール）



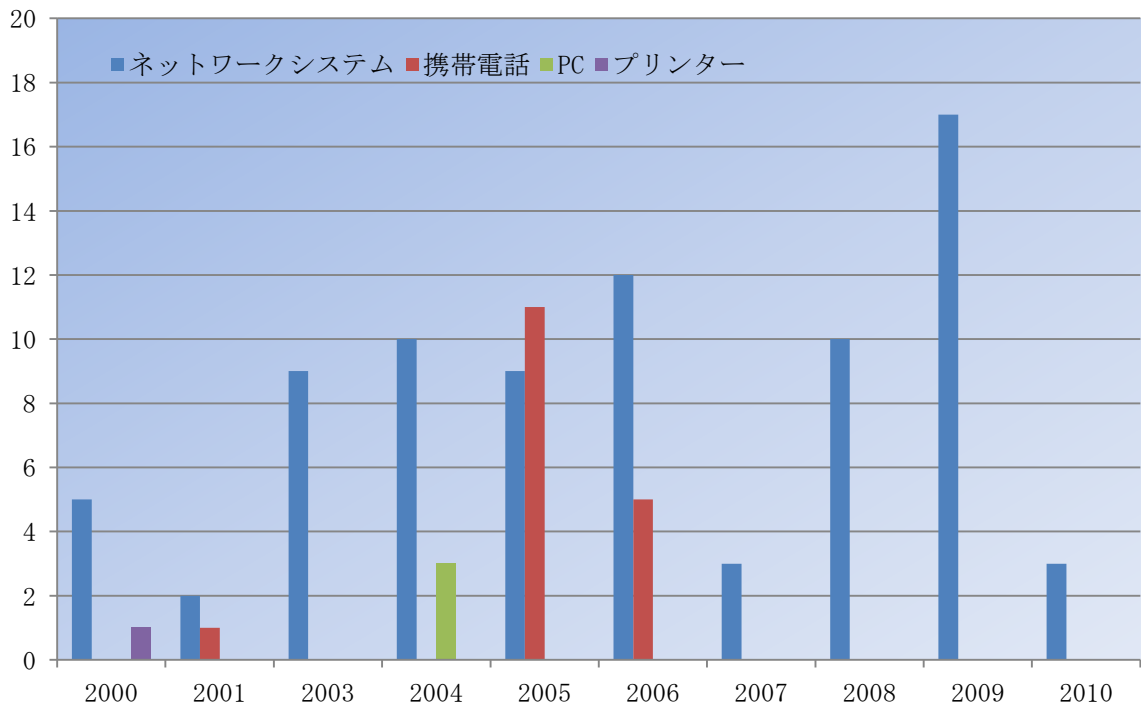
(4) 移動通信/情報通信の特許出願動向

ネットワークシステムが約8割と最も多い。出願件数の増減幅が激しいが、毎年着実に出願されている。次の携帯電話は、2005年に最も多く出願し、その後は激減、近年は出願されていない。PCは、2004年の3件のみ。プリンターは、2000年の1件のみの出願である。

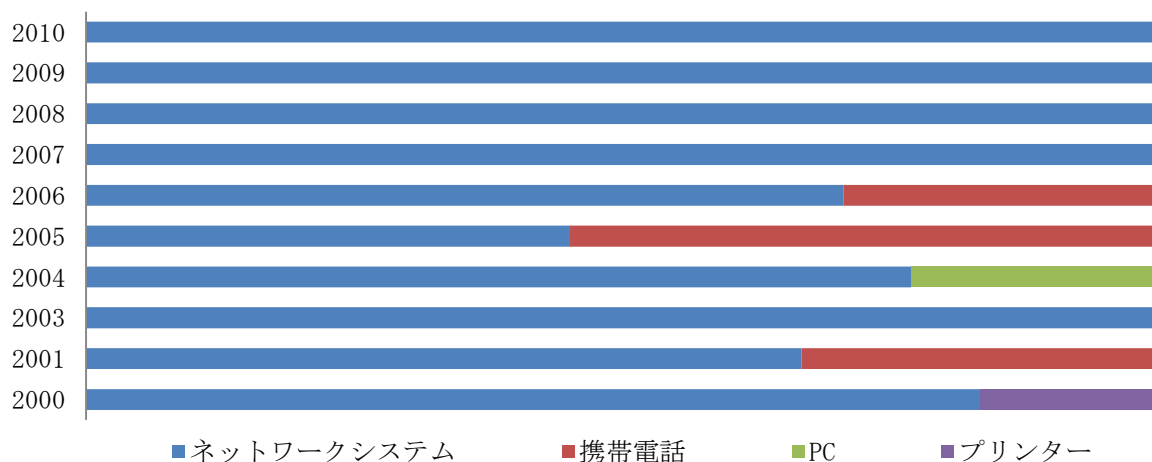
〈表113〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の累計出願件数
(シンガポール)



〈表114〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移 (シンガポール)



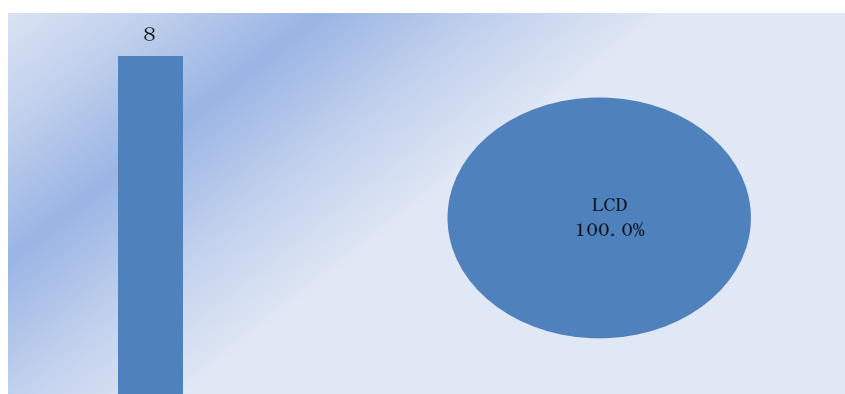
〈表115〉サムスン電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（シンガポール）



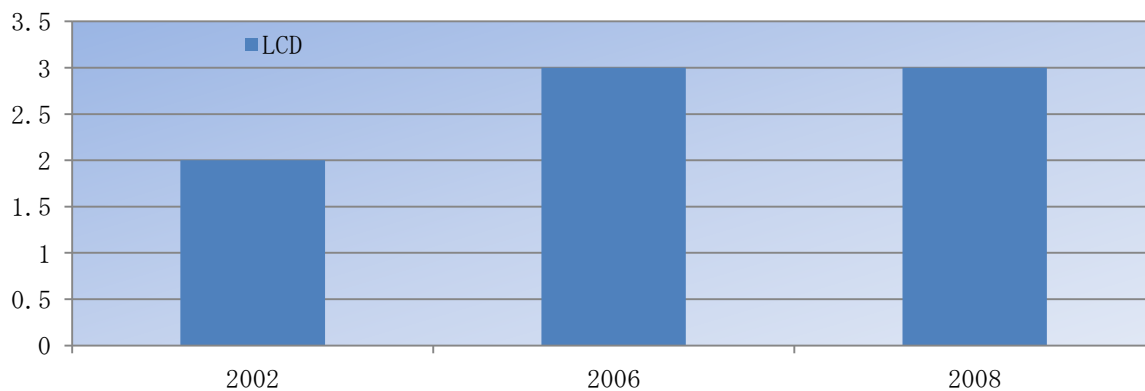
(5) ディスプレイ製品群の特許出願動向

LCDのみ出願しており、出願件数は2002年以後横ばい状態である。

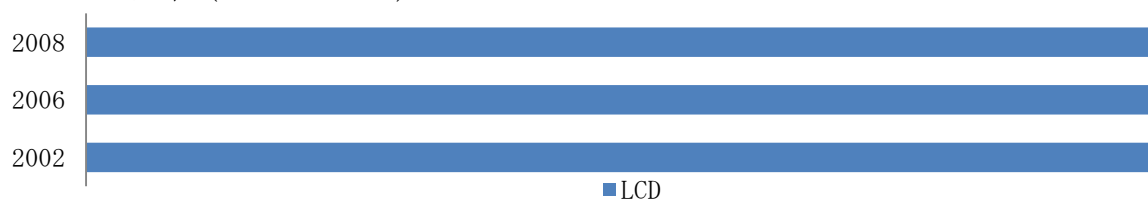
〈表116〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の累計出願件数（シンガポール）



〈表117〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（シンガポール）



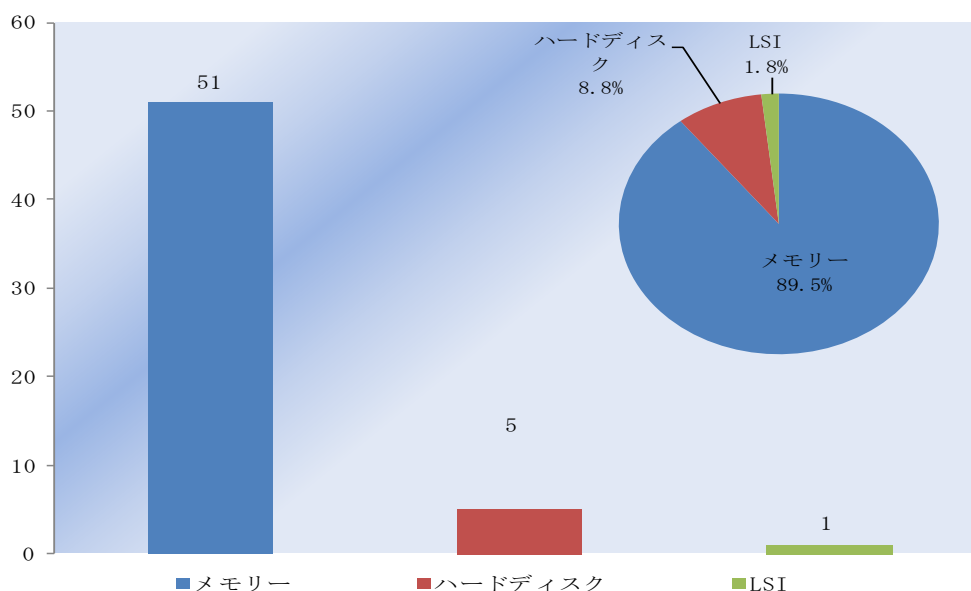
〈表118〉サムスン電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（シンガポール）



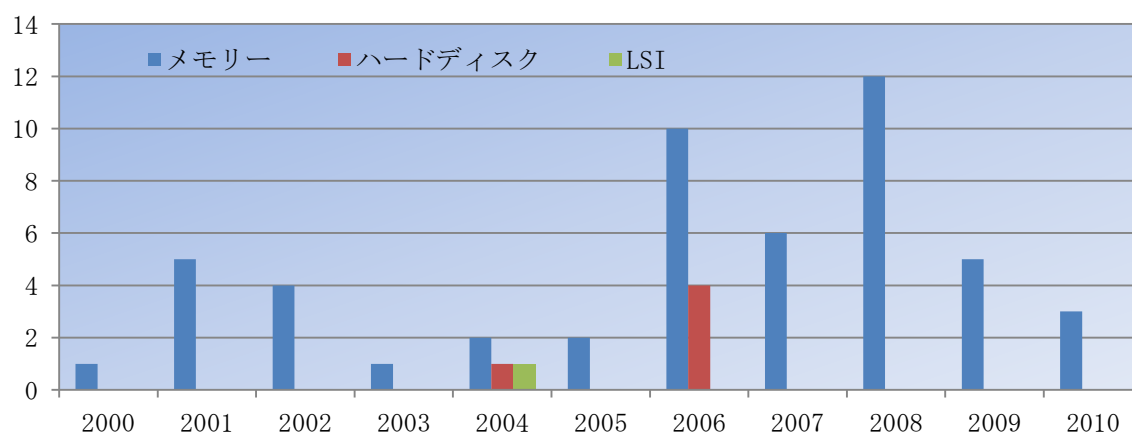
(6) 半導体製品群の特許出願動向

メモリーが約 9 割を占めているが、2008 年をピークに減少傾向である。ハードディスクは、2004 年と 2006 年の出願のみ。LSI は、2004 年に 1 件のみ出願されている。

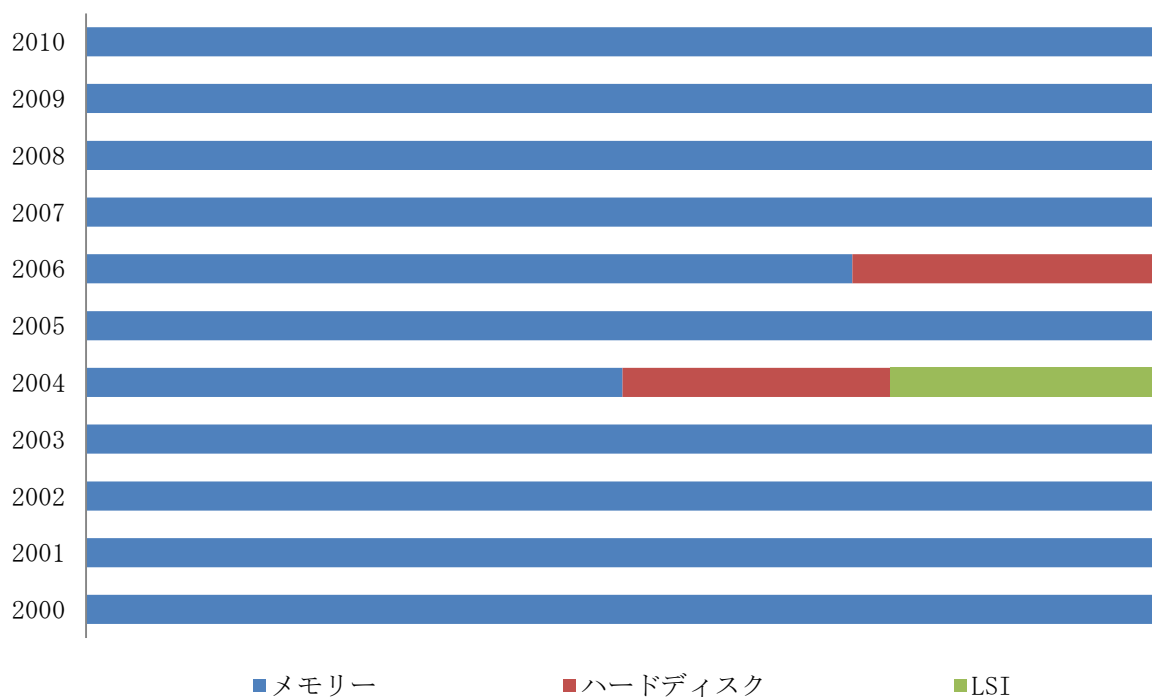
〈表119〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の累計出願件数（シンガポール）



〈表120〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（シンガポール）



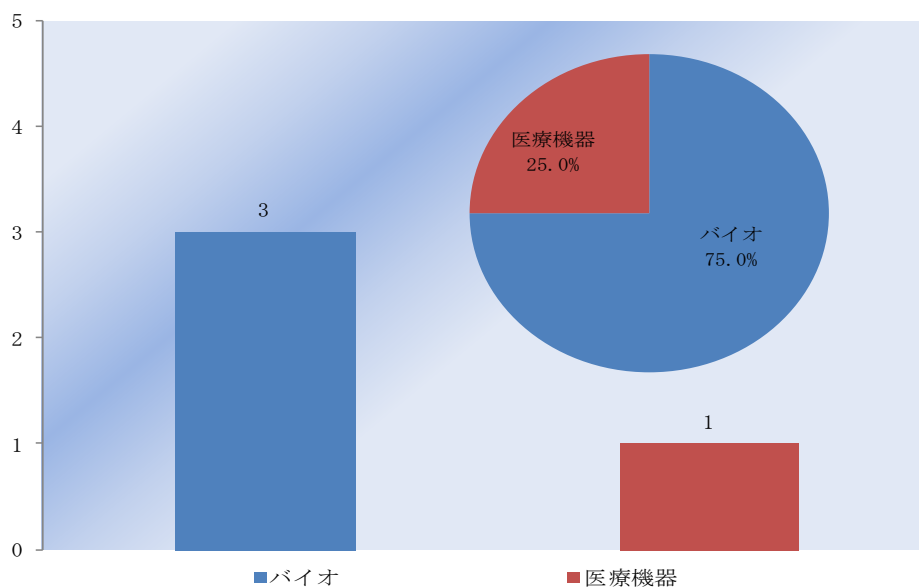
〈表121〉サムスン電子の半導体製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(シンガポール)



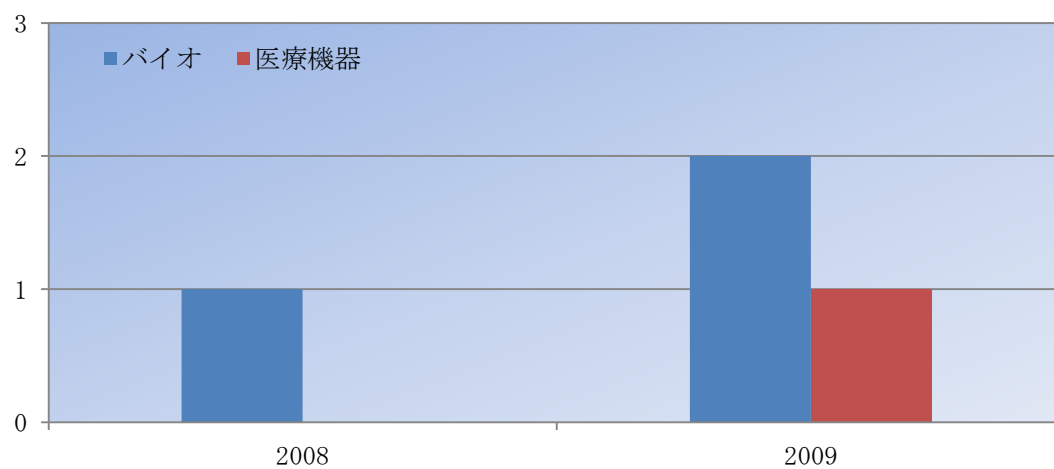
(7) その他製品群の特許出願動向

その他製品群においては、バイオの比率が非常に高い。2008年に特許出願件数が増加したがその後は減少している。医療機器は、2009年に1件のみ出願されている。

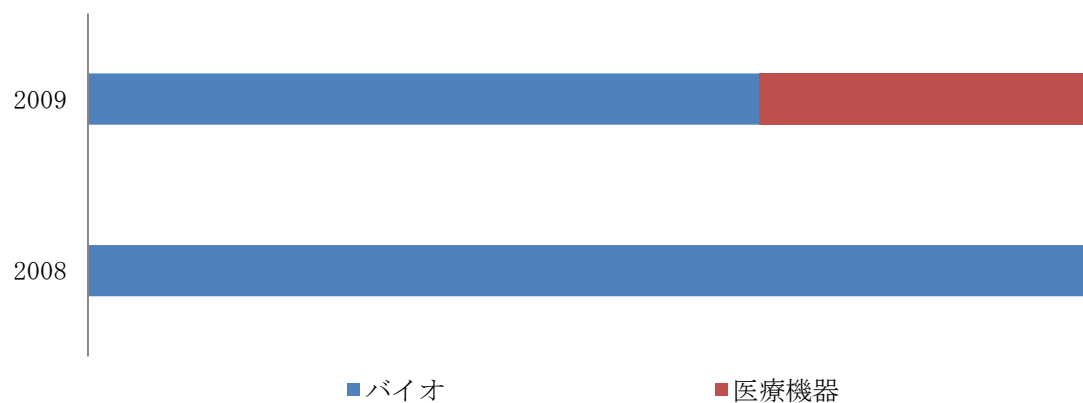
〈表122〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の累計出願件数
(シンガポール)



〈表123〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移
(シンガポール)



〈表124〉サムスン電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(シンガポール)



第2章 主要4ヶ国におけるデザイン（意匠）動向

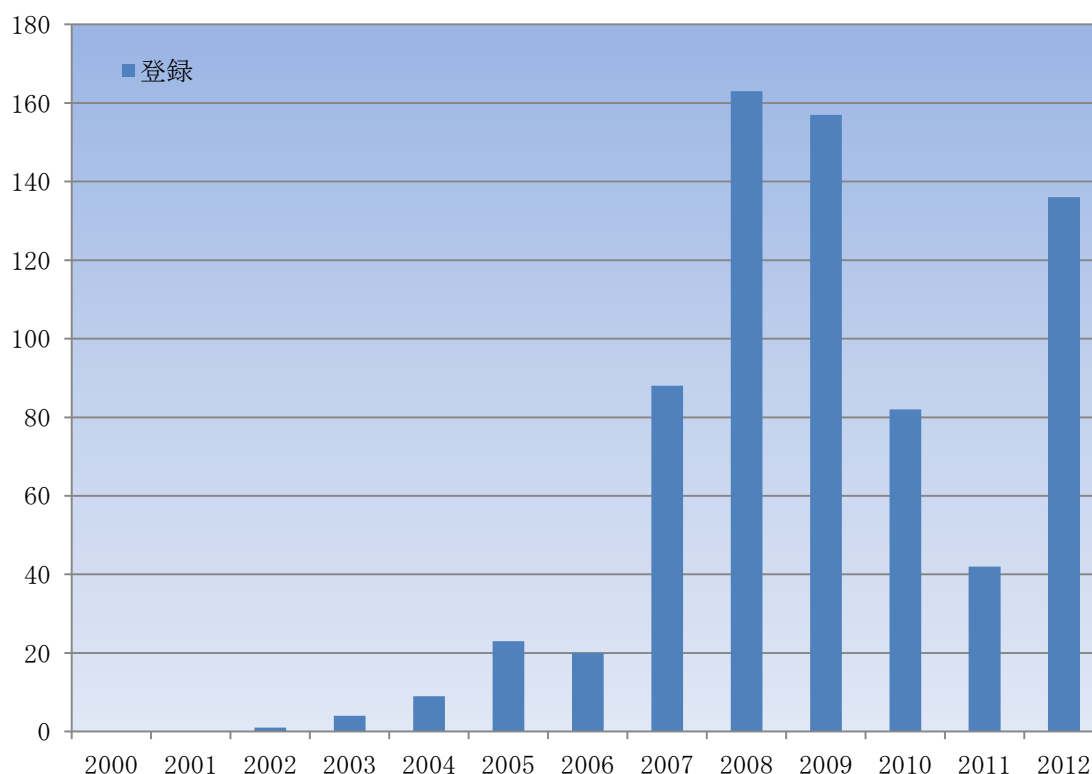
1. 概要

前回の「韓国企業の技術動向調査」において、主に韓国のデザイン登録動向について重点的に示し、国家別のデザイン登録状況については簡単に述べた。今回は主要4カ国（日本、米国、欧州、中国）について、各製品の登録動向および登録状況を調査し、示した。

1-1 サムスン電子の国家別デザイン登録動向<日本特許庁>

サムスン電子が日本特許庁にデザイン登録された件を年度別に表にすると以下のようになる。デザイン登録は2006年までは非常に少なかったが、2007年に急速に増加、さらに2008年をピークにいったん減少を見せるものの、2011年を底に急速に増加している。

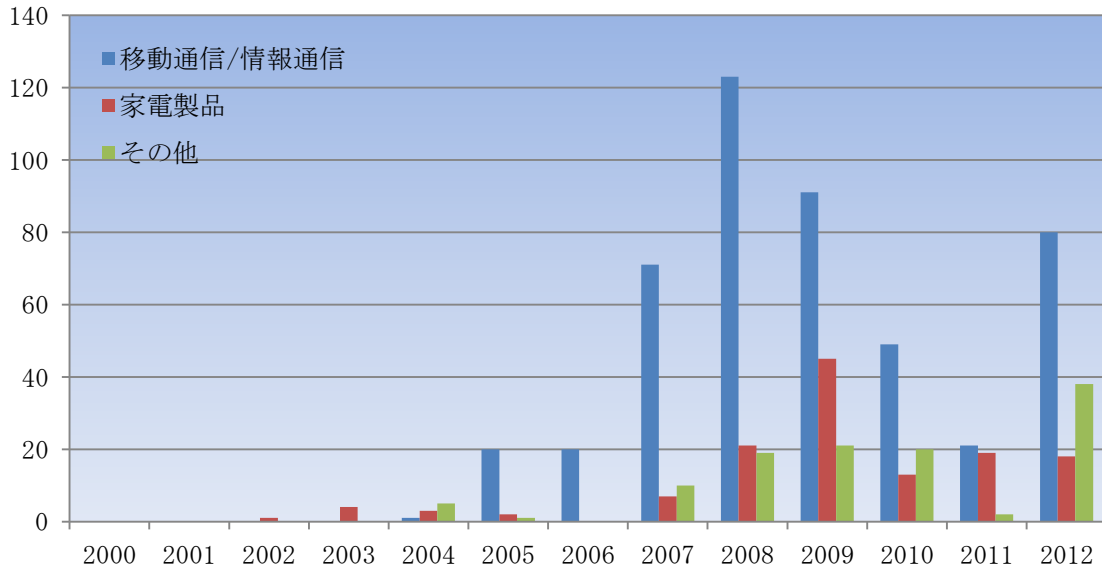
<表125>サムスン電子のデザイン登録件数(日本)



1-2 サムスン電子の製品群別デザイン登録動向<日本特許庁>

以下、分野別のデザイン登録動向を表に示す。

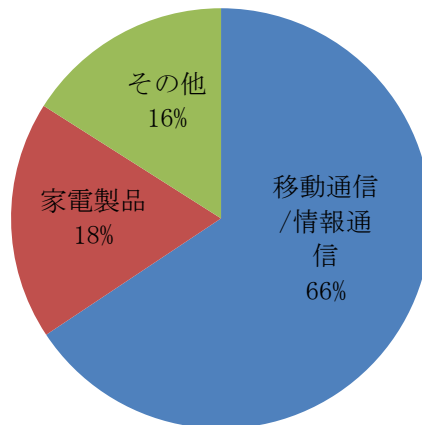
<表126> サムスン電子の製品群別による累計件数の比率の推移（日本）

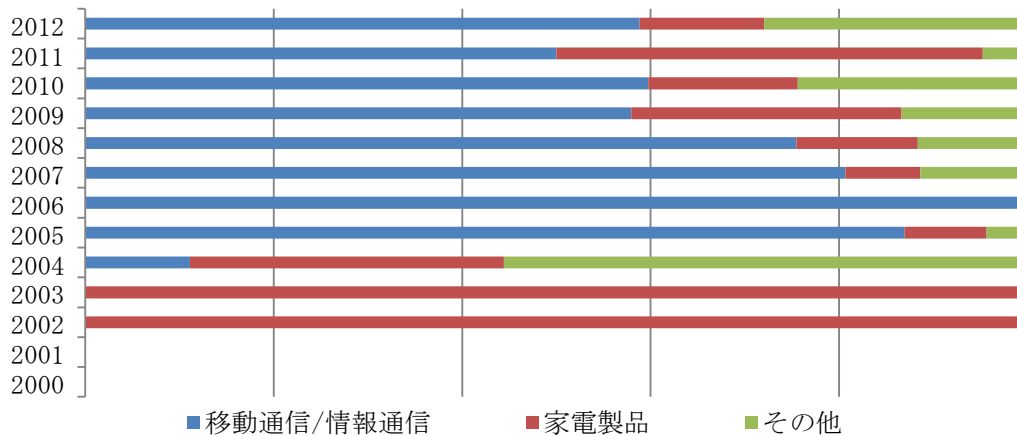


移動通信/情報通信分野は、2008年をピークに目立って変動が激しいが、家電製品やその他の分野についてもほぼ同様のことが言える。後述しているが、家電製品の累計件数を追い越した2012年のその他の分野においては、X線撮影機が割合を伸ばしている。

累計件数と全体に占める比率の推移は下の表に示す。累計の内訳では、移動通信/情報通信が66%、家電製品が18%、その他が16%となる。

<表127>製品群別による累計件数の内訳(上)とその比率の推移(下)（日本）

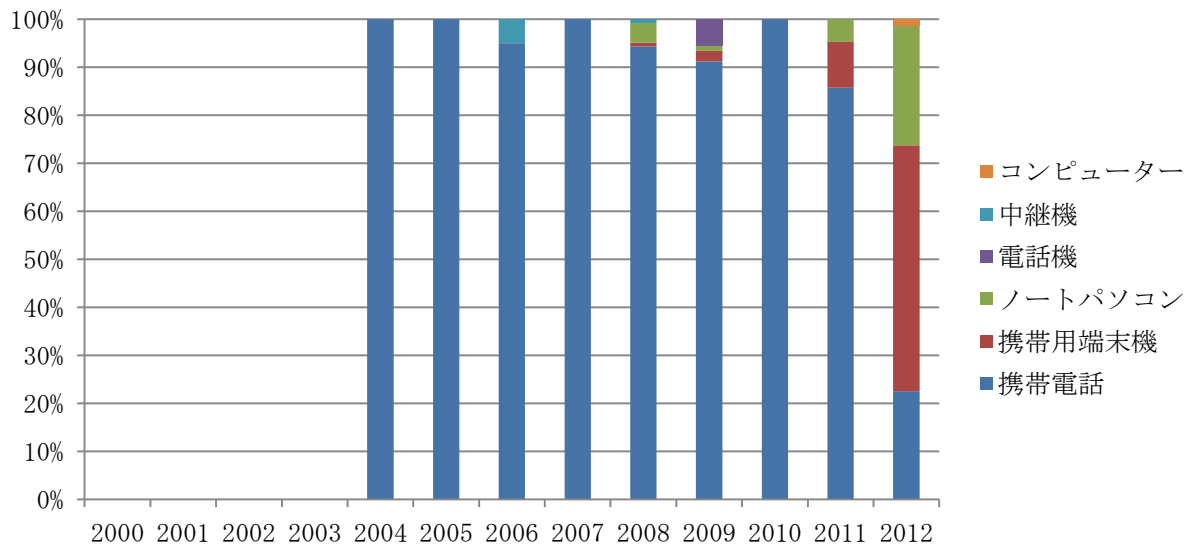




(1) 移動通信/情報通信のデザイン登録動向

下の表に移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移を示す。2012年に携帯用端末機が急激に増加している。また、2011年まで毎年携帯電話の比率が最も高かったが、2012年は減少。一方、ノートパソコンが2010年に一時期完全に底をついたが、2011年から復活し、2012年は携帯電話の登録件数を超えた。

〈表128〉 移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移 (日本)

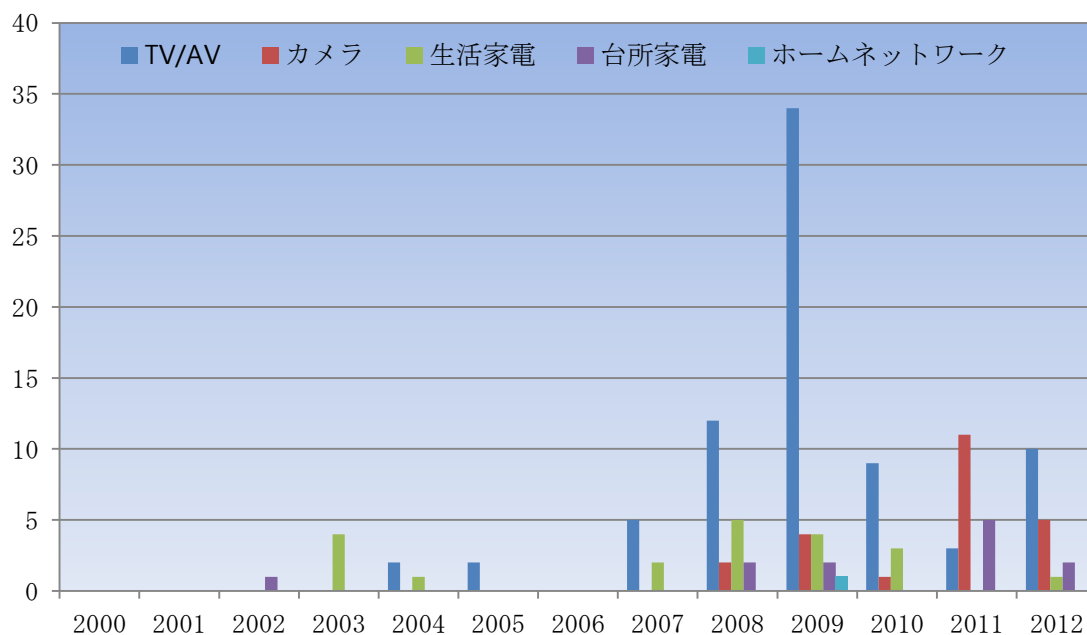


(2) 家電製品のデザイン登録動向

1) 全体の動向

家電製品では、TV/AVの出願が2009年にピークになったが、その後大幅に減少。2011年はカメラが登録件数を増やしたが、翌年は半分以上まで減少した。生活家電や台所家電にいたっては、近年登録件数の増減幅が非常に大きい。

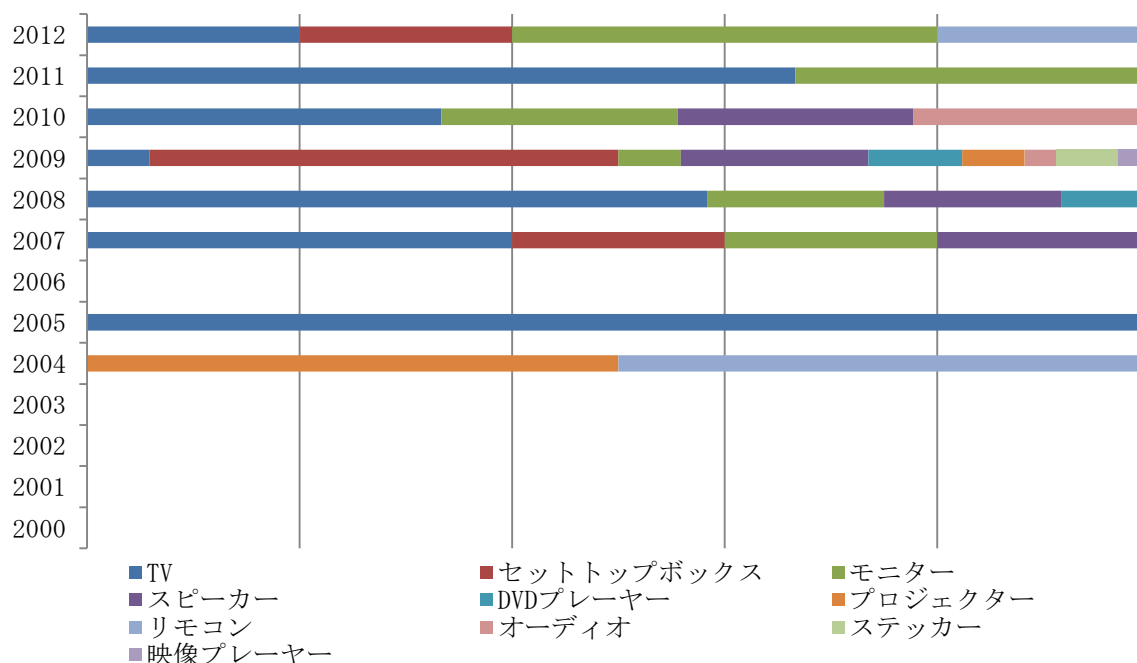
〈表129〉家電製品に属するデザイン登録動向（日本）



2) TV/AV の動向

TV/AV の全体の件数の推移は、上の表で既に示した。ここでは、TV/AV に属する各製品の年度別比率を示す。近年、その比率を伸ばしているものとしては、セットトップボックス、モニター、リモコンなどが挙げられる。

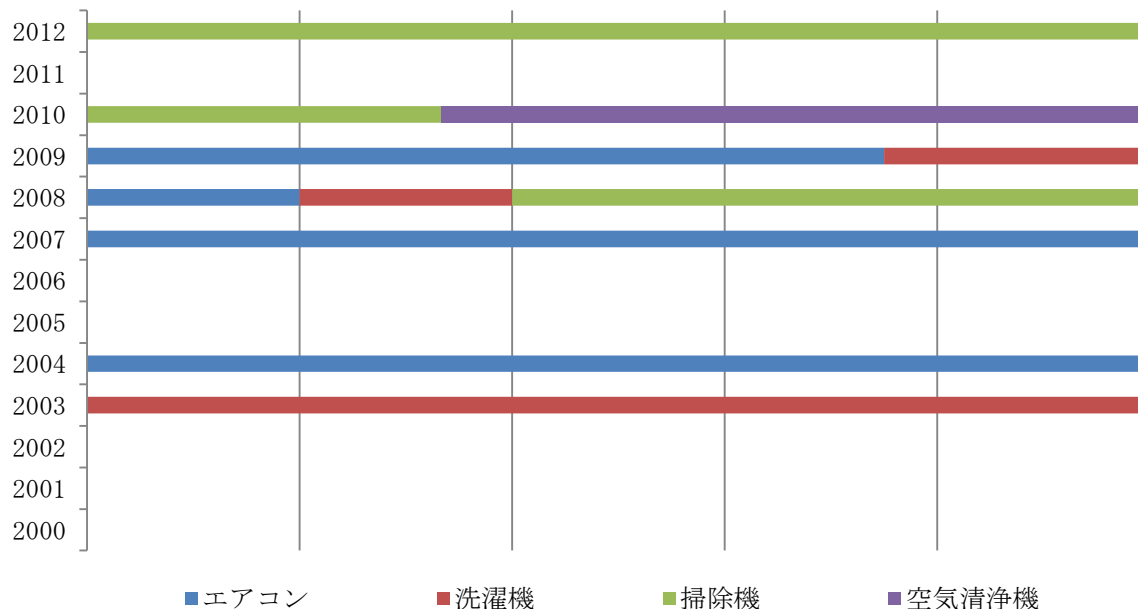
〈表130〉TV/AVに属する各製品の年度別比率（日本）



3) 生活家電の動向

生活家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。グラフを見ると分かるように、年々割合が非常に偏っている。近年は、掃除機の割合が最も多い。

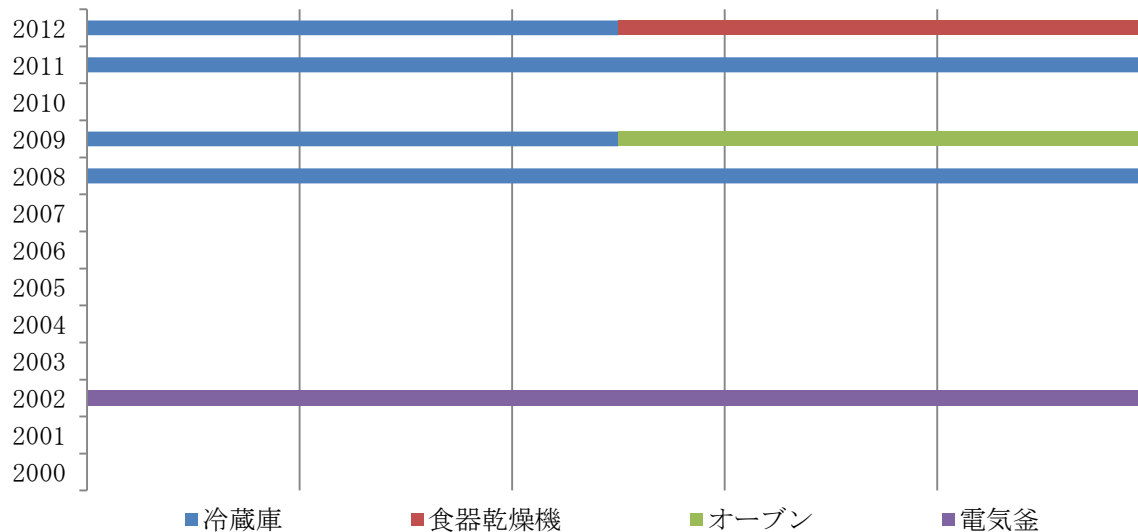
〈表131〉生活家電に属する各製品の年度別比率（日本）



4) 台所家電の動向

台所家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。年々、冷蔵庫の割合の変動が激しい。2012年は、冷蔵庫と食器乾燥機とで二分している。

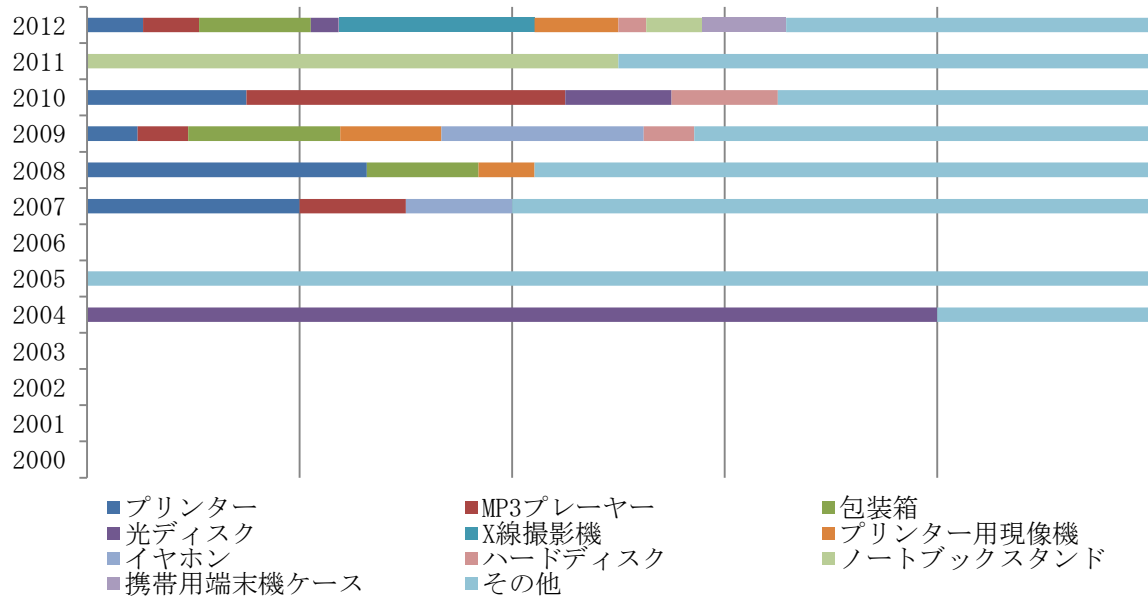
〈表132〉台所家電に属する各製品の年度別比率（日本）



(3) その他のデザイン登録動向

その他の全体件数の推移は上の表で示した。ここでは、その他に属する各製品の年度別比率を示す。近年伸びているものとしては、X線撮影機、包装箱、プリンター用現像機などが挙げられる。

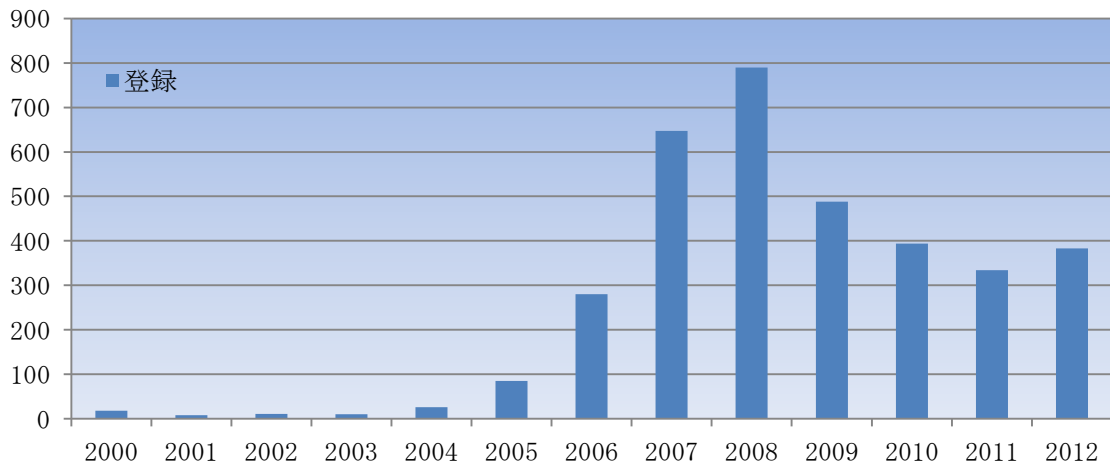
〈表133〉その他に属する各製品の年度別比率（日本）



2-1 サムスン電子の国家別デザイン登録動向〈米国特許庁〉

サムスン電子が米国特許庁にデザイン登録された件を年度別に表にすると以下のようになる。デザイン登録は2004年まで非常に少なかったが、アップルがiPhoneを発売した2007年から登録件数が上昇、2008年をピークに徐々に減少し、近年はほぼ横ばい状態が続いている。

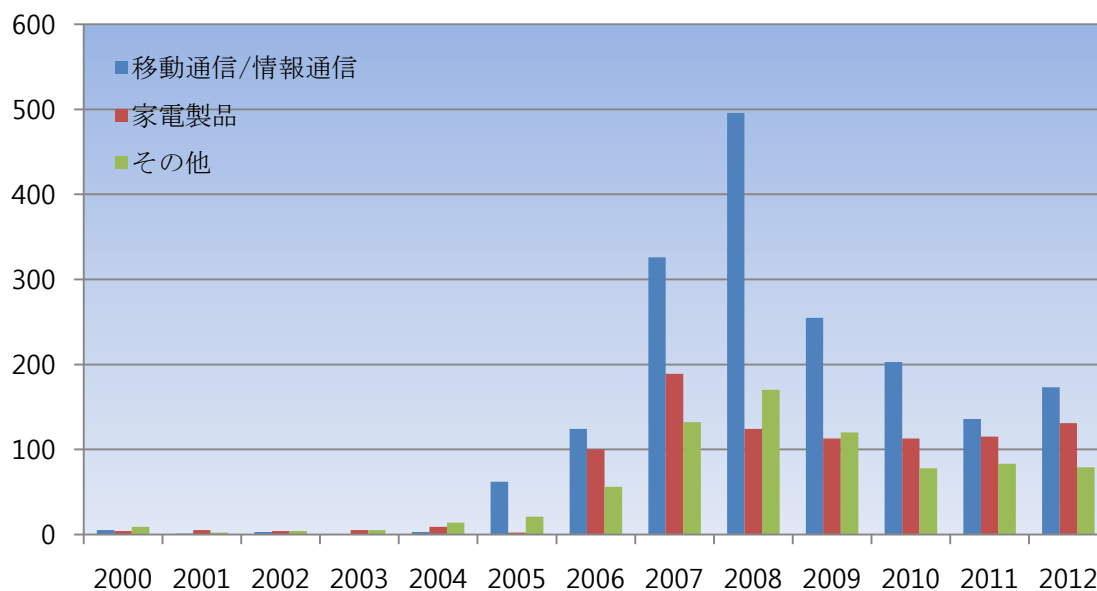
〈表134〉サムスン電子のデザイン登録件数(米国)



2-2 サムスン電子の製品群別デザイン登録動向<米国特許庁>

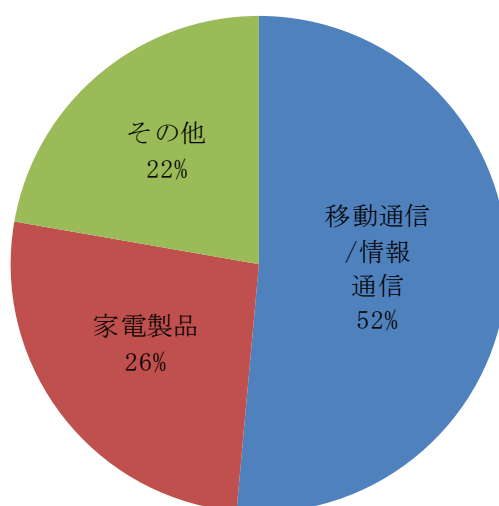
以下、分野別のデザイン登録動向を表に示す。

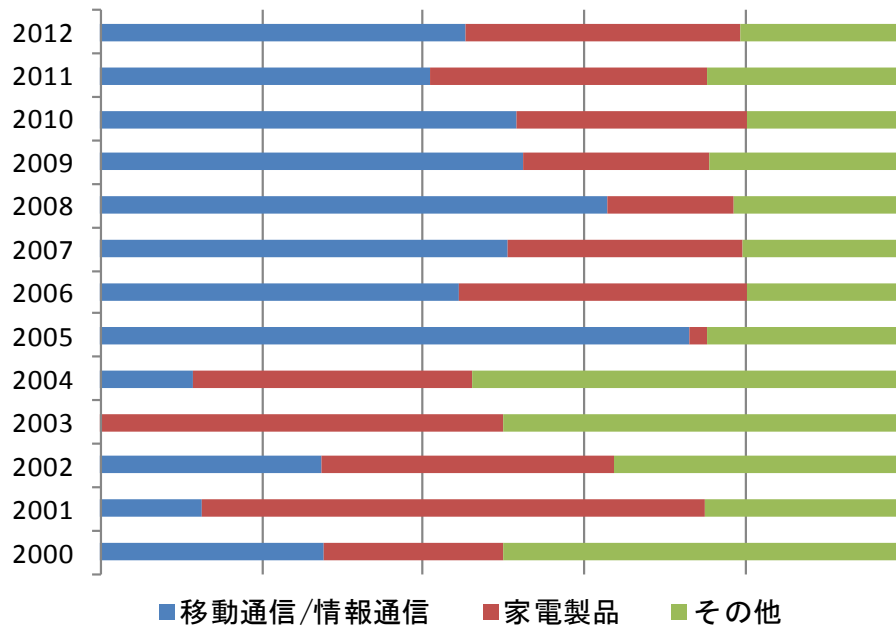
<表135> サムスン電子の製品群別による累計件数の比率の推移 (米国)



米国においては、家電製品分野よりも移動通信/情報通信分野の累計件数が多い。2008年をピークに減少傾向、家電製品分野は2007年以降横ばいの状態が続いている。累計件数と全体に占める比率の推移は下の表に示す。累計の内訳では、移動通信/情報通信が52%、家電製品が26%、その他が22%となる。

<表136>製品群別による累計件数の内訳(上)とその比率の推移(下) (米国)

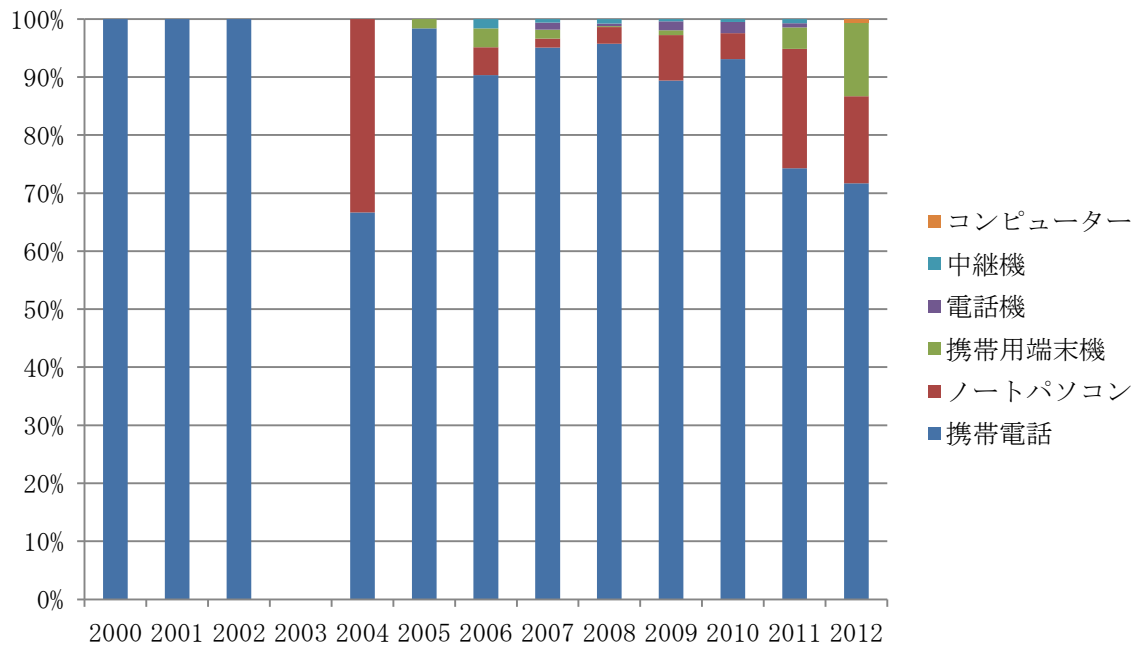




(1) 移動通信/情報通信のデザイン登録現況

下の表に移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移を示す。各国同様圧倒的に携帯電話の割合が高いが、2012年に携帯用端末機が急激に増加しており、近年、ノートパソコンが徐々に登録件数を上昇させている。

<表137> 移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移 (米国)

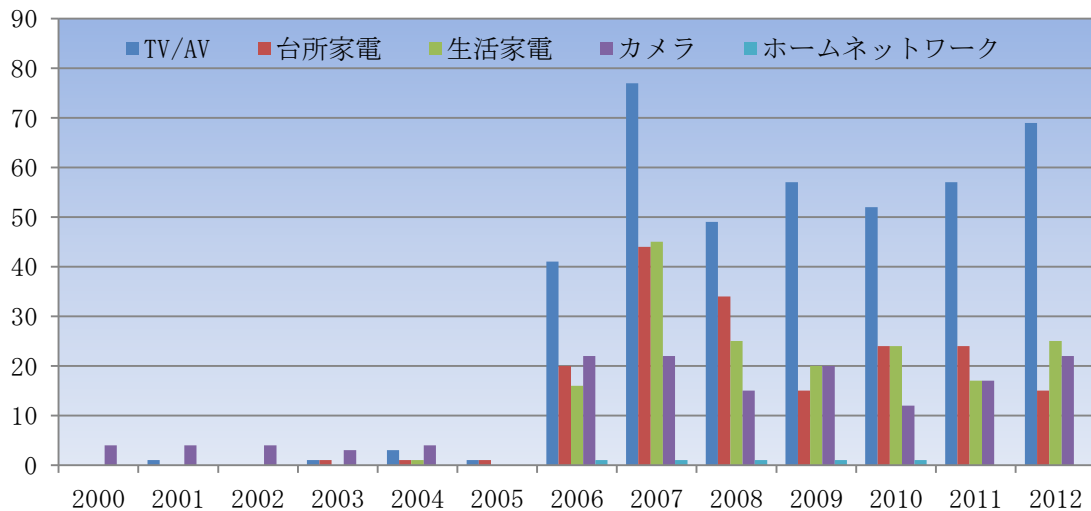


(2) 家電製品のデザイン登録動向

1) 全体の動向

家電製品では、台所家電と生活家電の減少が目立つ。TV/AVは、2007年にピークになったがその後減少、近年は緩やかに上昇している。

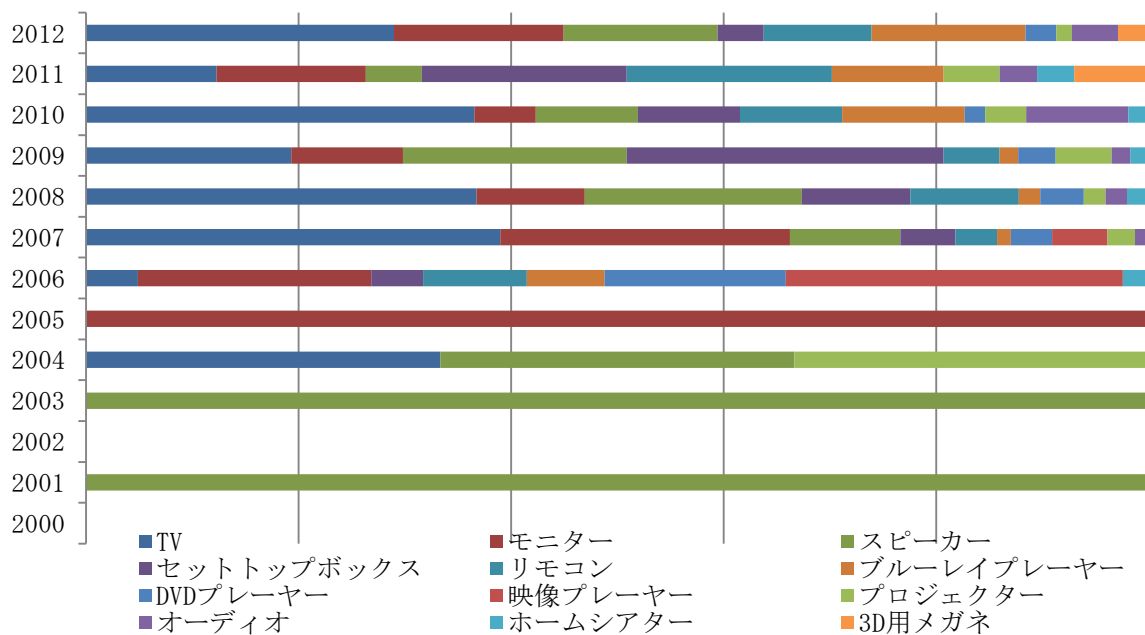
〈表138〉家電製品に属するデザイン登録動向（米国）



2) TV/AVの動向

ここでは、TV/AVに属する各製品の年度別比率を示す。近年、その比率を伸ばしているものとしては、TV、モニター、スピーカーなどが挙げられる。

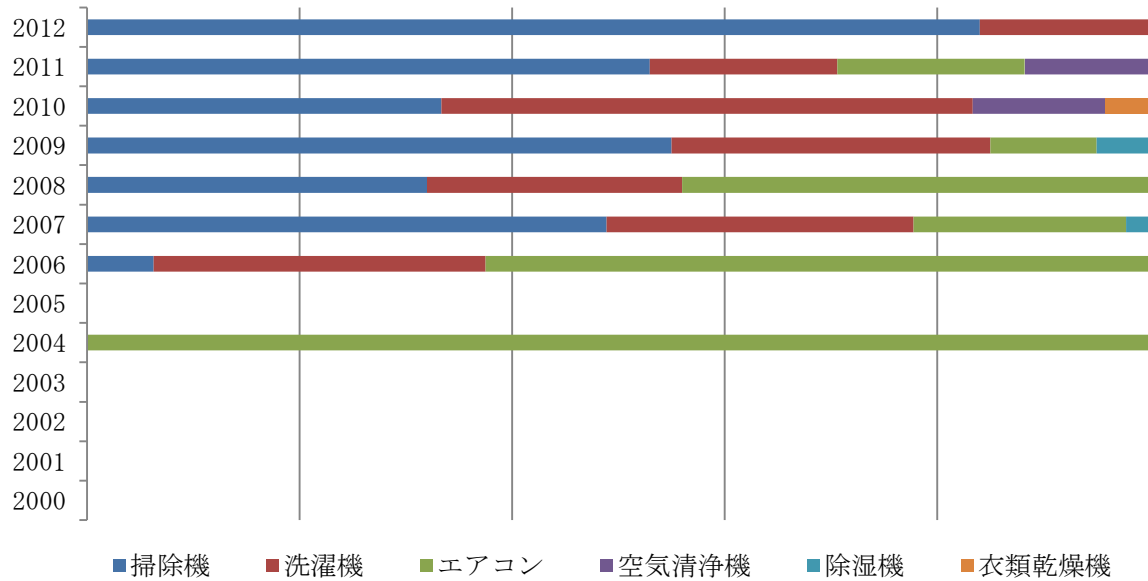
〈表139〉TV/AVに属する各製品の年度別比率（米国）



3) 生活家電の動向

生活家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。近年エアコンの割合の変動が大きく、日本同様、米国においても掃除機の割合が上昇している。

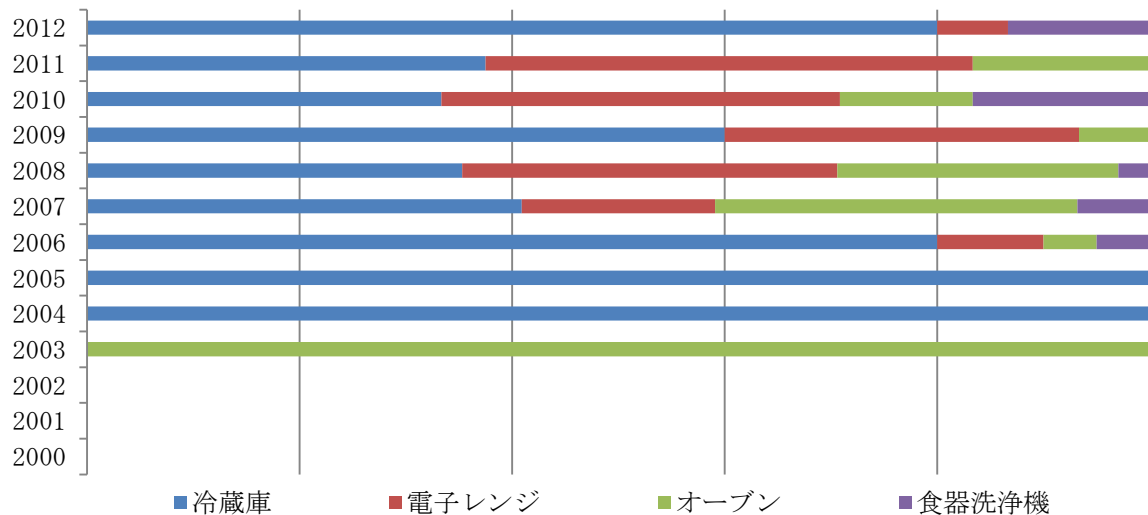
〈表140〉生活家電に属する各製品の年度別比率（米国）



4) 台所家電の動向

台所家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。冷蔵庫が一時期トーンダウンしたが、2012年に登録件数が前年の倍以上上昇し、電子レンジは急激に減少した。

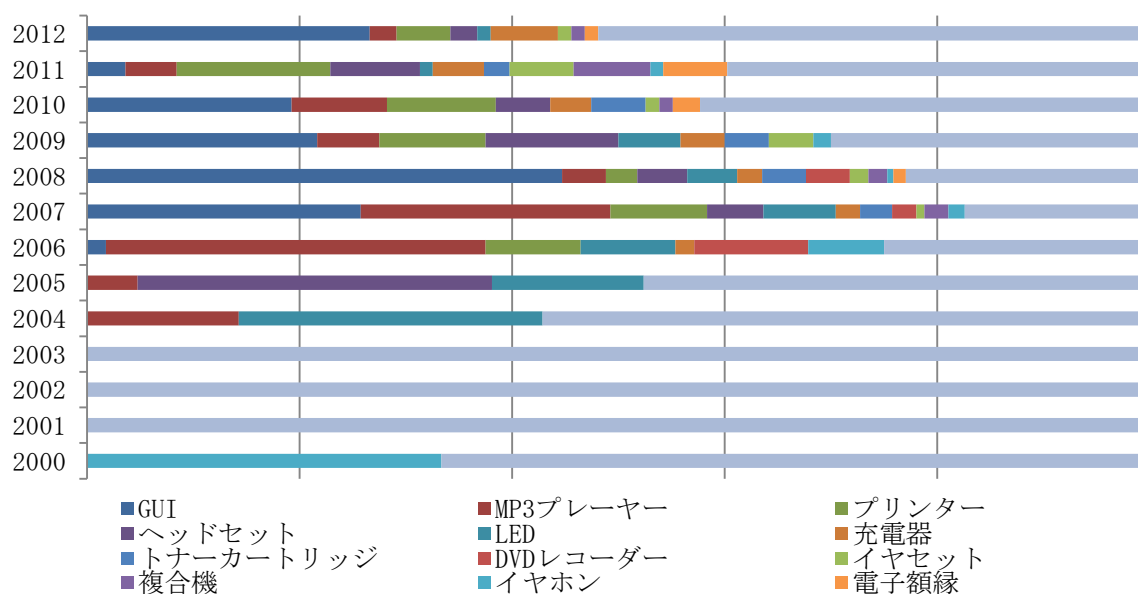
〈表141〉台所家電に属する各製品の年度別比率（米国）



(3) その他のデザイン登録動向

その他の全体件数の推移は上の表で示した。ここでは、その他に属する各製品の年度別比率を示す。近年伸びているものとしては、GUI が挙げられる。電子額縁はほぼ横ばい。2012 年のプリンターの登録件数は前年の半分以上減少した。

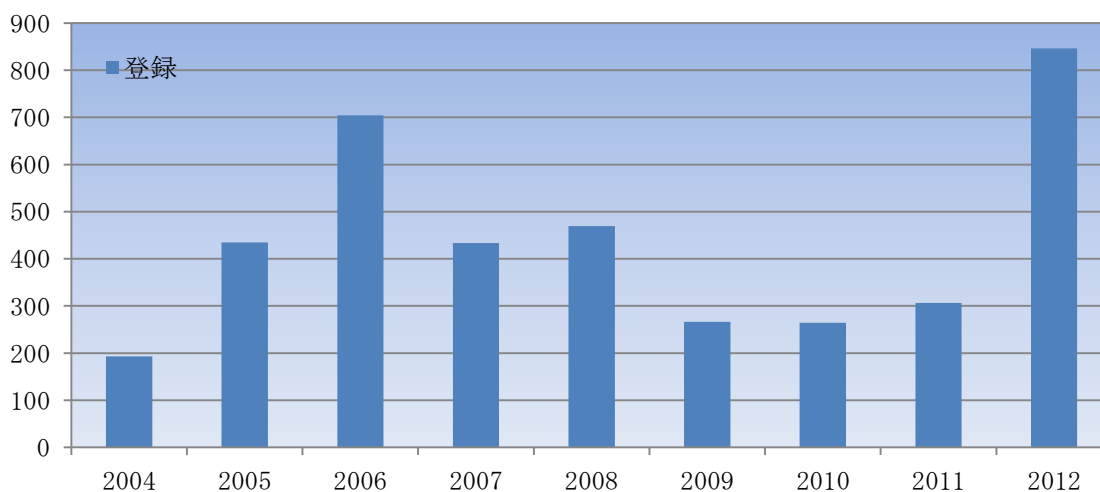
〈表142〉その他に属する各製品の年度別比率（米国）



3-1 サムスン電子の国家別デザイン登録動向<欧州特許庁>

サムスン電子が欧州特許庁にデザイン登録された件を年度別に表にすると以下のようになる。デザイン登録は 2006 年から徐々に下降しアップダウンがあるが、2012 年は前年の約 2.7 倍近く増加し、近年で最も登録件数が多い。

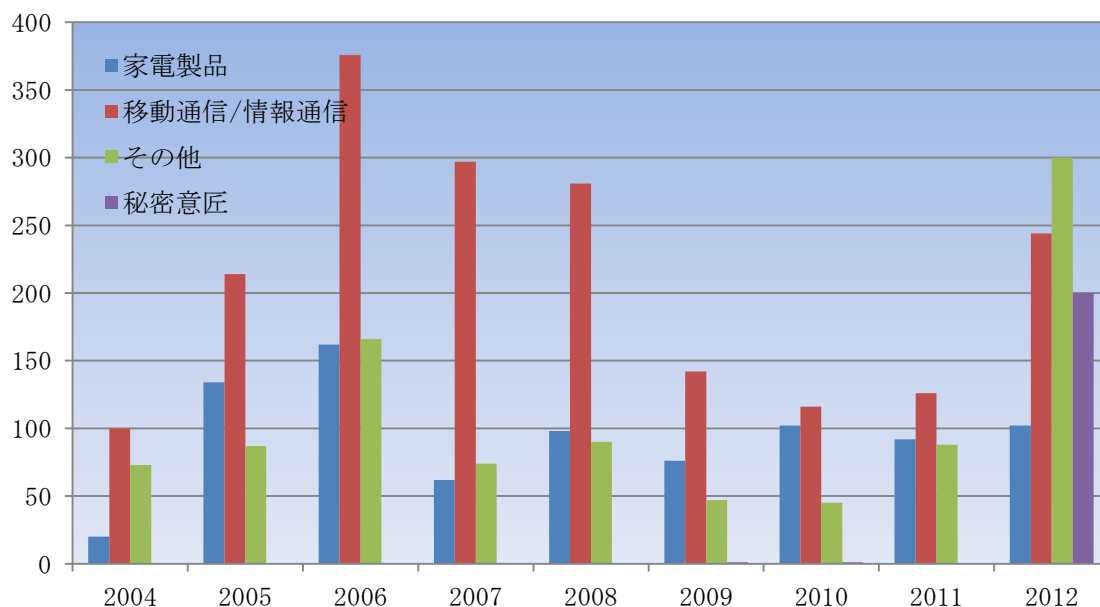
〈表143〉サムスン電子のデザイン登録件数(欧州)



3-2 サムスン電子の製品群別デザイン登録動向<欧州特許庁>

以下、分野別のデザイン登録動向を表に示す。

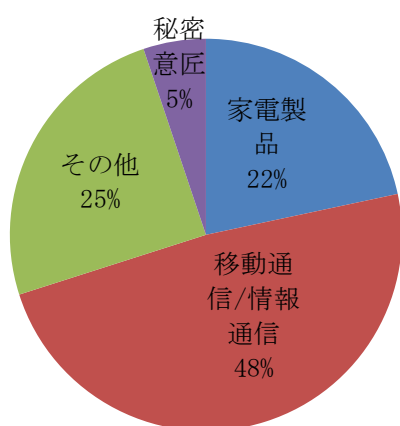
<表144> サムスン電子の製品群別による累計件数の比率の推移 (欧州)

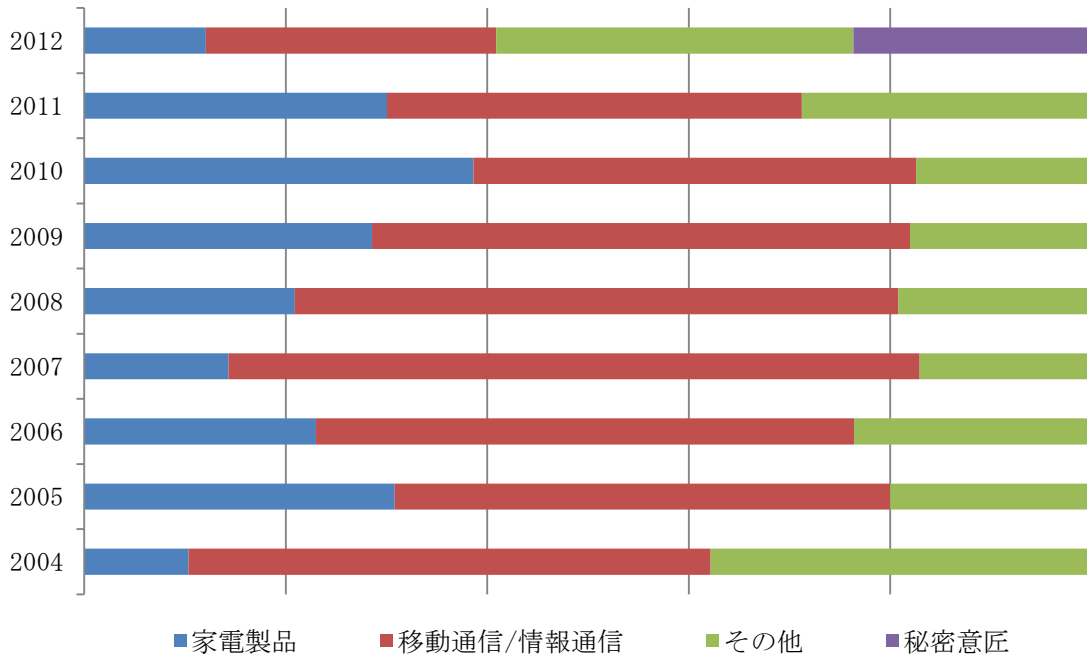


欧州においては、2006年に移動通信/情報通信分野がピークとなり、徐々に下降傾向に陥ったが、2012年は再び上昇。家電製品やその他の分野にいたっては、累計件数が少ない中アップダウンを繰り返している。

累計件数と全体に占める比率の推移は下の表に示す。累計の内訳では、移動通信/情報通信が48%、その他が26%、家電製品が22%、秘密意匠が5%となる。

<表145>製品群別による累計件数の内訳(上)とその比率の推移(下) (欧州)

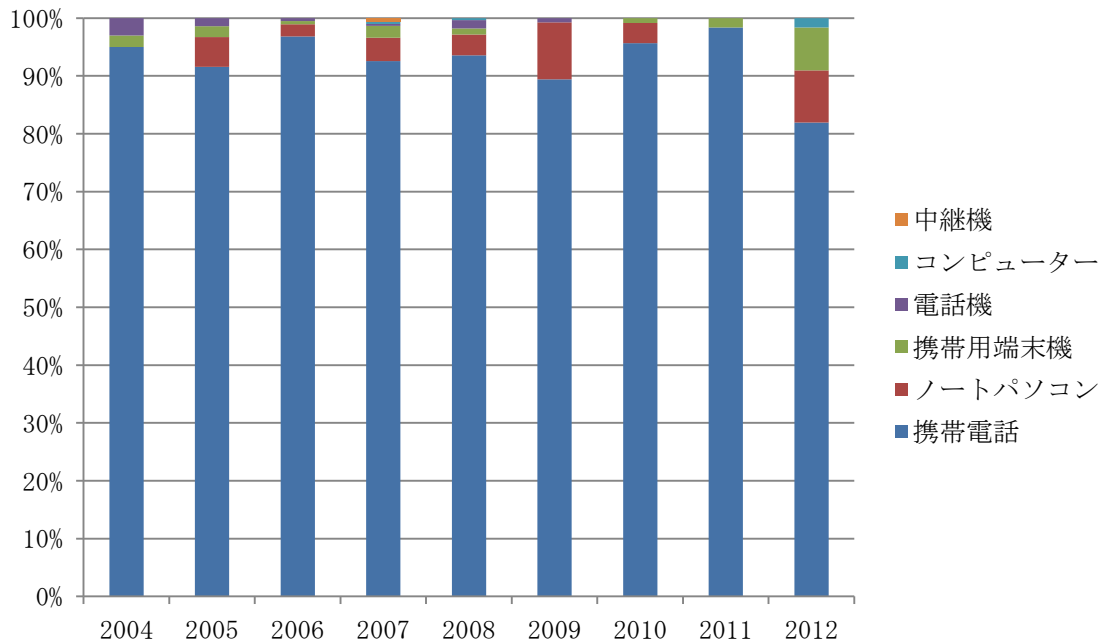




(1) 移動通信/情報通信のデザイン登録現況

下の表に移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移を示す。携帯電話の割合が最も高く、続いてノートパソコンと携帯用端末機が変動が有りながらも近年は登録件数を増やしている。

<表146> 移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移 (欧州)

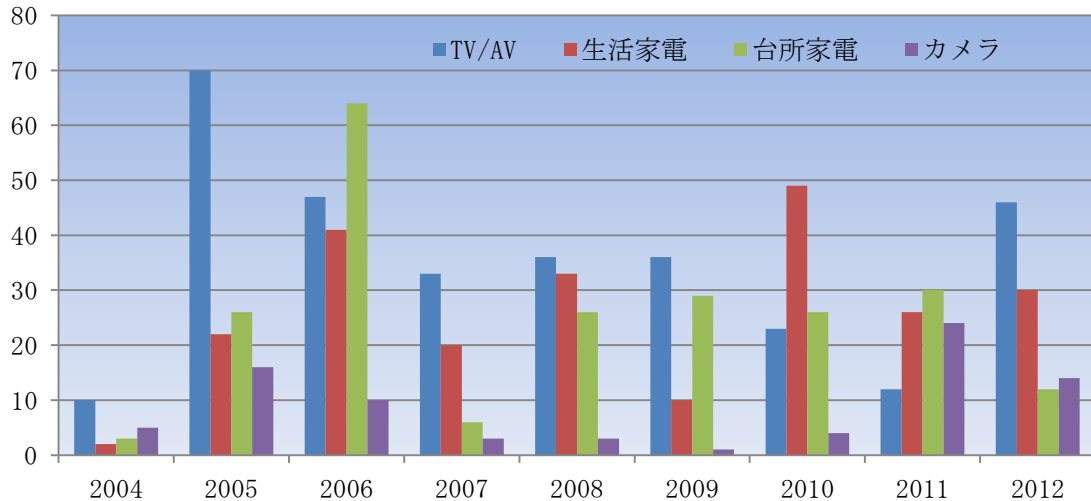


(2) 家電製品のデザイン登録動向

1) 全体の動向

家電製品では、各分野によってバラつきがあり、2012年はTV/AVが前年より急激に上昇、台所家電とカメラが大きく減少した。

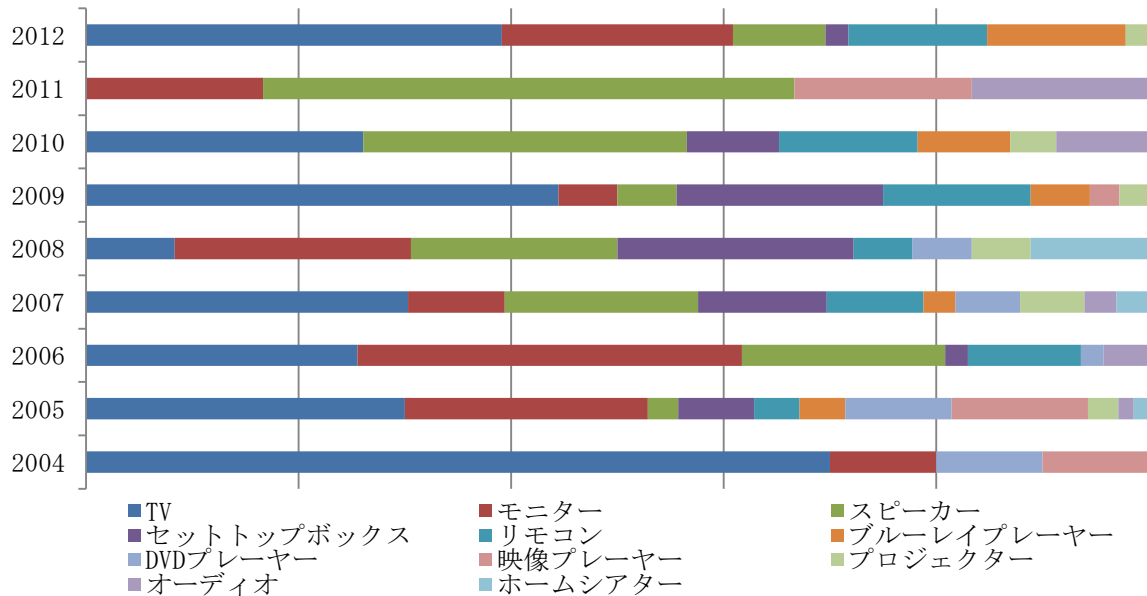
〈表147〉家電製品に属するデザイン登録動向（欧州）



2) TV/AVの動向

ここでは、TV/AVに属する各製品の年度別比率を示す。近年、その比率を伸ばしているものとしてはTV、モニター、リモコン。スピーカーは、2011年に急増したが2012年は急激に減少した。

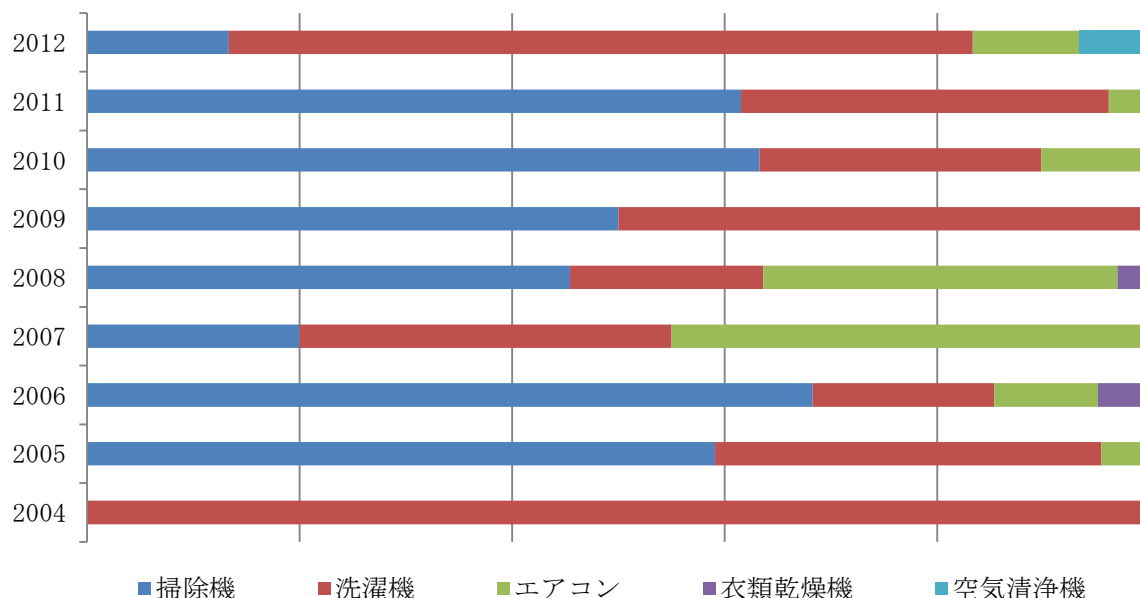
〈表148〉TV/AVに属する各製品の年度別比率（欧州）



3) 生活家電の動向

生活家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。近年 2011 年までは掃除機がトップであったが、2012 年は洗濯機が大幅に増加、空気清浄機は初めて登録された。

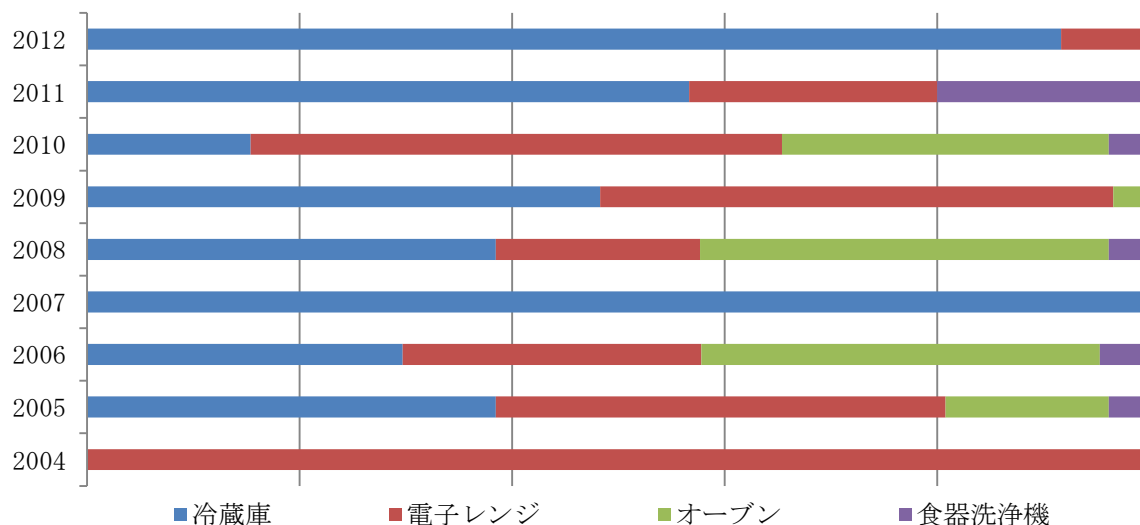
〈表149〉生活家電に属する各製品の年度別比率（欧州）



4) 台所家電の動向

台所家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。2010 年に冷蔵庫の割合が急激にトーンダウンしたが、2012 年は冷蔵庫の割合が最も多い。オーブン、食器洗浄器は年度別によって非常にバラつきがある。

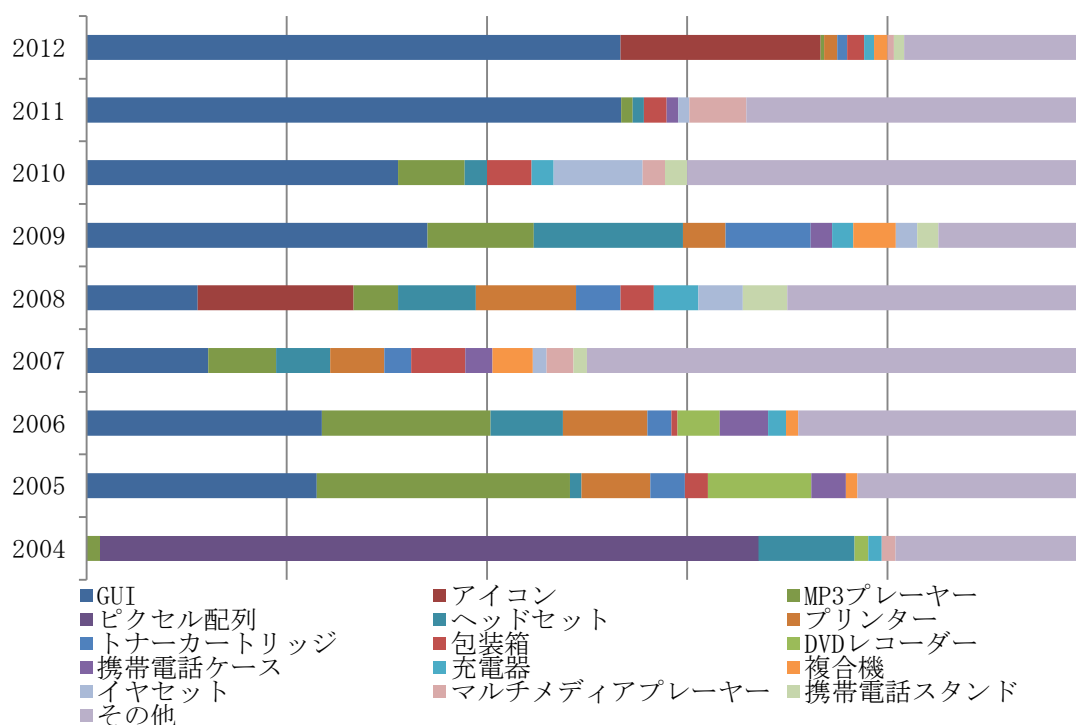
〈表150〉台所家電に属する各製品の年度別比率（欧州）



(3) その他のデザイン登録動向

その他の全体件数の推移は上の表で示した。ここでは、その他に属する各製品の年度別比率を示す。近年伸びているものとしては、米国同様 GUI が挙げられる。2012 年にアイコンの割合が急激に増加している。

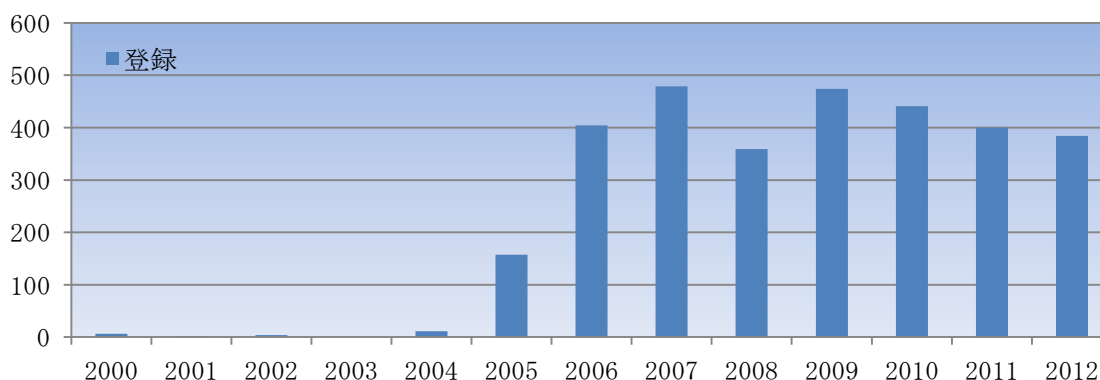
〈表151〉その他に属する各製品の年度別比率（欧州）



4-1 サムスン電子の国家別デザイン登録動向〈中国特許庁〉

サムスン電子が中国特許庁にデザイン登録された件を年度別に表にすると以下のようになる。デザイン登録は 2006 年に急激に増加。2008 年に一時 2008 年に減少したが、再び上昇。ここ最近では減少傾向である。

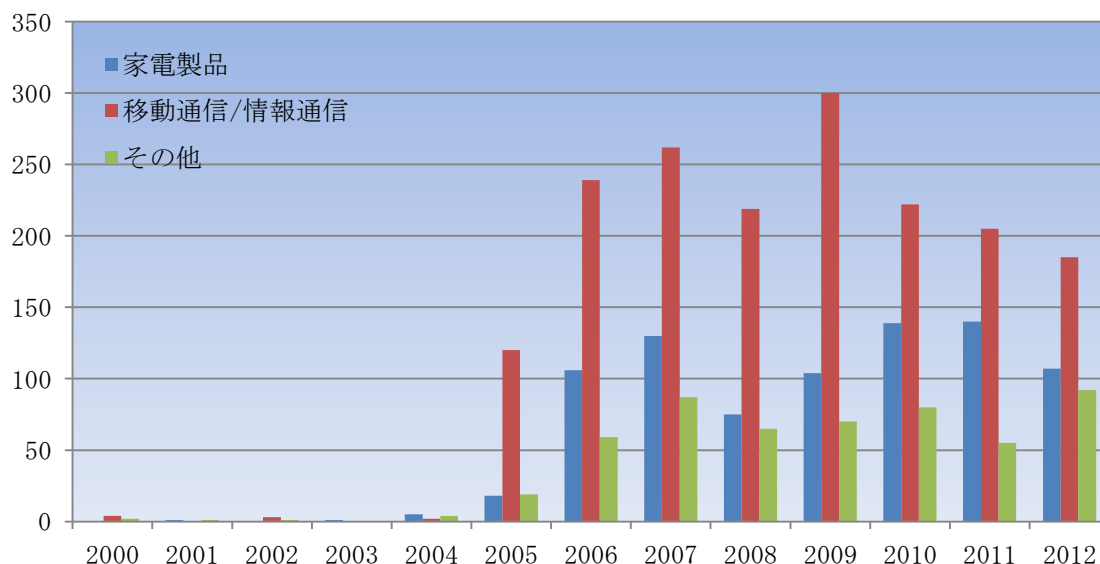
〈表152〉サムスン電子のデザイン登録件数(中国)



4-2 サムスン電子の製品群別デザイン登録動向<中国特許庁>

以下、分野別のデザイン登録動向を表に示す。

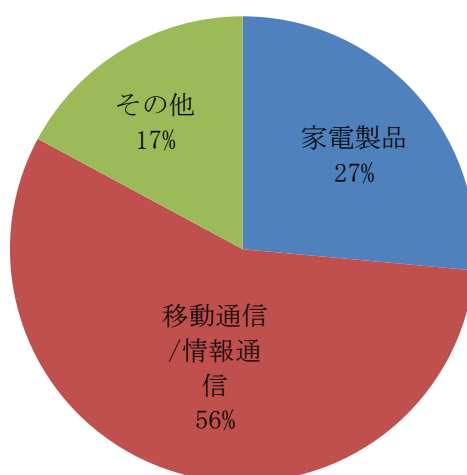
<表153> サムスン電子の製品群別による累計件数の比率の推移 (中国)

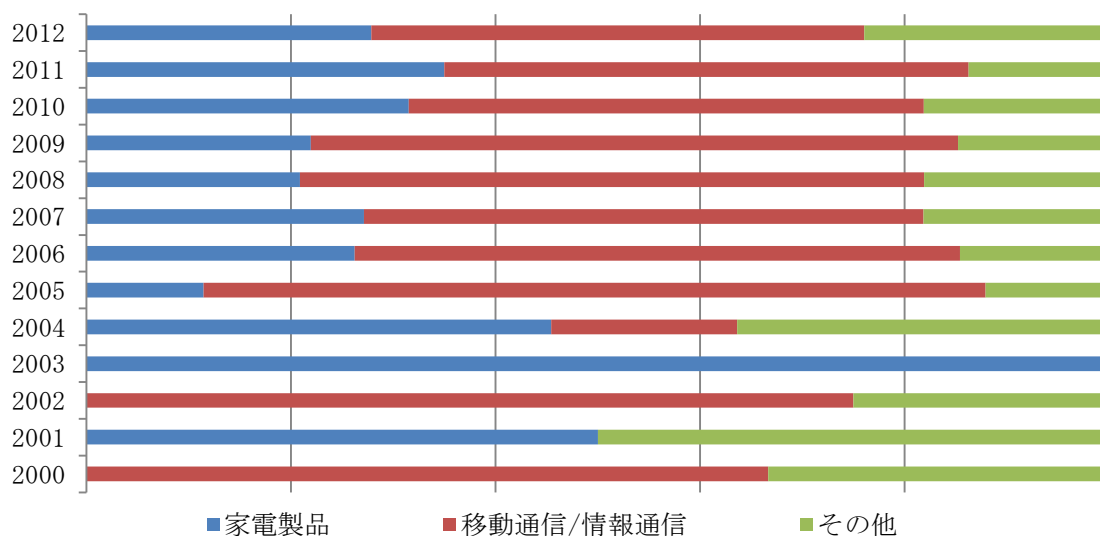


中国においては、2004年まで全分野同様に横ばい状態が続いたが、2005年になって移動通信/情報通信分野が急激に増加、近年は2009年をピークに減少傾向である。家電製品/その他の分野は2007年以降アップダウン状態が続いている。

累計件数と全体に占める比率の推移は下の表に示す。累計の内訳では、移動通信/情報通信が56%、家電製品が27%、その他が17%となる。

<表154>製品群別による累計件数の内訳(上)とその比率の推移(下) (中国)

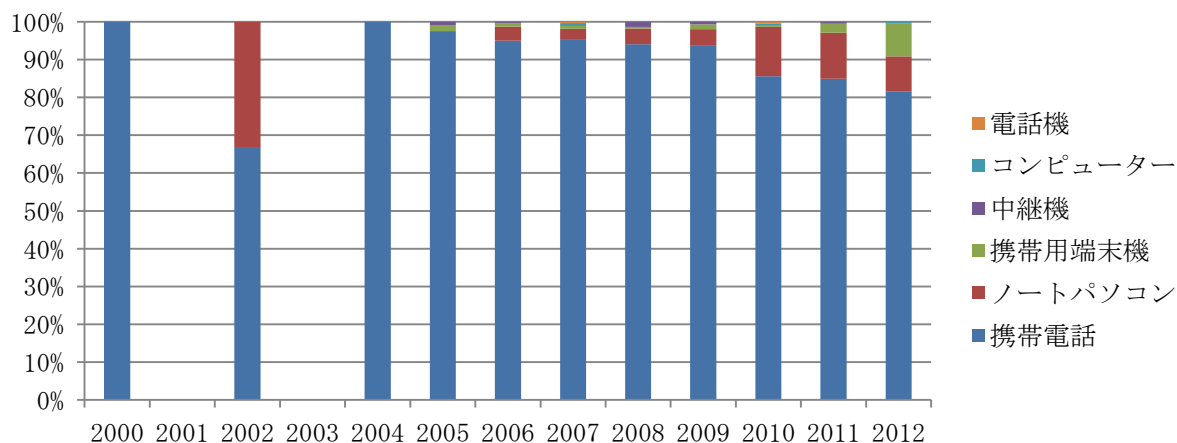




(1) 移動通信/情報通信のデザイン登録現況

下の表に移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移を示す。近年携帯電話の割合が小幅ながら減少傾向である。これは、中国の携帯電話会社の急成長が多いに関係していると推察できる。続いてノートパソコンと携帯用端末機が近年は登録件数を増やしている。

〈表 155〉 移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移（中国）

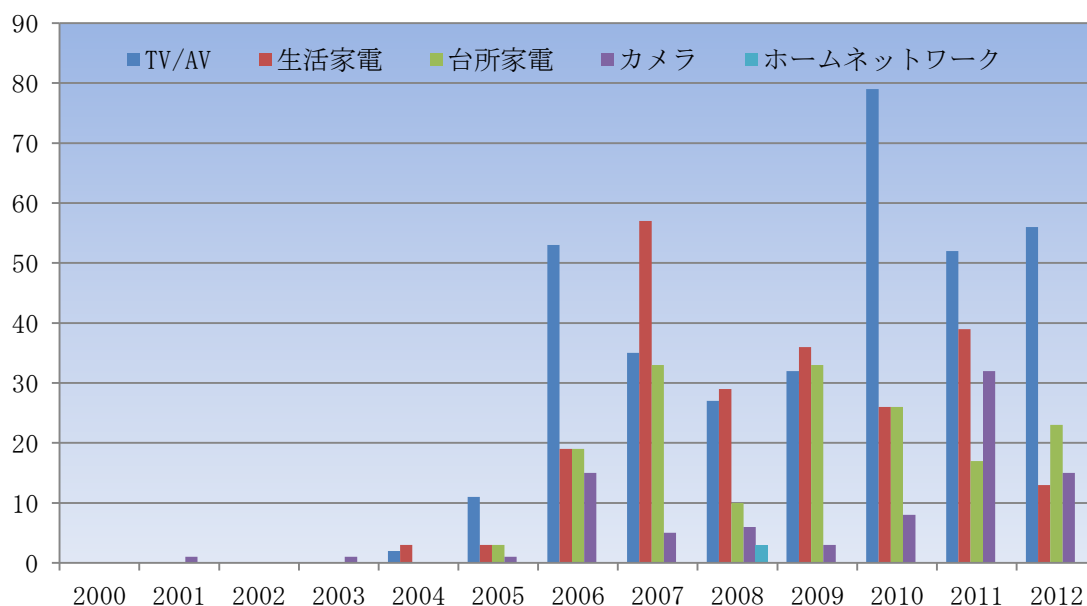


(2) 家電製品のデザイン登録動向

1) 全体の動向

家電製品では、各分野大きくバラつきがあり、TV/AVは2010年をピークに減少。生活家電、カメラとも2012年に大幅に減少、台所家電は2009年より減少傾向であったが2012年は若干増加した。

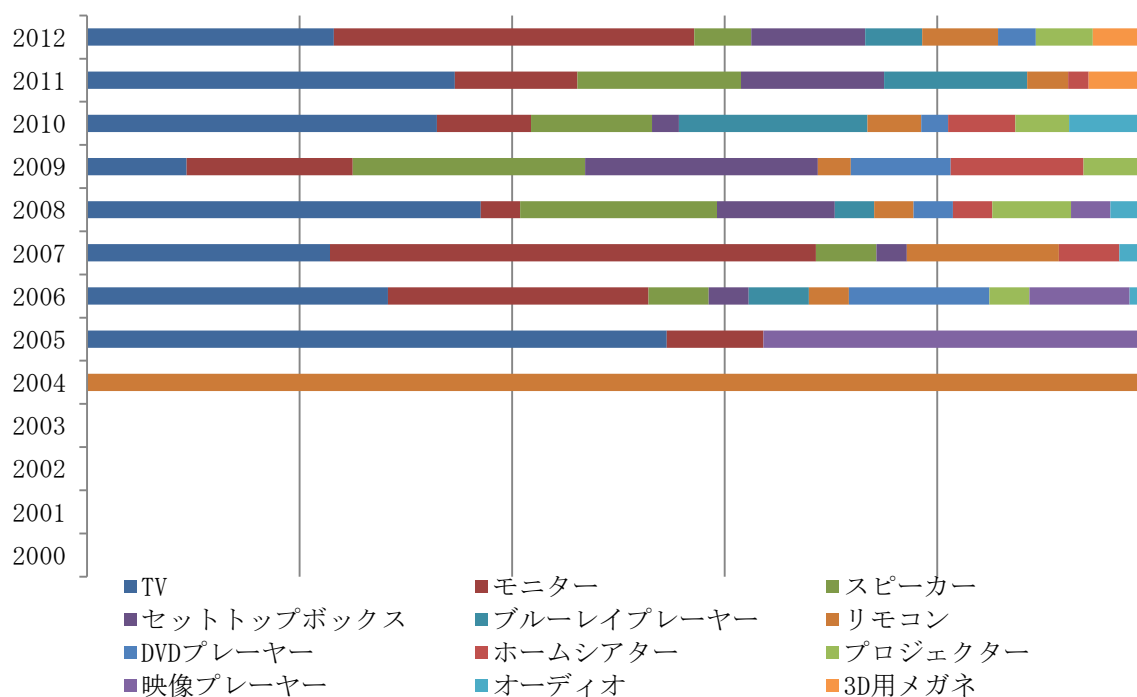
〈表156〉家電製品に属するデザイン登録動向（中国）



2) TV/AV の動向

ここでは、TV/AV に属する各製品の年度別比率を示す。モニターの割合が近年減少していたが、2012年に急激に増加。TV、スピーカー、ブルーレイプレーヤーは減少している。

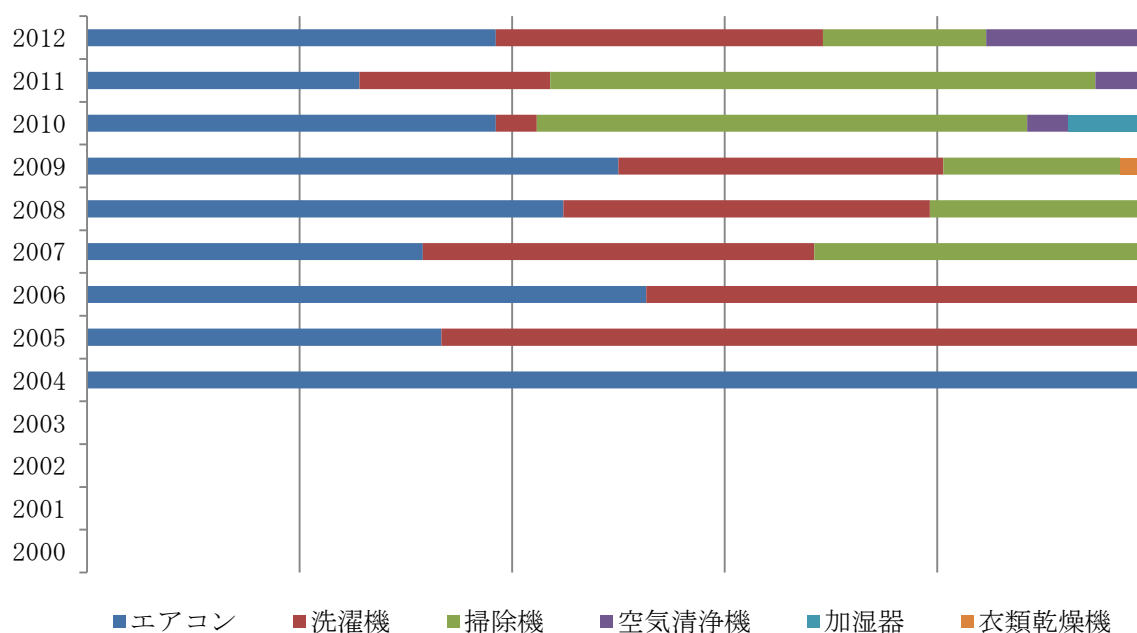
〈表157〉TV/AVに属する各製品の年度別比率（中国）



3) 生活家電の動向

生活家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。近年掃除機の割合が多かったが、2012年は減少し、洗濯機が大幅に増加。微粒子状物質「PM2.5」による大気汚染が深刻化したためか空気清浄機の割合が増加した。

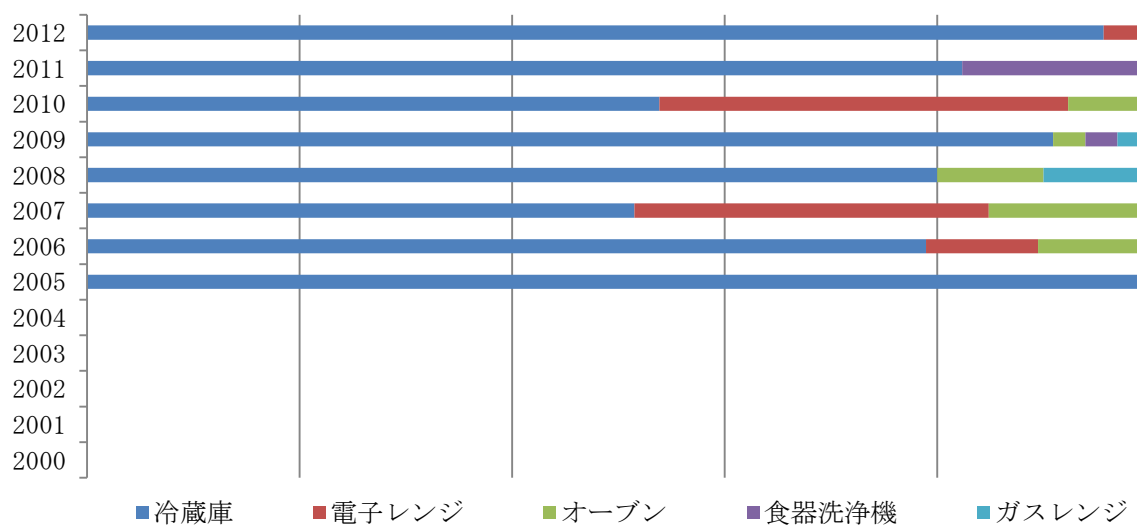
〈表158〉生活家電に属する各製品の年度別比率（中国）



4) 台所家電の動向

台所家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。2010年に冷蔵庫の割合が減少しましたが、その後は増加傾向。オーブンは2011年以降登録がない。

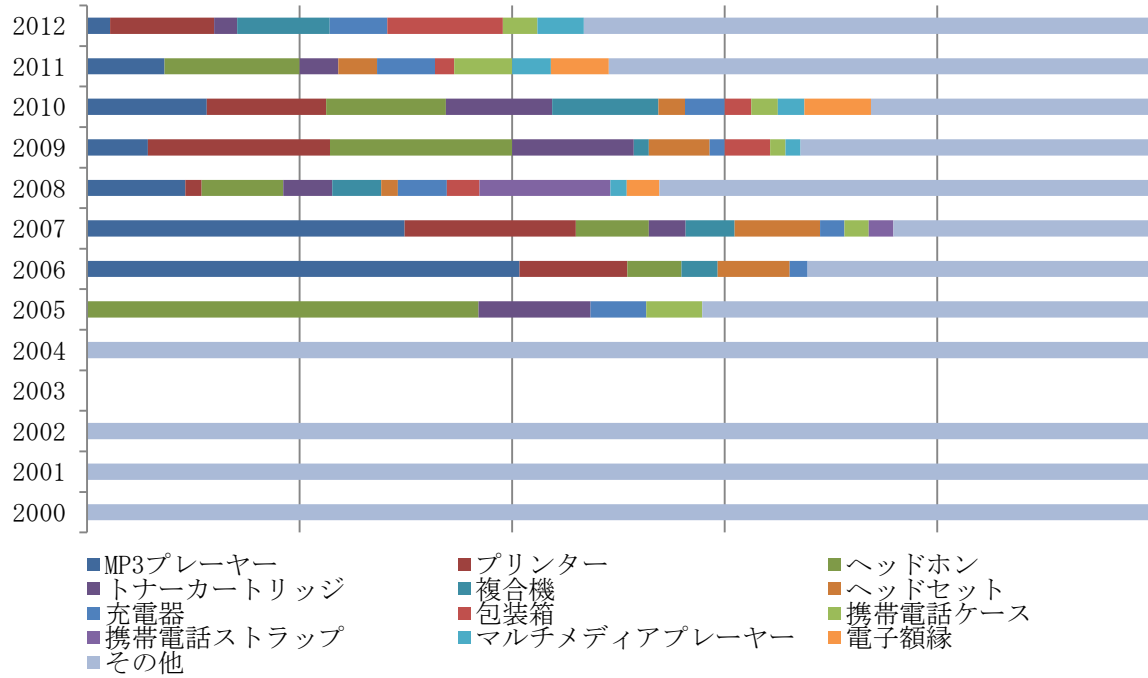
〈表159〉台所家電に属する各製品の年度別比率（中国）



(3) その他のデザイン登録動向

その他の全体件数の推移は上の表で示した。ここでは、その他に属する各製品の年度別比率を示す。近年 MP3 プレーヤーは減少。包装箱が 2012 年に急激に増加、プリンター、複合機も再び増加している。

〈表160〉その他に属する各製品の年度別比率（中国）



第3編 LG電子

第1章 新興国7ヶ国における特許動向

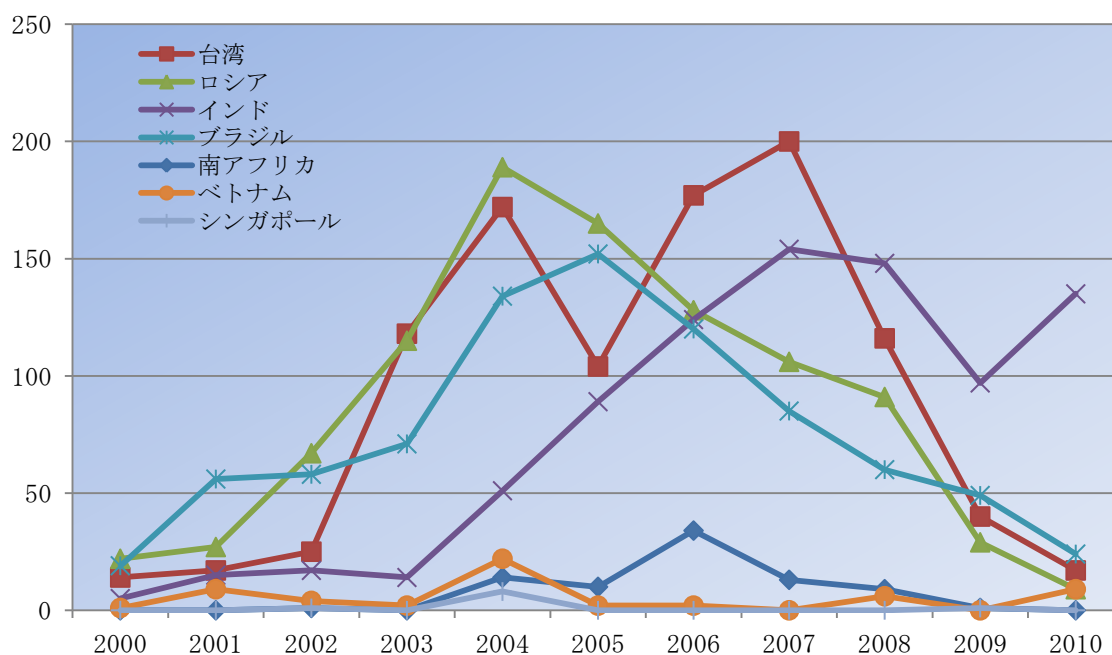
1. 概要

LG 電子による新興国7ヶ国（台湾、インド、南アフリカ共和国、ブラジル、ロシア、ベトナム、シンガポール）に対する特許動向において、各製品別に出願動向および出願状況を調査し、示した。

1-1 新興国7ヶ国別特許出願動向

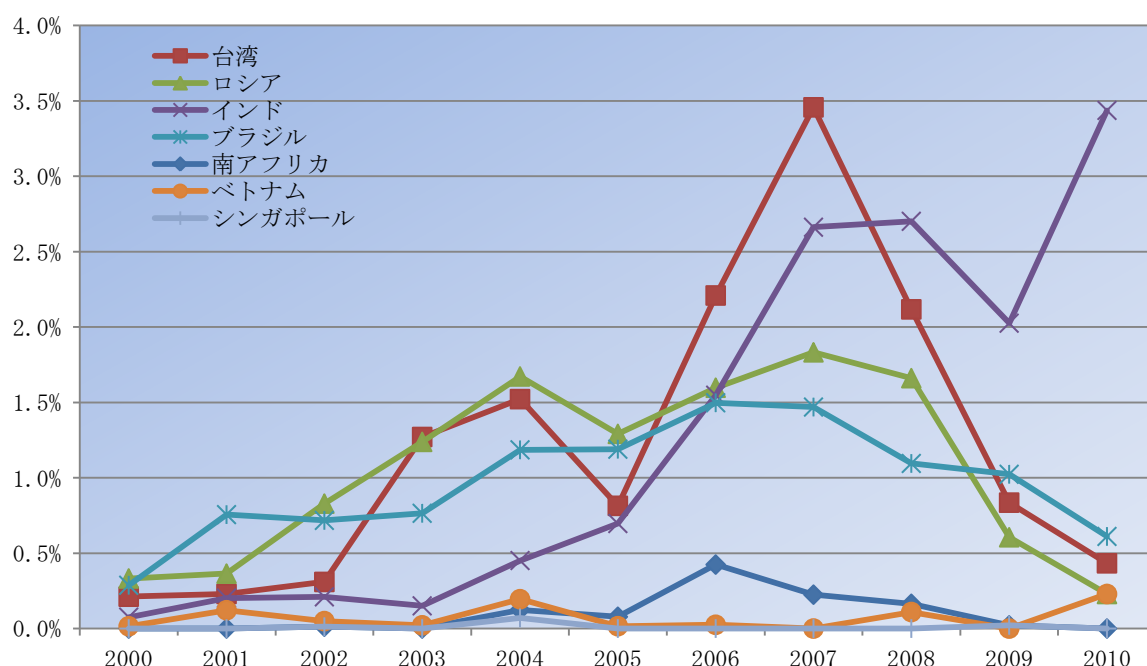
下記のグラフは、各国別出願動向の推移である。グラフを見て分かるように、サムスンと同様に圧倒的に台湾への特許出願が多い。台湾への出願は2004年に急激に増加し、その後急落したが、再び増加して2007年にピークとなった。近年は大幅に減少している。ロシアは、2004年まで着実に増加し、2004年にピークを迎えたがその後は減少の一途を辿っている。インドにおいては、2003年から2007年まで増加していたが、2009年に急激に減少、2010年は急増している。ブラジルは、2005年のピーク以後著しい減少傾向を見せている。南アフリカは、2006年に最も多く出願されたがその後減少、2010年は出願されていない。ベトナムは2004年の急激な増加から、著しく減少した。シンガポールは、ここ10年間で10件、近年はほとんど出願されていない。

〈表161〉LG電子の各国別出願動向の推移



次に、LG電子の韓国出願を100とした各国出願の比率を下のグラフで示す。台湾が2005年に急激に落ち込んだものの、2007年まで大きく比率を伸ばし、その後また急激に低下している。ロシアは、2007年に比率伸ばしたがその後は低下傾向。インドは、2007年に大きく比率を伸ばし、2009年に一時期減少したものの2010年は急激に増加している。ブラジルは、2006年から比率を伸ばしたが、横ばい状態が続き、近年は低下傾向である。南アフリカは、2006年に若干比率を伸ばしたが近年は顕著に低下している。ベトナムおよびシンガポールは、比率が低いまま横ばい状態である。

〈表162〉 LG電子の韓国出願を100とした各国出願の比率

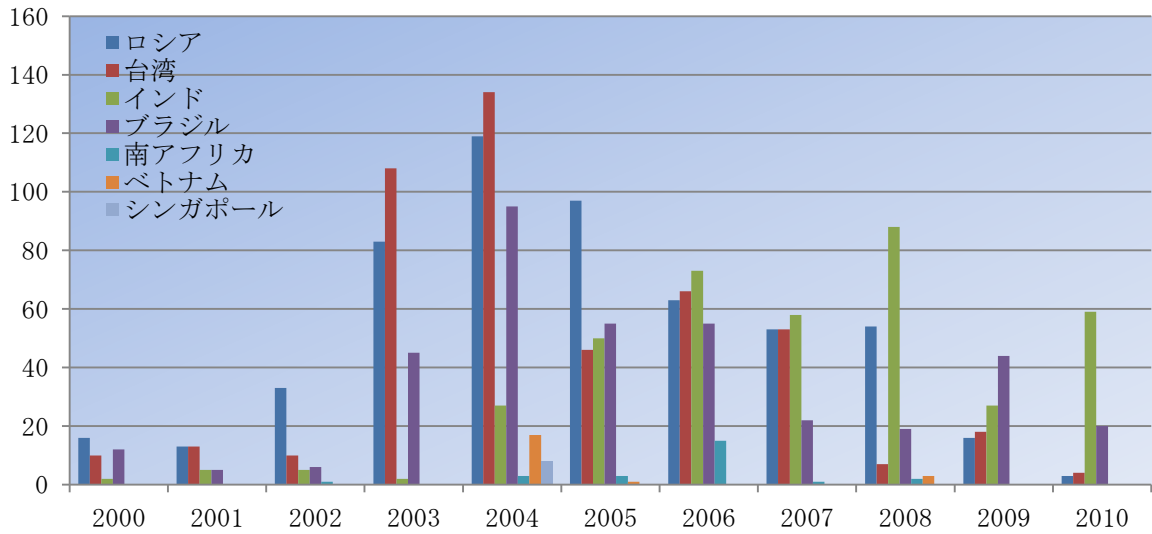


1-2 家電製品分野における国別出願件数

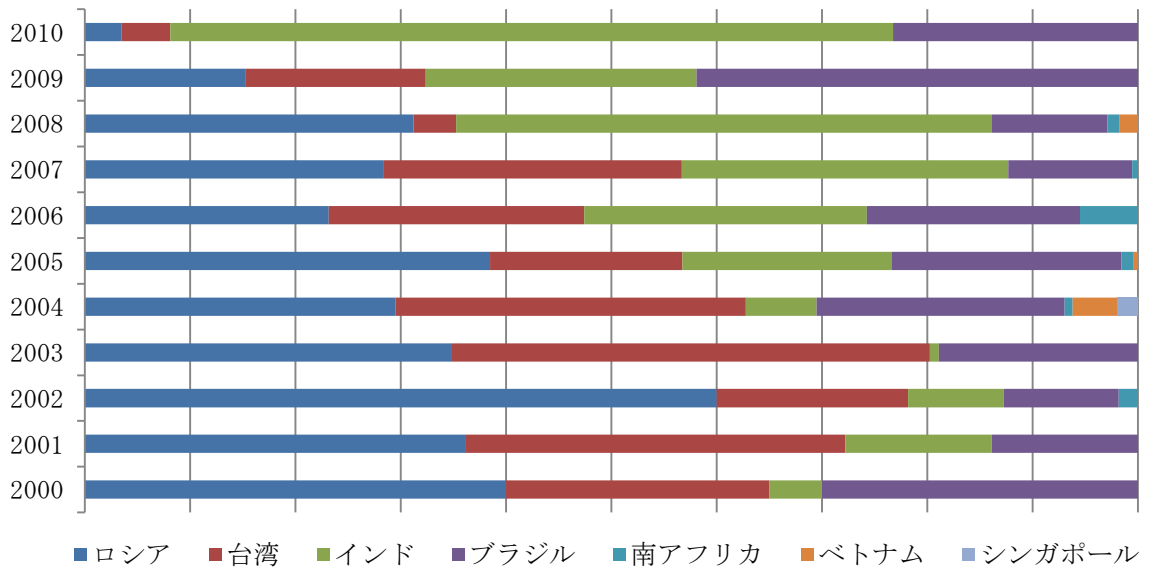
次は、製品分野別に国別出願件数と比率について見てみる。

まず、家電製品分野では、ロシアが全体的に見て最も件数が多い。2003年に急激に増加し2004年はピークとなったが、その後は大幅に減少している。台湾は、2003年および2004年に急激に増加したが、その後は一気に減少。インドは、2004年より順調に増加しており2008年にピークを迎えたが、翌年大幅に減少。しかし、2010年は再び出願件数を伸ばし、7カ国中最も多い。ブラジルは、2003年より増加し、毎年増減数が激しい。南アフリカは、2006年に大幅に増加したが、近年は減少傾向である。ベトナムは、2004年に最も多く出願したが、その後は大幅に減少し、出願されていない年も多い。シンガポールは、2004年のみ8件出願している。

〈表163〉LG電子の家電製品分野における国別出願件数



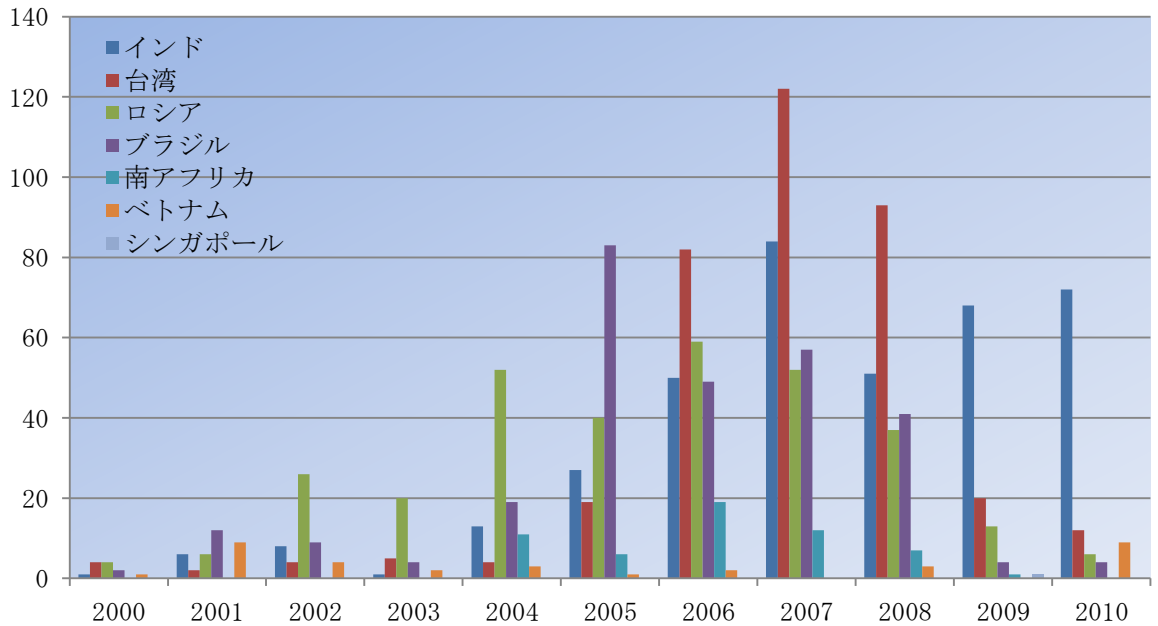
〈表164〉LG電子の家電製品分野における国別出願件数の比率



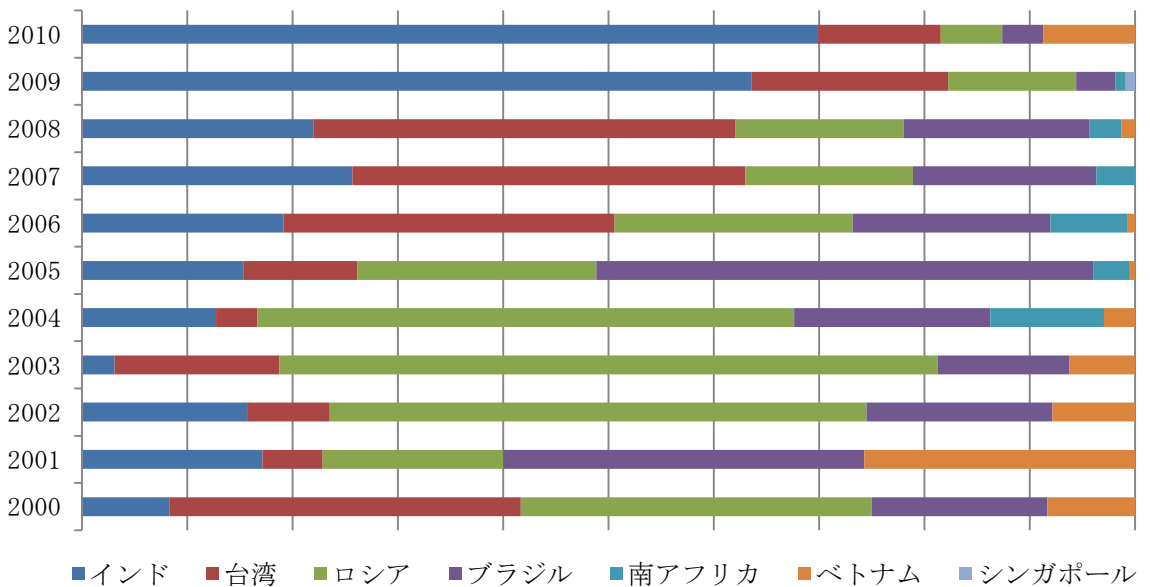
1-3 移動通信/情報通信分野における国別出願件数

移動通信/情報通信分野においては、2004年以降インドへの出願件数が徐々に増加、2007年にピークとなり2008年に一時的に減少したが、その後は増加傾向である。台湾は、2006年に急激に増加し2007年に7カ国中最も出願件数が多かったが近年は大幅に減少している。ロシアは、2004年から2008年までなだらかな増減傾向を見せていたが、2009年に急激に減少している。ブラジルは、2005年にピークであったが、その後は小幅ながら増減し2009年に大幅に減少した。南アフリカは、2006年に最も多く出願しているが近年は減少傾向である。ベトナムは、2000年から2006年まで少数ながらも毎年出願されている。近年、再び出願件数を伸ばし始めている。シンガポールは、ここ10年間で2009年の1件のみである。

〈表165〉LG電子の移動通信/情報通信分野における国別出願件数



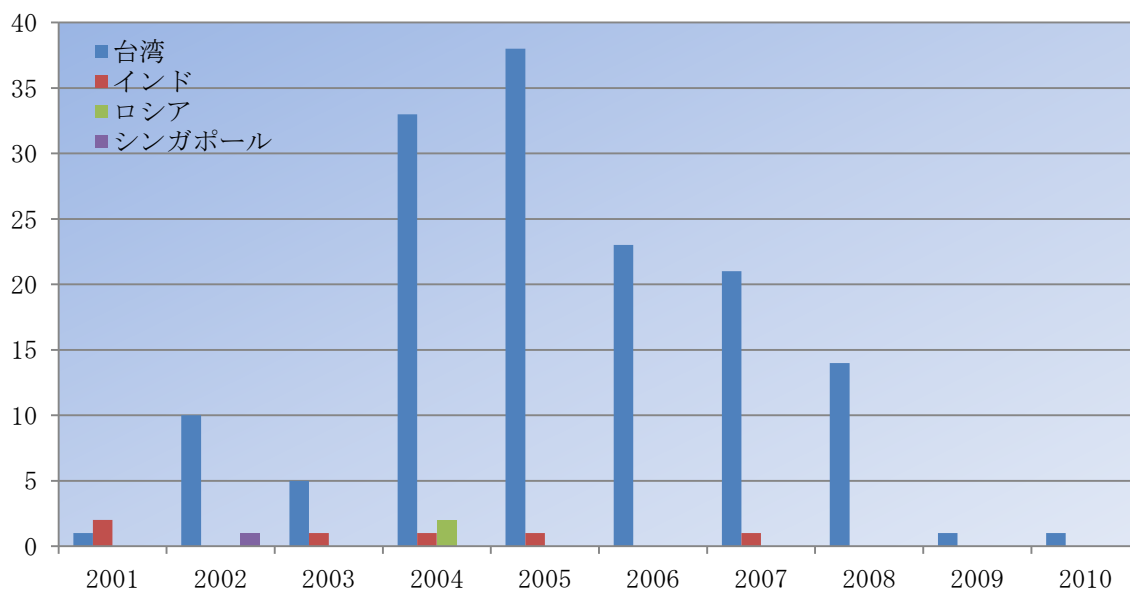
〈表166〉LG電子の移動通信/情報通信分野における国別出願件数の比率



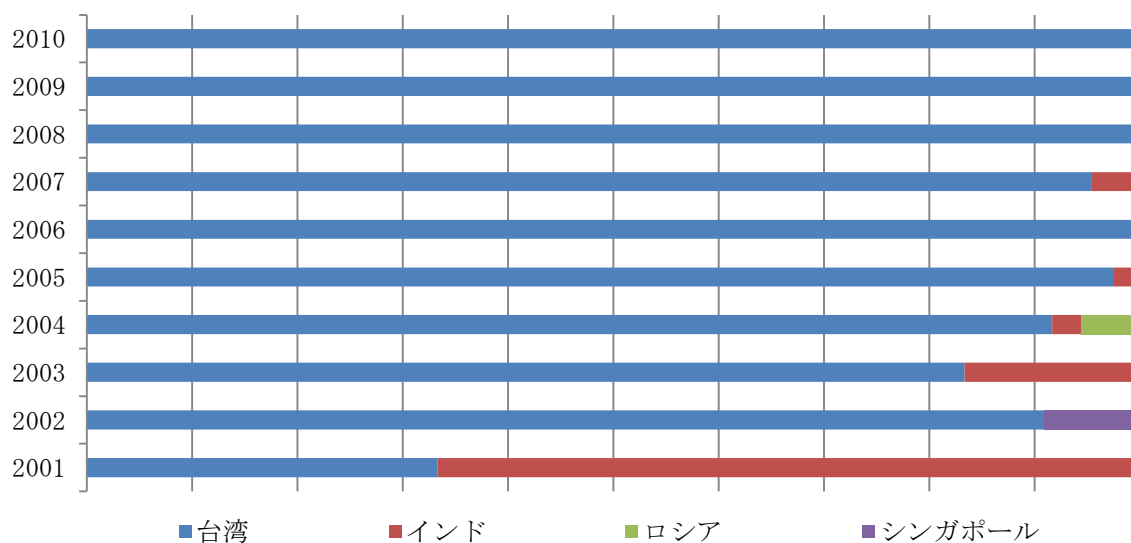
1-4 ディスプレイ分野における国別出願件数

ディスプレイ分野においては、サムスンと同様に台湾への出願件数が圧倒的に多い。2005年にピークを迎えたが翌年から減少し、2009年からは大幅に減少している。インドは、2007年までごく僅かであるが出願され、近年は出願されていない。ロシアは、2004年に2件のみ出願されている。シンガポールは、2002年に1件のみ出願されている。

〈表167〉LG電子のディスプレイ分野における国別出願件数



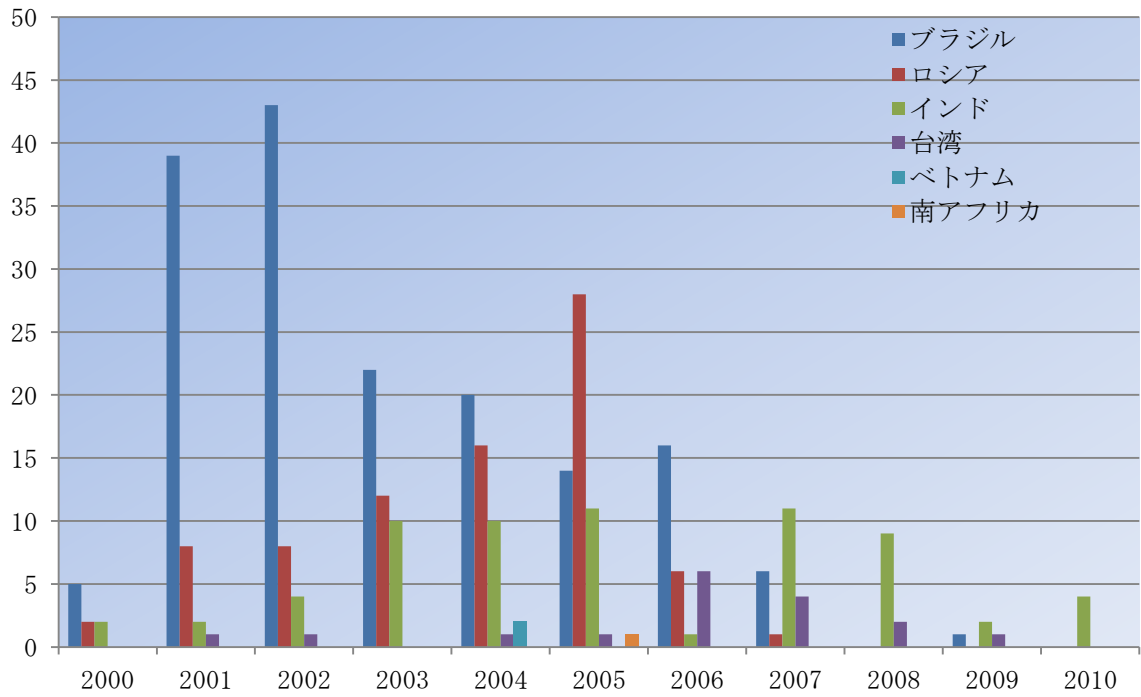
〈表168〉LG電子のディスプレイ分野における国別出願件数の比率



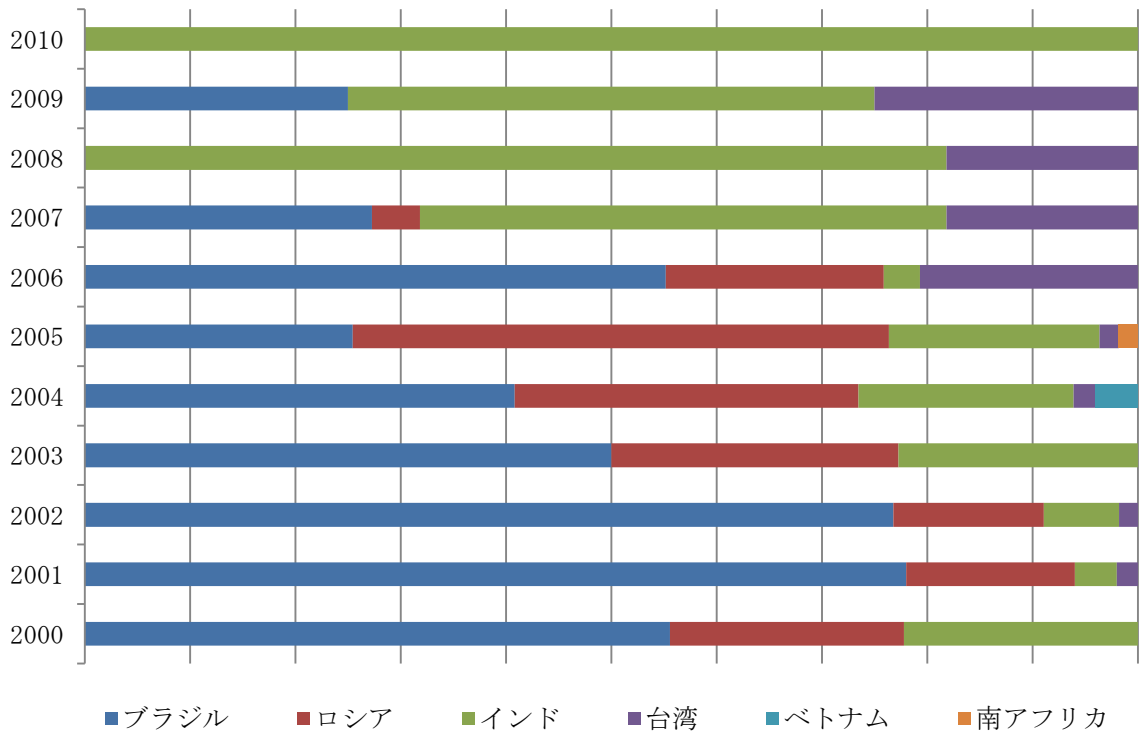
1-5 その他の分野における国別出願件数

その他の分野は、上記に示した家電製品分野、移動通信/情報通信分野、ディスプレイ分野以外の分野である。全体的に見てブラジルへの出願件数が最も多い。2002年にピークを迎えたが、その後は大幅に減少、近年はごく僅か出願されている。ロシアは、2001年から2005年まで増加傾向であったが、その後急激に大幅減少した。インドは、2006年に急激に減少したがその後急増、近年は再び増加している。台湾は、僅かながらも2006年にピークとなり、その後減少、2010年は出願されていない。ベトナムは、ここ10年間で2004年に2件のみ、南アフリカは、2005年に1件のみ出願された。

〈表169〉LG電子のその他の分野における国別出願件数



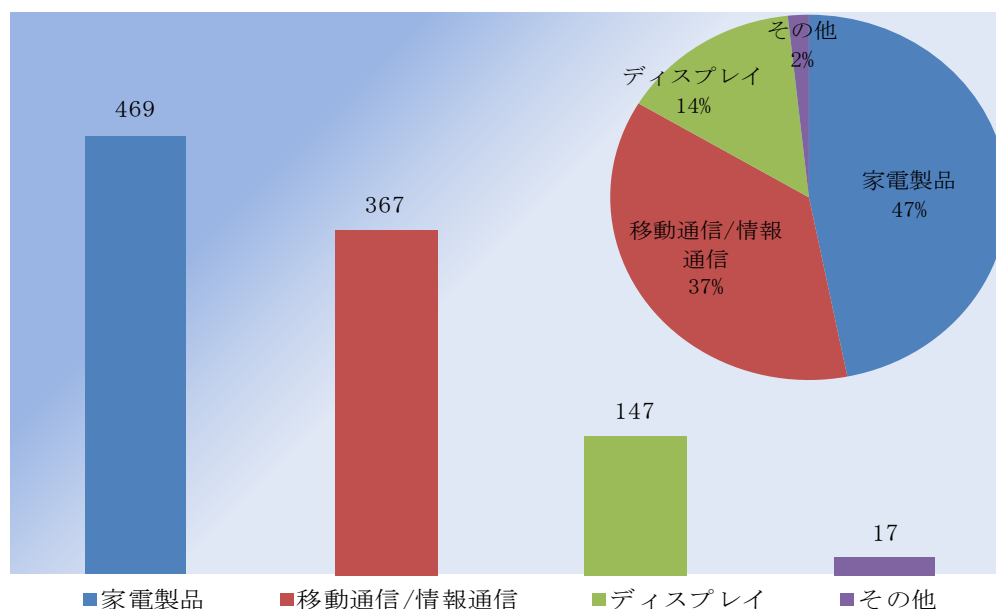
〈表170〉LG電子のその他の分野における国別出願件数の比率



1-6 LG電子の製品群別特許出願動向<台湾>

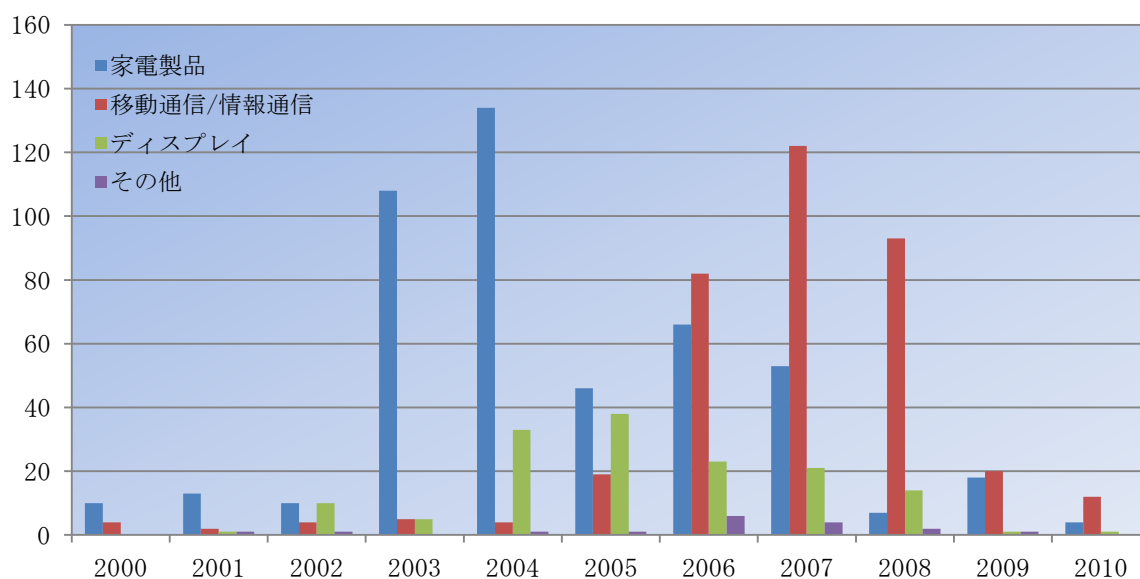
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

<表171> LG電子の製品群別による累計出願件数（台湾）

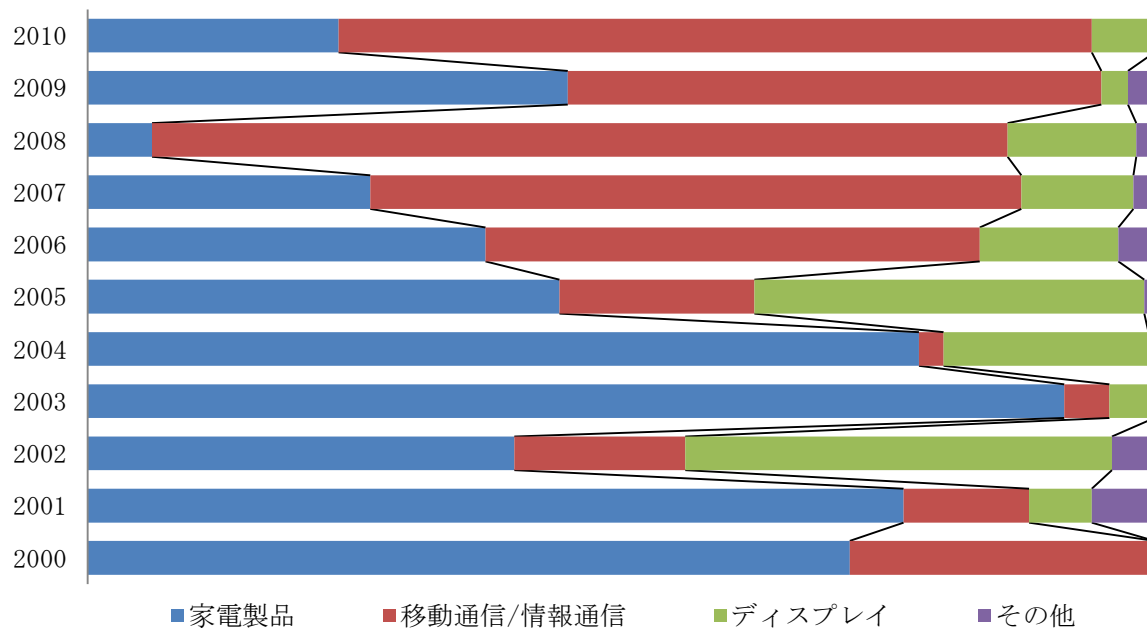


台湾への出願件数において製品群別に見ると、家電製品が最も多い。2004年に最も多く出願されたが、その後は急激に減少、近年は2009年に僅かに増加したが翌年再び減少している。次の移動通信/情報通信分野は、約4割を占めている。2006年より急激に増加したが近年は減少傾向。ディスプレイは、2005年に最も多く出願されたがその後は緩やかに減少している。その他は、近年減少傾向である。

<表172> LG電子の製品群別出願件数の推移（台湾）



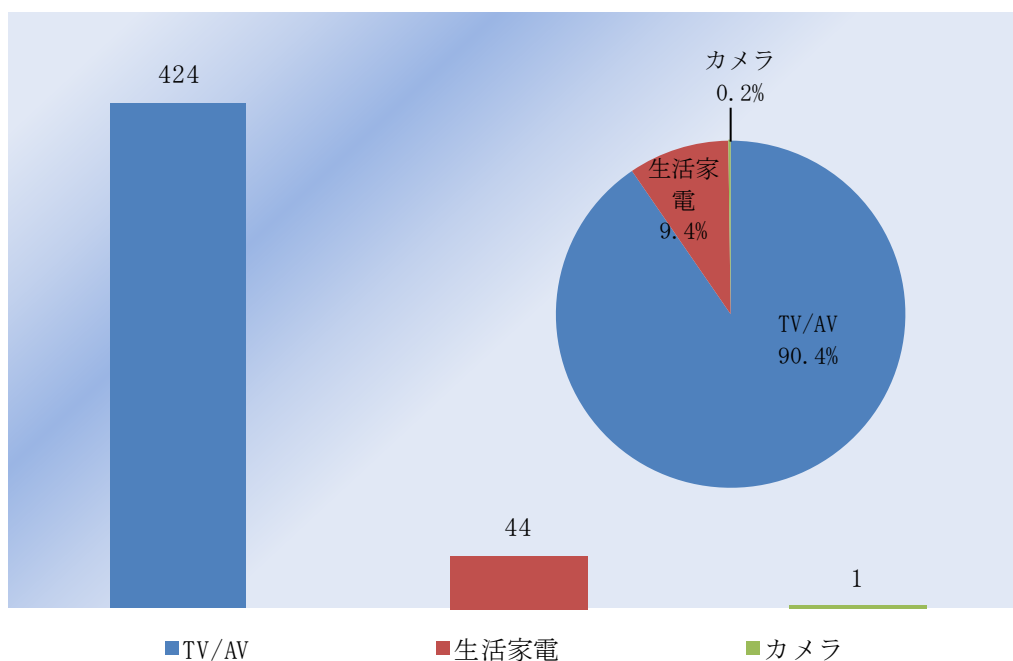
〈表173〉LG電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合（台湾）



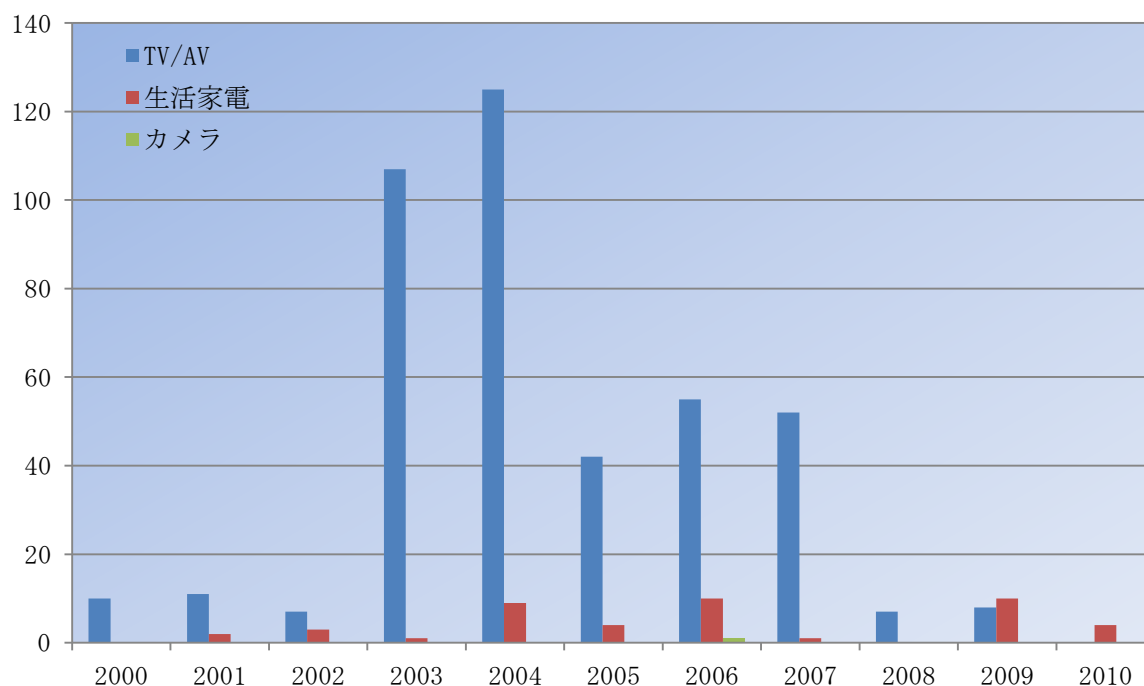
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における各分野の累計出願件数およびその比率の推移を示す。圧倒的に TV/AV の出願件数が多い。これはサムスンと同様の出願動向である。生活家電は、毎年増減幅が激しい。カメラは、2006 年に 1 件のみ出願されている。

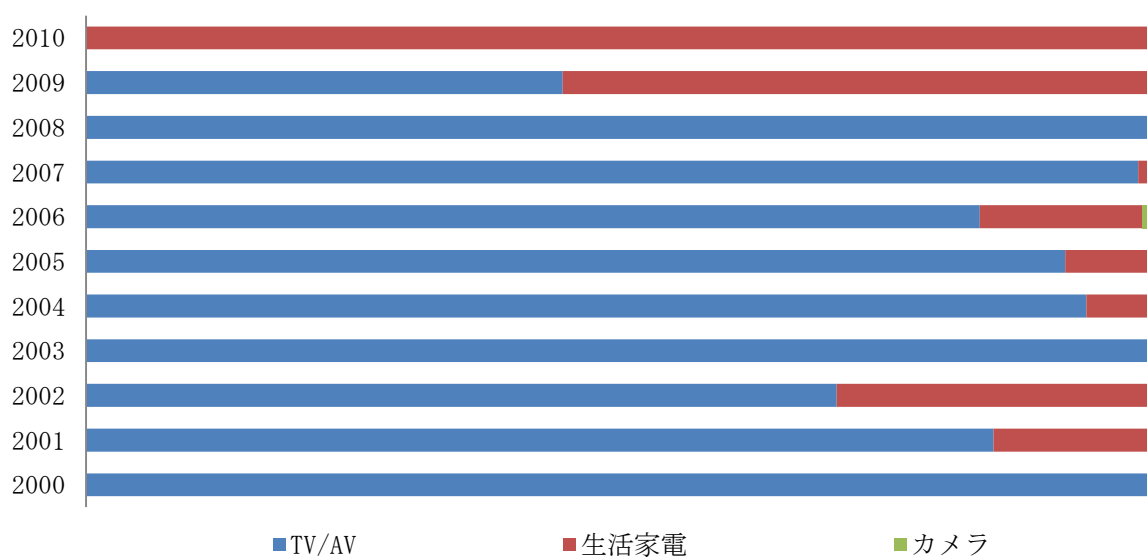
〈表174〉LG電子の家電製品群における各分野の累計出願件数（台湾）



〈表175〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（台湾）



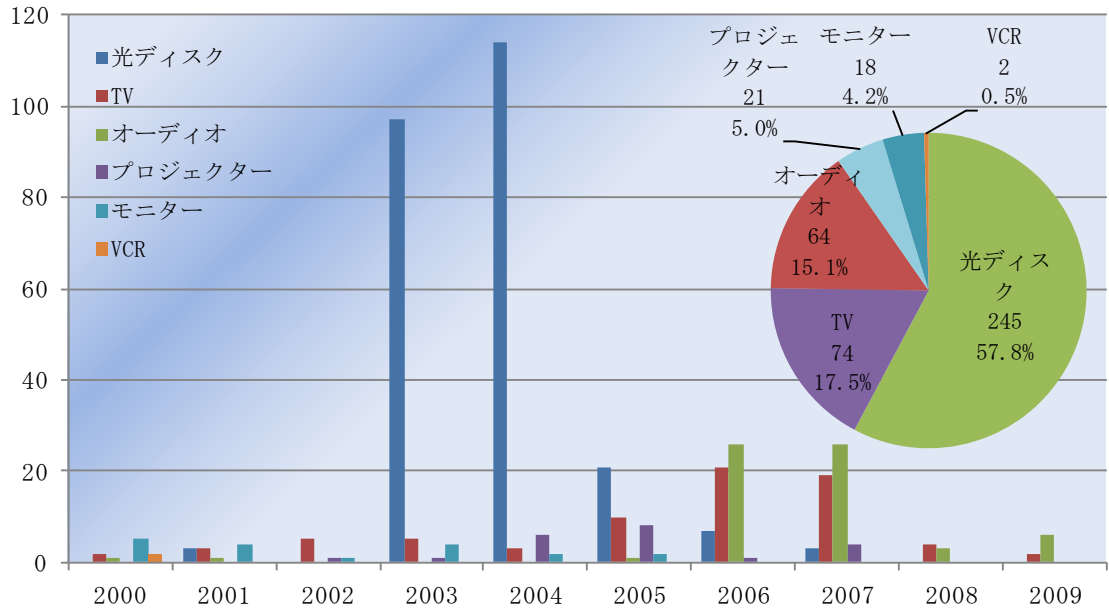
〈表176〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（台湾）



(2) TV/AVの特許出願動向

全体的に見ると、光ディスクが最も多い。2004年にピークであったがその後は急激に大幅減少しており、近年の出願件数は非常に少ない。TVは、2006年に最も増加したが、その後は減少。オーディオは、2006年、2007年に急激に増加したがその後大幅に減少している。プロジェクターは2008年から出願されていない。モニターは、2005年まで横ばい状態であったが、2006年から出願されていない。

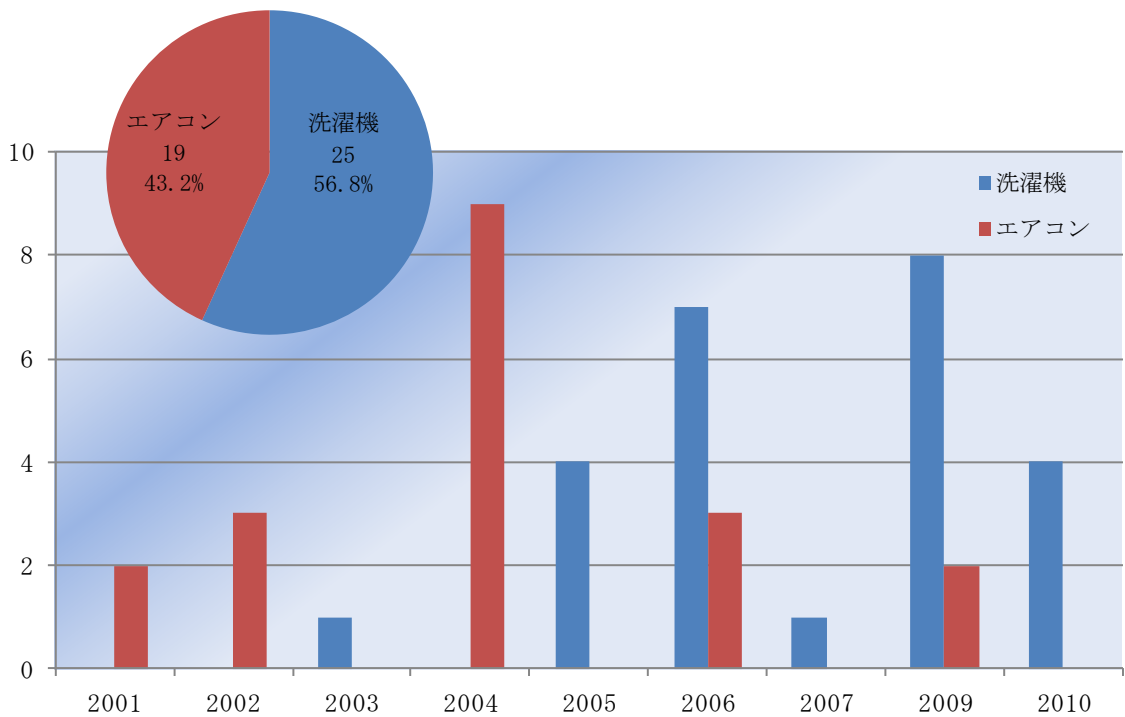
〈表177〉LG電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移（台湾）



(3) 生活家電の特許出願動向

洗濯機が半分以上占めている。2005年より徐々に増加し、2007年は急激に減少したが2009年に再び大きく増加。2010年はまた減少している。エアコンは、2004年に急激に伸び、その後は減少傾向である。

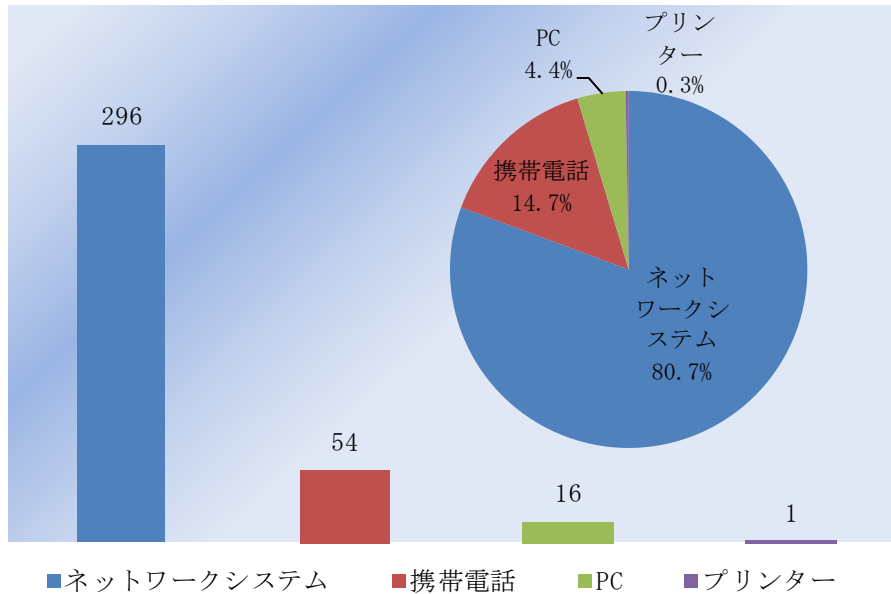
〈表178〉LG電子の生活家電に関する細部製品の年度別推移（台湾）



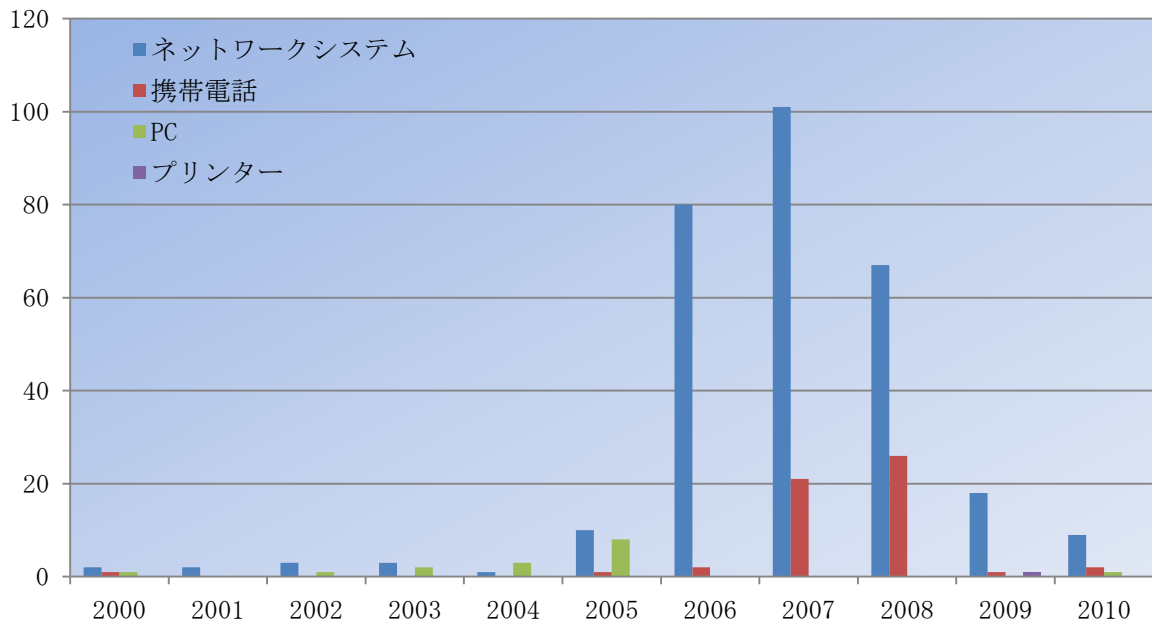
(4) 移動通信/情報通信製品群の特許出願動向

ネットワークシステムが約8割を占め、2007年に最も多く出願されたが、その後は大きく減少している。続く携帯電話は、2008年にピークとなったが、翌年から大幅に減少している。PCは、2005年をピークに減少、2010年に1件出願された。プリンターは、2009年に1件のみ出願されている。

〈表179〉LG電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の累計出願件数（台湾）

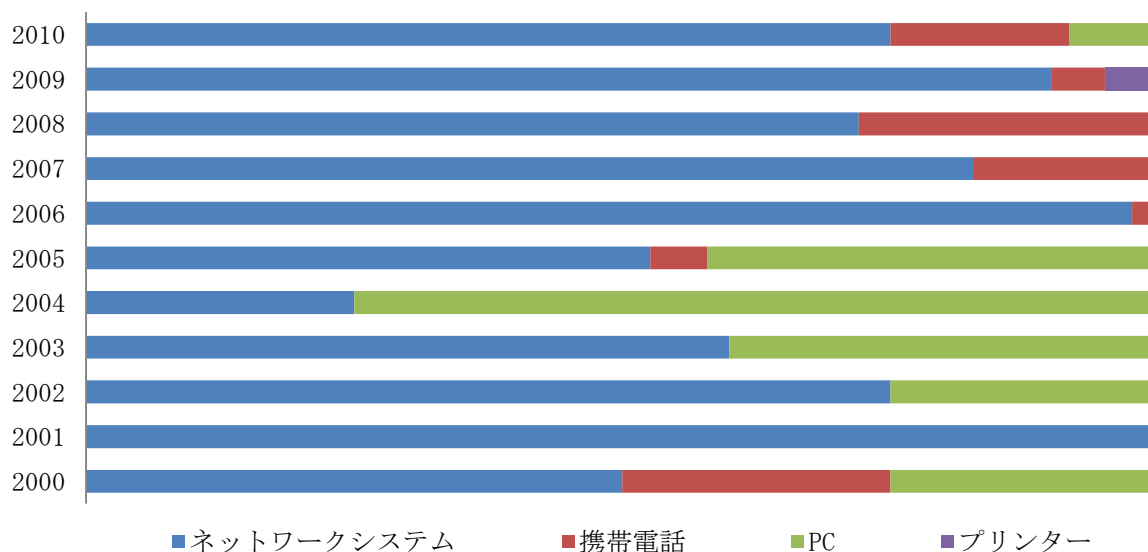


〈表180〉LG電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（台湾）



〈表181〉LG電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率

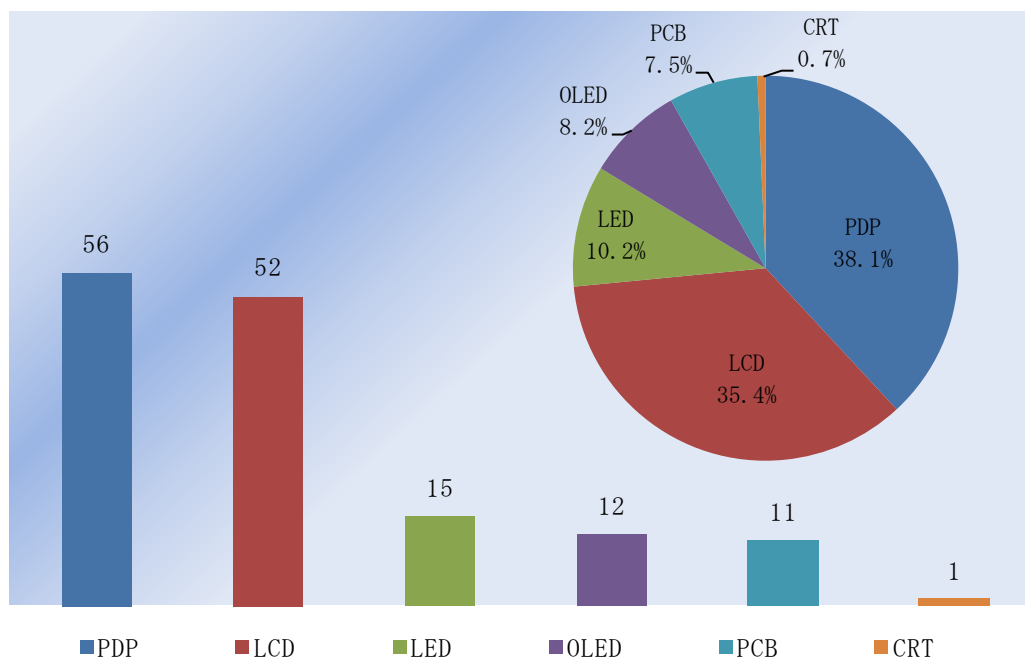
(台湾)



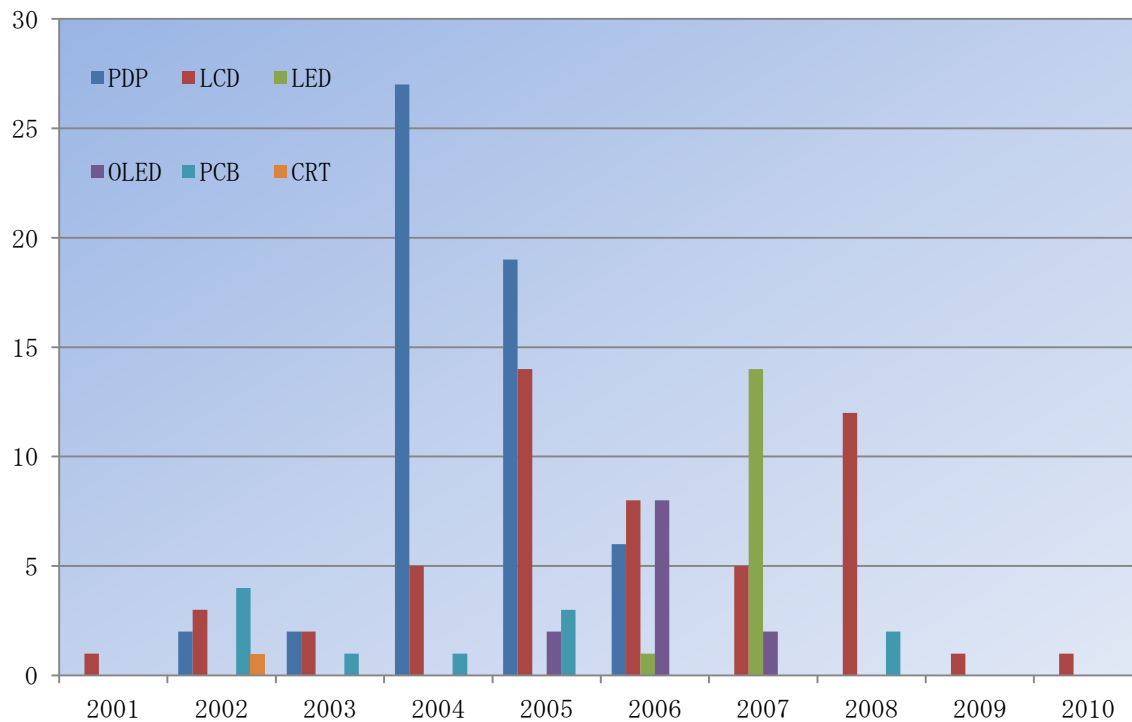
(5) ディスプレイ製品群の特許出願動向

PDP が最も多く占めているが、2007 年から出願されていない。LCD は増減幅が大きく、2005 年と 2008 年に大幅に増加、2008 年以後は急激に減少している。LED は、2007 年にピークであったが、その後は出願されていない。OLED は、2006 年以後減少している。PCB は、近年出願数が非常に少ない。CRT は、2002 年に 1 件のみ出願されている。

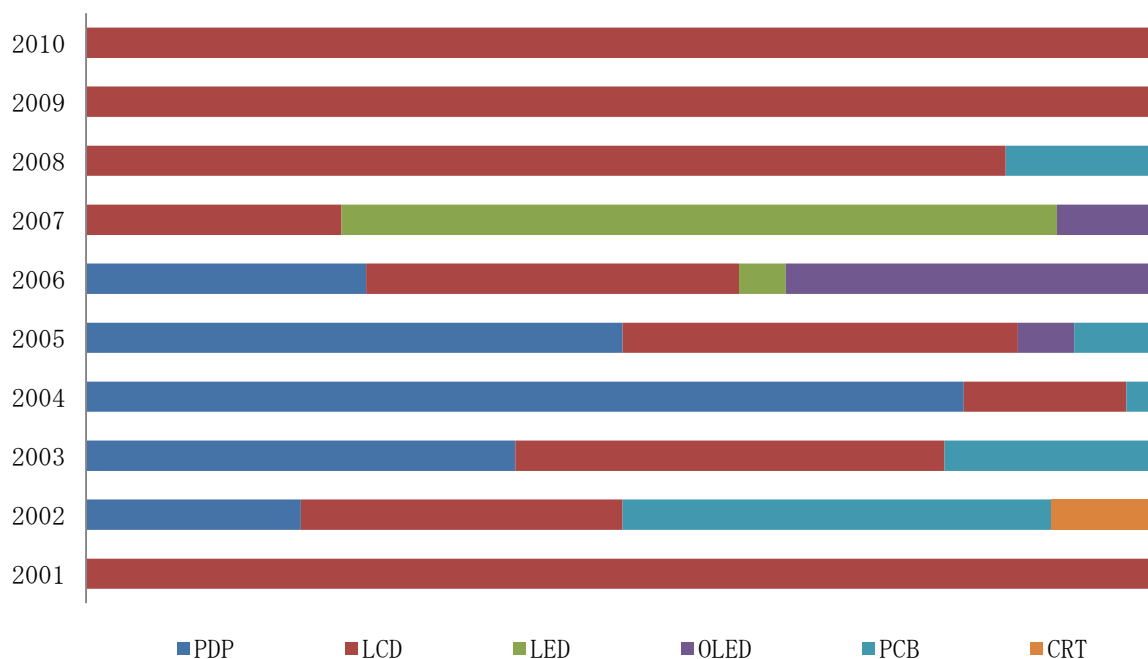
<表182>LG電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の累計出願件数 (台湾)



〈表183〉LG電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移
(台湾)



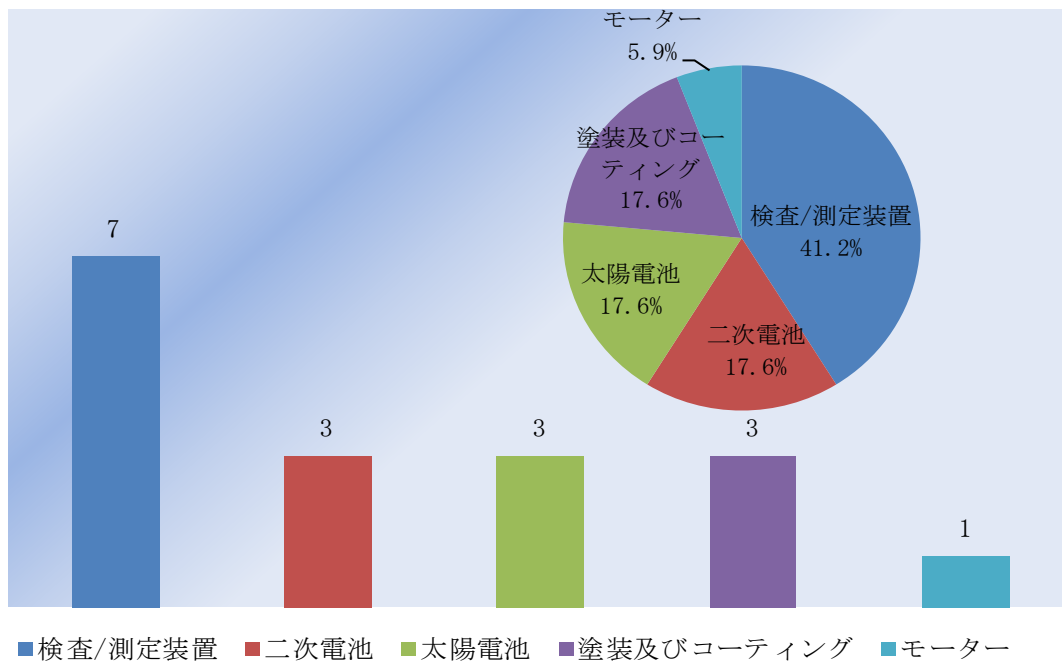
〈表184〉LG電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(台湾)



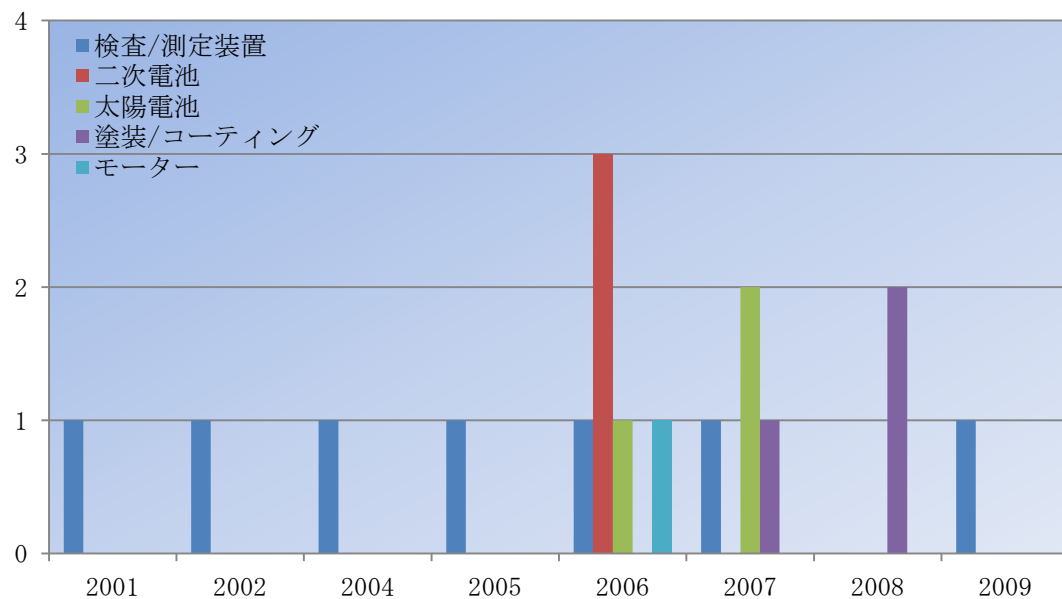
(6) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は、全体的に見て検査/測定装置が最も多い。2008年を除いて毎年1件ずつ出願されている。次の二次電池は2006年に、太陽電池は2006年と2007年に、塗装/コーティングは、2007年と2008年に3件ずつ出願されている。モーターは、2006年に1件のみ出願されている。

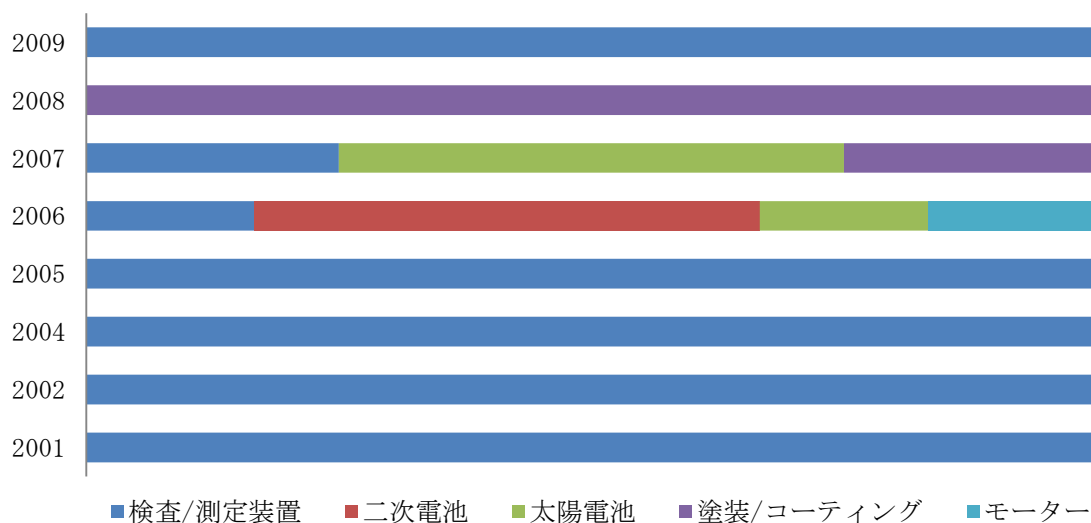
<表185>LG電子のその他製品群における細部製品の累計出願件数（台湾）



<表186>LG電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（台湾）



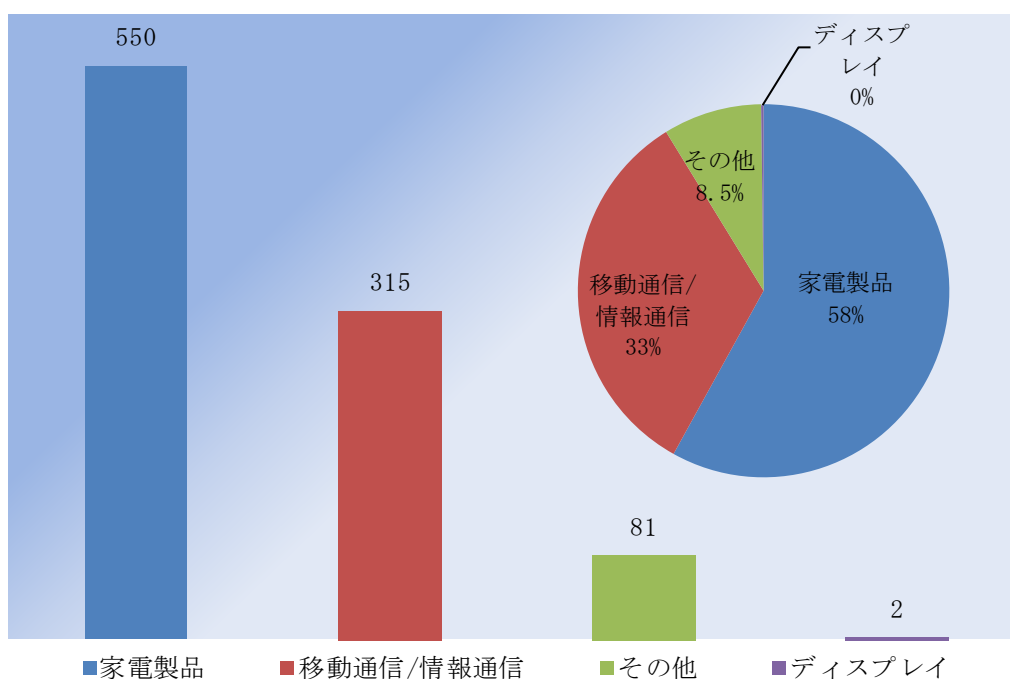
〈表187〉LG電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（台湾）



1-7 LG電子の製品群別特許出願動向〈ロシア〉

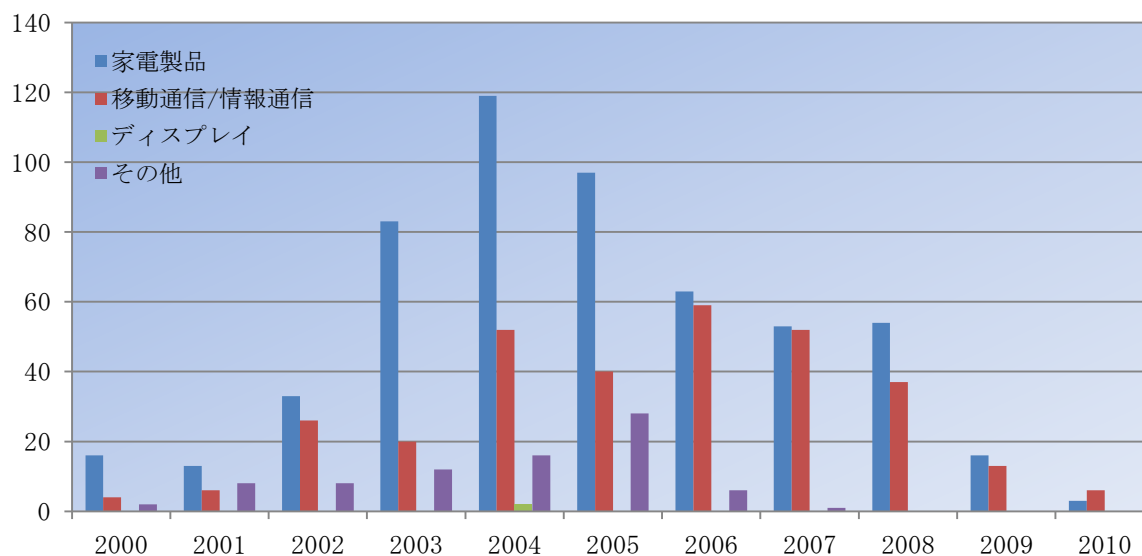
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

〈表188〉 LG電子の製品群別による累計出願件数（ロシア）

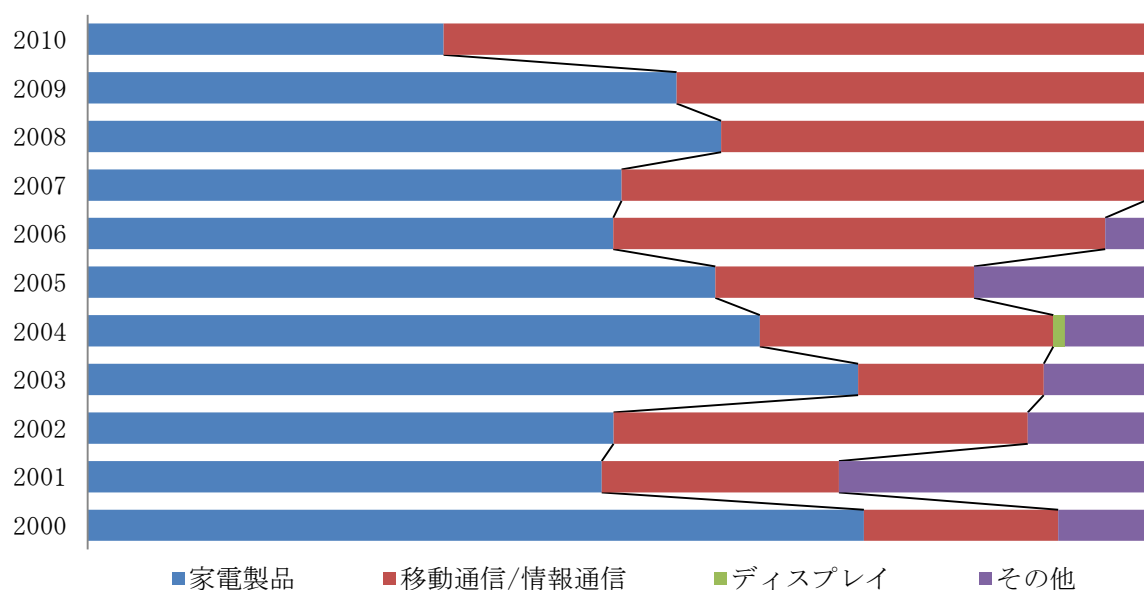


ロシアへの出願件数において製品群別に見ると、家電製品が約6割弱を占めているが、2004年のピーク後徐々に減少、2009年は大幅に減少している。移动通信/情報通信は、2006年のピーク後緩やかに減少し、家電製品と同様、2009年に大幅減少している。ディスプレイは、2004年の2件のみ。その他は2005年に多く出願されたが、2008年より出願されていない。

〈表189〉LG電子の製品群別出願件数の推移（ロシア）



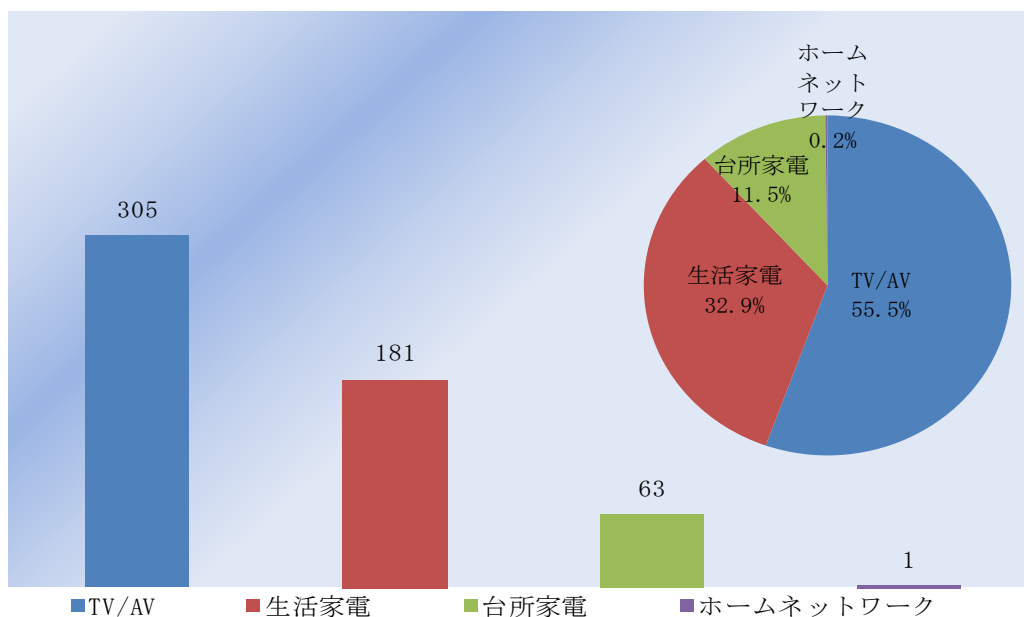
〈表190〉LG電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合（ロシア）



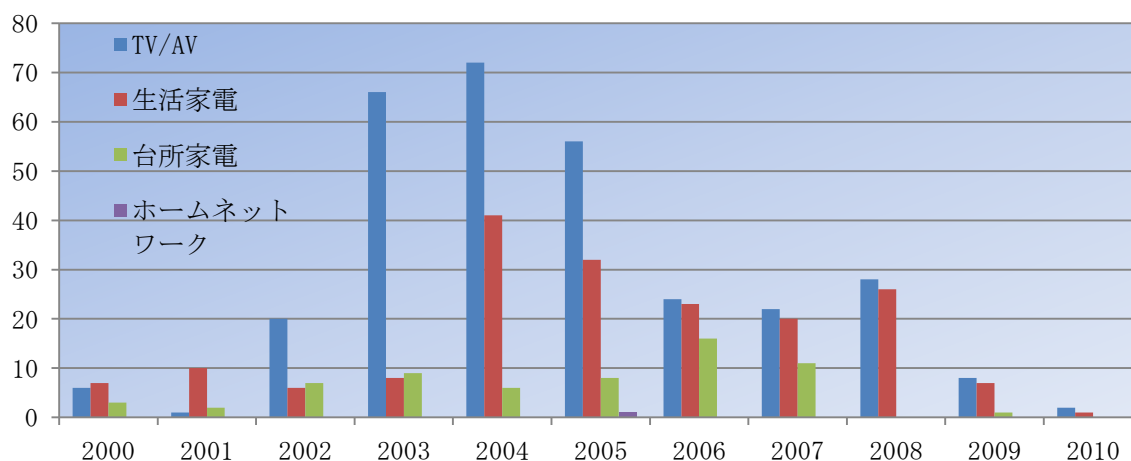
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における各分野の累計出願件数およびその比率の推移を示す。TV/AV の出願件数が最も多いが、2004 年以後大幅に減少している。次の生活家電も 2004 年以後減少し、2008 年に若干増加したがその後大幅に減少している。台所家電は、2006 年のピーク後近年は大きく減少している。ホームネットワークは、2005 年に 1 件のみ出願されている。

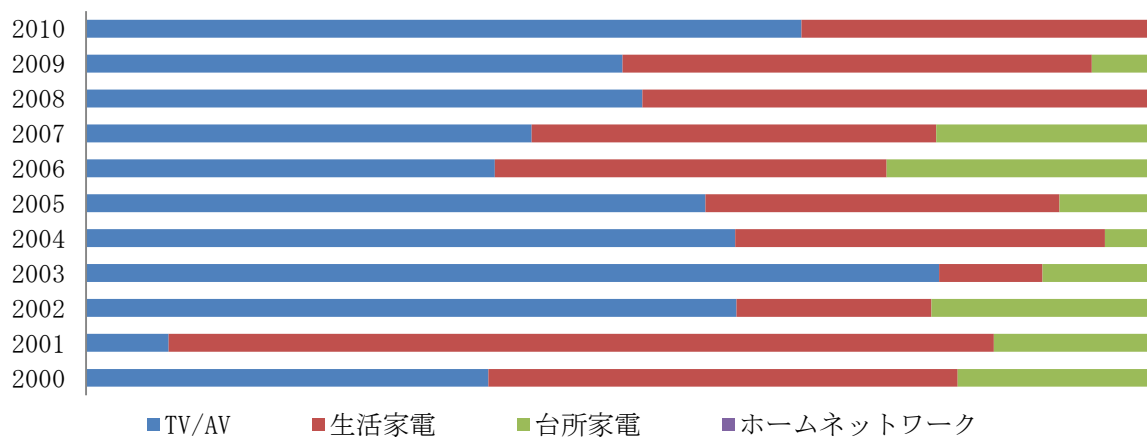
〈表191〉LG電子の家電製品群における各分野の累計出願件数（ロシア）



〈表192〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（ロシア）



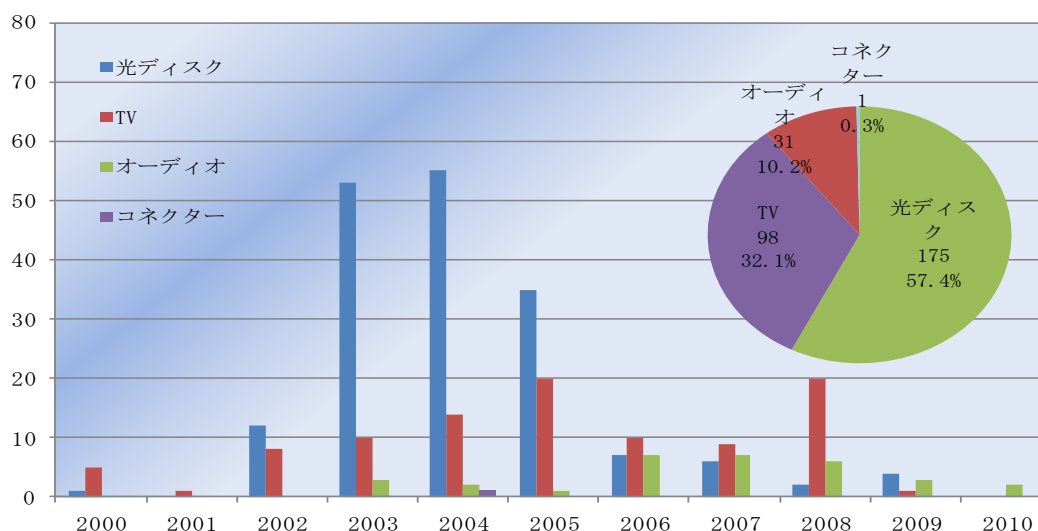
〈表193〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（ロシア）



(2) TV/AVの特許出願動向

光ディスクが6割弱を占めているが、2004年のピーク以後大幅に減少している。TVは、2005年まで増加傾向であったが、その後大幅に減少、2008年に急激に増加したが2009年は激減している。オーディオは増減を繰り返しており、近年は減少傾向である。コネクターは、2004年に1件のみ出願されている。

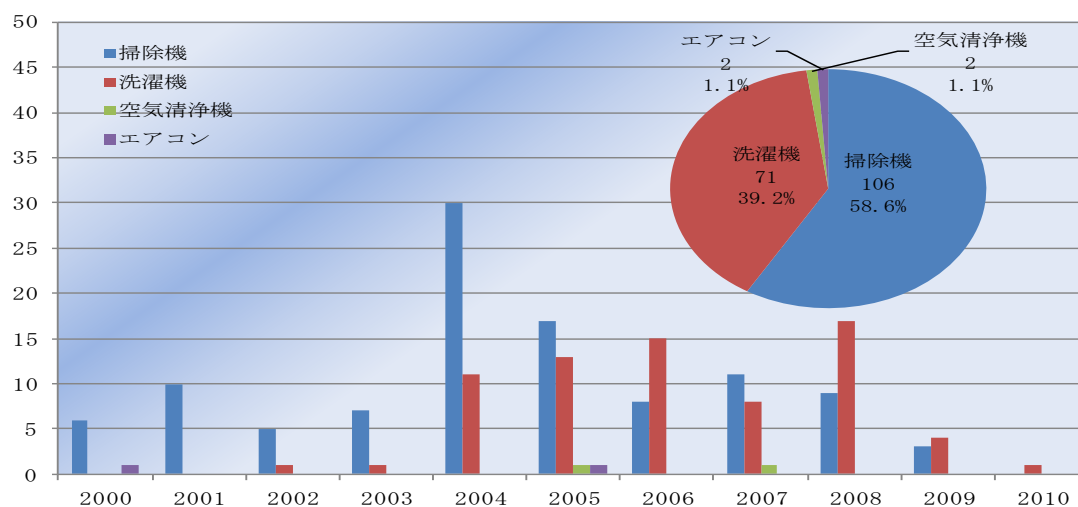
〈表194〉LG電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移（ロシア）



(3) 生活家電の特許出願動向

洗濯機が最も多く、2005年のピーク後は大幅に減少している。掃除機は、2006年最も多く出願されたが、近年は出願件数が少ない。衣類乾燥機は、2005年に1件出願されたが、それ以外はされていない。エアコンも非常に少なく、空気清浄機は、ここ10年間で1件のみの出願となっている。

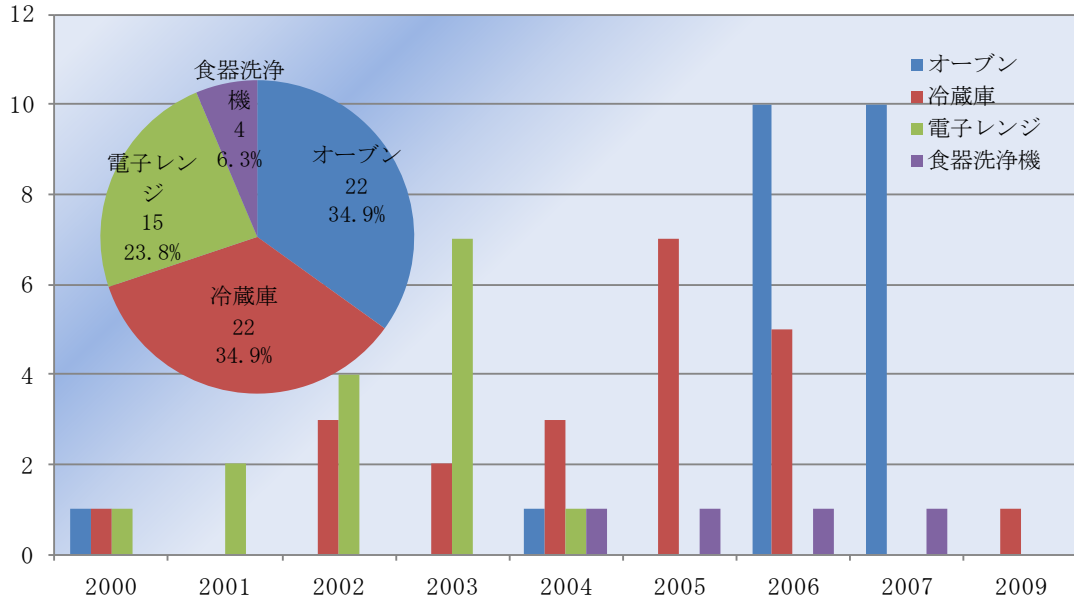
〈表195〉LG電子の生活家電に関する細部製品の年度別推移（ロシア）



(4) 台所家電の特許出願動向

オーブンおよび冷蔵庫が同率を占めている。オーブンは、2006年と2007年に多く出願されたが、その後は出願されていない。電子レンジは、2003年に最も多く出願されたが2004年以後近年は出願されていない。食器洗浄器は、2004年から2007年まで毎年1件ずつ出願されていたが、その後は出願されていない。

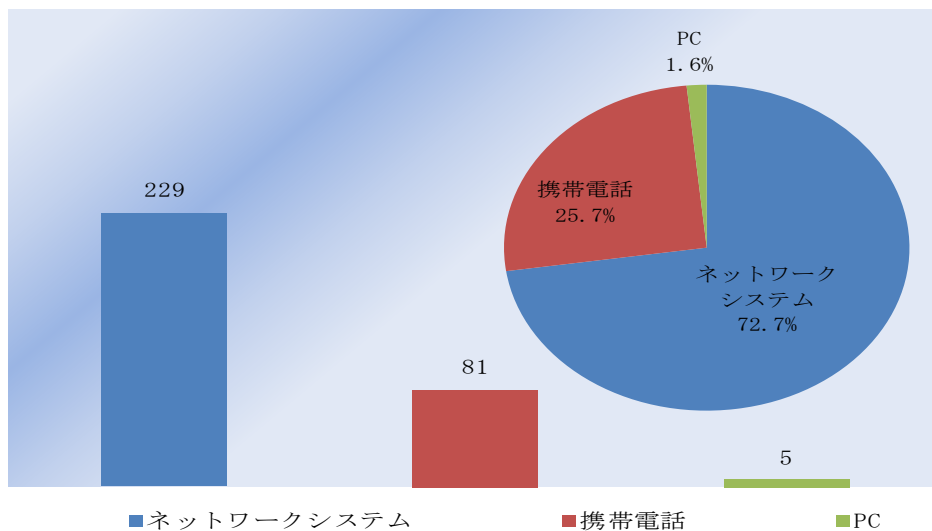
〈表196〉LG電子の台所家電に関する細部製品の年度別推移（ロシア）



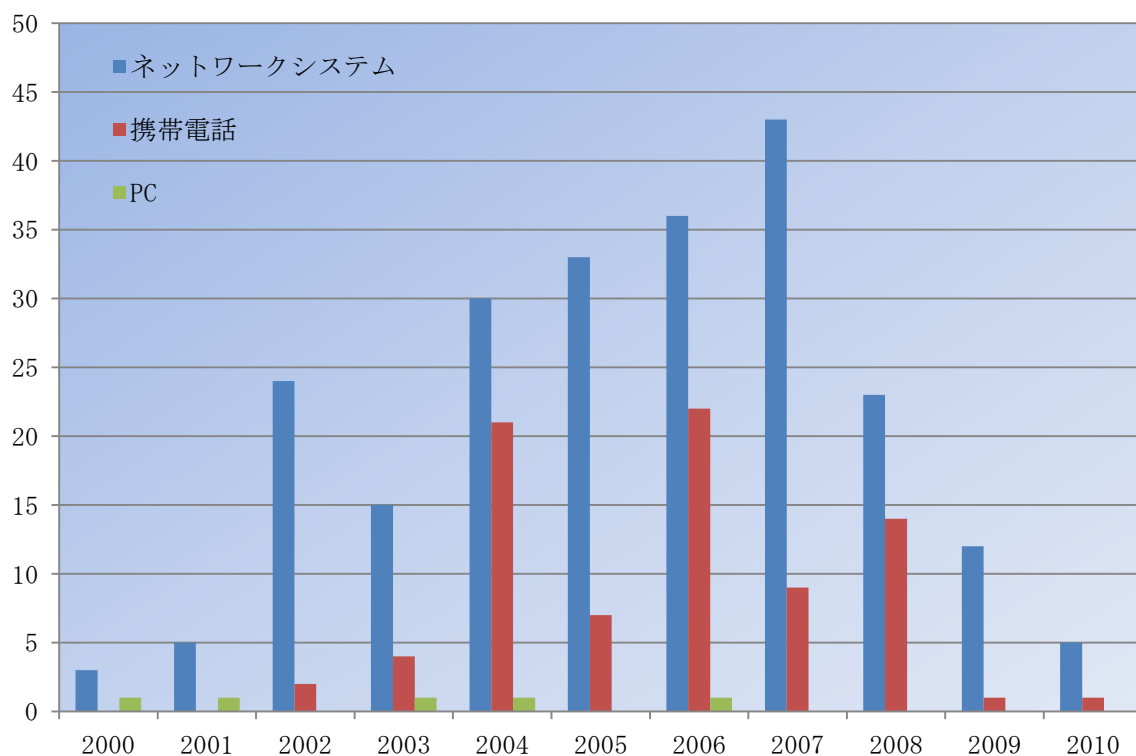
(5) 移動通信/情報通信の特許出願動向

ネットワークシステムが最も多く占めており、2007年まで着実に増加していたが、近年は大幅に減少している。携帯電話は、毎年増減を繰り返し特徴的な動きを見せている。2009年は大幅に減少した。PCは、近年出願されていない。

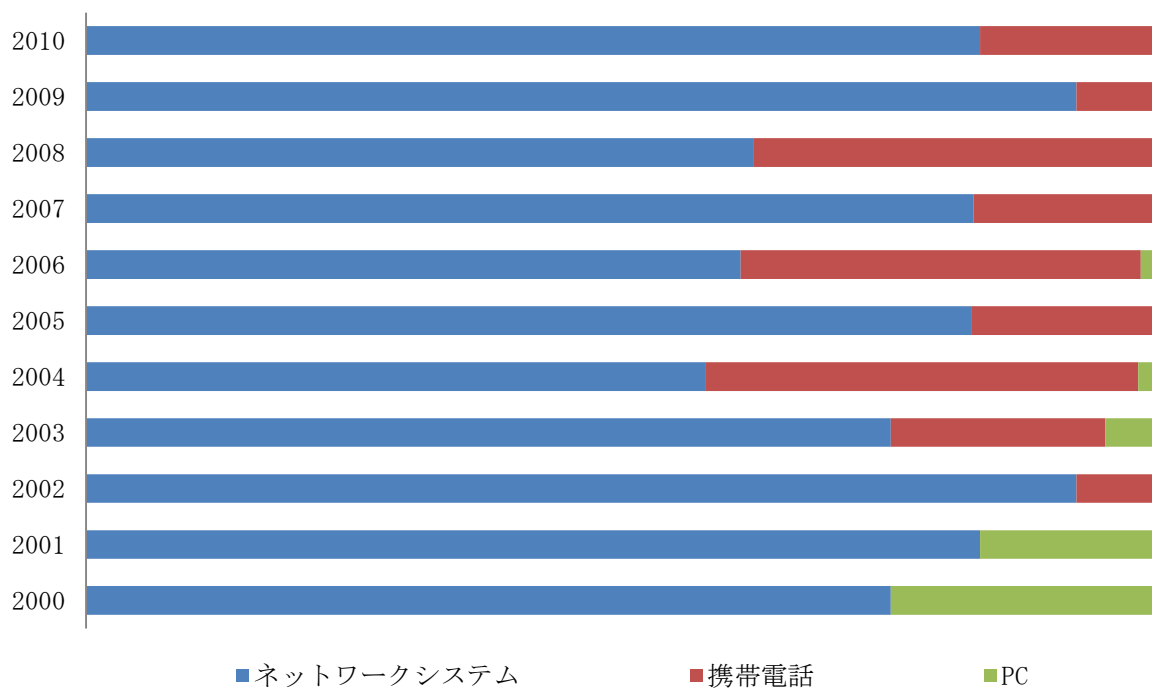
〈表197〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における各分野の累計出願件数（ロシア）



〈表198〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の年度別出願件数の推移
(ロシア)



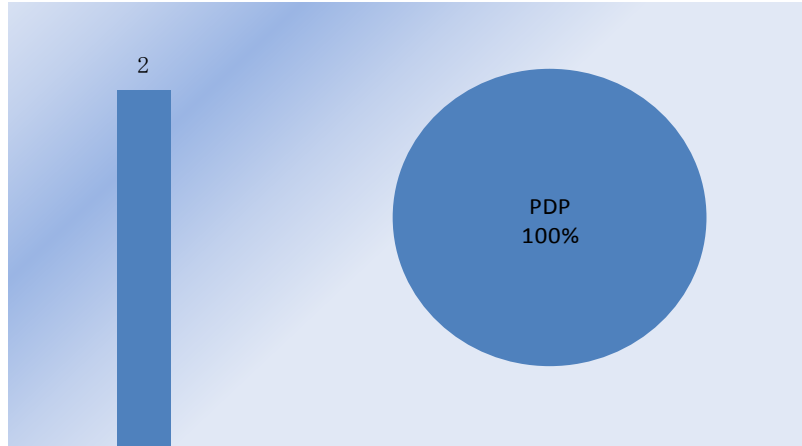
〈表199〉LG電子の移動通信/情報通信製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率
(ロシア)



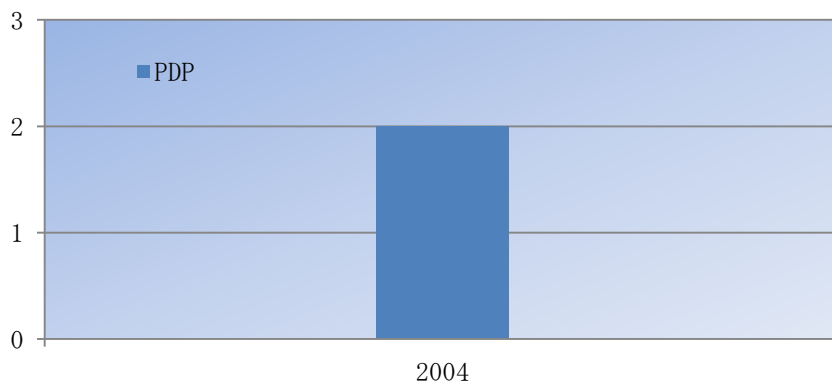
(6) ディ스플레이製品群の特許出願動向

ディスプレイ製品群においては、PDP のみ出願されている。出願件数は 2004 年に 2 件と多くない。

〈表200〉LG電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の累計出願件数（ロシア）



〈表201〉LG電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（ロシア）



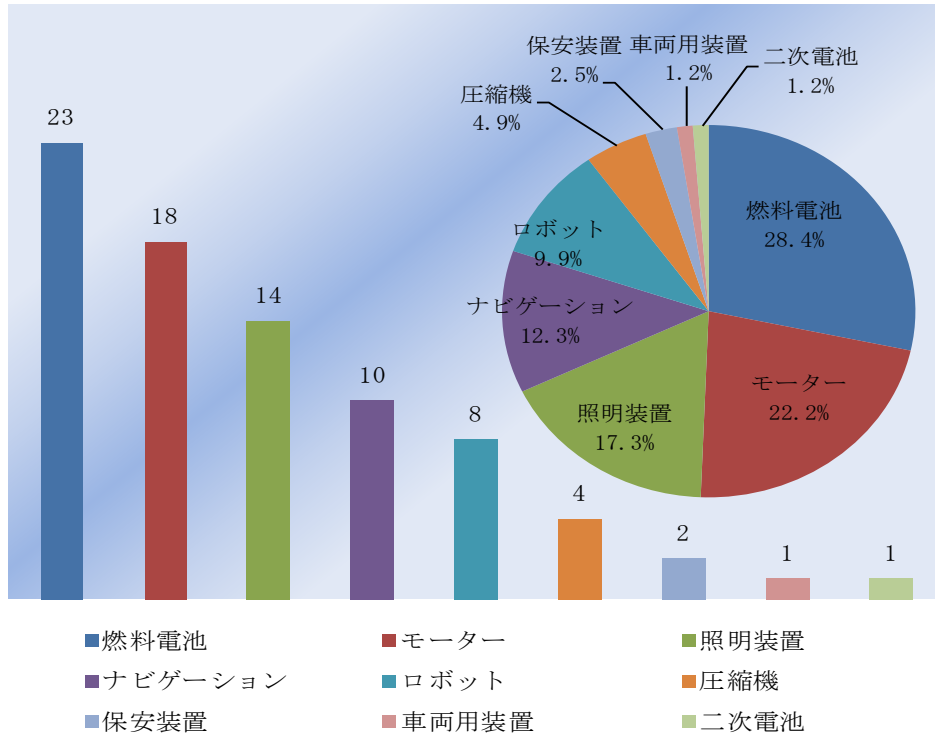
〈表202〉LG電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（ロシア）



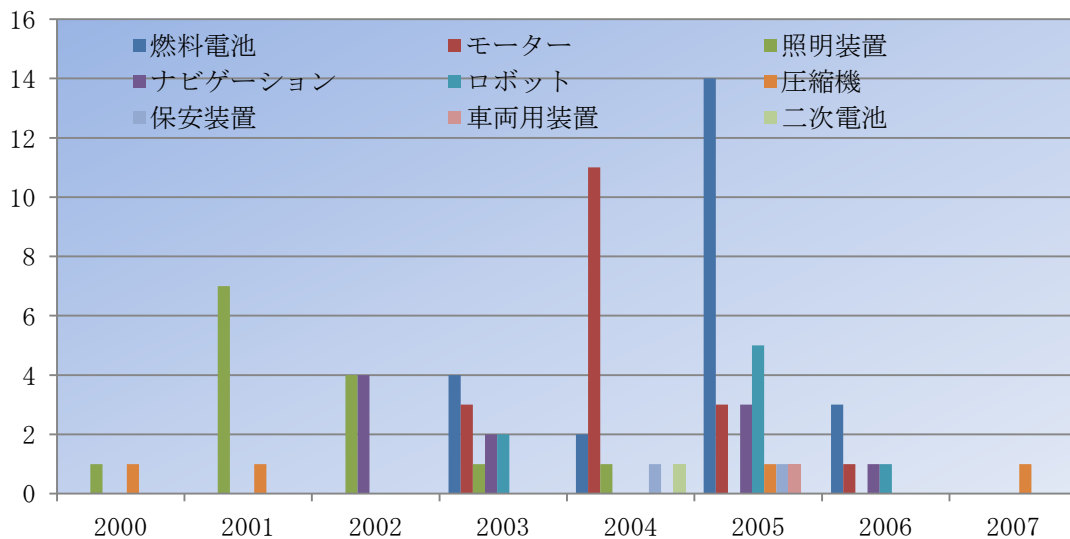
(7) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は、燃料電池が最も多いが、2005年のピーク以後大幅に減少している。次のモーターは、2004年以後減少傾向。照明装置は、2005年以降出願されていない。ナビゲーションは10件、ロボットは8件、圧縮機は4件、保安装置は2件、車両用装置は1件、二次電池は1件のみ出願されている。

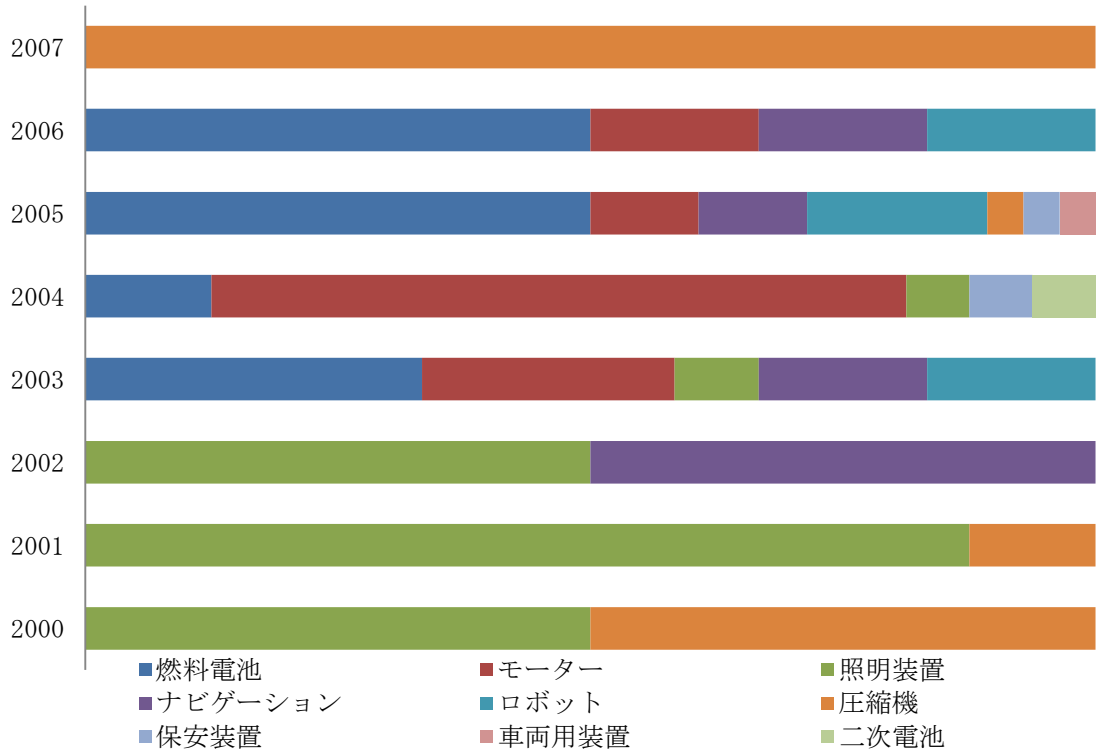
<表203>LG電子のその他製品群に関する細部製品の累計出願件数（ロシア）



<表204>LG電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移（ロシア）



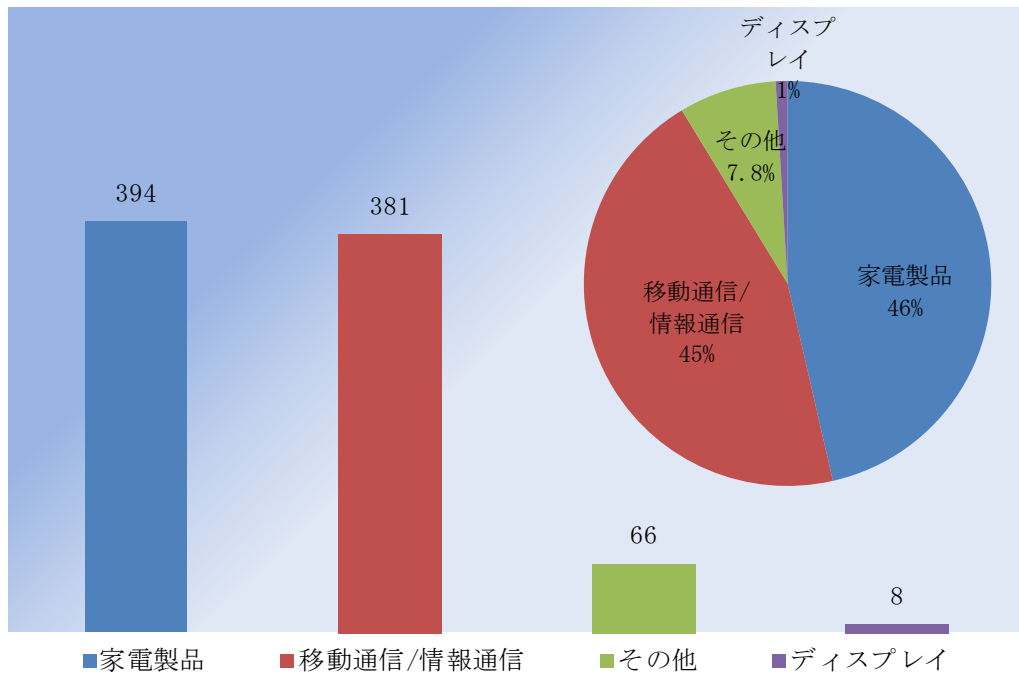
〈表205〉LG電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（ロシア）



1-8 LG電子の製品群別特許出願動向〈インド〉

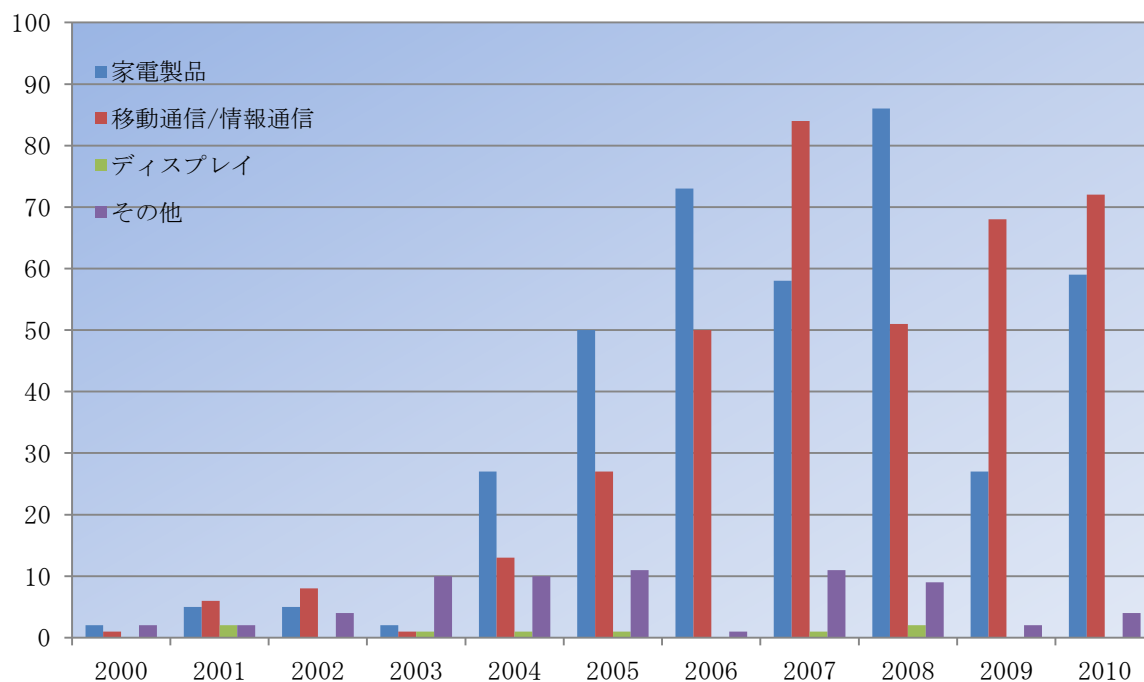
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

〈表206〉 LG電子の製品群別による累計出願件数（インド）

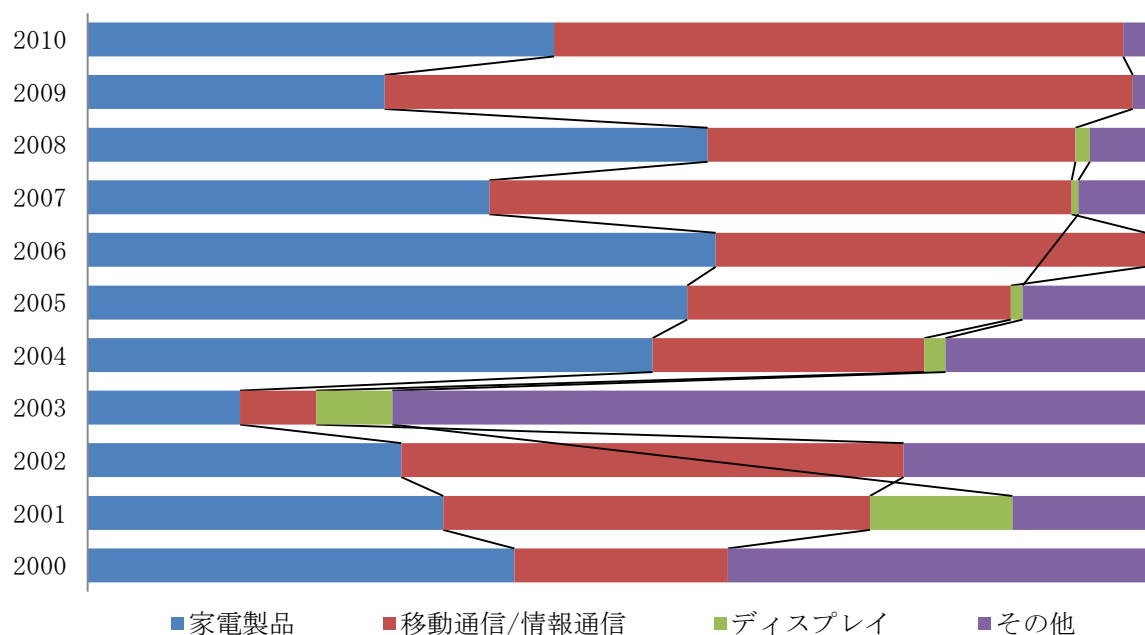


インドへの出願件数において製品群別に見ると、家電製品と移動通信/情報通信分野がほぼ半数を占めている。両分野とも2005年から出願件数が伸び、増減を繰り返しているが、近年増加傾向である。ディスプレイ分野、その他分野ともに近年は減少傾向である。

〈表207〉LG電子の製品群別出願件数の推移（インド）



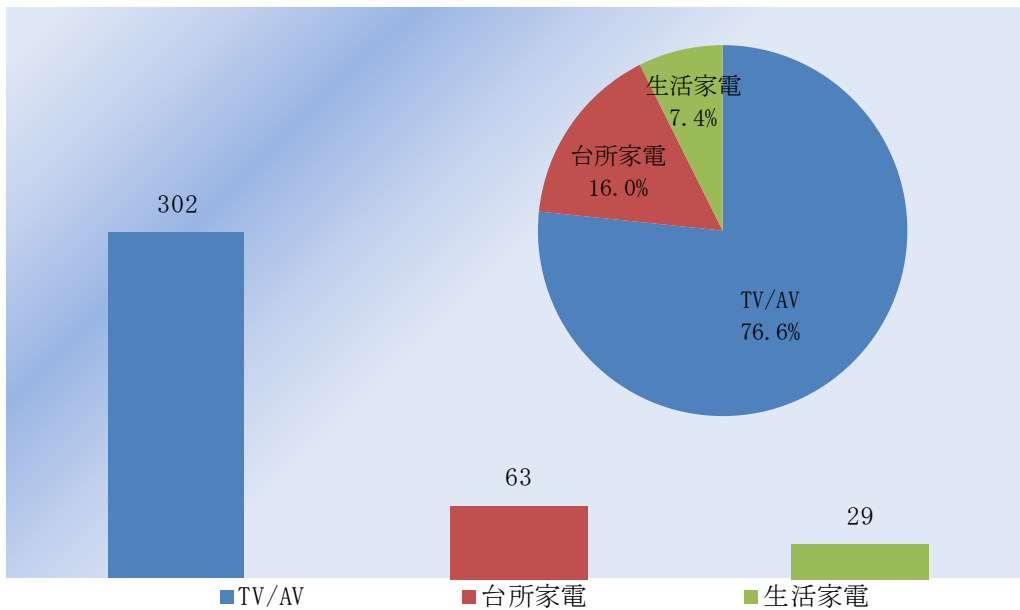
〈表208〉LG電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合（インド）



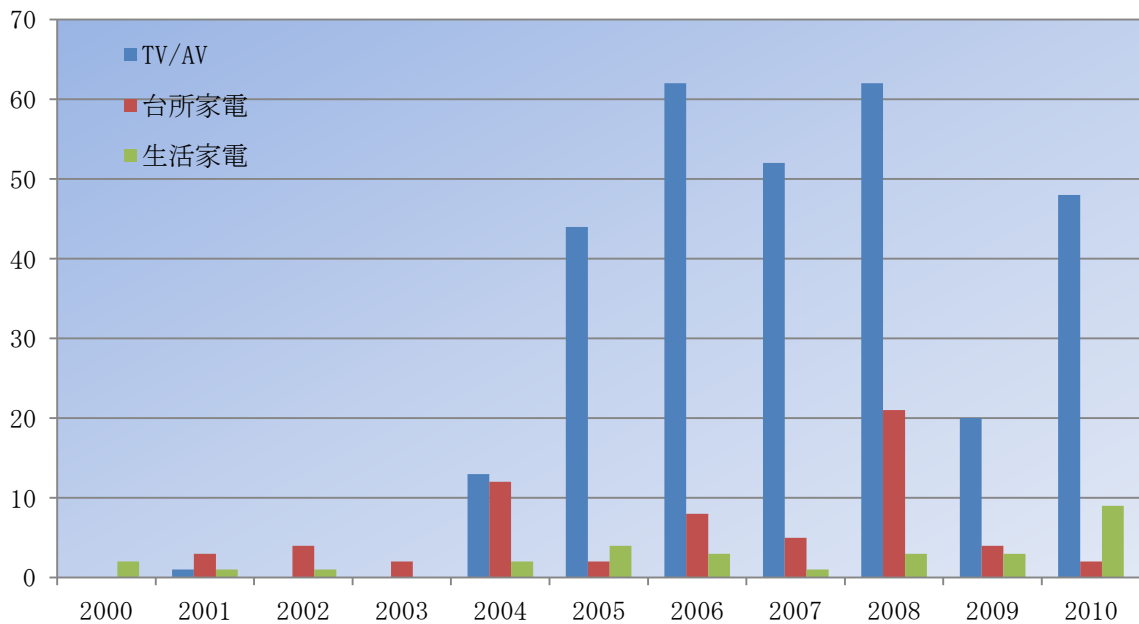
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における各分野の累計出願件数およびその比率の推移を示す。TV/AV の出願件数が多く、2006 年に急激に伸び 2009 年に大幅に減少したが、2010 年再び増加している。次の台所家電 2008 年に大幅に増加したが、減少傾向である。生活家電は、2003 年以後しばらく下火であったが、2010 年に再び増加している。

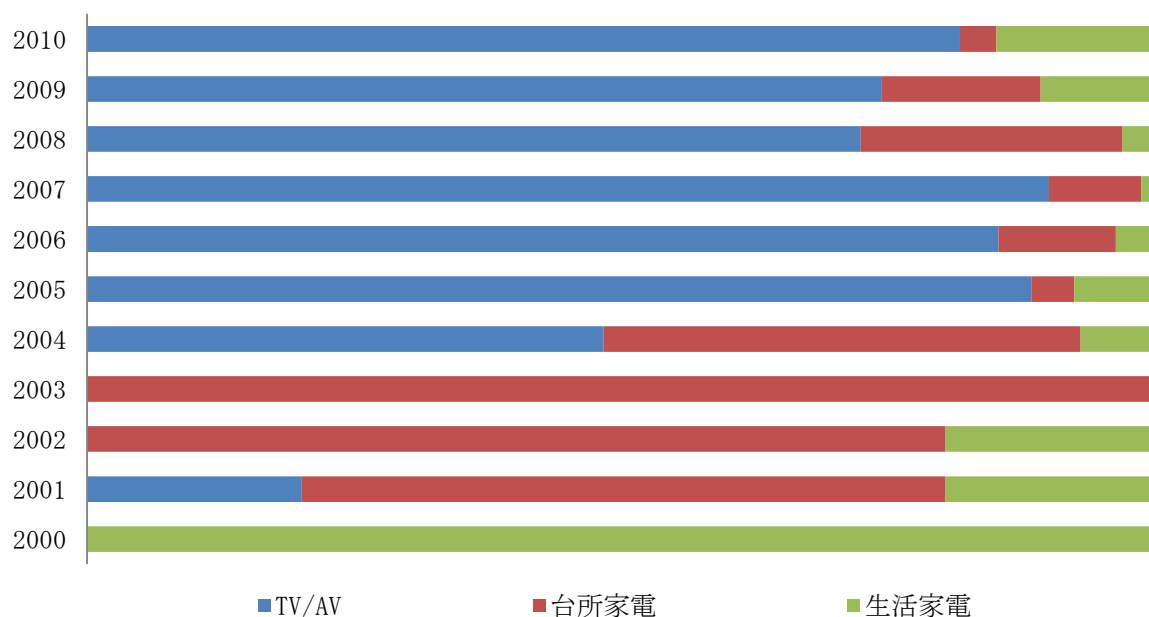
〈表209〉LG電子の家電製品群における各分野の累計出願件数（インド）



〈表210〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（インド）



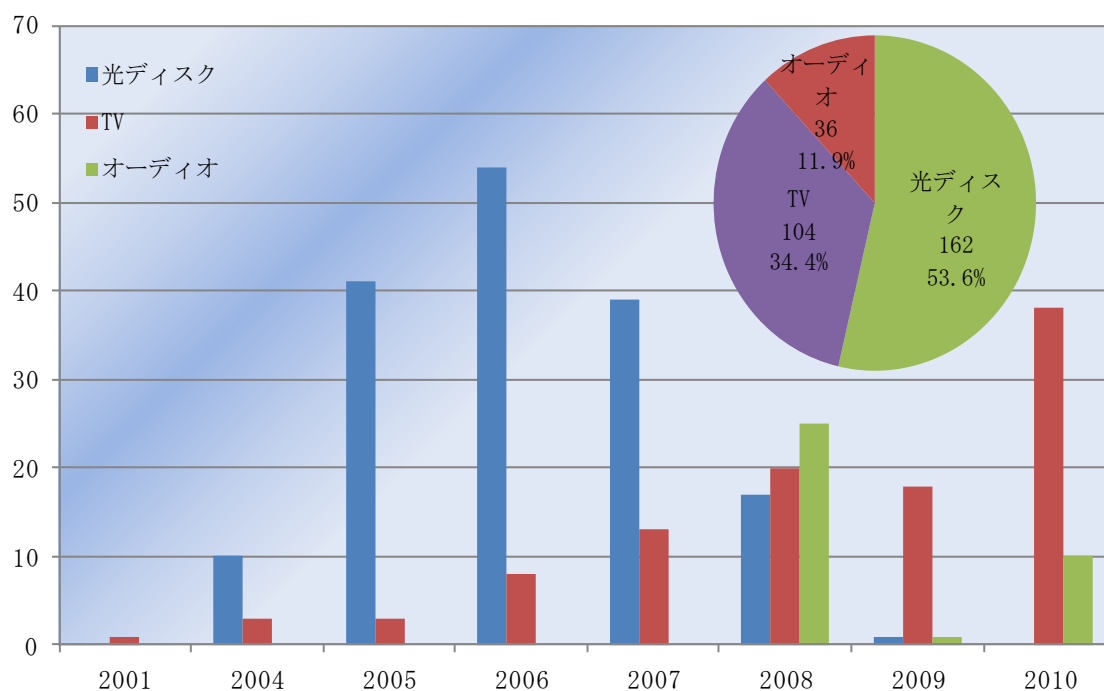
〈表211〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（インド）



(2) TV/AVの特許出願動向

光ディスクが全体の半分以上を占めている。2006年にピークとなったが、2008年より著しく減少している。TVは、2009年に若干減少したが2010年は大幅に増加している。オーディオは、2008年に大幅に増加したが、近年は減少傾向。

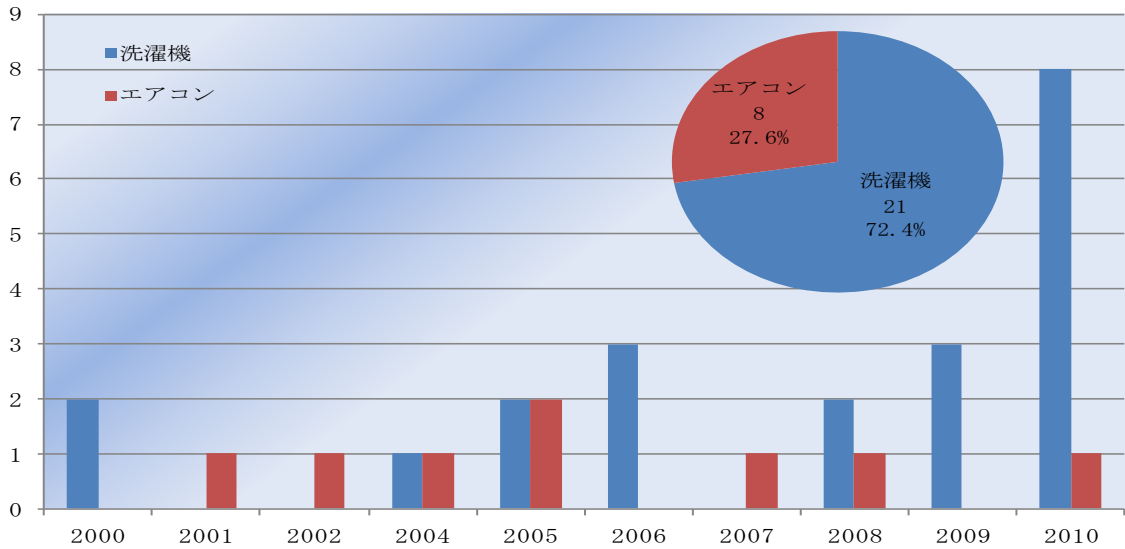
〈表212〉LG電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移（インド）



(3) 生活家電の特許出願動向

洗濯機が7割以上占めており、2010年に大幅に増加している。エアコンは、年に1、2件。または出願していない年もあり、横ばい状態が続いている。

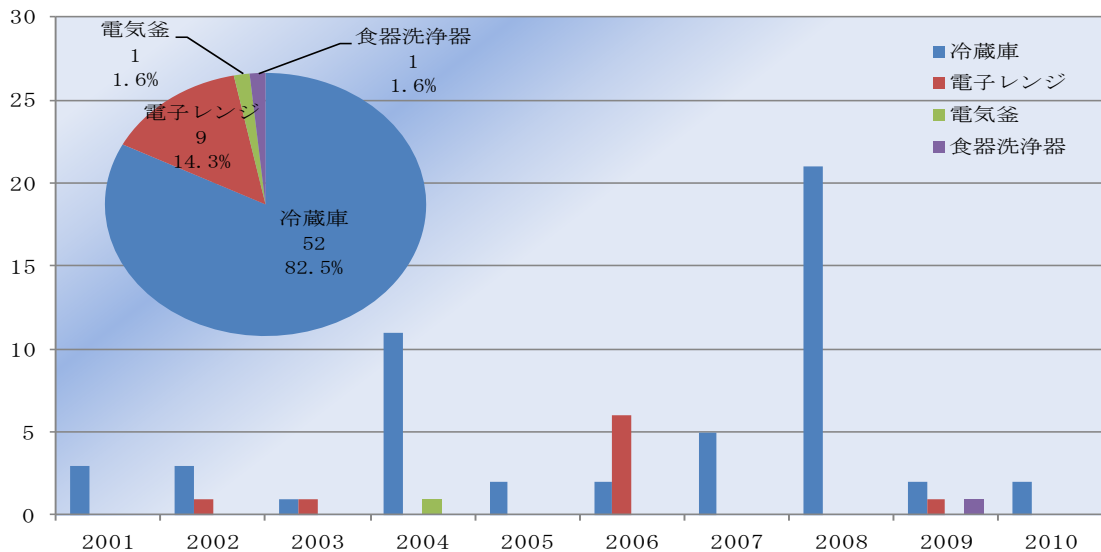
〈表213〉LG電子の生活家電に関する細部製品の年度別推移（インド）



(4) 台所家電の特許出願動向

冷蔵庫の比率が最も多い。ここ10年間出願件数の増減幅の変化が激しく、2008年のピーク後は大幅に減少している。電子レンジは、2006年のみ出願件数が伸びた。電気釜は、ここ10年間で2004年の1件のみ。食器洗浄器は、2009年の1件のみ出願されている。

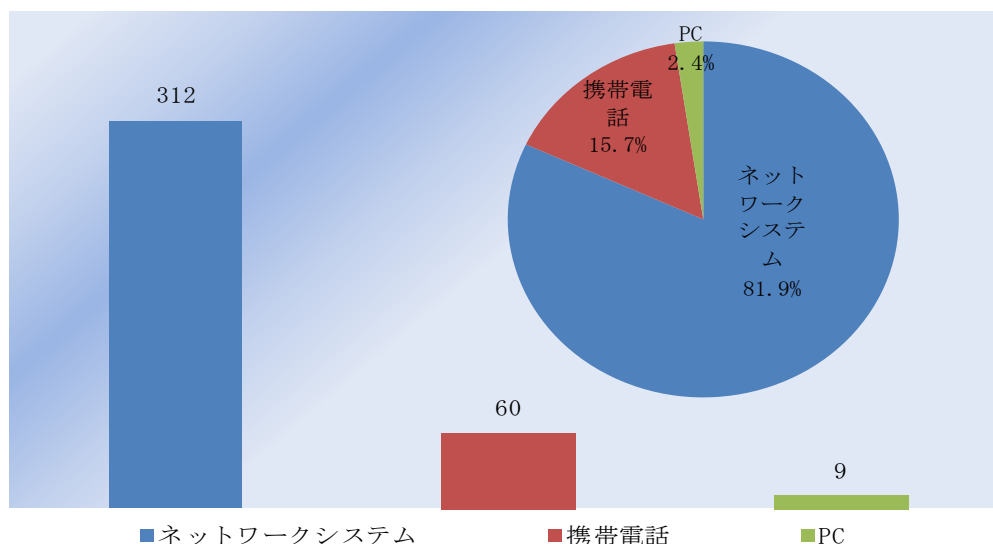
〈表214〉LG電子の台所家電に関する細部製品の年度別推移（インド）



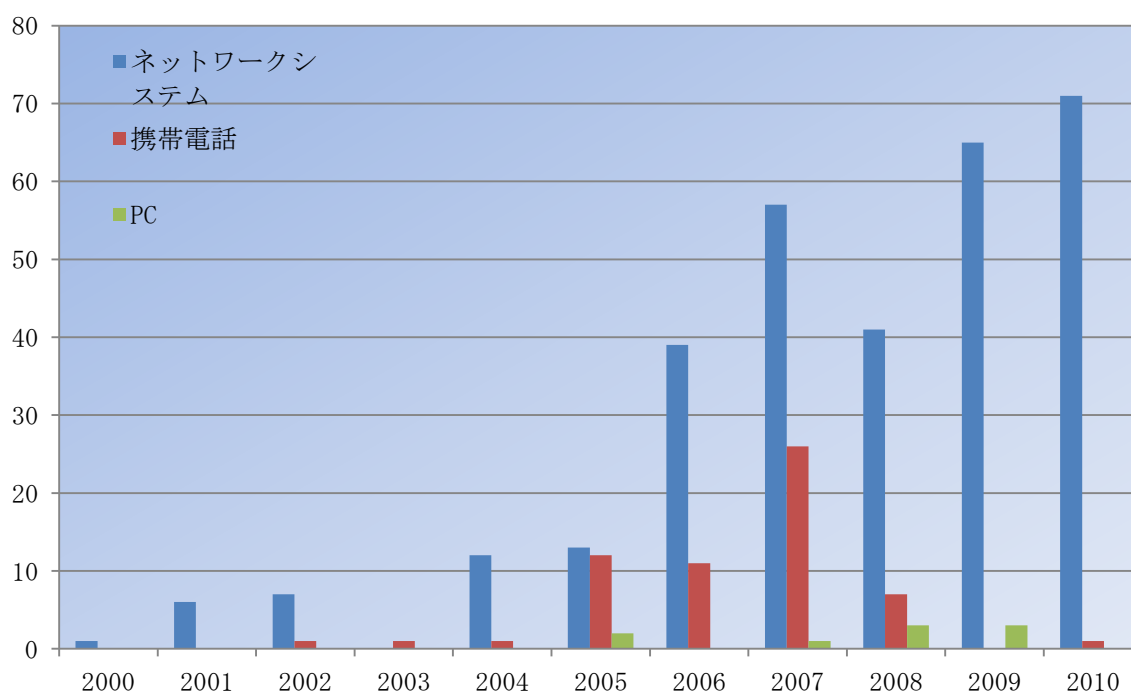
(5) 移動通信/情報通信の特許出願動向

ネットワークシステムが約8割と最も多い。2006年から出願件数が急増、2008年に一時的に減少したが翌年2009年は2007年よりさらに増加している。携帯電話は、2007年のピーク後大幅に減少している。PCは近年小幅ながら増加したが、2010年は出願されていない。

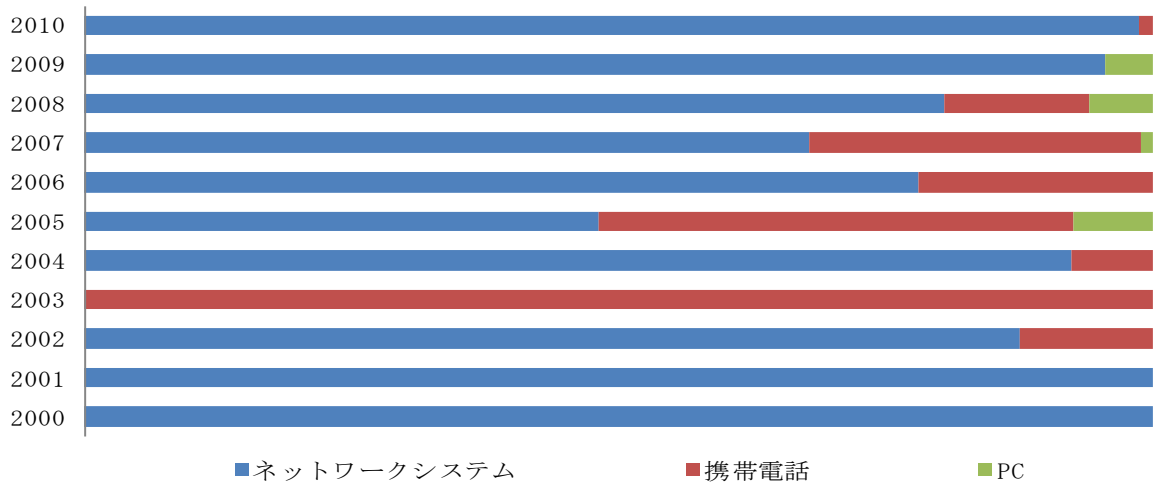
<表215>LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の累計出願件数（インド）



<表216>LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の年度別出願件数の推移（インド）



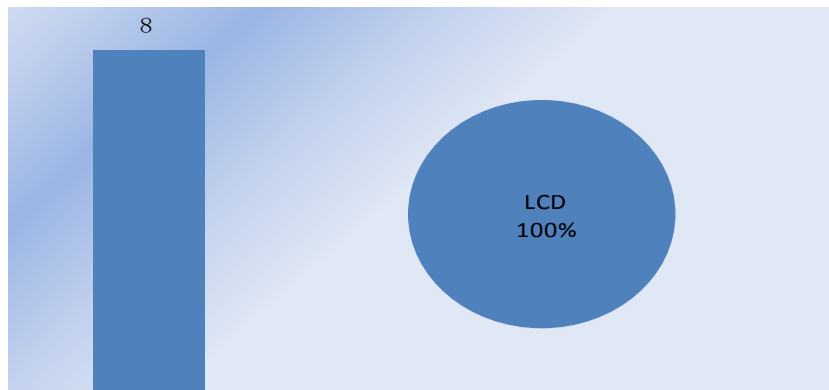
〈表217〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の年度別出願件数の比率
(インド)



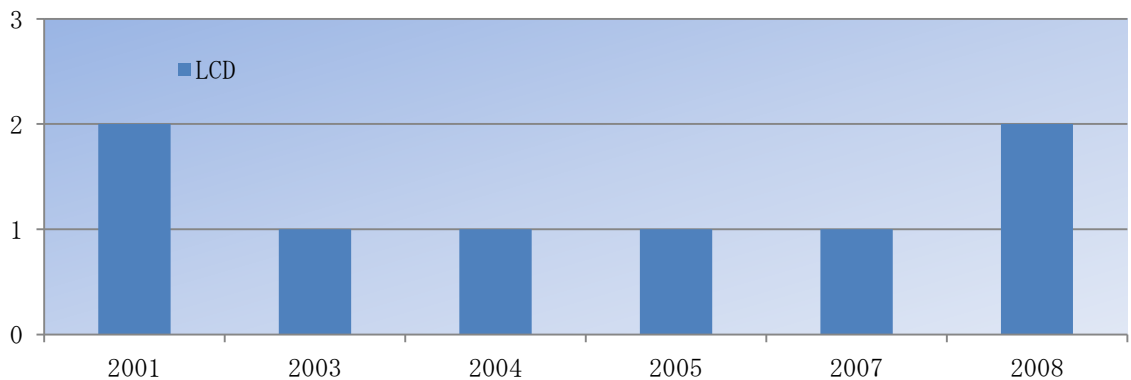
(6) ディスプレイ製品群の特許出願動向

LCD が、100%占めている。小幅ながら 2008 年は出願件数が増加している。

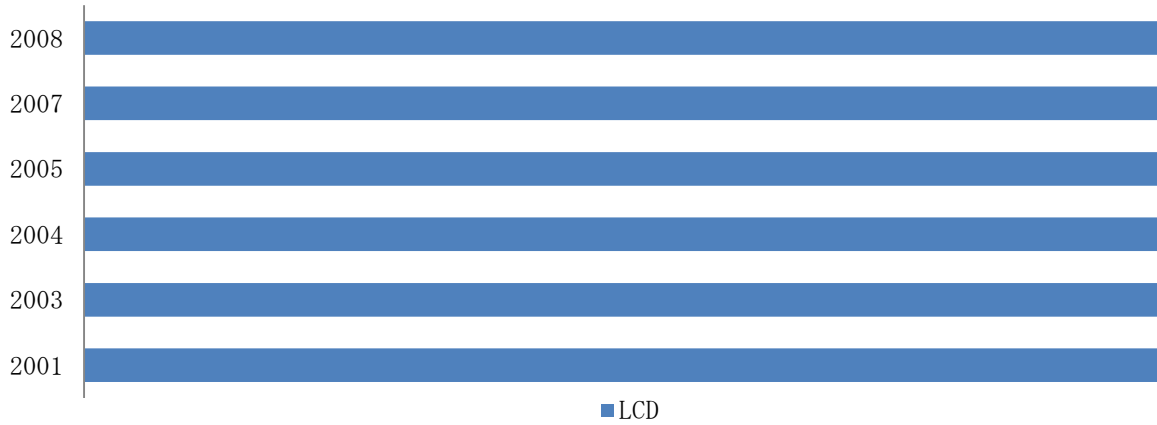
〈表218〉LG電子のディスプレイ製品群における細部製品の累計出願件数 (インド)



〈表219〉LG電子のディスプレイ製品群に関する細部製品の年度別出願件数の推移
(インド)



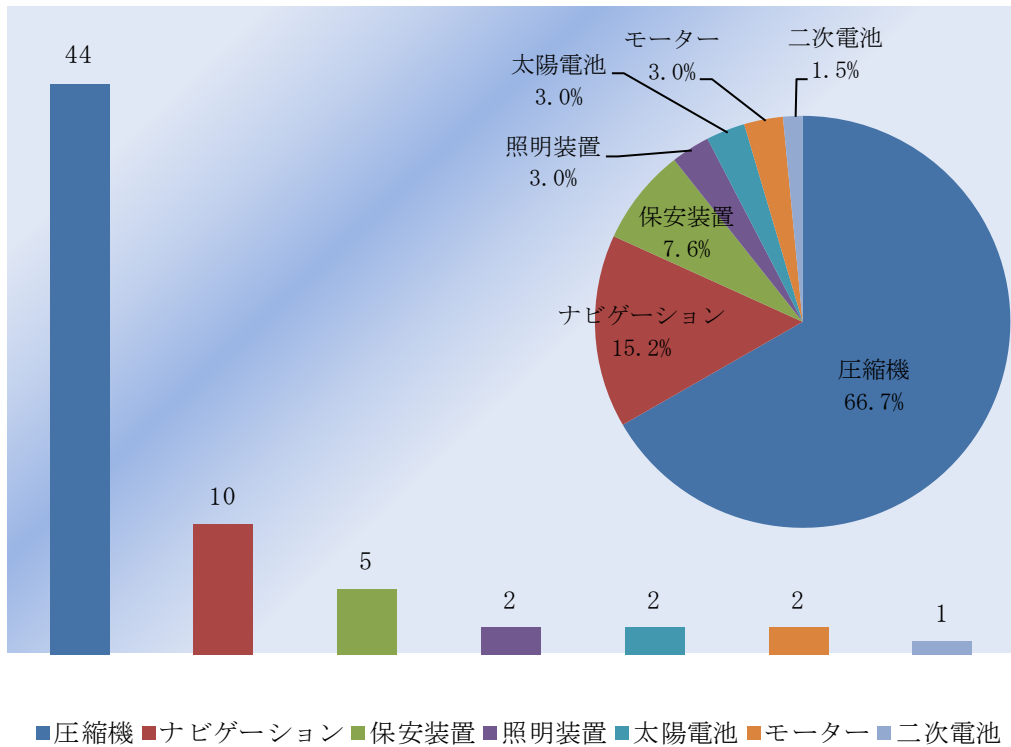
〈表220〉LG電子のディスプレイ製品群における細部製品の年度別出願件数の比率
(インド)



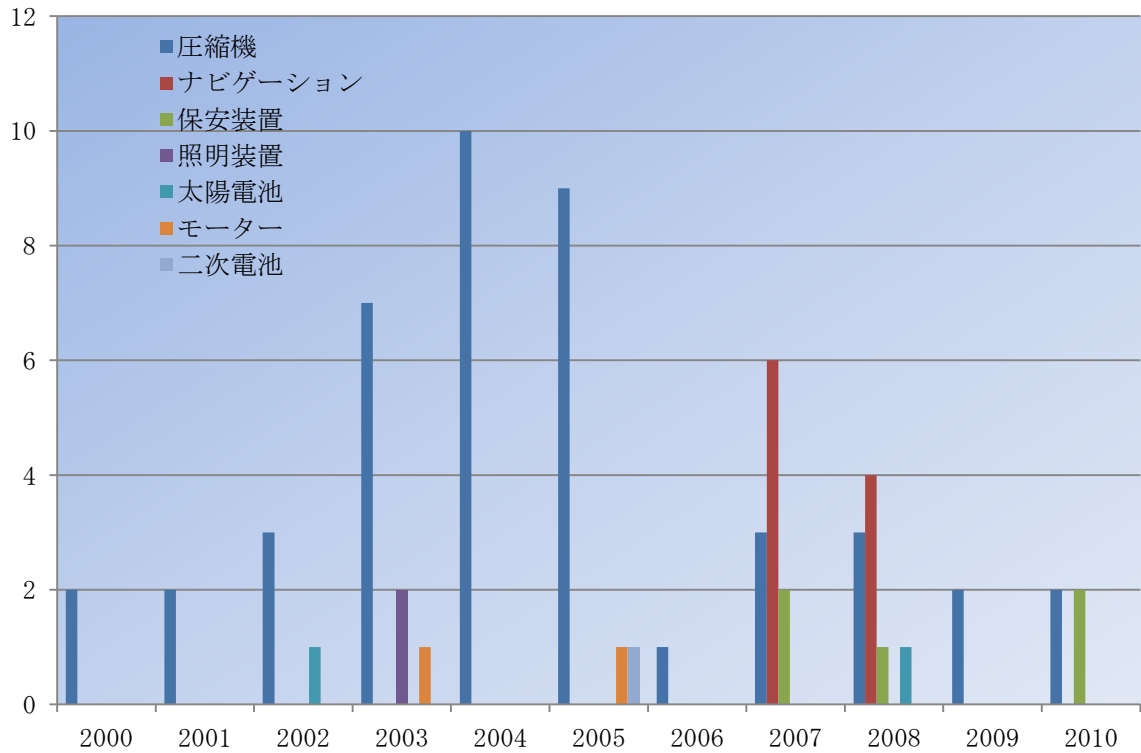
(7) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は、圧縮機が6割強を占めている。2004年に最も多く出願されたがその後は大幅に減少している。ナビゲーションは、2007年と2008年のみ。保安装置は、近年少数ながら出願比率を伸ばしている。照明装置は、2003年の2件のみ。太陽電池は、2002年と2008年に1件ずつ。モーターおよび二次電池は、近年出願されていない。

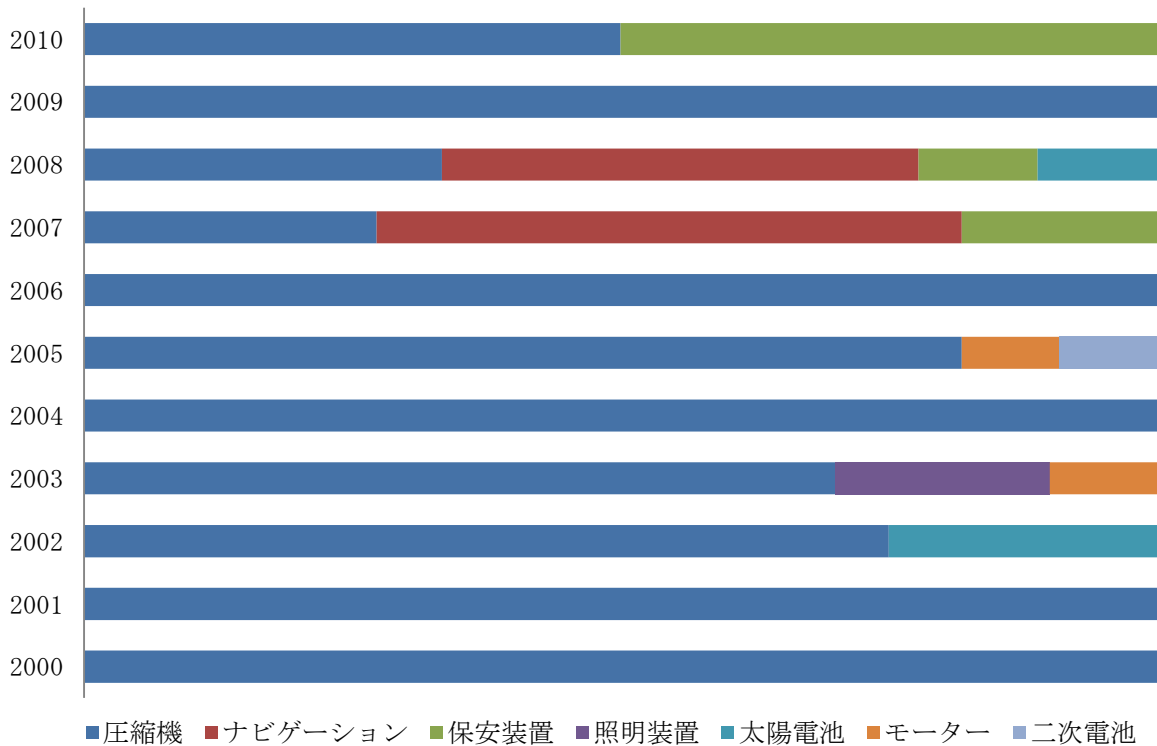
〈表221〉LG電子のその他製品群における細部製品の累計出願件数 (インド)



〈表222〉LG電子のその他製品群における細部製品の年度別出願件数の推移（インド）



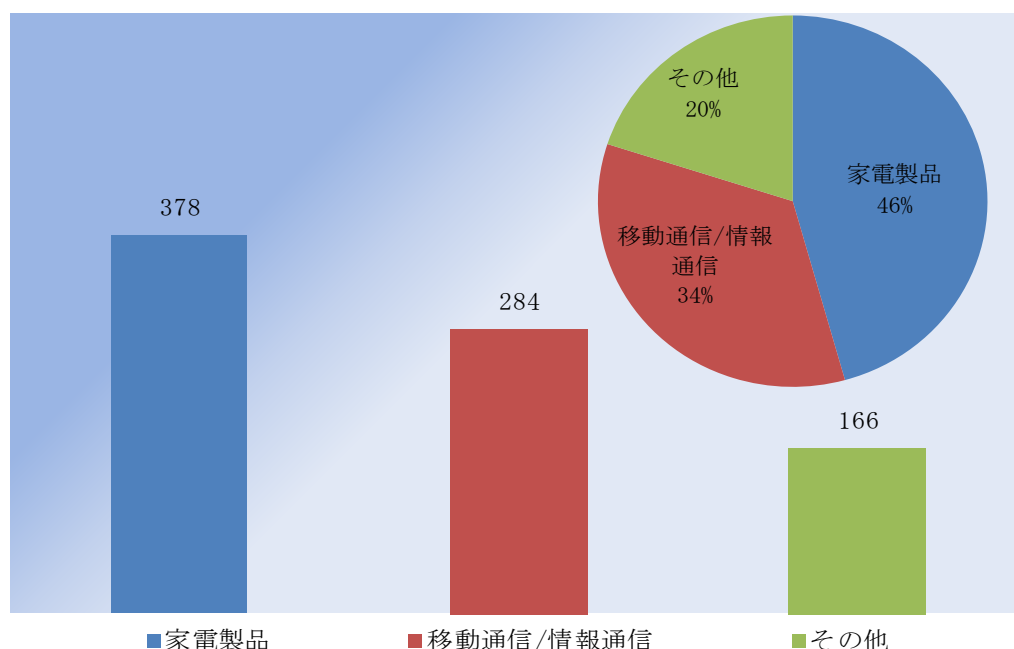
〈表223〉LG電子のその他製品群に関する細部製品の年度別出願件数の比率（インド）



1-9 LG電子の製品群別特許出願動向<ブラジル>

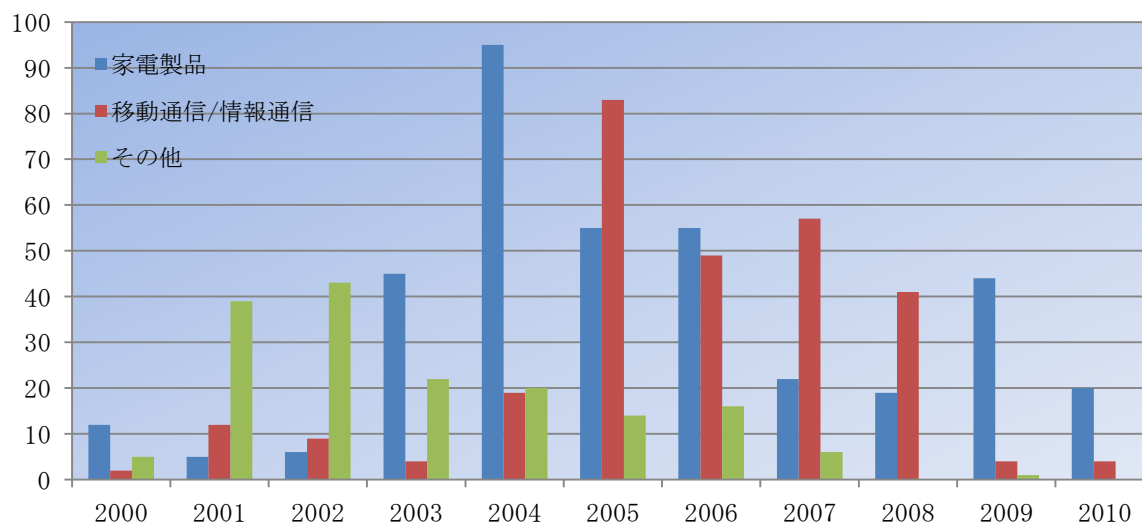
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

<表224> LG電子の製品群別による累計出願件数（ブラジル）

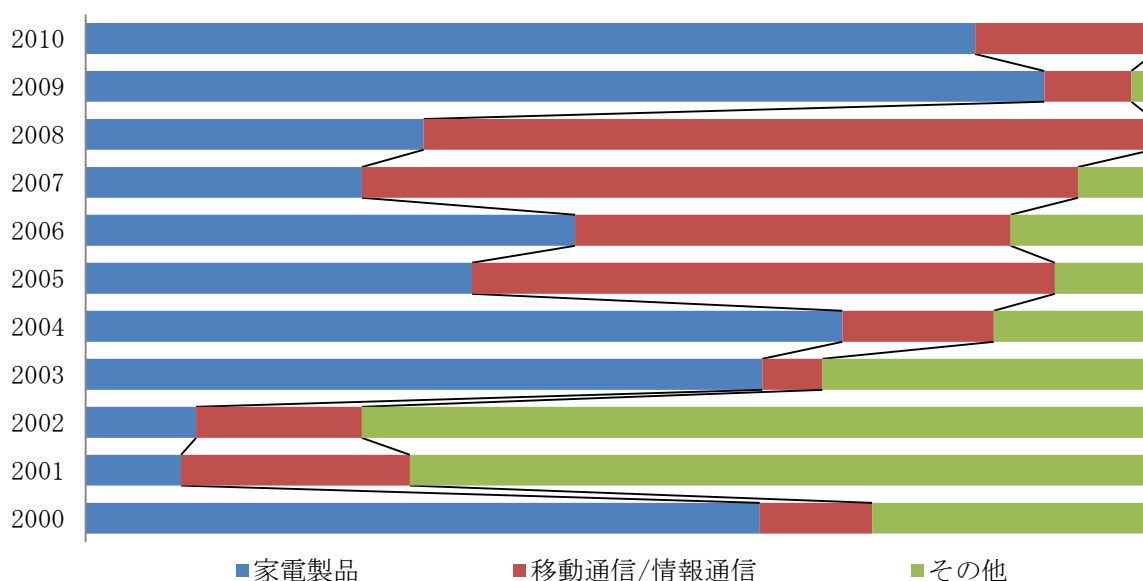


ブラジルへの出願件数において製品群別に見ると、家電製品が4割強を占めている。2004年のピーク以後減少傾向となり、2009年に増加を見せたが2010年に再び減少している。移動通信/情報通信分野は2005年がピークであったが翌年減少し、近年は急激に減少している。その他は、2002年が最も多かったがその後は減少し、近年の出願件数は僅かである。

<表225>LG電子の製品群別出願件数の推移（ブラジル）



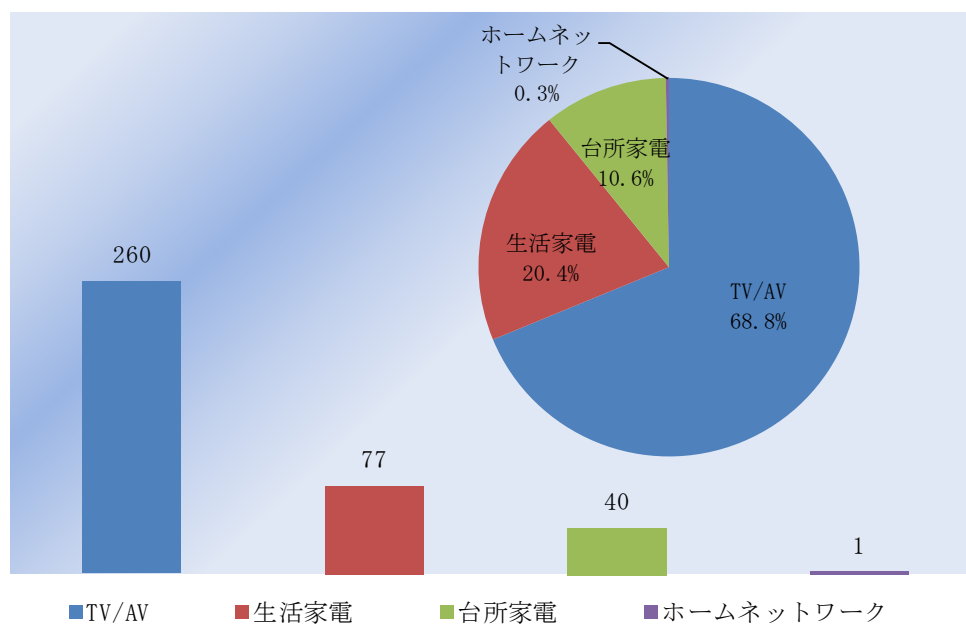
〈表226〉LG電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合
(ブラジル)



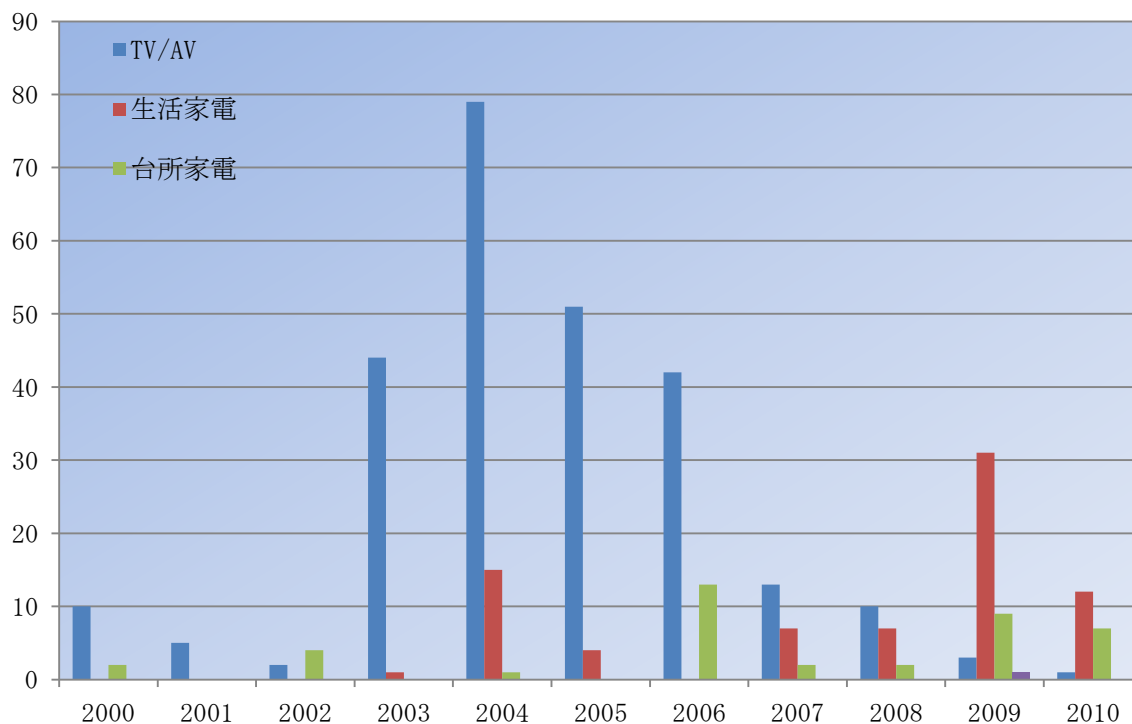
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における各分野の累計出願件数およびその比率の推移を示す。TV/AV が約 7 割と多く占めている。2003 年に急激に増加し 2004 年にピークとなったが、近年は大幅に減少している。生活家電は、2009 年に出願件数を伸ばしたが、2010 年は大幅に減少している。台所家電は、2006 年以後一旦 2009 年に増加したが再び減少している。ホームネットワークは、2009 年に 1 件のみ出願されている。

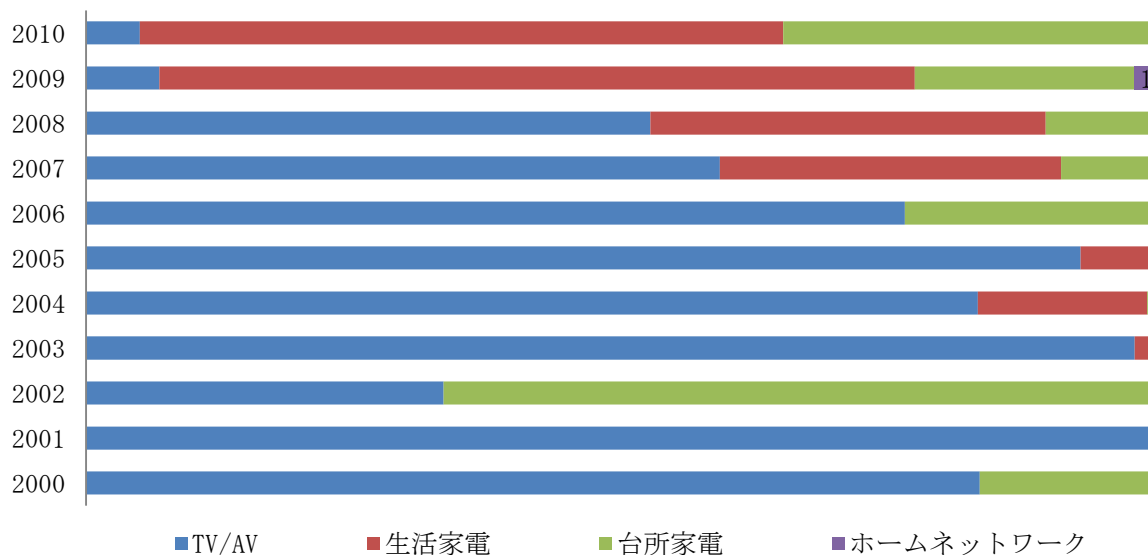
〈表227〉LG電子の家電製品群における各分野の累計出願件数 (ブラジル)



〈表228〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（ブラジル）



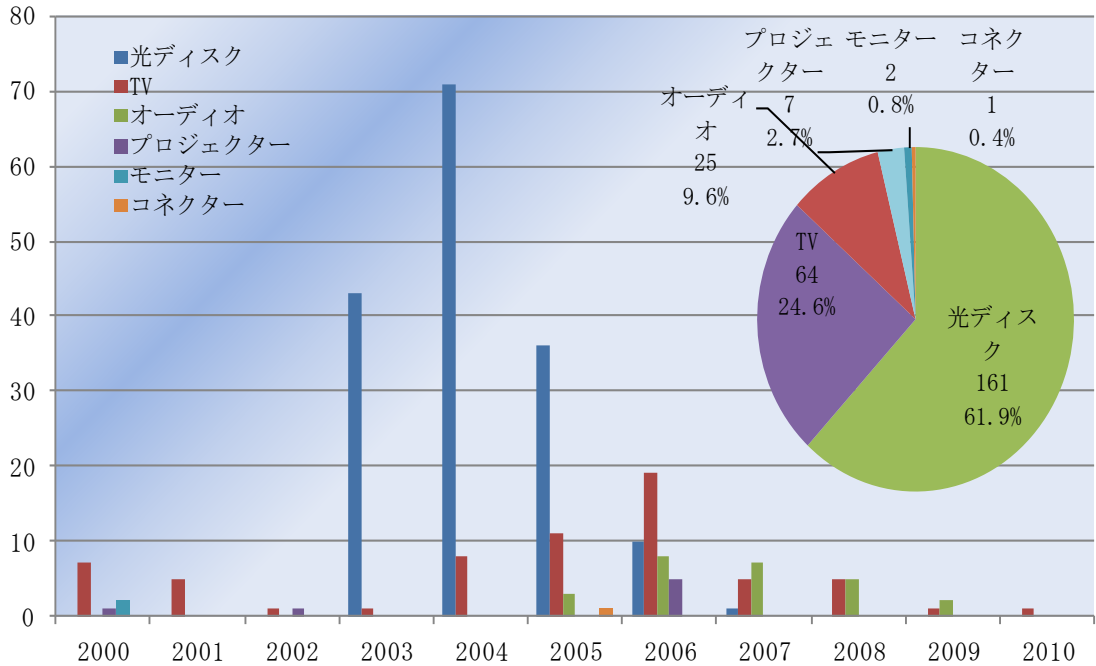
〈表229〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（ブラジル）



(2) TV/AV の特許出願動向

光ディスクが全体の約 6 割を占めているが、2004 年のピーク以後減少し、近年は出願されていない。TV は、2006 年以後減少している。オーディオも減少傾向。プロジェクター、モニター、コネクターはともに出願件数は少なく近年は出願されていない。

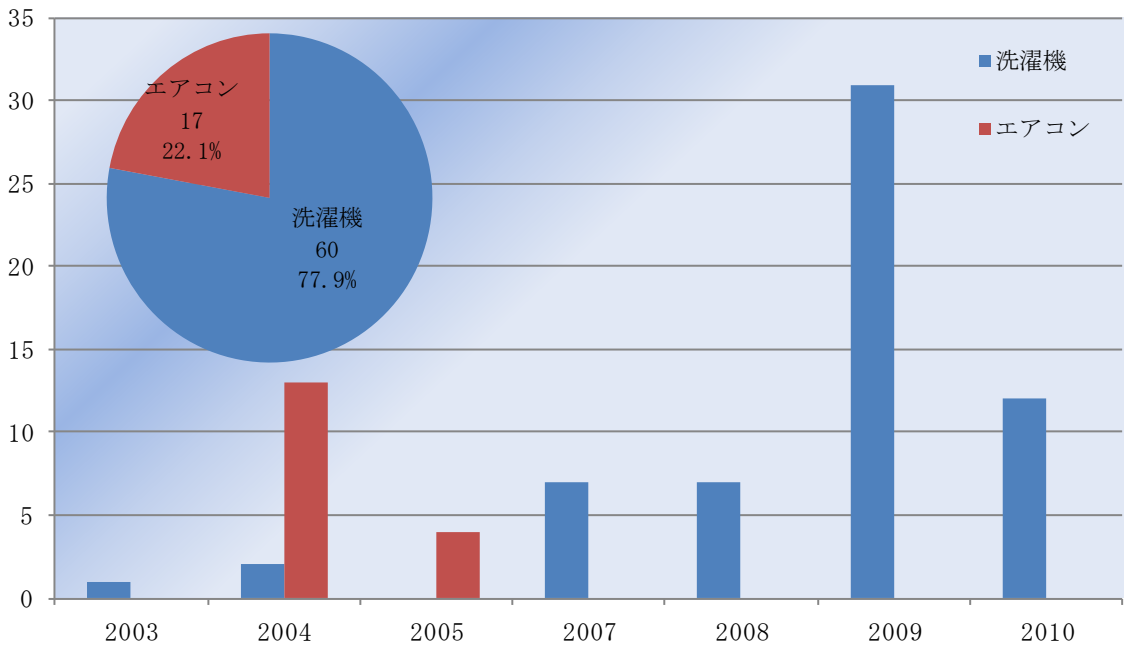
〈表230〉LG電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移（ブラジル）



(3) 生活家電の特許出願動向

洗濯機の比率が多い。2009年に急増したが、2010年は大幅に減少している。エアコンは2004年に多く出願されたが、翌年の2005年は減少し、以後出願されていない。

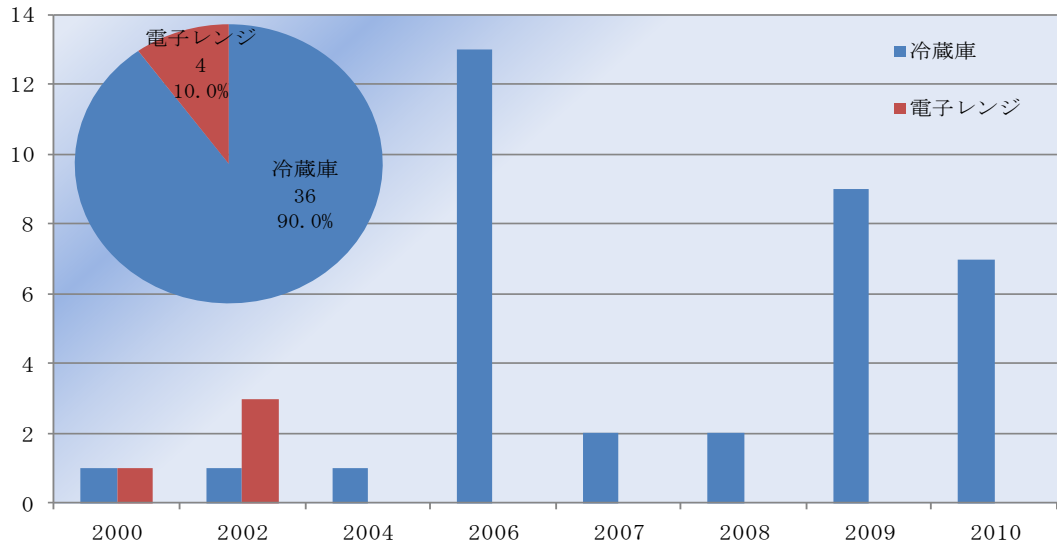
〈表231〉LG電子の生活家電に関する細部製品の年度別推移（ブラジル）



(4) 台所家電の特許出願動向

冷蔵庫の9割を占めているが2006年のピーク以後減少、2009年に若干増加したものの2010年は減少している。電子レンジは、2002年の出願以後出願されていない。

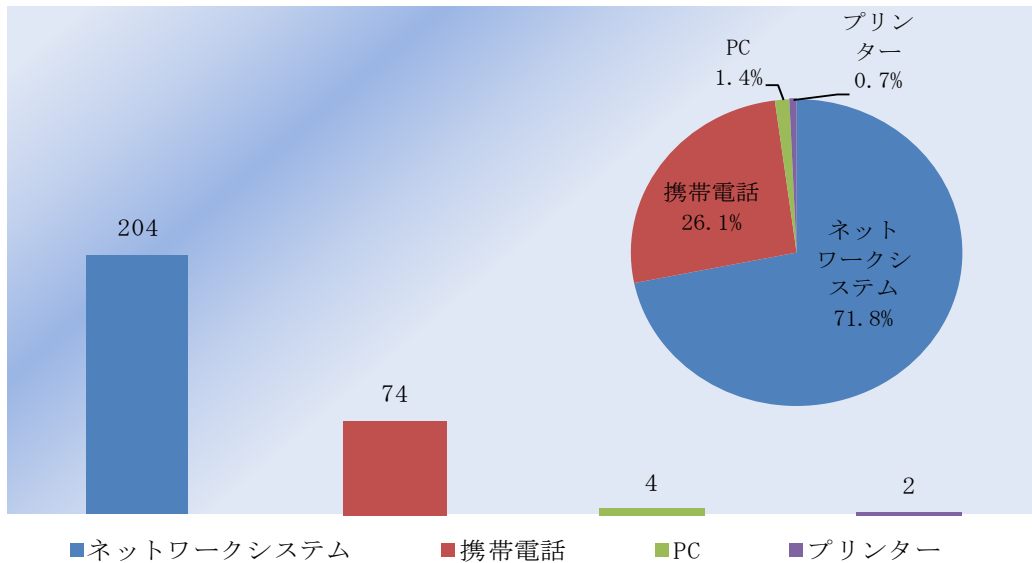
〈表232〉LG電子の台所家電に関する細部製品の年度別推移（ブラジル）



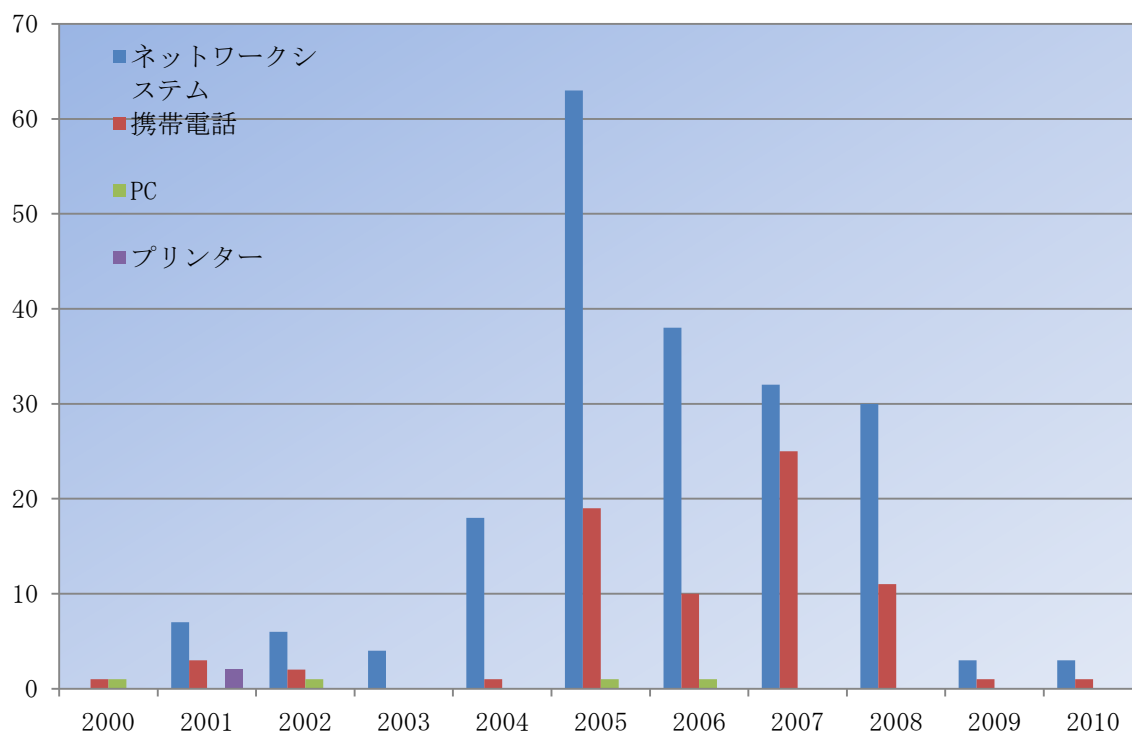
(5) 移動通信/情報通信の特許出願動向

ネットワークシステムが約7割占めている。2005年に前年の3倍以上増加したが、その後は徐々に減少、2009年以後は僅かに出願されている。携帯電話は、2007年のピーク以後減少、近年はネットワークシステムと同様の動きを見せている。PCは、2006年以後出願されていない。プリンターは、ここ10年間で2001年の2件のみ出願されている。

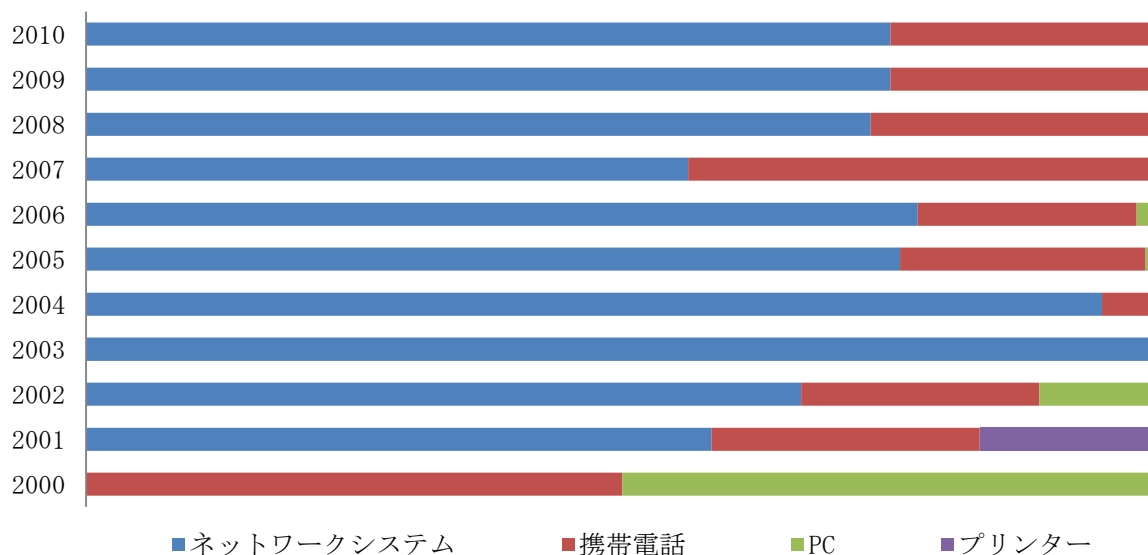
〈表233〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の累計出願件数（ブラジル）



〈表234〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の年度別出願件数の推移
(ブラジル)



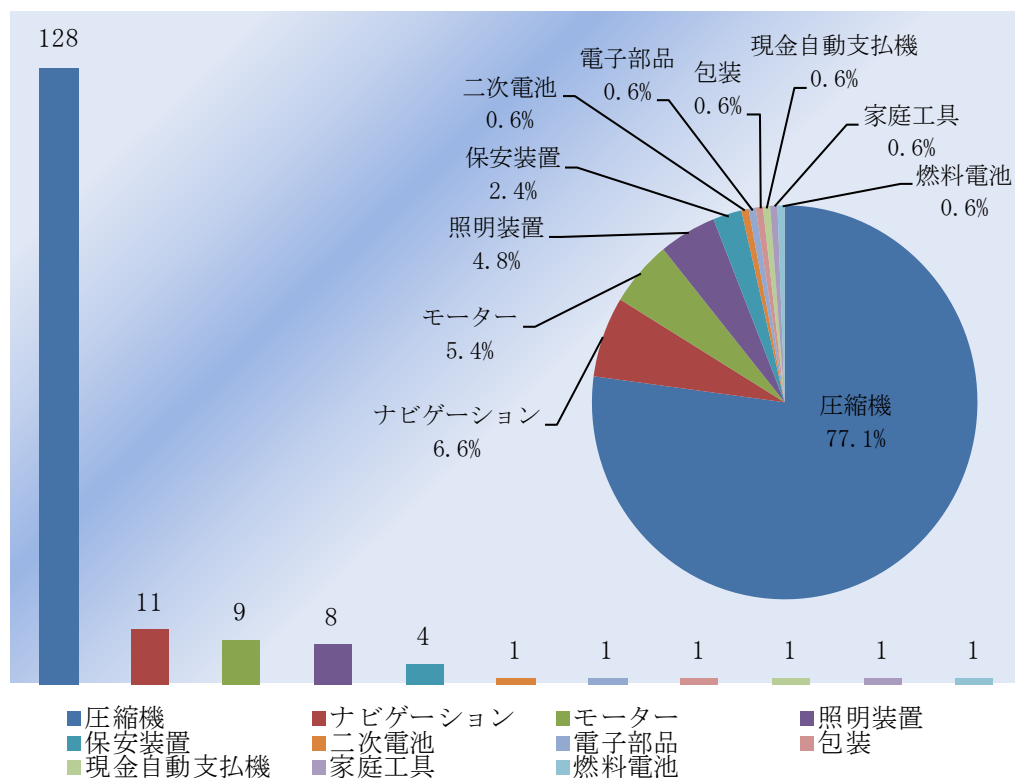
〈表235〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の年度別出願件数の比率
(ブラジル)



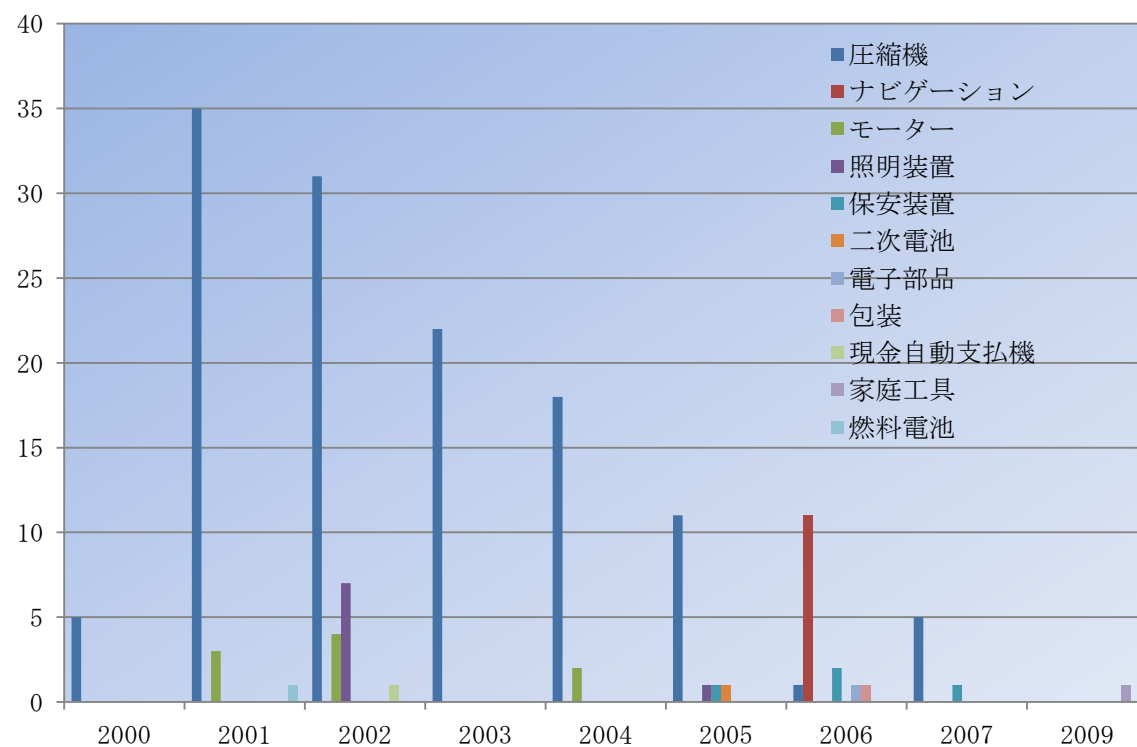
(6) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は、圧縮機が7割強を占め、出願件数が他の製品より圧倒的に多い。2001年に最も多く出願されたが、その後は徐々に減少し近年は非常に少ない。次のナビゲーションは、2006年にのみ11件出願されている。

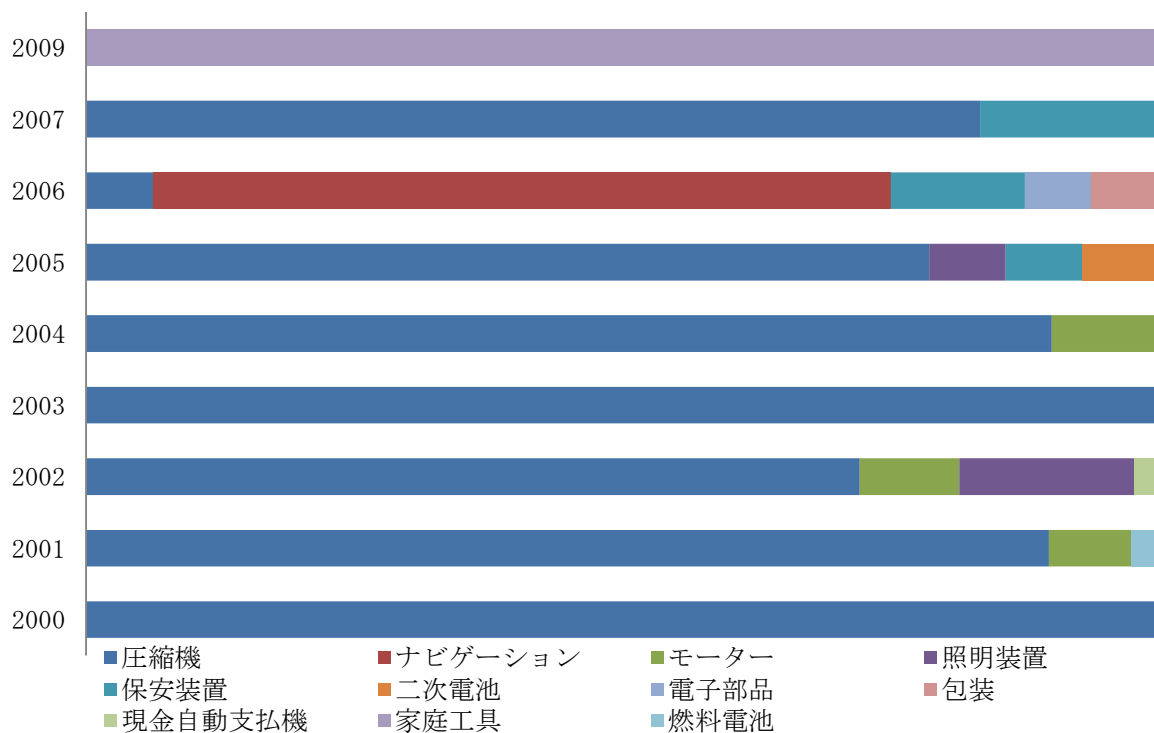
〈表236〉LG電子のその他製品群における細部製品の累計出願件数（ブラジル）



〈表237〉LG電子のその他製品群における細部製品の年度別出願件数の推移（ブラジル）



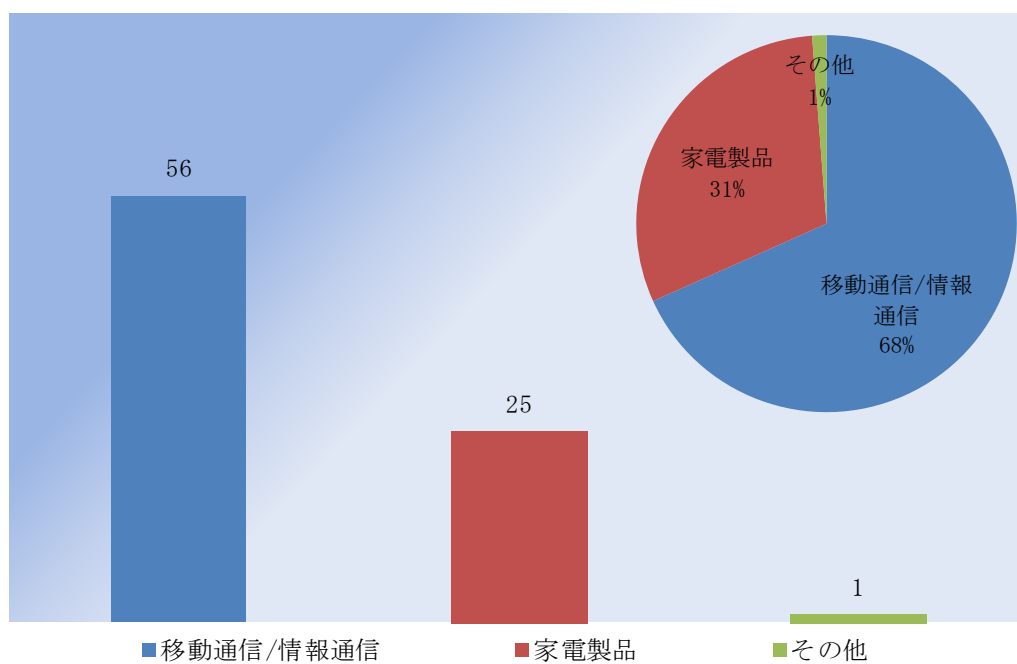
〈表238〉LG電子のその他製品群における細部製品の年度別出願件数の比率（ブラジル）



1-10 LG電子の製品群別特許出願動向〈南アフリカ〉

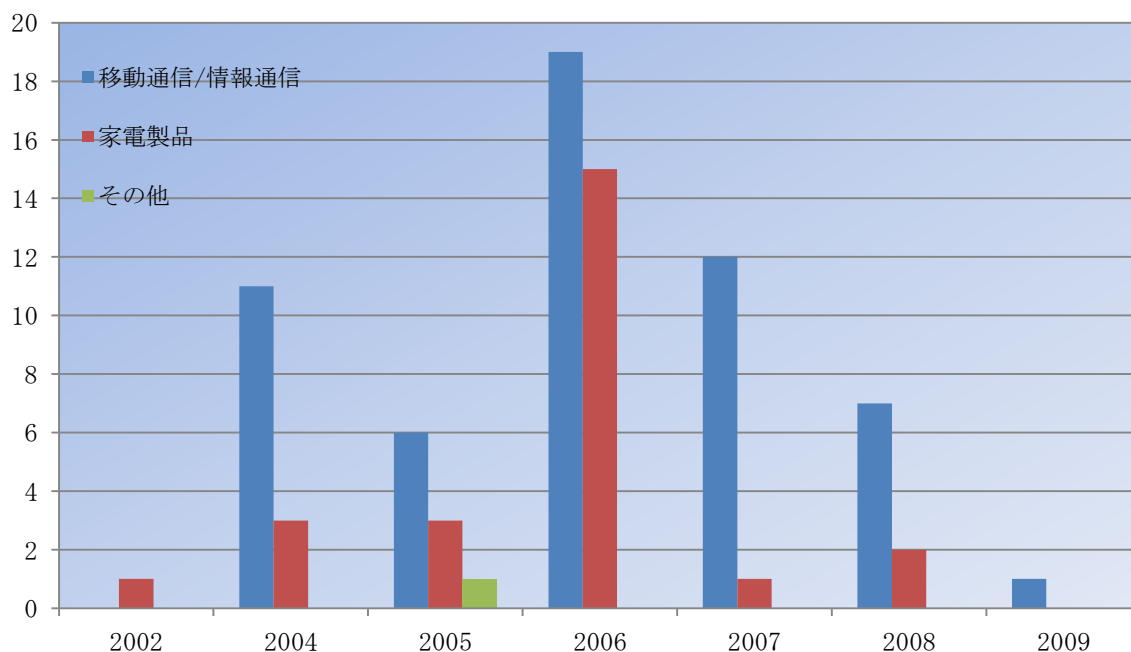
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

〈表239〉LG電子の製品群別による累計出願件数（南アフリカ）

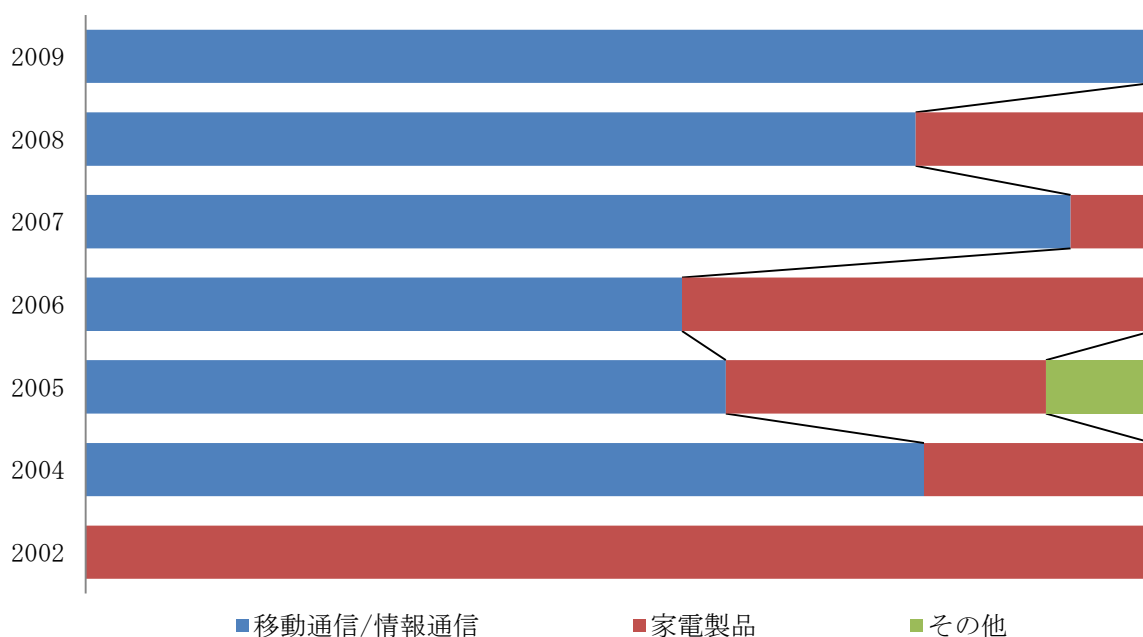


南アフリカへの出願件数において製品群別に見ると、移動通信/情報通信分野が約7割を占めている。2006年のピーク後は大幅に減少している。家電製品も移動通信/情報通信分野と同様に2006年以後減少している。その他は、2005年に1件のみ出願されている。

〈表240〉LG電子の製品群別出願件数の推移（南アフリカ）



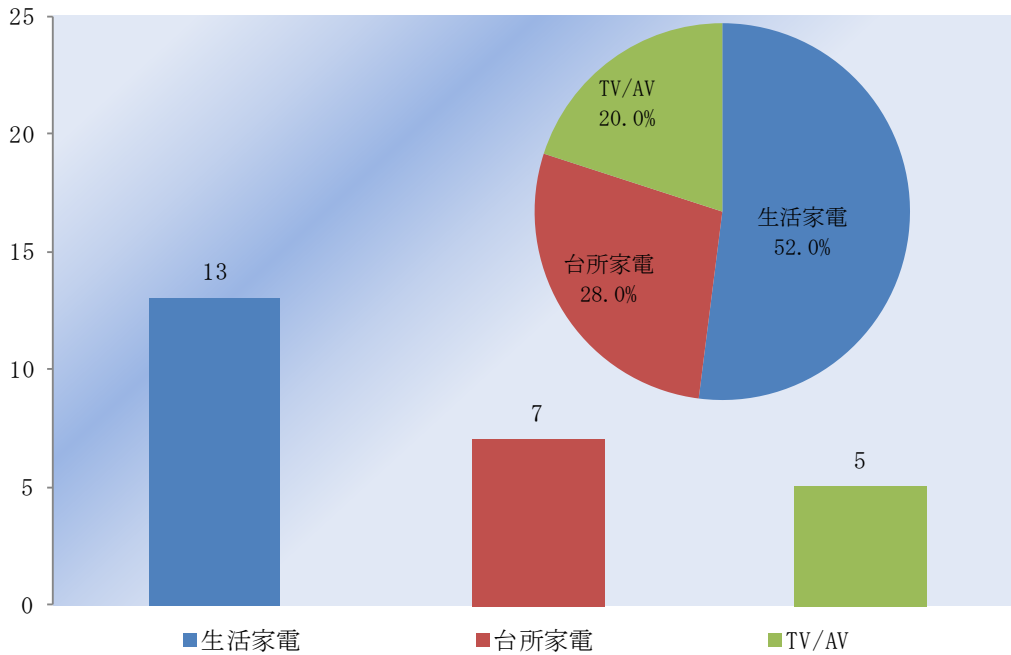
〈表241〉LG電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合（南アフリカ）



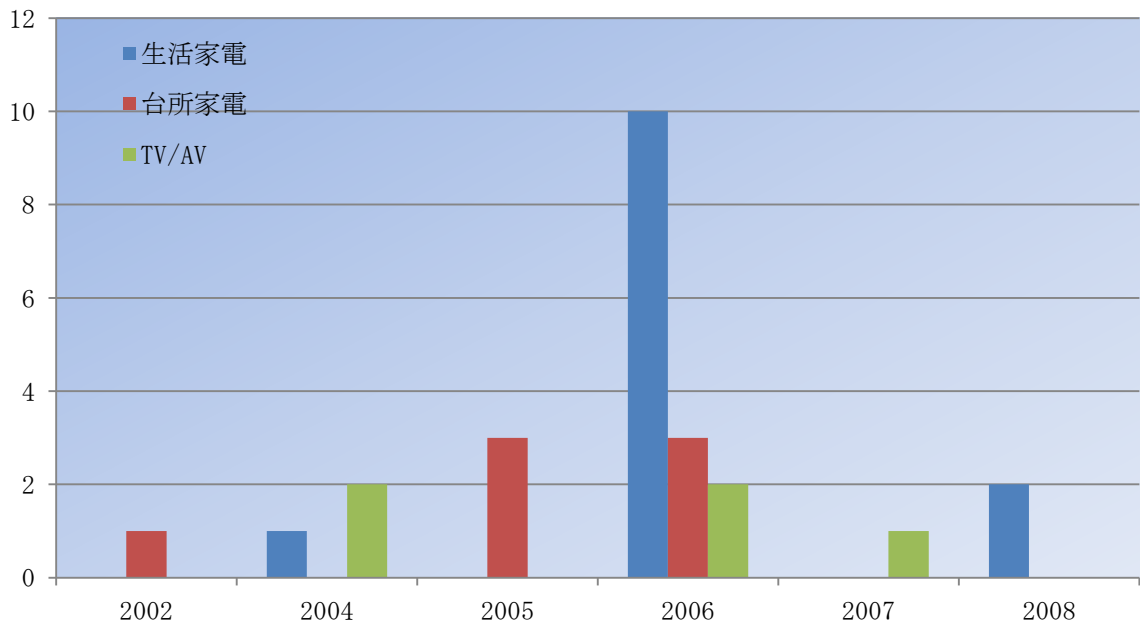
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における累計出願件数およびその比率の推移を示す。生活家電が半数以上占めているが、2006年のピーク以後大幅に減少している。台所家電は、2006年以後、TV/AVは2007年以後出願されていない。

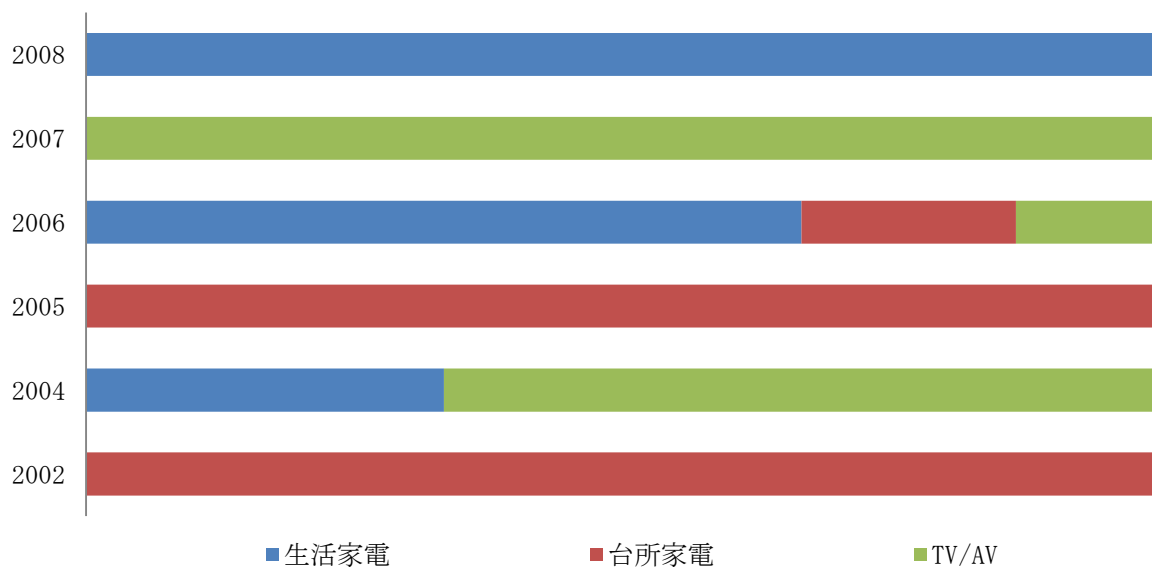
〈表242〉LG電子の家電製品群における各分野の累計出願件数（南アフリカ）



〈表243〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（南アフリカ）



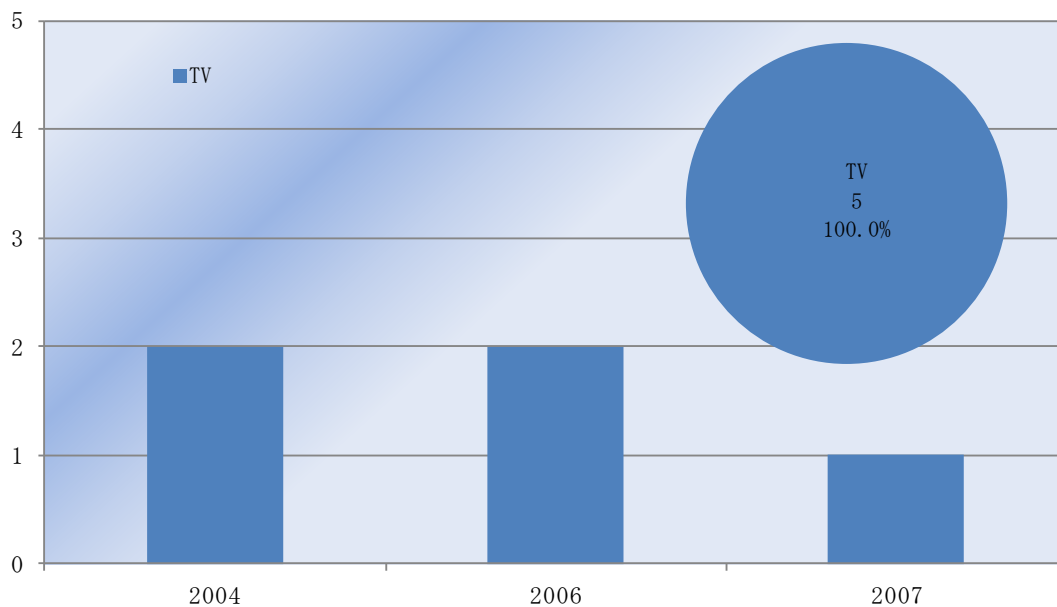
〈表244〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（南アフリカ）



(2) TV/AVの特許出願動向

TVが100%占めている。出願件数は非常に少なく、2007年に若干減少している。

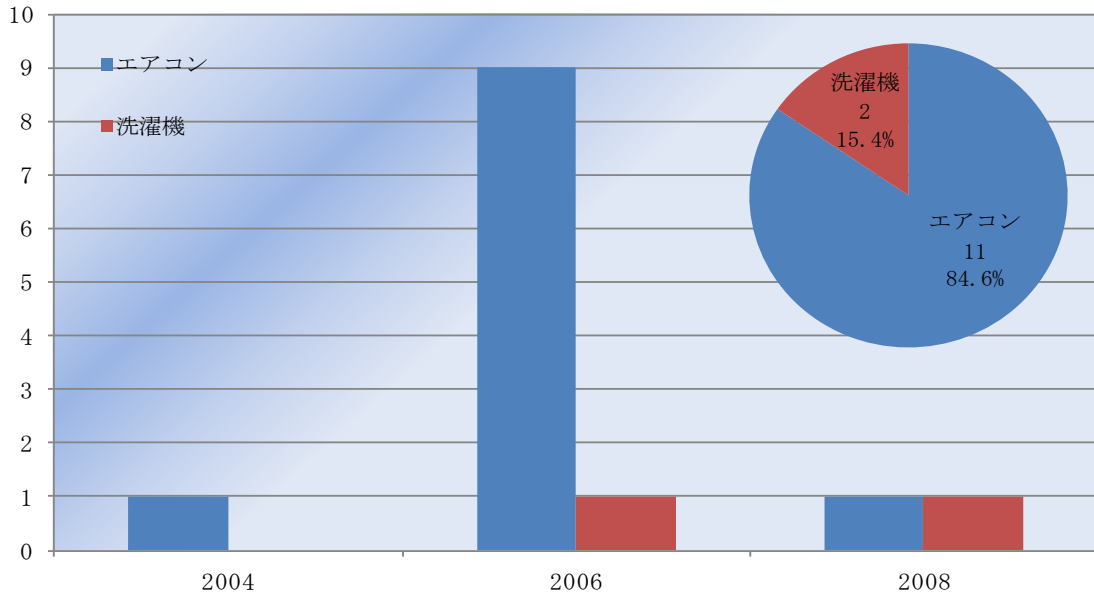
〈表245〉LG電子のTV/AVに関する細部製品の年度別推移（南アフリカ）



(3) 生活家電の特許出願動向

エアコンが8割強占めているが、2006年のピーク以後大幅に減少している。洗濯機の出願件数は横ばい状態である。

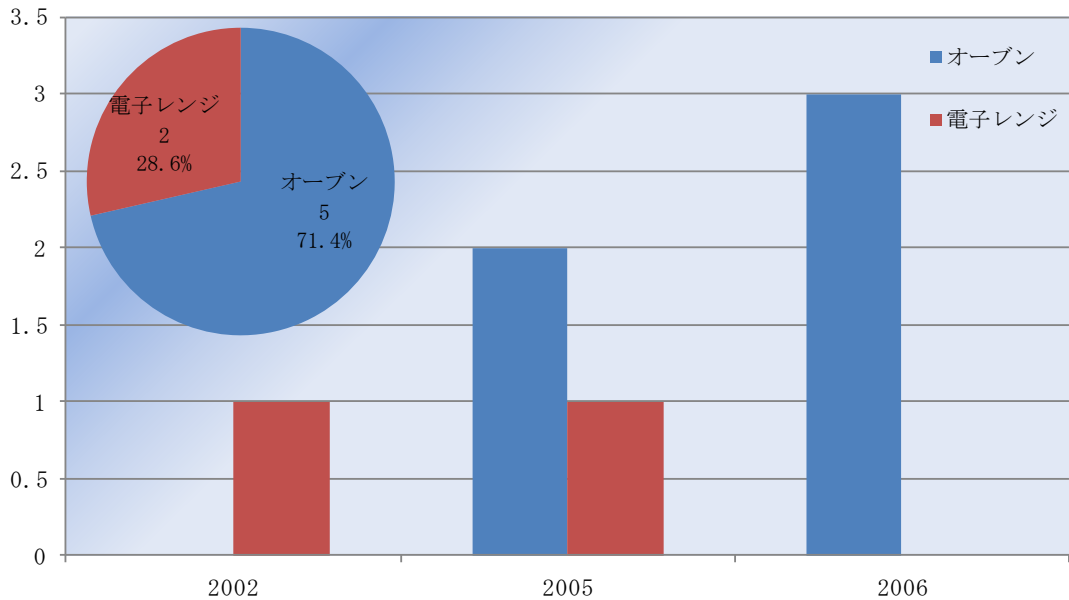
〈表246〉LG電子の生活家電に関する細部製品の年度別推移（南アフリカ）



(4) 台所家電の特許出願動向

オープンが約7割を占めている。電子レンジは、横ばい状態で2005年以後出願されていない。

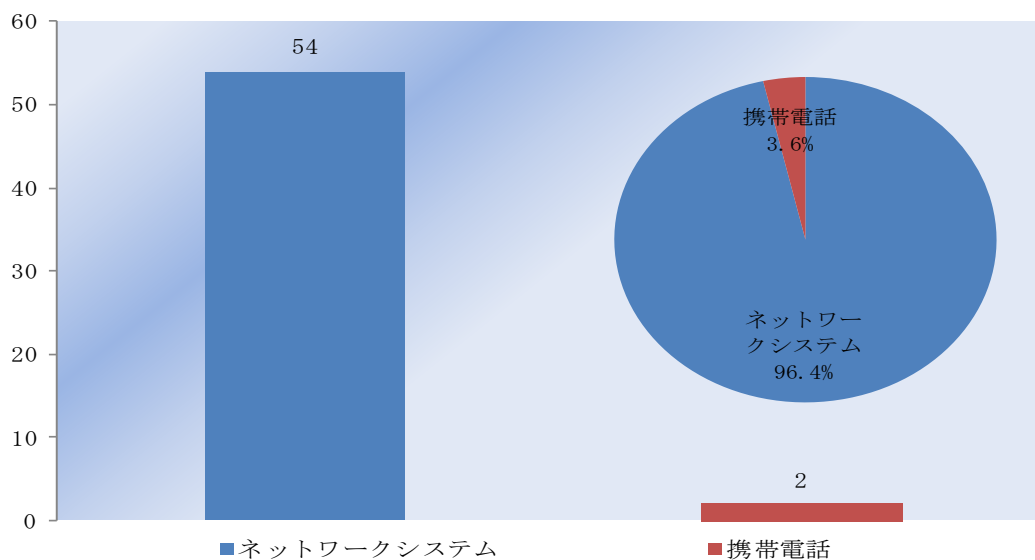
〈表247〉LG電子の台所家電に関する細部製品の年度別推移（南アフリカ）



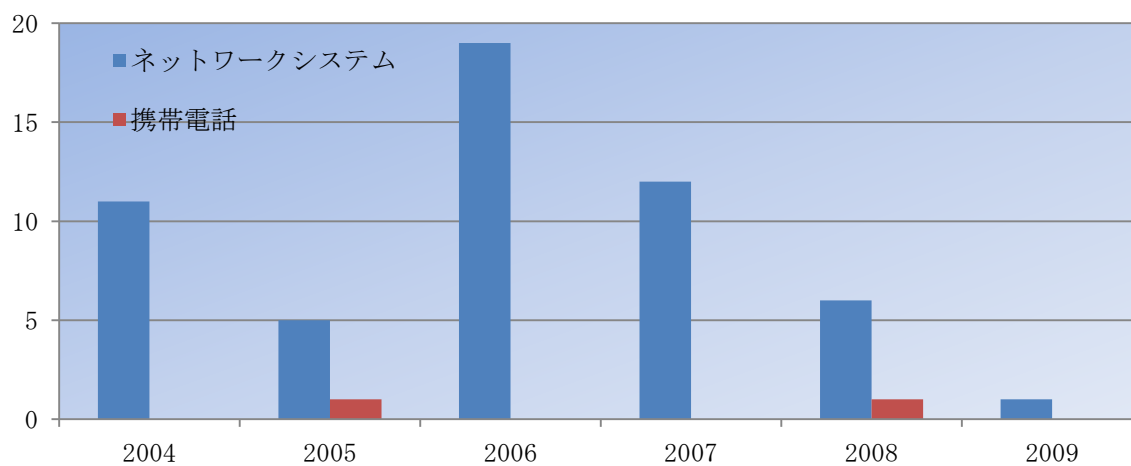
(5) 移動通信/情報通信の特許出願動向

ネットワークシステムがほぼ占めている。2006年のピーク以後減少傾向である。携帯電話は、2005年と2008年で2件のみ出願されている。

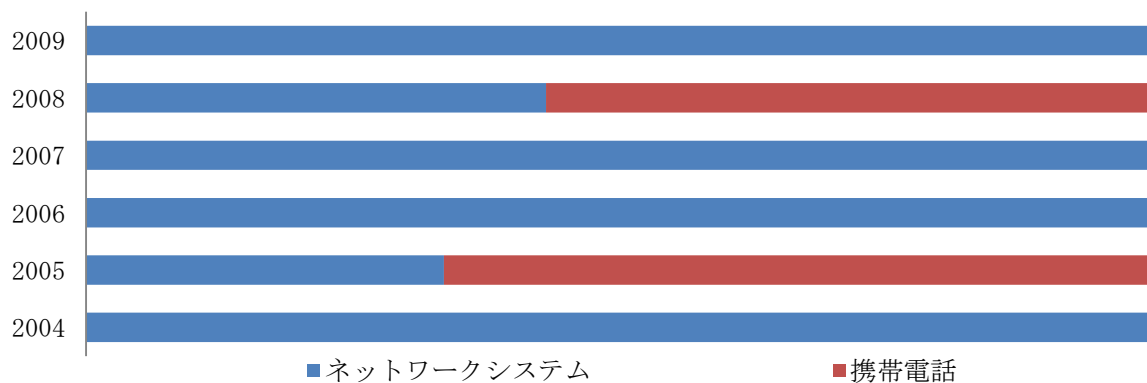
〈表248〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の累計出願件数
(南アフリカ)



〈表249〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の年度別出願件数の推移
(南アフリカ)



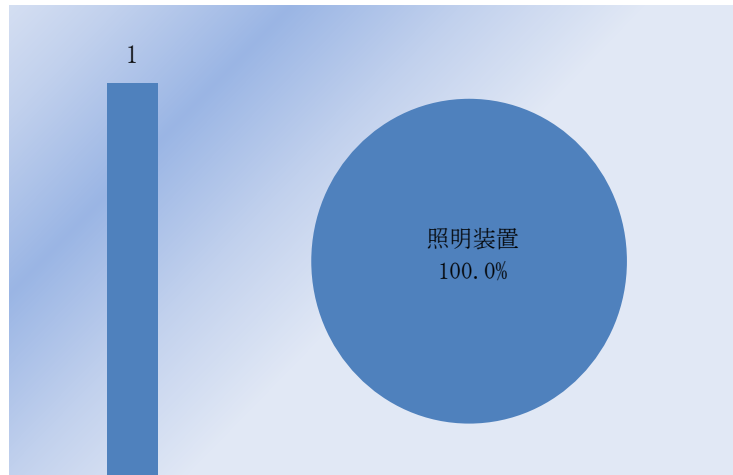
〈表250〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の年度別出願件数の比率
(南アフリカ)



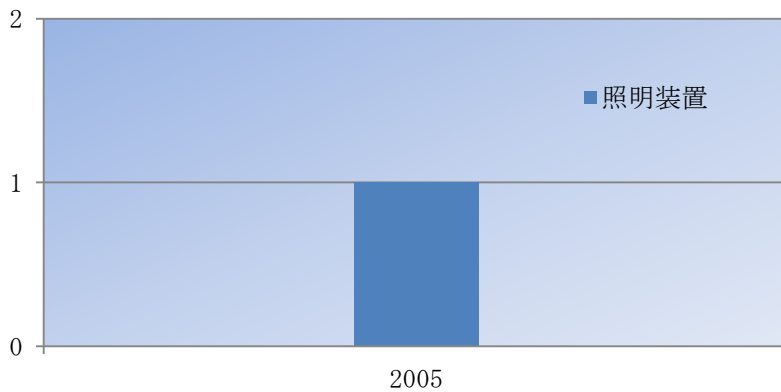
(6) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は、照明装置が100%占めている。2005年に1件のみ出願されている。

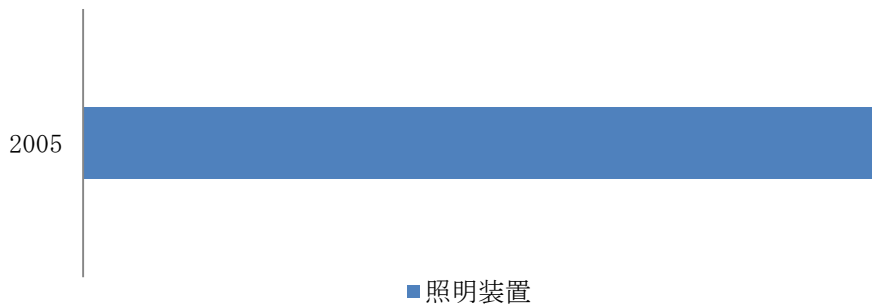
<表251>LG電子のその他製品群における細部製品の累計出願件数（南アフリカ）



<表252>LG電子のその他製品群における細部製品の年度別出願件数の推移（南アフリカ）



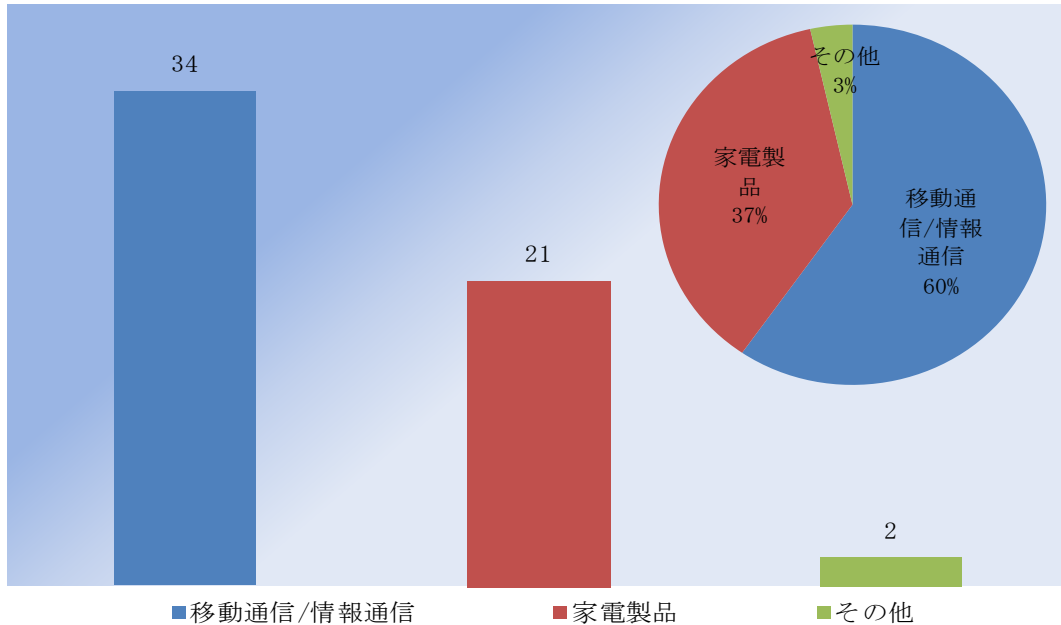
<表253>LG電子のその他製品群における細部製品の年度別出願件数の比率（南アフリカ）



1-11 LG電子の製品群別特許出願動向<ベトナム>

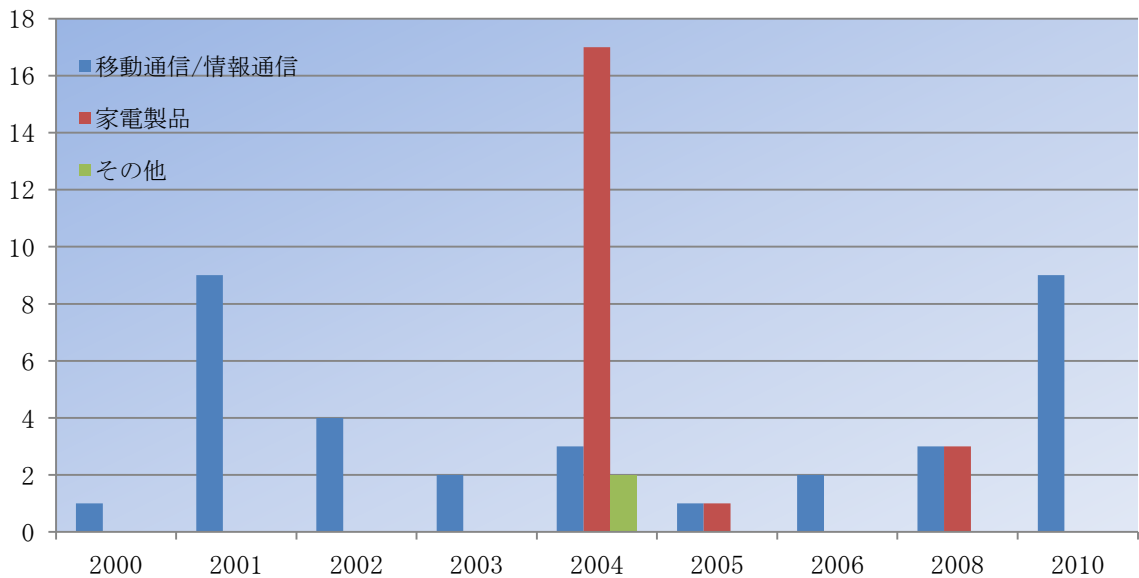
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

<表254> LG電子の製品群別による累計出願件数 (ベトナム)

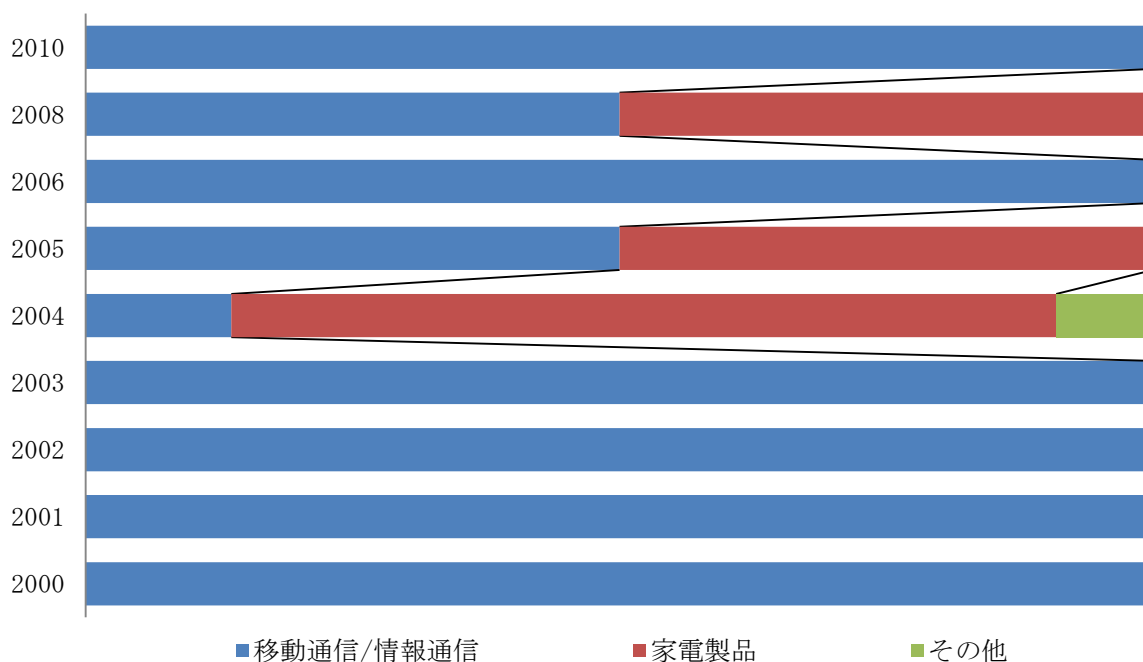


ベトナムへの出願件数において製品群別に見ると、移動通信/情報通信分野が6割を占めている。2002年から2005年まで減少傾向であったが、近年は大幅に増加している。家電製品は、2004年に最も多く出願されたが、その後は減少している。その他は、2004年に2件のみ出願されている。

<表255>LG電子の製品群別出願件数の推移 (ベトナム)



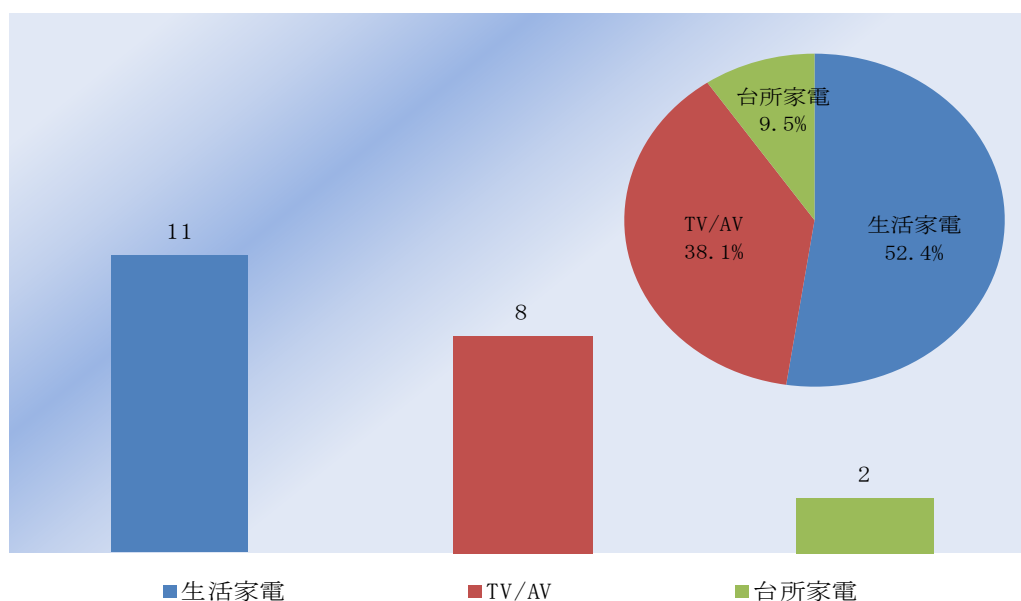
〈表256〉LG電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合
(ベトナム)



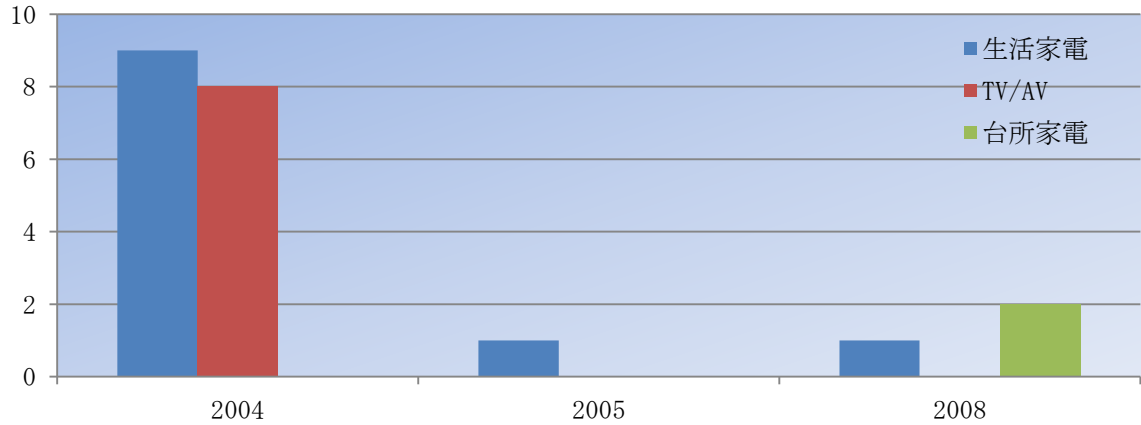
(1) 家電製品群の特許出願動向

下記の表においては、家電製品群における出願件数およびその比率の推移を示す。生活家電が半数以上を占めているが、2004年のピーク以後大幅に減少している。TV/AVは2004年のみ、台所家電は2008年のみ2件出願されている。

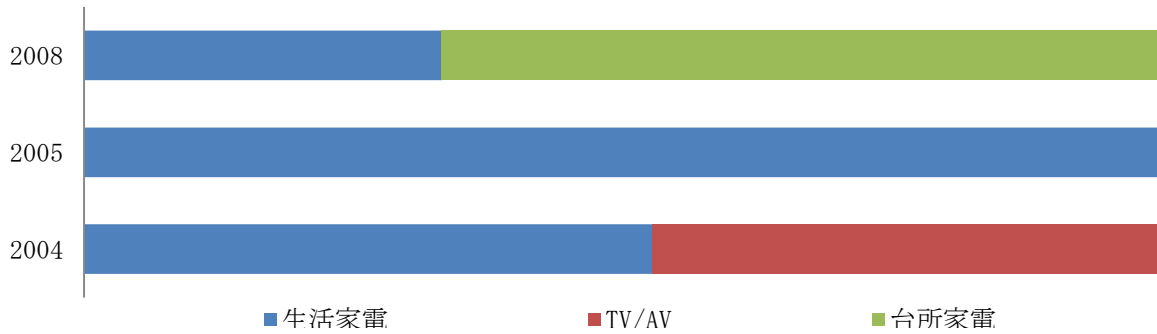
〈表257〉LG電子の家電製品群における各分野の累計出願件数 (ベトナム)



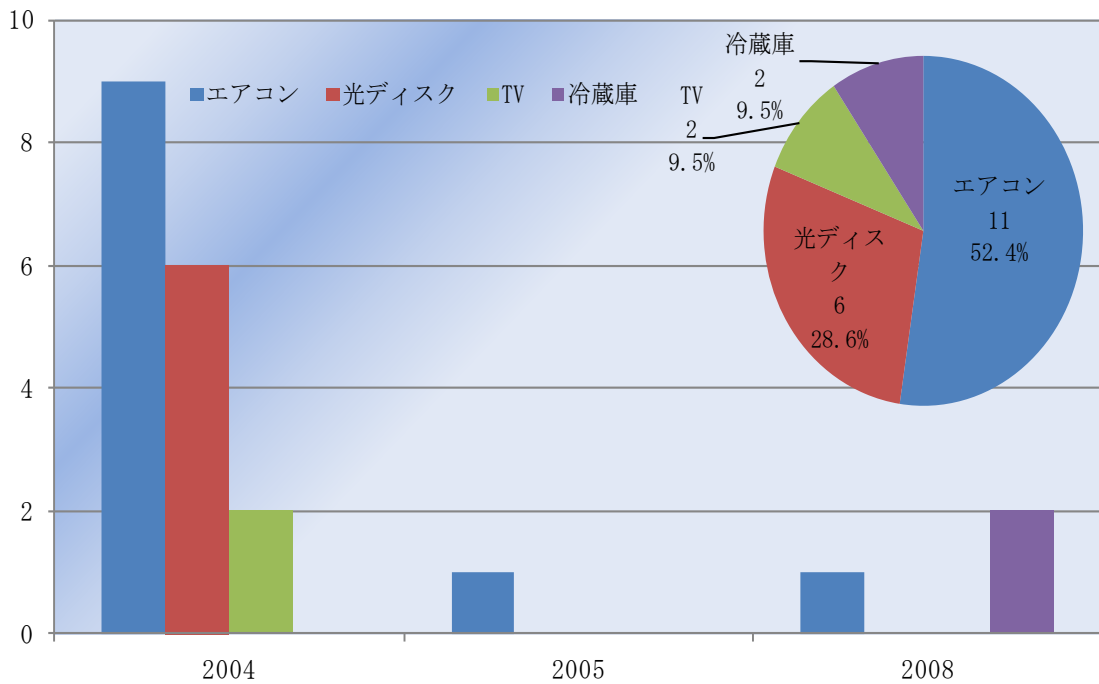
〈表258〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の推移（ベトナム）



〈表259〉LG電子の家電製品群における各分野の年度別出願件数の比率（ベトナム）



〈表260〉LG電子の家電製品群に関する細部製品の年度別推移（ベトナム）

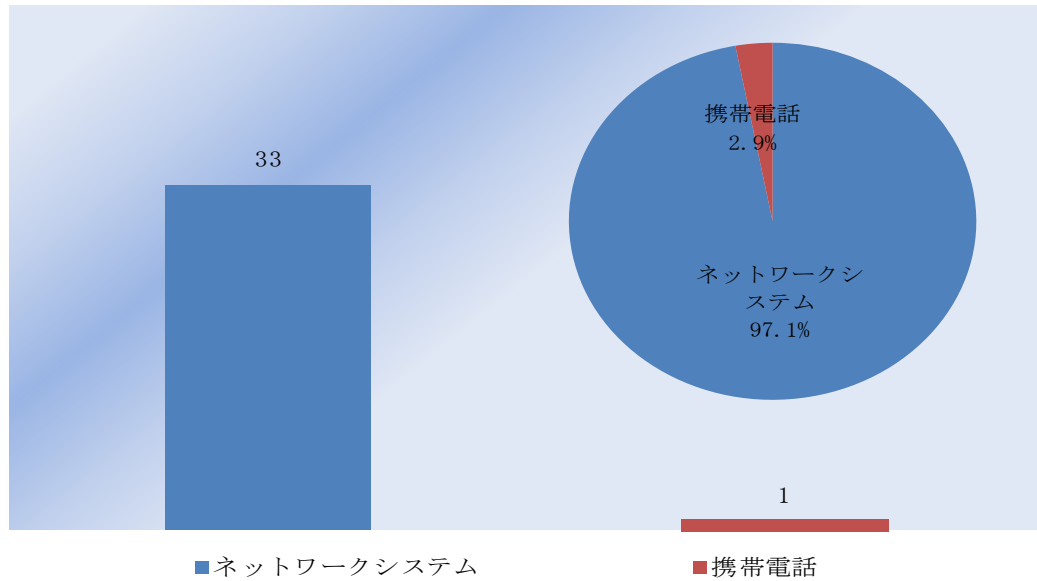


家電製品群の細部製品においては、エアコンが半数以上を占めているが、2004年以後は大幅に減少している。光ディスクは、2004年のみ出願されている。

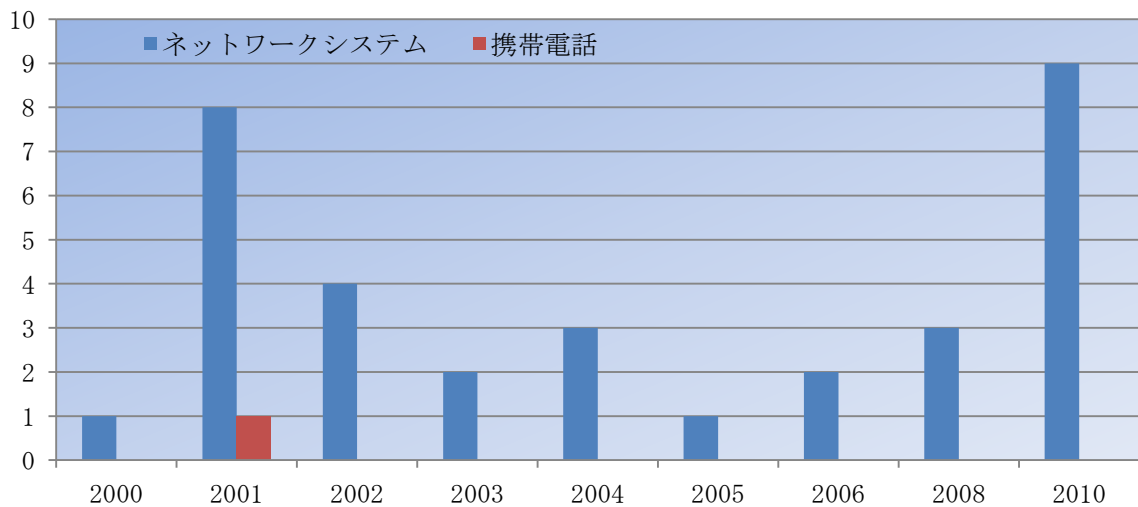
(2) 移動通信/情報通信の特許出願動向

ネットワークシステムがほぼ占めている。毎年出願件数に波があり、2005年に大幅に減少したがその後は増加傾向である。携帯電話は、2001年の1件のみである。

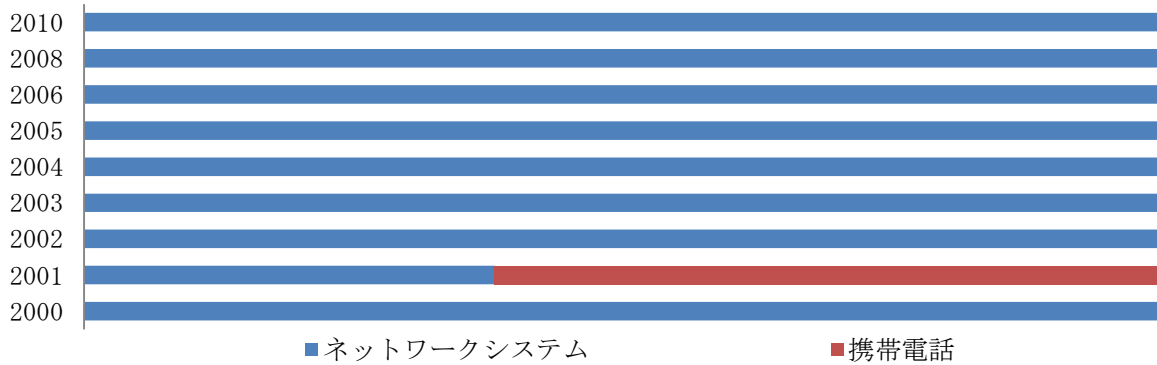
〈表261〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の累計出願件数
(ベトナム)



〈表262〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の年度別出願件数の推移
(ベトナム)



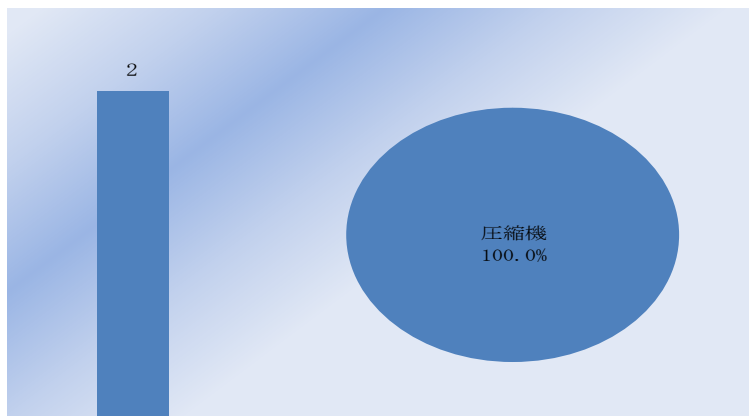
〈表263〉LG電子の移動通信/情報通信製品群における細部製品の年度別出願件数の比率
(ベトナム)



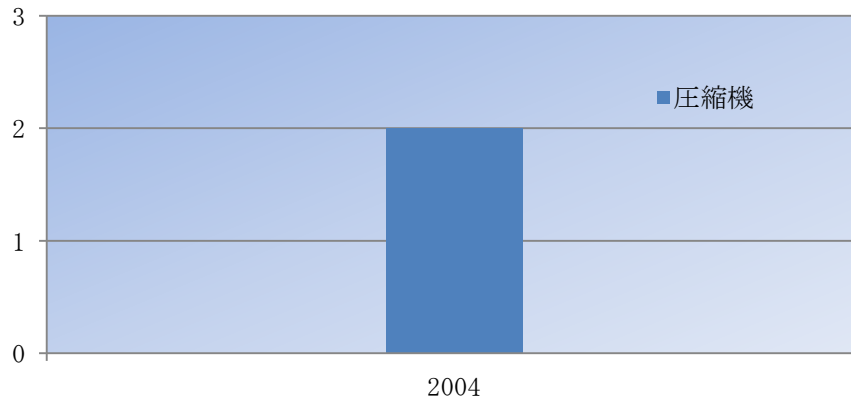
(3) その他製品群の特許出願動向

その他製品群における比率は、圧縮機が100%占めている。2004年に2件のみ出願されている。

〈表264〉LG電子のその他製品群における細部製品の累計出願件数 (ベトナム)



〈表265〉LG電子のその他製品群における細部製品の年度別出願件数の推移 (ベトナム)



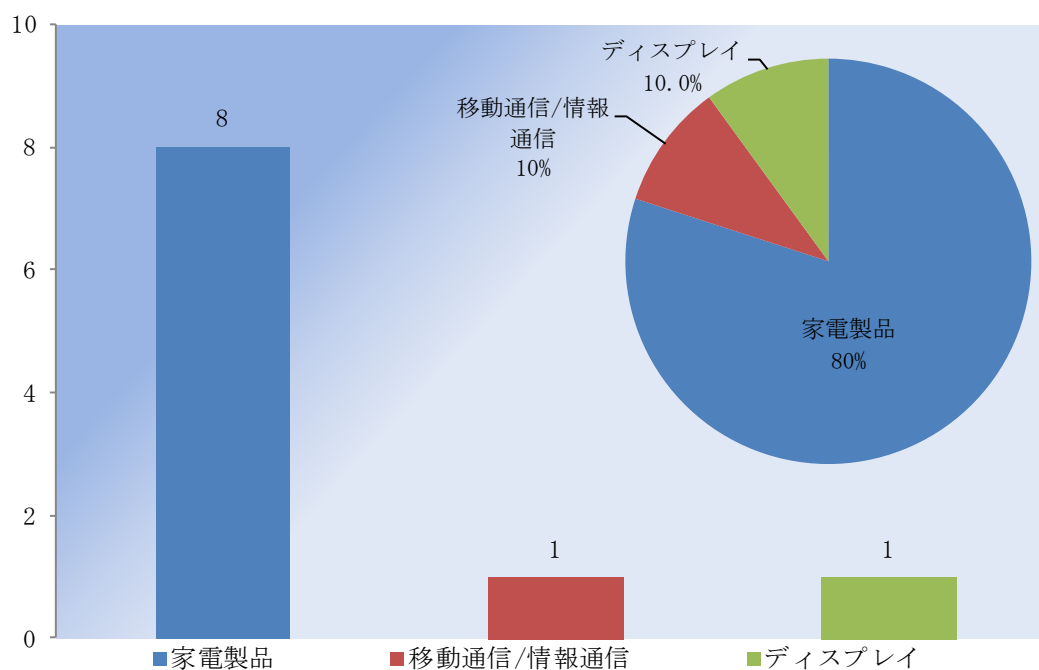
〈表266〉LG電子のその他製品群における細部製品の年度別出願件数の比率（ベトナム）



1-12 LG電子の製品群別特許出願動向〈シンガポール〉

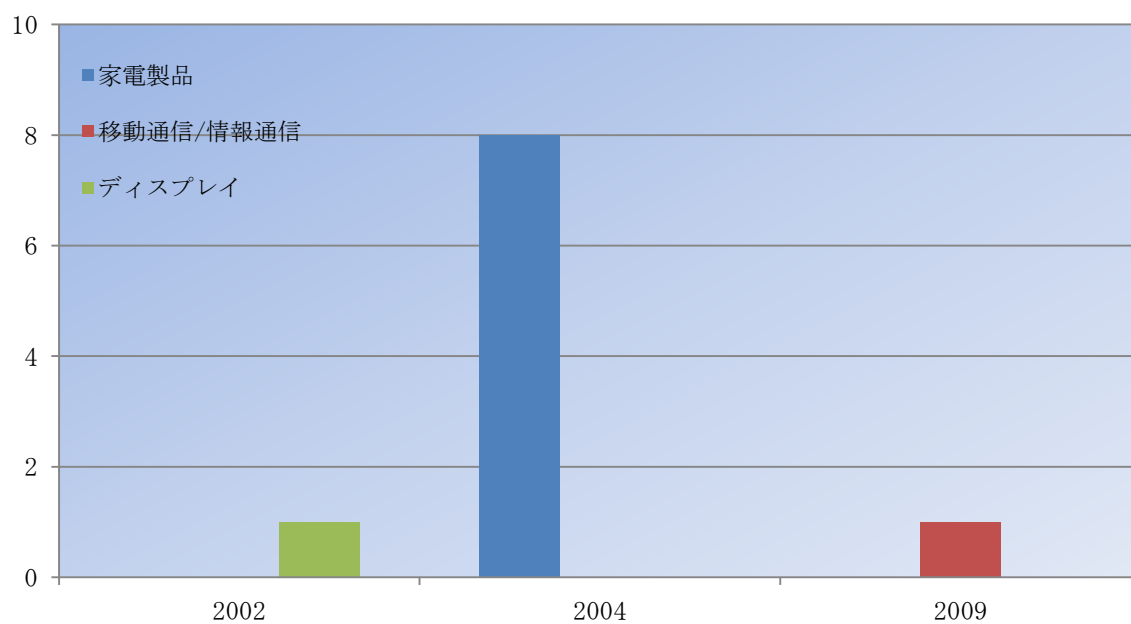
以下、分野別の特許出願動向を表に示す。

〈表267〉 LG電子の製品群別による累計出願件数（シンガポール）

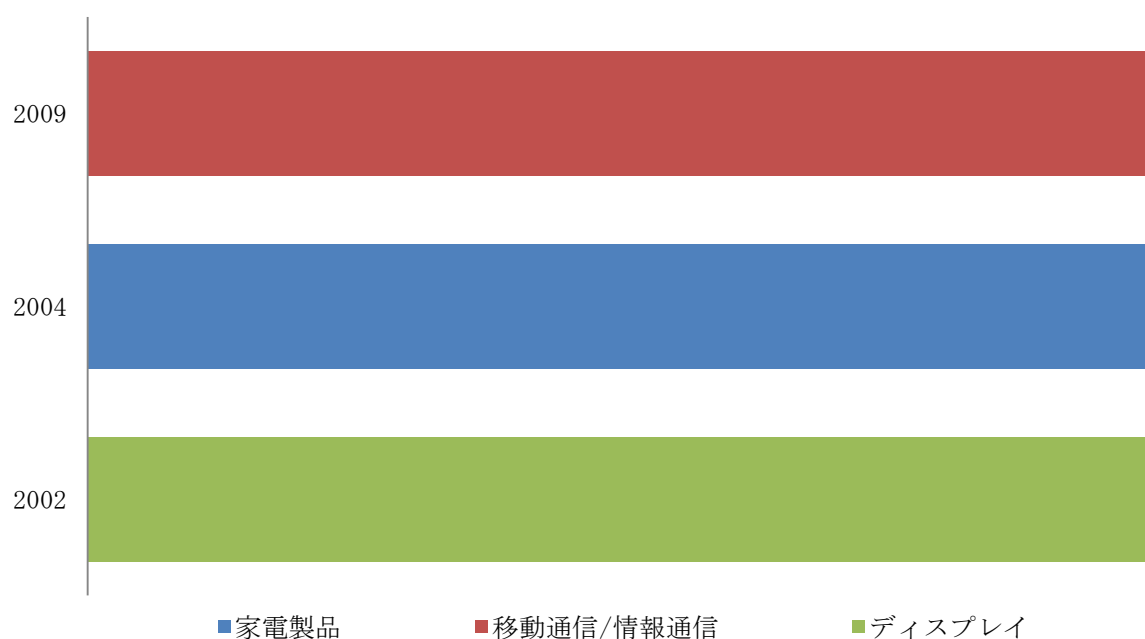


シンガポールへの出願件数において製品群別に見ると、家電製品が圧倒的に占めているが、2004年の出願のみである。次の移動通信/情報通信分野は2009年に1件、ディスプレイは、2002年に1件のみ出願され、その後は出願されていない。

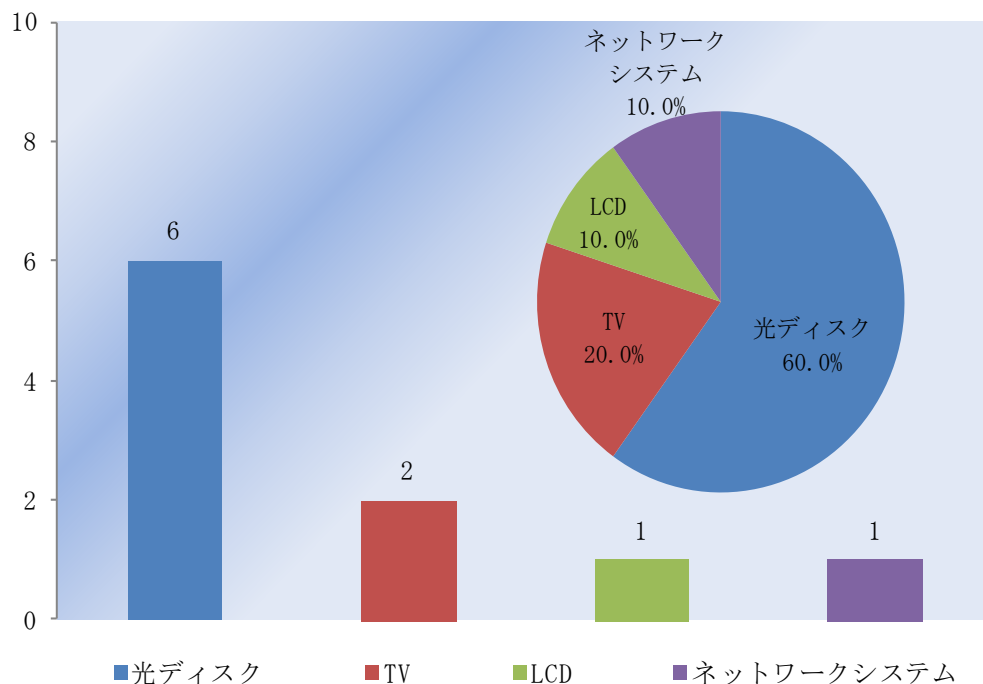
〈表268〉LG電子の製品群別出願件数の推移（シンガポール）



〈表269〉LG電子の年度別による製品群別の特許出願件数が全体件数に占める割合（シンガポール）

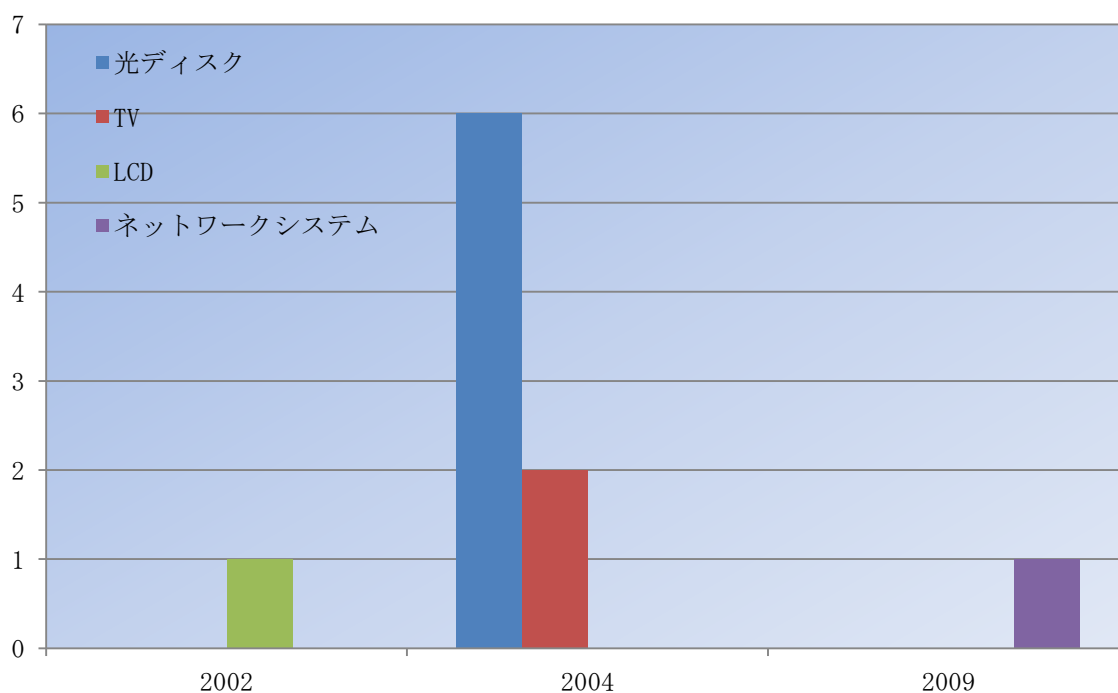


〈表270〉LG電子の製品群別の細部製品の累計出願件数（シンガポール）

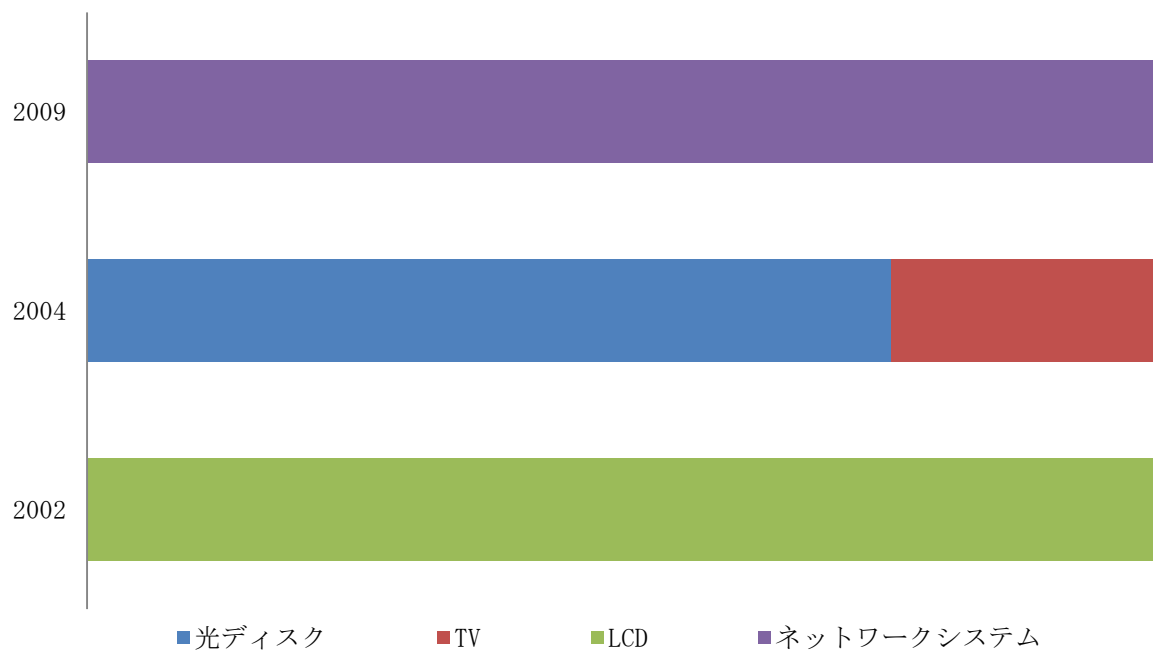


製品群別の細部製品の出願件数においては、2004年の出願で光ディスクが6割、TVが2割占めている。LCDは2002年の出願のみ、ネットワークシステムは2009年に1件出願されている。

〈表271〉LG電子の製品群別の細部製品の年度別出願件数の推移（シンガポール）



〈表272〉LG電子の製品群別の細部製品の年度別出願件数の比率（シンガポール）



第2章 主要4ヶ国におけるデザイン（意匠）動向

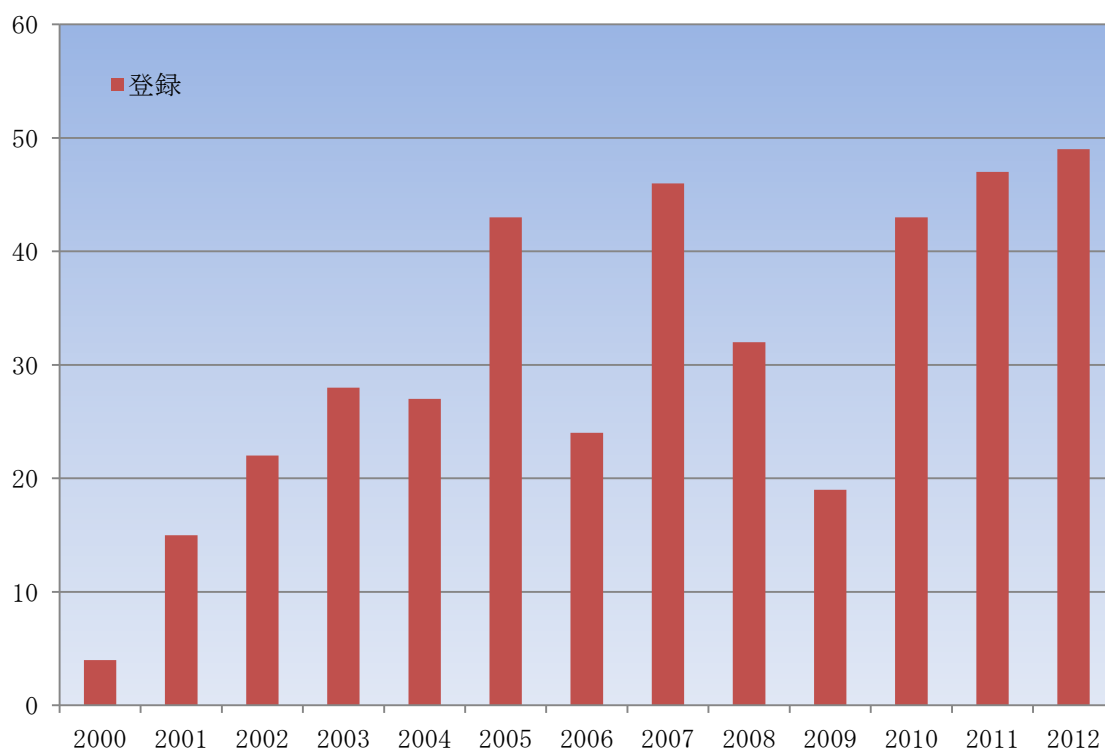
1. 概要

前回の「韓国企業の技術動向調査」において、主に韓国のデザイン登録動向について重点的に示し、国家別のデザイン登録状況については簡単に述べた。今回は主要4カ国（日本、米国、欧州、中国）について、各製品の登録動向および登録状況を調査し、示した。第2章では、LG電子のデザイン動向について分析してみる。

1-1 LG電子の国家別デザイン登録動向<日本特許庁>

LG電子が韓国特許庁にデザイン登録された件を年度別に表にすると、以下のとおりである。近年2007年に大きく増加したが、2008年と2009年は減少、2010年に再び前年より2倍以上大幅に増加し、その後も小幅ながら増加傾向。サムスン電子と比較してみると、2012年までは、サムスン電子の登録件数が増加するとLG電子が減少、サムスン電子が減少するとLG電子が増加している。

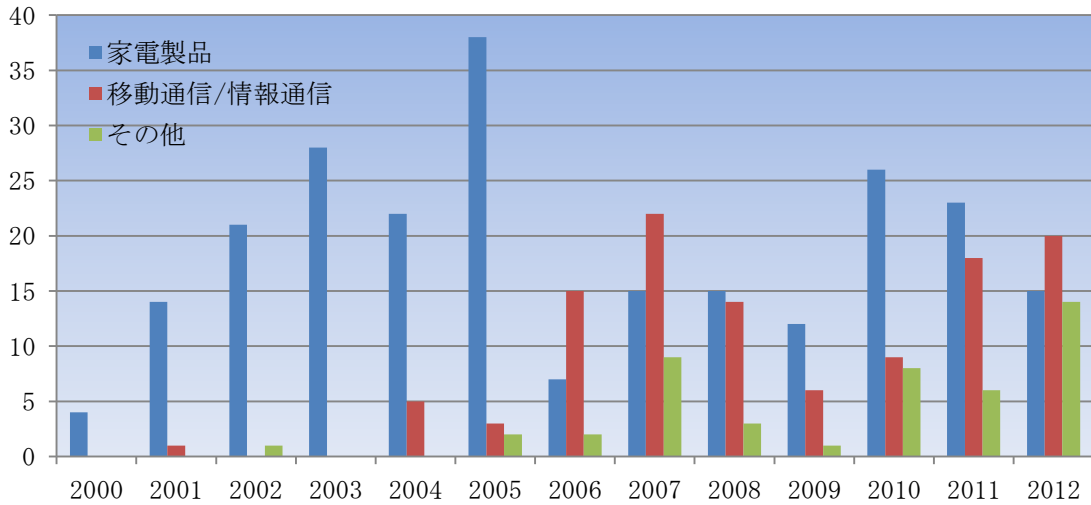
<表273>LG電子のデザイン登録件数（日本）



1-2 LG電子の製品群別デザイン登録動向<日本特許庁>

以下、分野別のデザイン登録動向を表に示す。

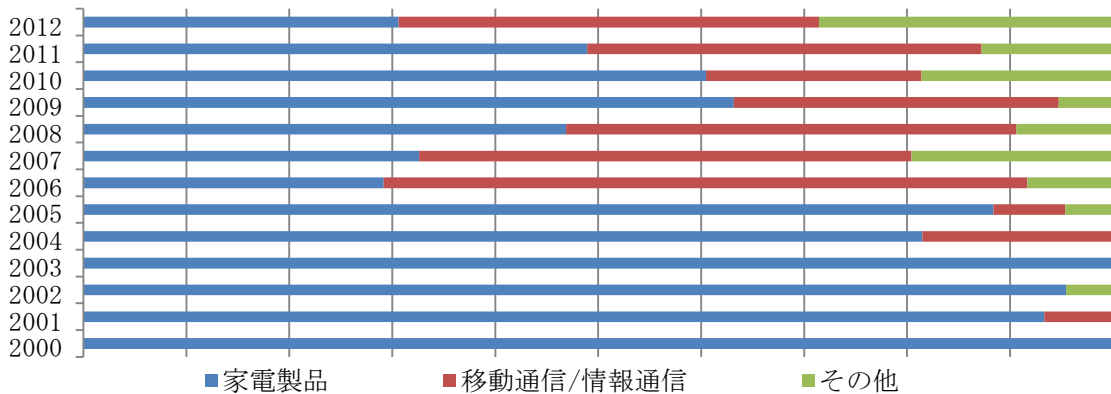
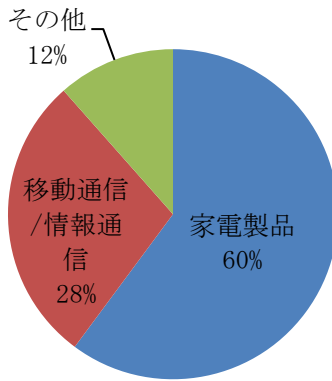
〈表274〉LG電子の製品群別による累計件数の比率の推移（日本）



家電製品の登録に力を入れているように見えるが、近年は移動通信/情報通信の登録件数が徐々に増加してきている。サムスン電子と登録件数を比較した場合、移動通信/情報通信においては、サムスン電子の半数以下である。

累計件数と全体に占める比率の推移は下の表に示す。累計の内訳では、家電製品が6割、移動通信/情報通信が28%、その他は12%である。

〈表275〉製品群別による累計件数の内訳(上)とその比率(下)（日本）



(1) 移動通信/情報通信のデザイン登録現況

下の表に移動通信/情報通信における登録件数の推移を示す。サムスン電子と同様、携帯電話に集中しているが、近年、ノートパソコンに関するものもデザイン登録されている。

〈表276〉 移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移（日本）

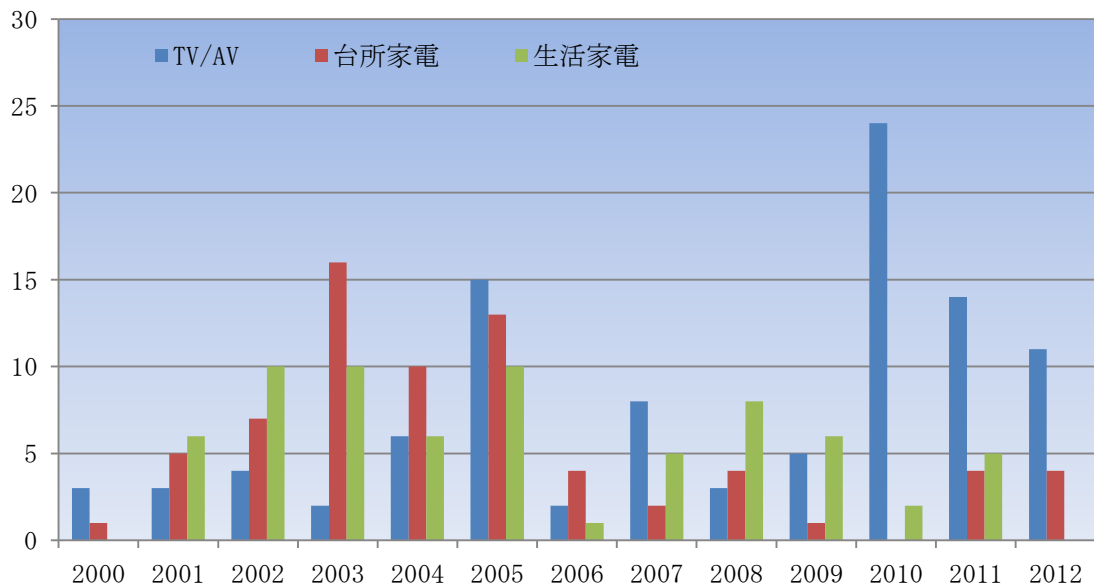


(2) 家電製品のデザイン登録動向

1) 全体の動向

近年はTV/AVが2010年ピークに減少している。生活家電、台所家電ともに登録件数の増減が激しい。

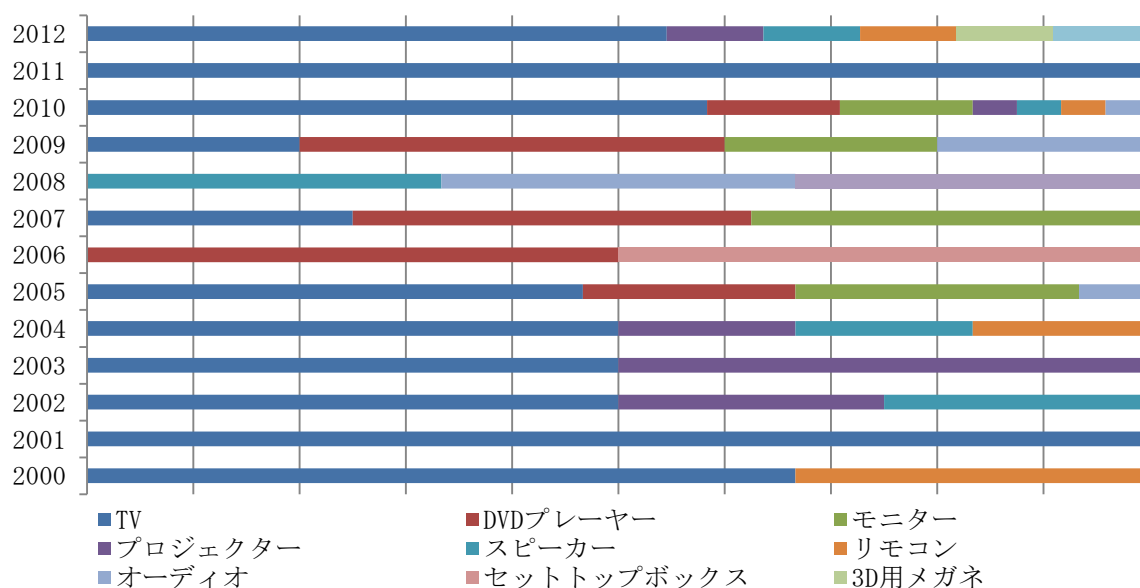
〈表277〉家電製品に属するデザイン登録動向（日本）



2) TV/AVの動向

TV/AVの全体の登録件数の推移は上の表で示した。ここでは、TV/AVに属する各製品の年度別比率を示す。まず、TVの増減率が激しい。近年その比率を伸ばしてきているのはプロジェクター、スピーカー、リモコン、3D用メガネが挙げられる。

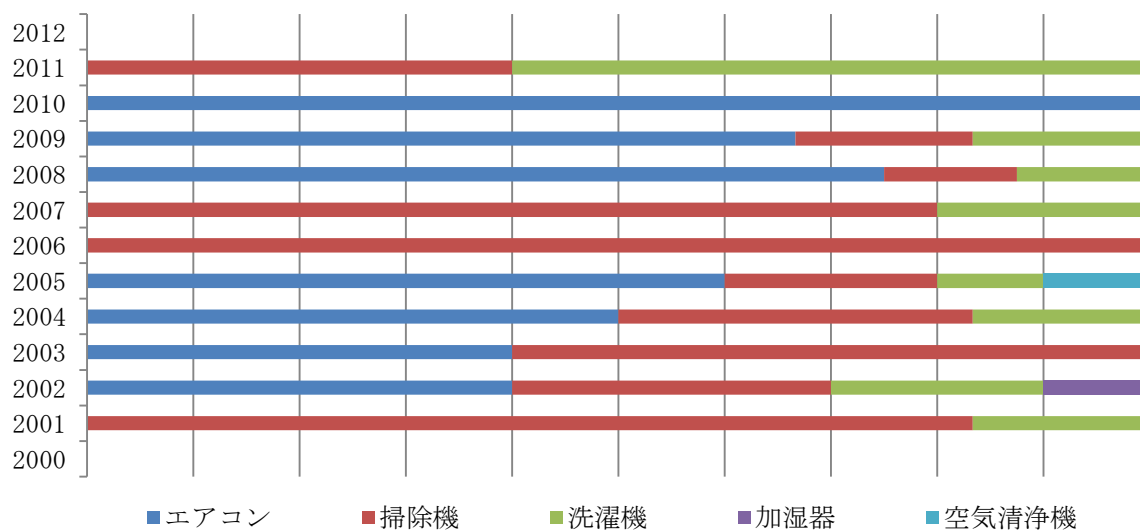
〈表278〉TV/AVに属する各製品の年度別比率（日本）



3) 生活家電の動向

生活家電に属する各製品の年度別比率を示す。2012年は登録件数がない。近年2010年まではエアコンが比率を伸ばしていたが、2011年には掃除機と洗濯機が大きく比率を伸ばした。

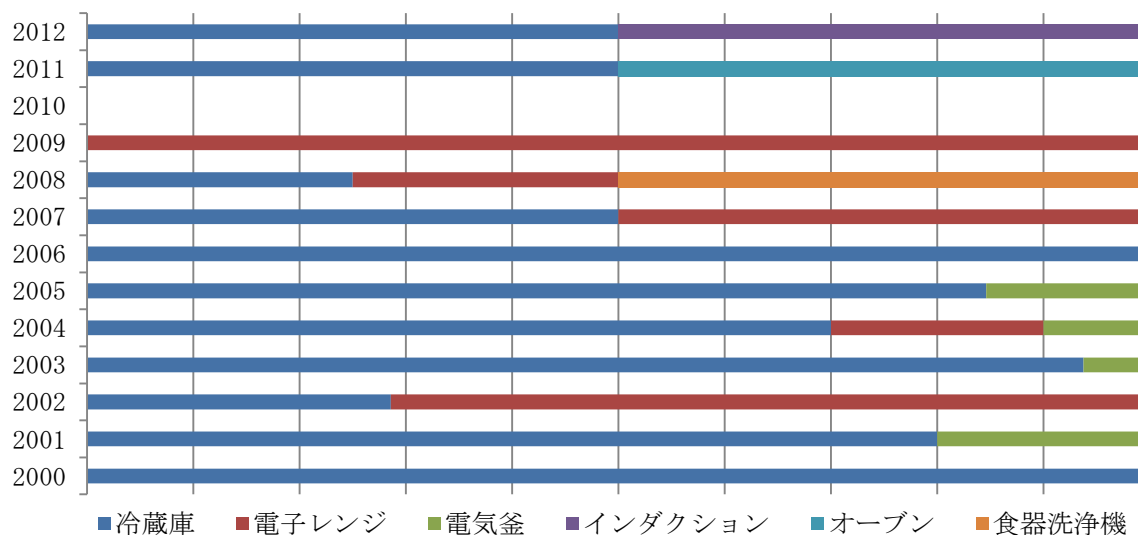
〈表279〉生活家電に属する各製品の年度別比率（日本）



4) 台所家電の動向

台所家電に属する各製品の年度別比率を示す。全体的に冷蔵庫の比率が多い。毎年バラつきがあるが、近年はインダクション、オーブンが挙げられる。

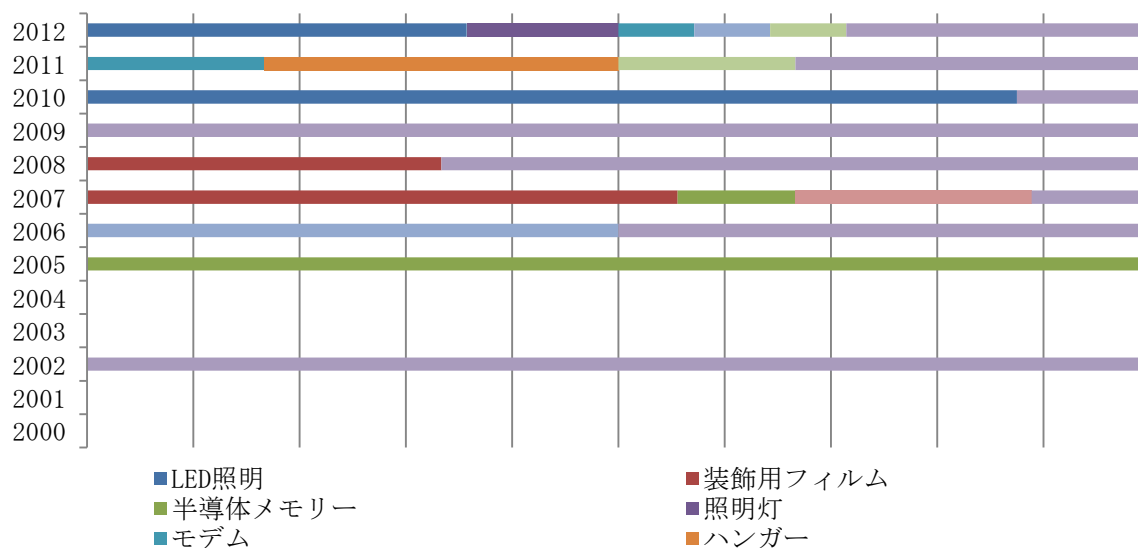
〈表280〉台所家電に属する各製品の年度別比率（日本）



(3) その他のデザイン登録動向

その他の全体件数の推移は上の表で示した。ここでは、その他に属する各製品の年度別比率を示す。近年伸びているものとしては、LED照明、照明灯、携帯電話充電器などが挙げられる。

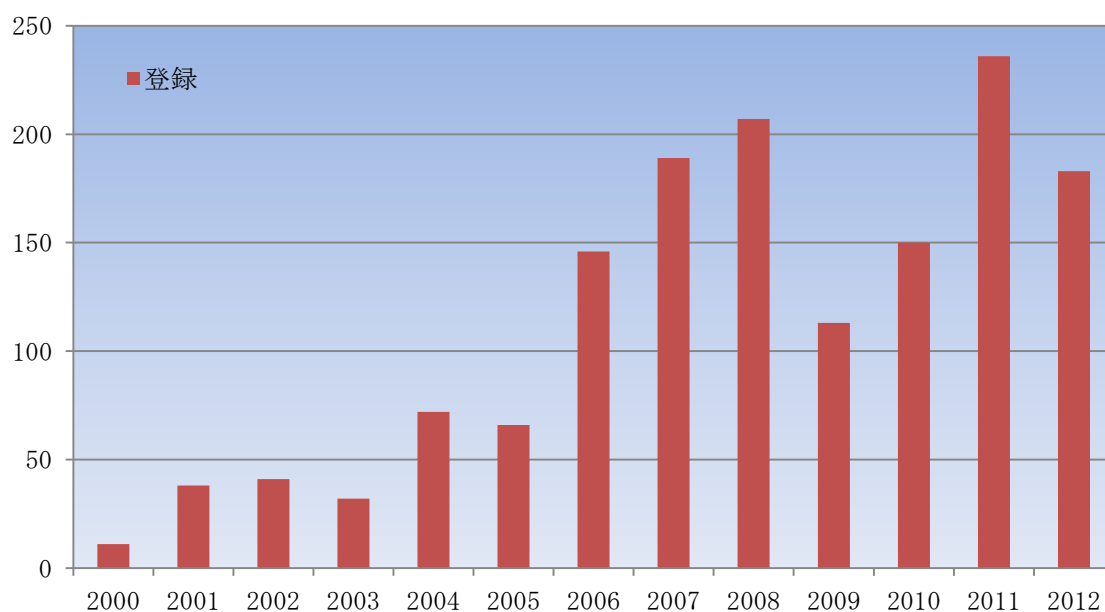
〈表281〉その他に属する各製品の年度別比率（日本）



2-1 LG電子の国家別デザイン登録動向<米国特許庁>

LG電子が米国特許庁にデザイン登録された件を年度別に表にすると以下のようになる。デザイン登録は日本と同様2009年に一旦落ち込み、その後増加したが2012年にはまた減少している。

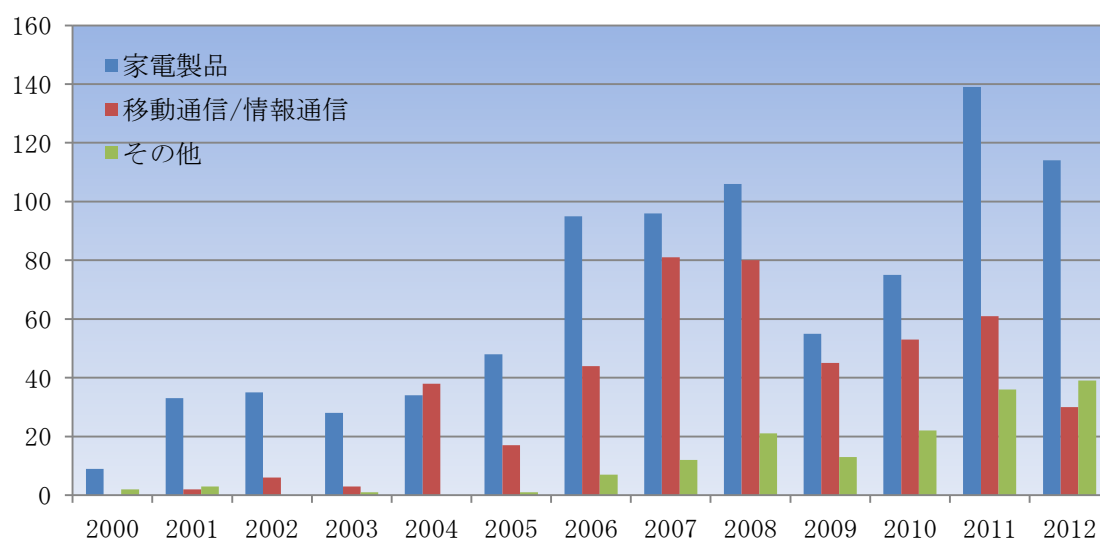
<表282>LG電子のデザイン登録件数(米国)



2-2 LG電子の製品群別デザイン登録動向<米国特許庁>

以下、分野別のデザイン登録動向を表に示す。

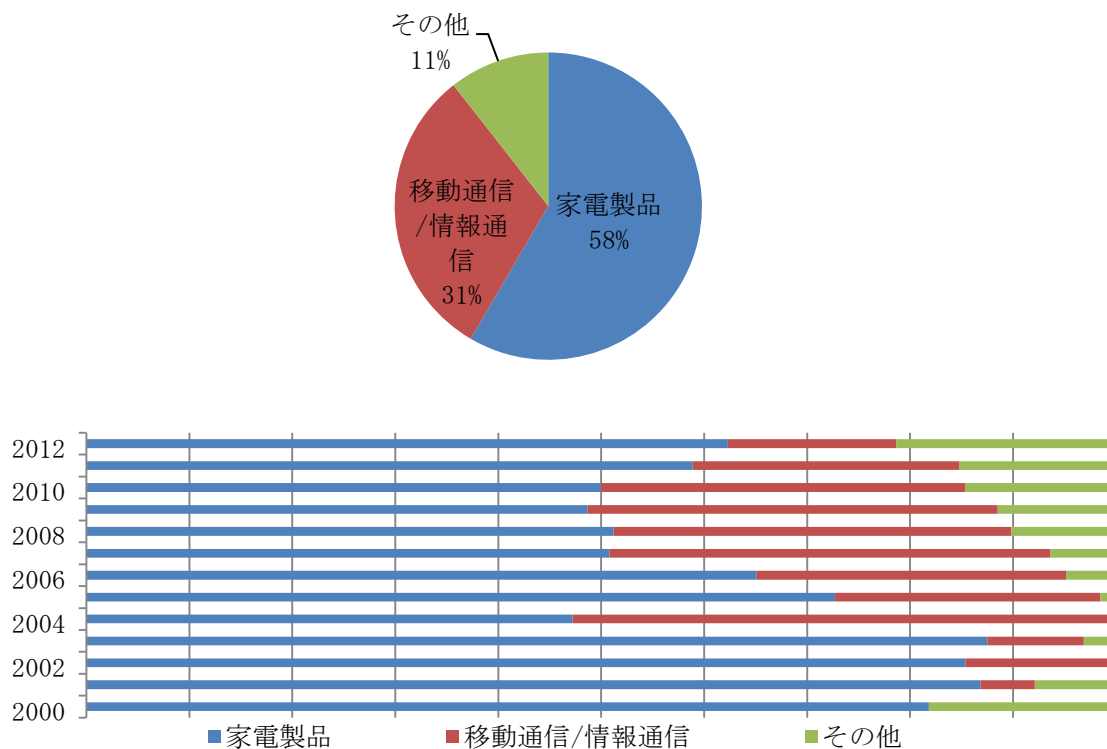
<表283> LG電子の製品群別による累計件数の比率の推移 (米国)



米国においては、サムスン電子と同じく移動通信/情報通信分野よりも家電製品分野の累計件数が多い。2009年、2010年は一時期落ち込んだが、2011年に急激に増加し、また減少している。

累計件数と全体に占める比率の推移は下の表に示す。累計の内訳では、家電製品が58%、移動通信/情報通信が31%、その他が11%である。

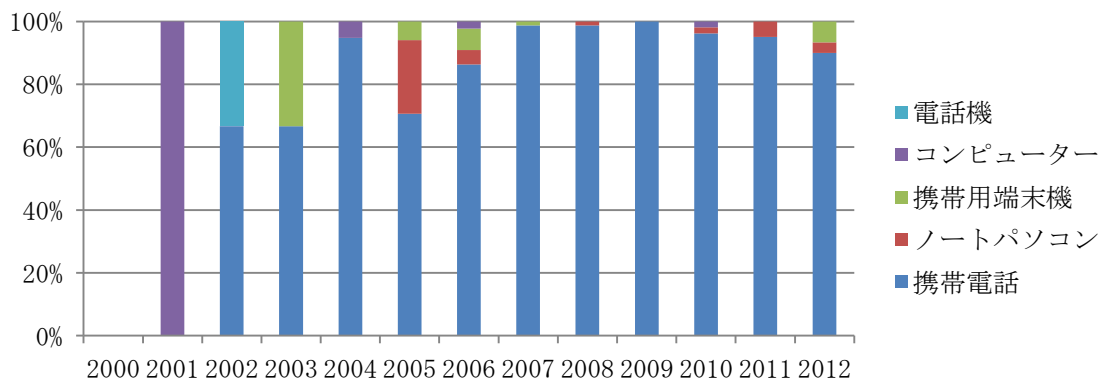
〈表284〉製品群別による累計件数の内訳(上)とその比率の推移(下) (米国)



(1) 移動通信/情報通信のデザイン登録現況

下の表に移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移を示す。LG 電子もサムスン同様圧倒的に携帯電話の割合が高いが、2009年をピークに徐々に減少し、近年はノートパソコン、携帯用端末機が小幅ながら登録件数を増加させている。

〈表285〉移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移 (米国)

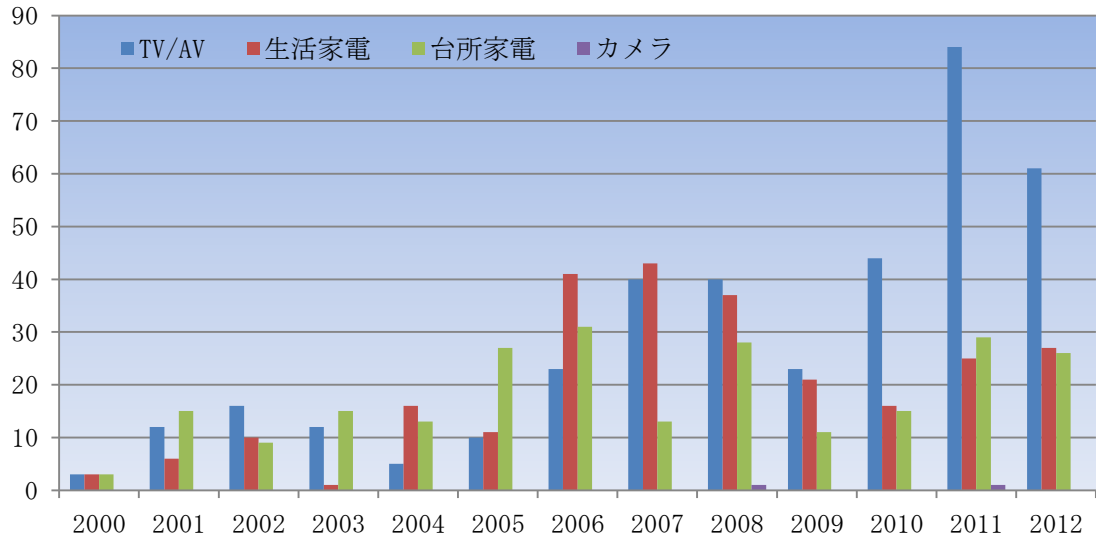


(2) 家電製品のデザイン登録動向

1) 全体の動向

家電製品では、近年は全体的に見てTV/AVの登録件数が多い。台所家電と生活家電は小幅ながら増減を繰り返している。

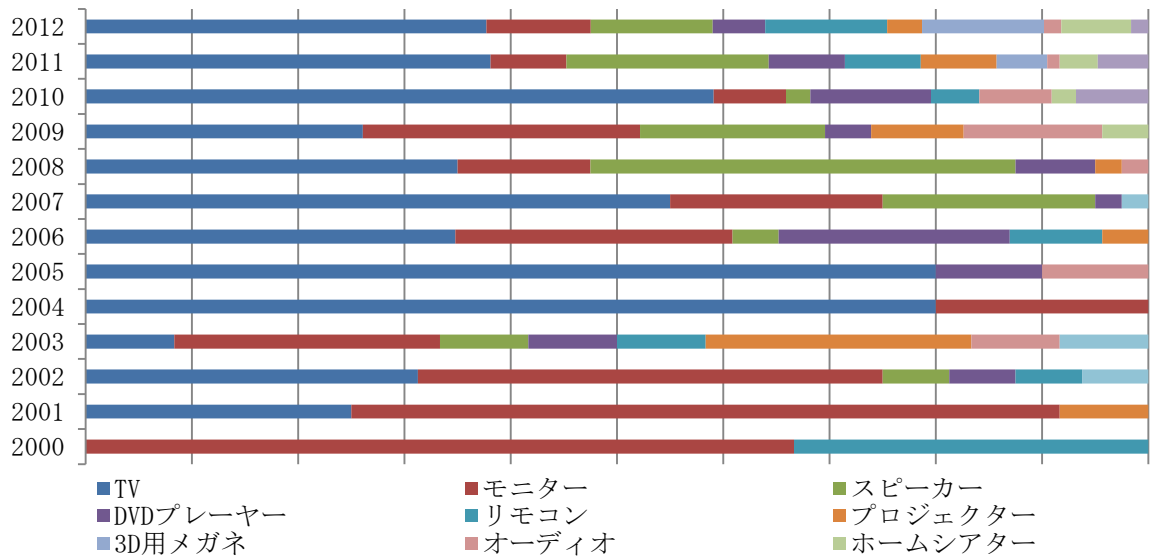
〈表286〉家電製品に属するデザイン登録動向（米国）



2) TV/AVの動向

ここでは、TV/AVに属する各製品の年度別比率を示す。近年、比率を伸ばしているものとしては、リモコン、3D用メガネ、ホームシアターなどが挙げられる。

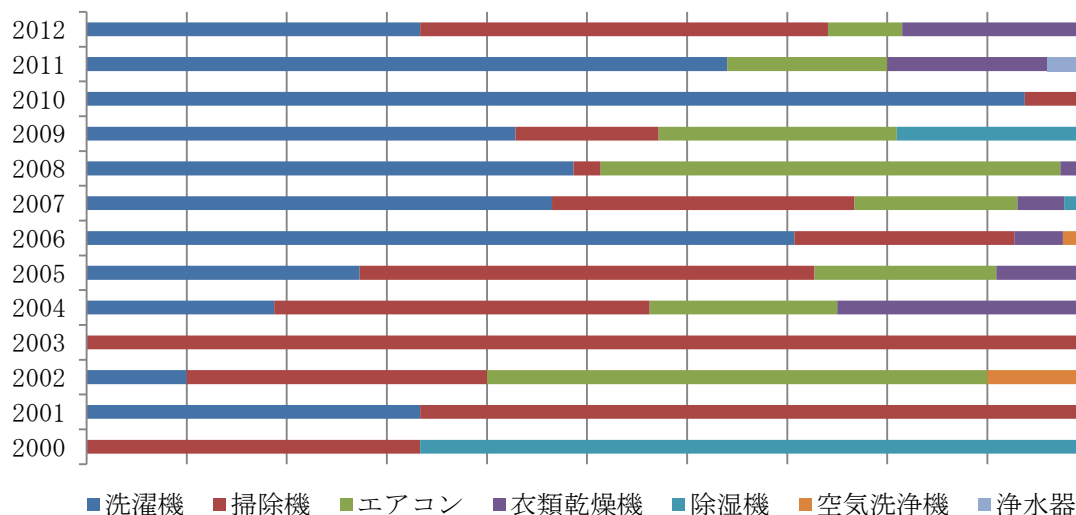
〈表287〉TV/AVに属する各製品の年度別比率（米国）



3) 生活家電の動向

生活家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。洗濯機が2010年にピークであったが減少傾向、近年は掃除機と衣類乾燥機の比率が増加している。

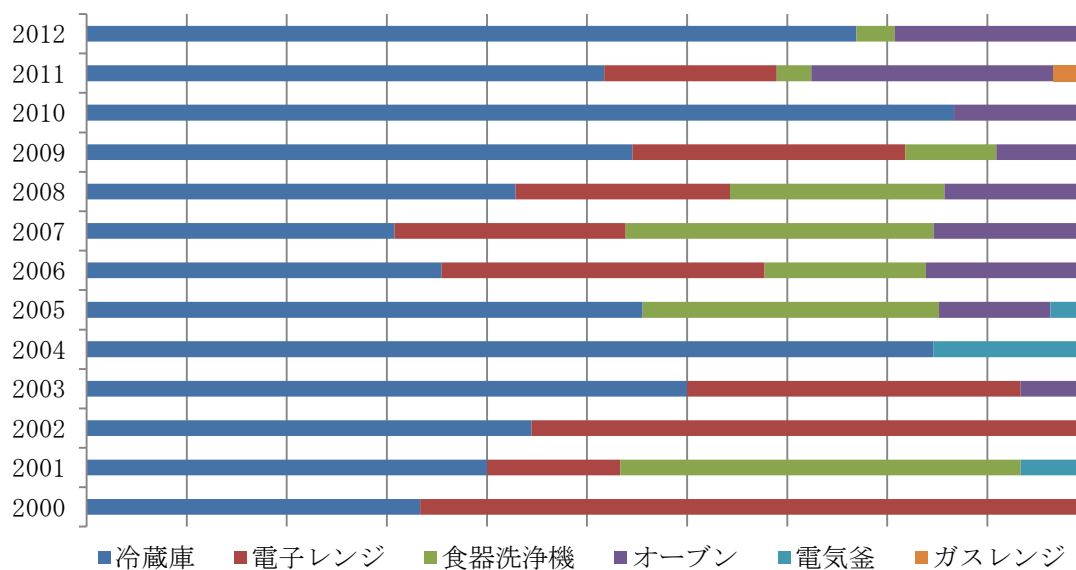
〈表288〉生活家電に属する各製品の年度別比率（米国）



4) 台所家電の動向

台所家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。サムスン電子と同様冷蔵庫の比率が多く、電子レンジやオーブンの比率もサムスン電子と同傾向だが、サムスン電子と違う点として食器洗浄機の登録件数が多いことが挙げられる。

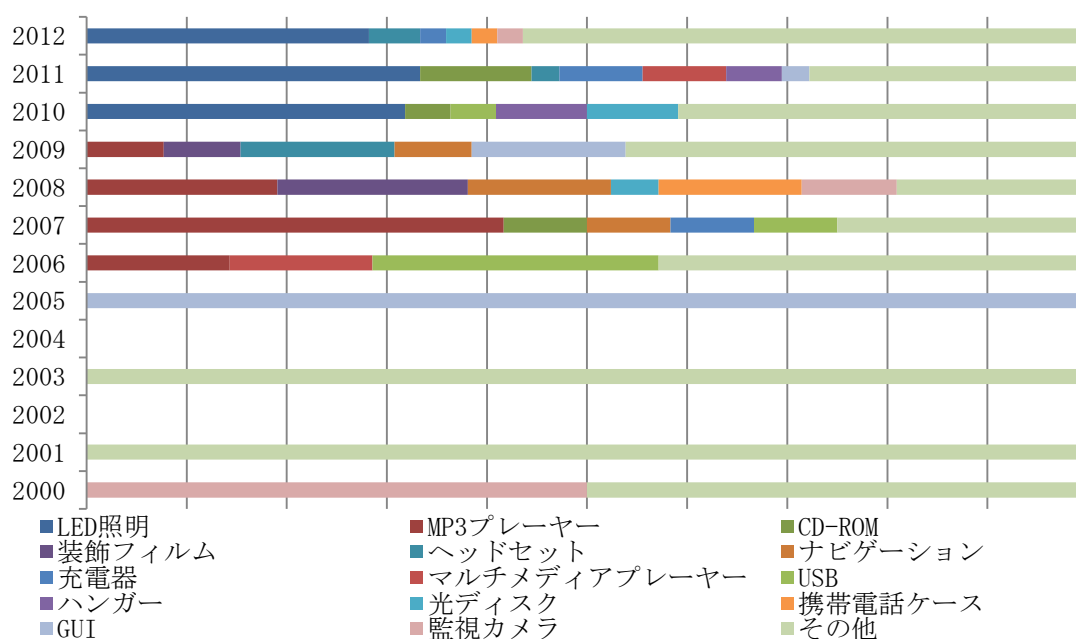
〈表289〉台所家電に属する各製品の年度別比率（米国）



(3) その他のデザイン登録動向

その他の全体件数の推移は上の表で示した。ここでは、その他に属する各製品の年度別比率を示す。近年伸びているものとしては、LED照明、ヘッドセット、光ディスク、携帯電話ケース、監視カメラが挙げられる。

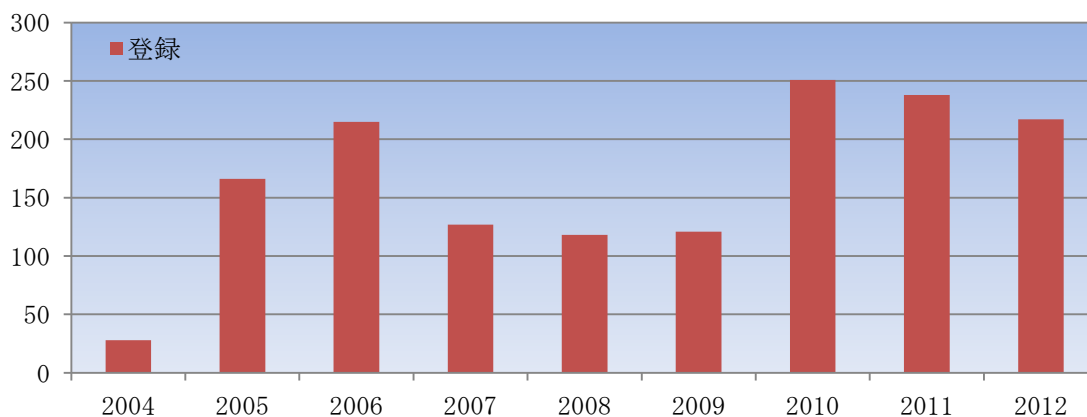
〈表290〉その他に属する各製品の年度別比率（米国）



3-1 LG電子の国家別デザイン登録動向〈欧州特許庁〉

LG電子が欧州特許庁にデザイン登録された件を年度別に表にすると以下のようなになる。デザイン登録は2007年から2009年まで減少していたが、2010年に急激に増加。その後また徐々に減少している。

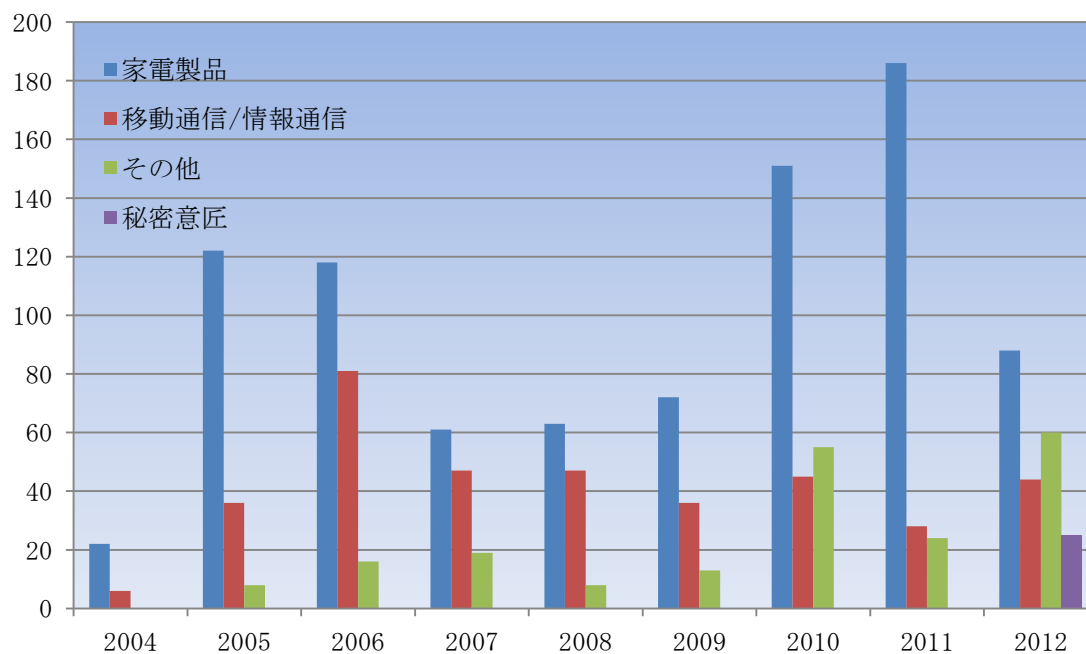
〈表291〉LG電子のデザイン登録件数(欧州)



3-2 LG電子の製品群別デザイン登録動向<欧州特許庁>

以下、分野別のデザイン登録動向を表に示す。

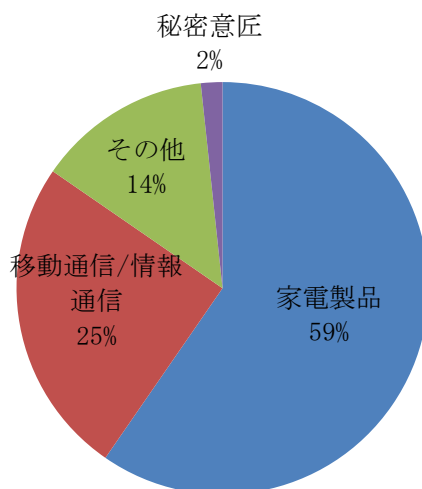
<表292> LG電子の製品群別による累計件数の比率の推移 (欧州)

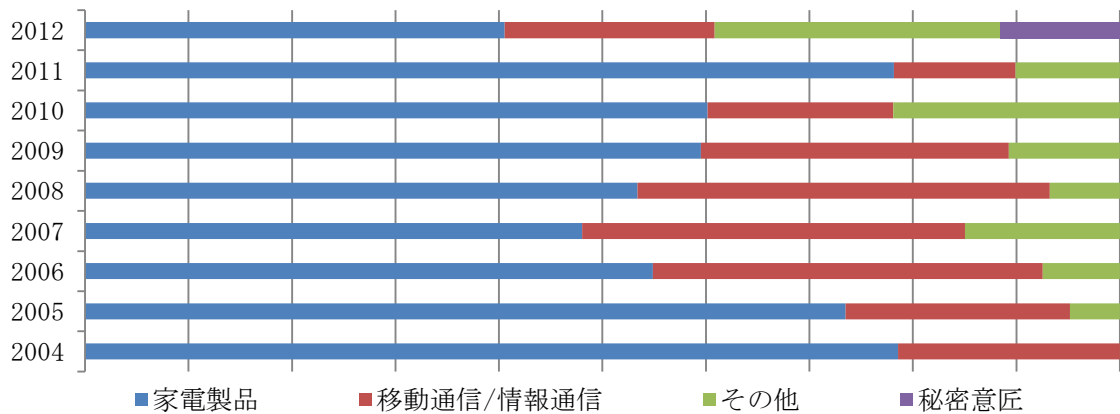


欧州においては、米国同様に家電製品の登録件数が多い。2010年、2011年に増加傾向であったが、2012年は前年の2倍以上も減少している。

累計件数と全体に占める比率の推移は下の表に示す。累計の内訳では、家電製品が59%、移動通信/情報通信が25%、その他が14%、秘密意匠が2%である。

<表293>製品群別による累計件数の内訳(上)とその比率の推移(下) (欧州)

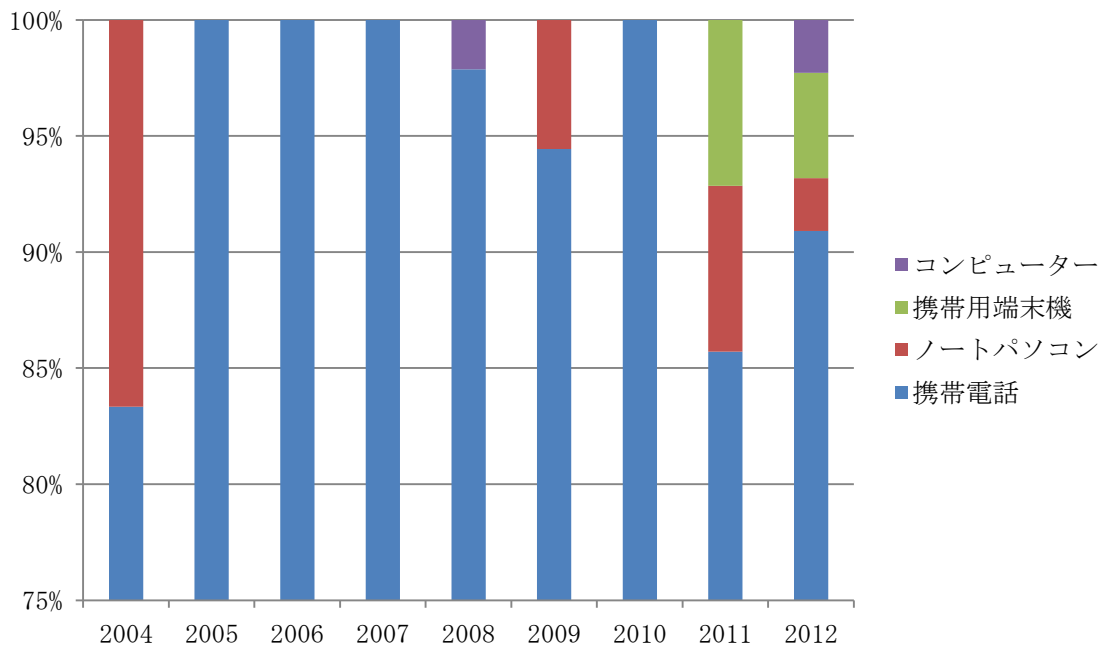




(1) 移動通信/情報通信のデザイン登録現況

下の表に移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移を示す。2010年に携帯電話の割合がピークであったが、近年は携帯用端末機とノートパソコン、コンピューターが登録件数を増やしている。

〈表294〉 移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移 (欧州)

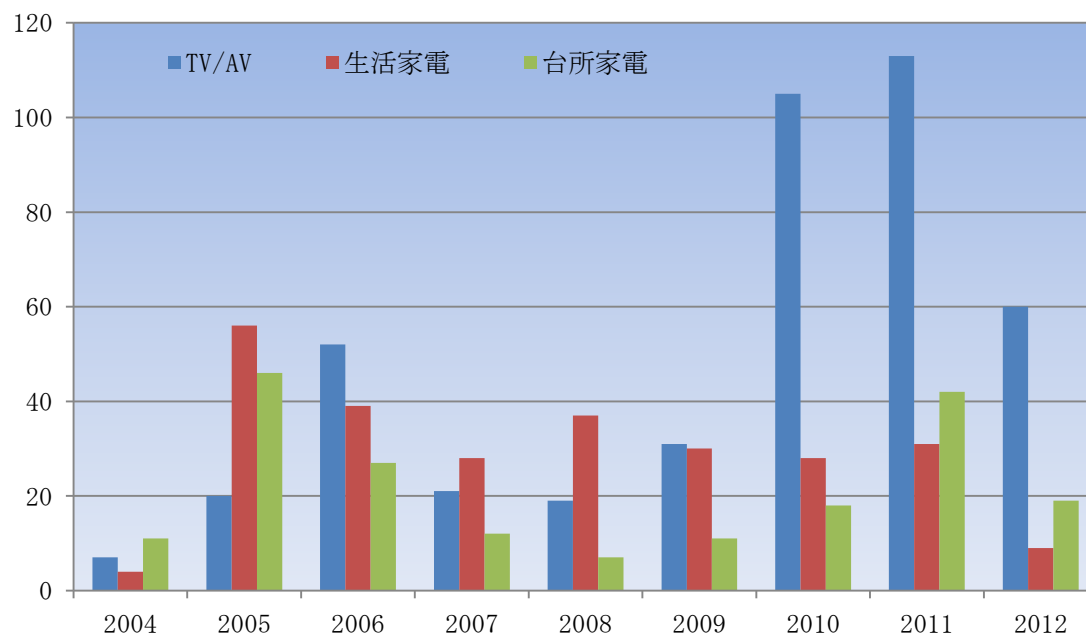


(2) 家電製品のデザイン登録動向

1) 全体の動向

家電製品では、2010年にTV/AVが前年より急激に上昇したが、2012年にはまた減少した。生活家電、台所家電も2012年は同様に大幅に減少している。

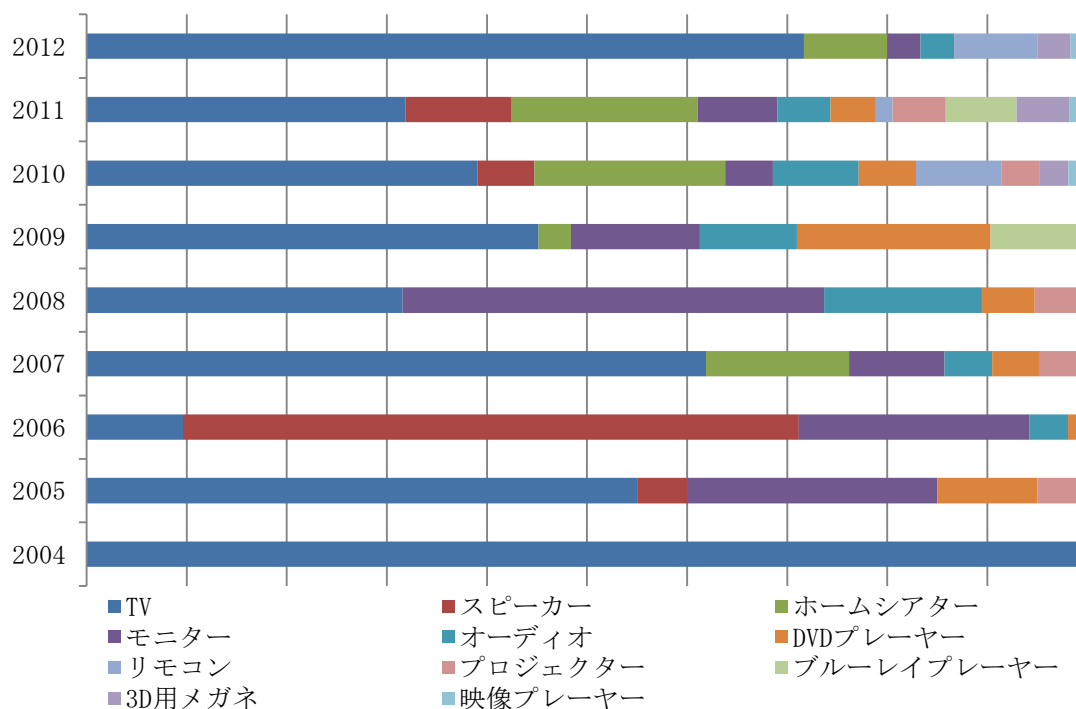
〈表295〉家電製品に属するデザイン登録動向（欧州）



2) TV/AV の動向

ここでは、TV/AV に属する各製品の年度別比率を示す。近年、その比率を伸ばしているものとしてはTV、リモコン。ホームシアターとモニターは減少傾向である。

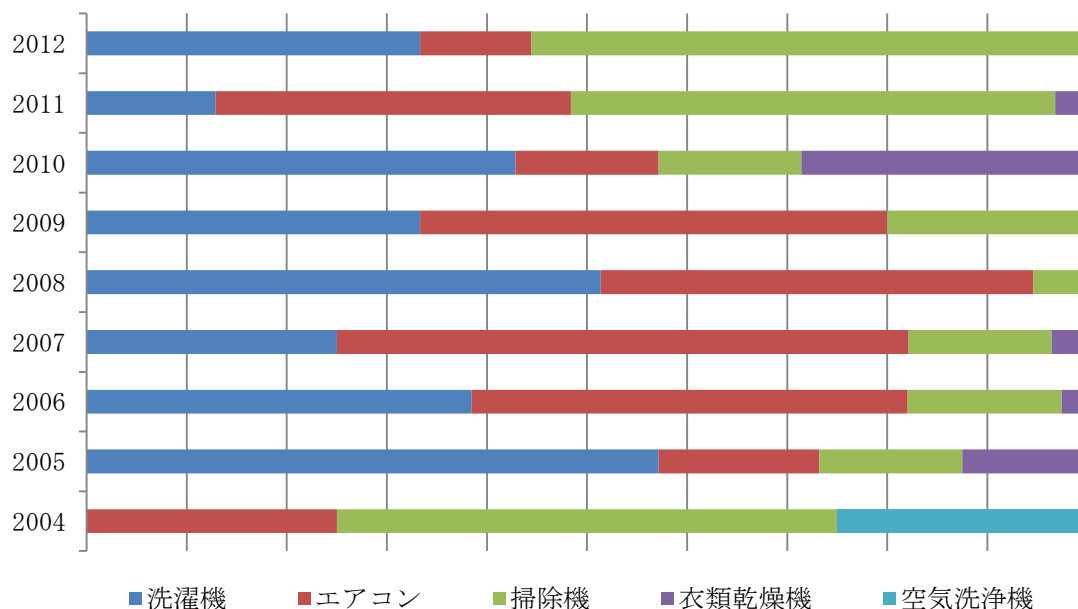
〈表296〉TV/AVに属する各製品の年度別比率（欧州）



3) 生活家電の動向

生活家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。近年は掃除機が増加傾向である。洗濯機とエアコンは増減幅が激しい。

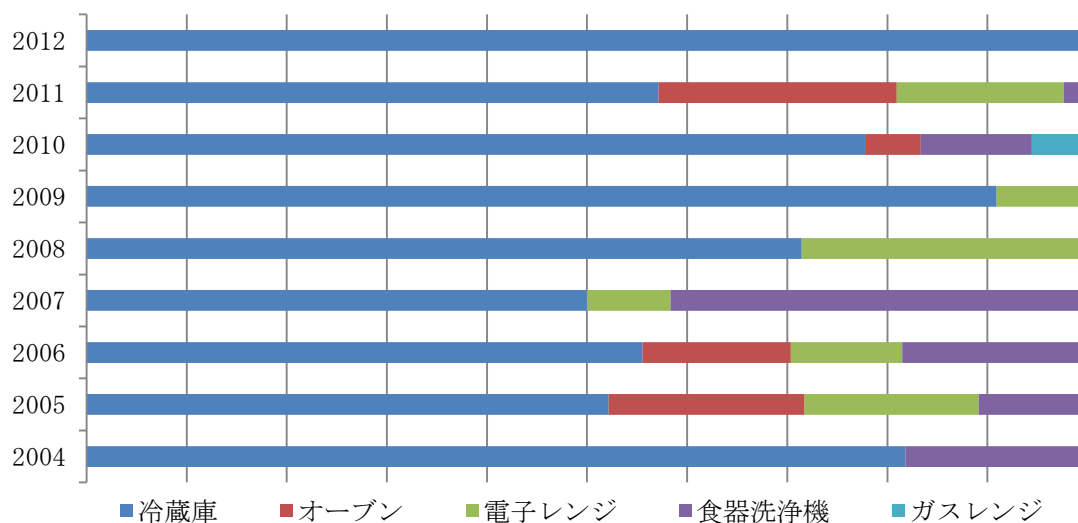
〈表297〉生活家電に属する各製品の年度別比率（欧州）



4) 台所家電の動向

台所家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。近年冷蔵庫の割合が非常に多い。

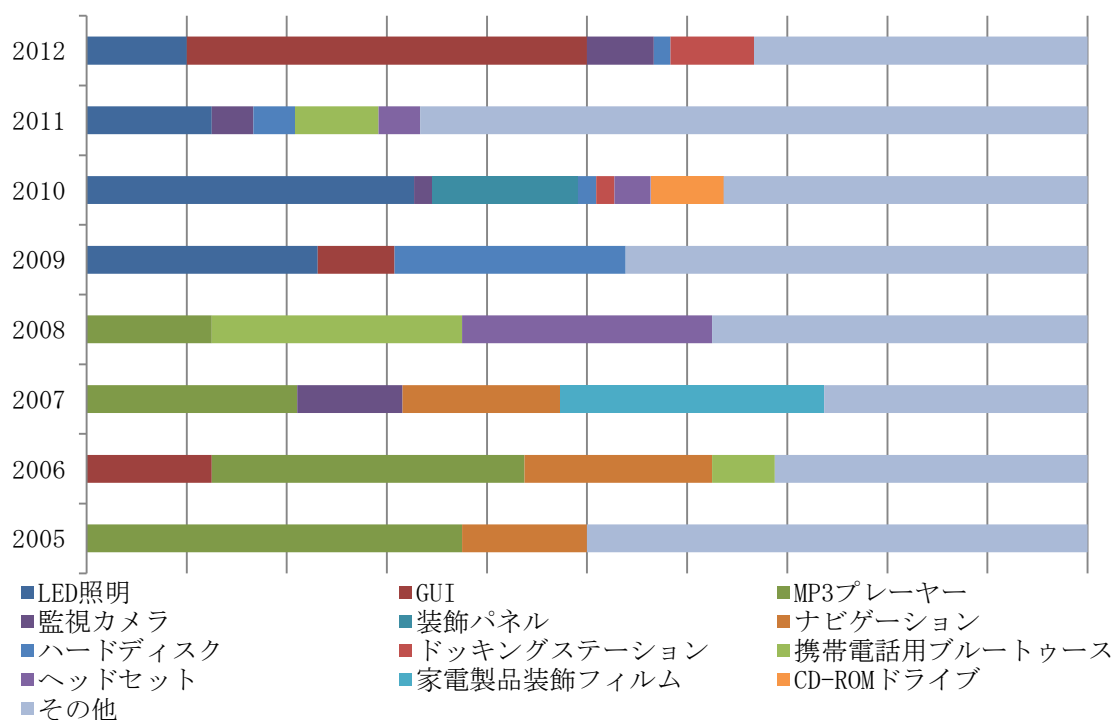
〈表298〉台所家電に属する各製品の年度別比率（欧州）



(3) その他のデザイン登録動向

その他の全体件数の推移は上の表で示した。ここでは、その他に属する各製品の年度別比率を示す。近年最も GUI が多く、監視カメラの比率も増加した。LED 照明は減少傾向である。

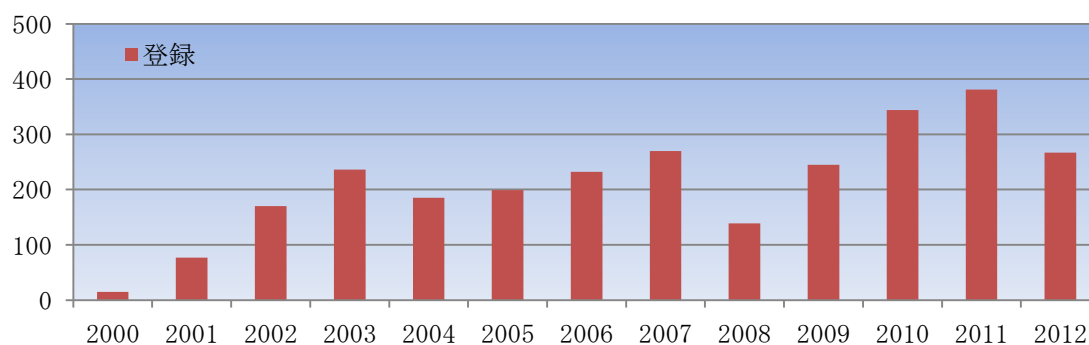
〈表299〉その他に属する各製品の年度別比率（欧州）



4-1 LG電子の国家別デザイン登録動向〈中国特許庁〉

LG 電子が中国特許庁にデザイン登録された件を年度別に表にすると以下のようなになる。デザイン登録は 2008 年に大幅に減少。サムスン電子もこの時期減少している。2009 年度より徐々に増加したが 2012 年は減少している。

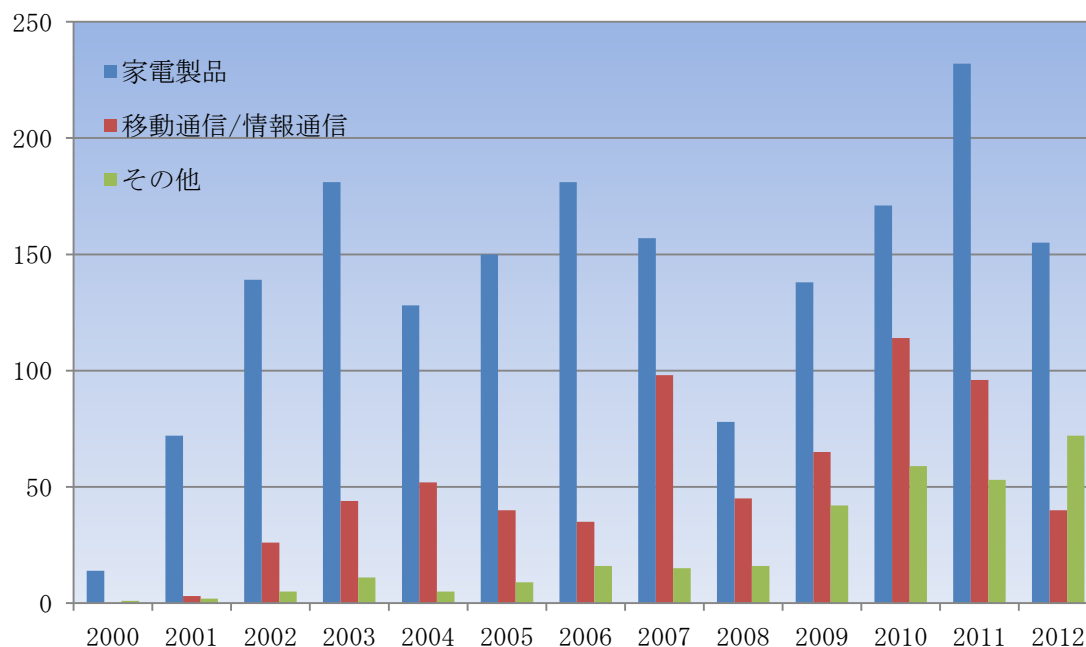
〈表300〉LG電子のデザイン登録件数(中国)



4-2 LG電子の製品群別デザイン登録動向<中国特許庁>

以下、分野別のデザイン登録動向を表に示す。

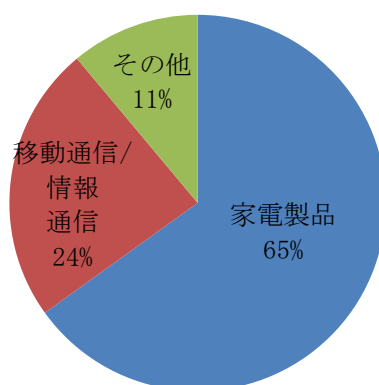
<表301> LG電子の製品群別による累計件数の比率の推移（中国）

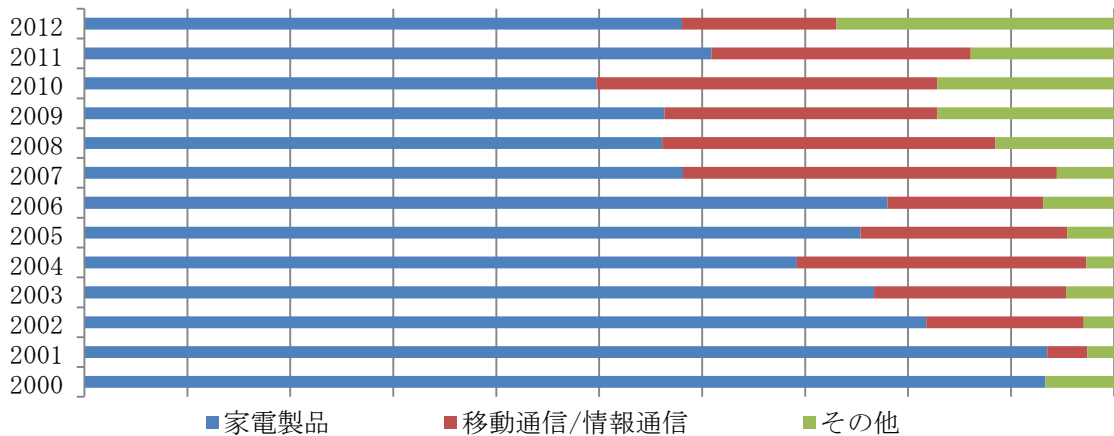


中国においては、全体的に家電製品の登録件数が圧倒的に多い。逆にサムスン電子は、中国における移動通信/情報通信の登録件数が家電製品より多い。

累計件数と全体に占める比率の推移は下の表に示す。累計の内訳では、家電製品が65%、移動通信/情報通信が24%、その他が11%である。

<表302>製品群別による累計件数の内訳(上)とその比率の推移(下)（中国）

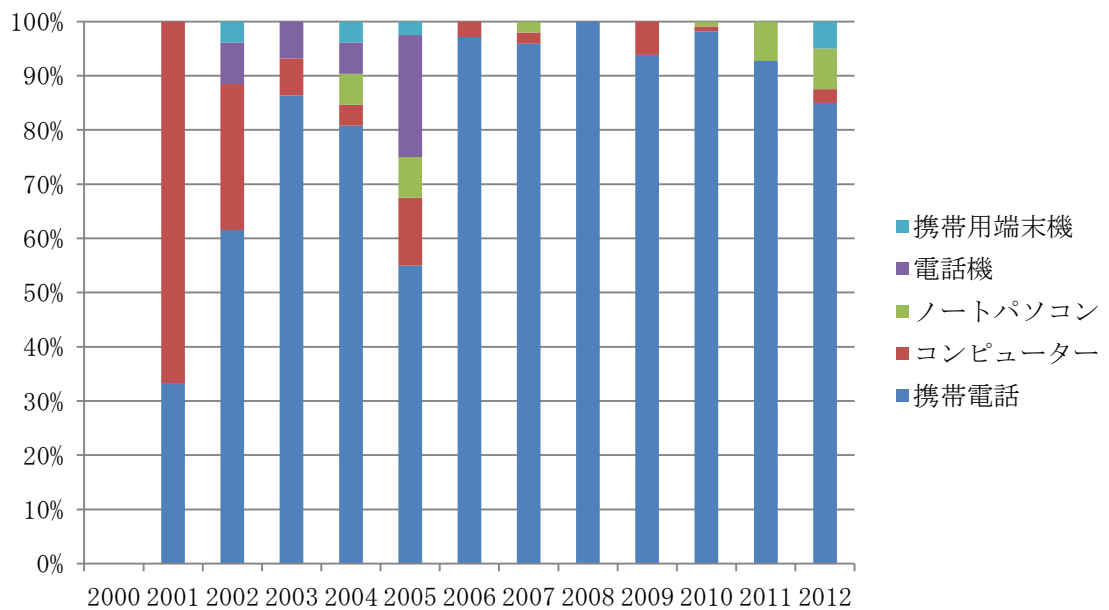




(1) 移動通信/情報通信のデザイン登録現況

下の表に移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移を示す。近年携帯電話の割合が小幅ながら減少傾向である。サムスン電子同様にノートパソコンと携帯用端末機が近年は登録件数を増やしている。

<表 303> 移動通信/情報通信の製品群における登録件数の比率の推移 (中国)

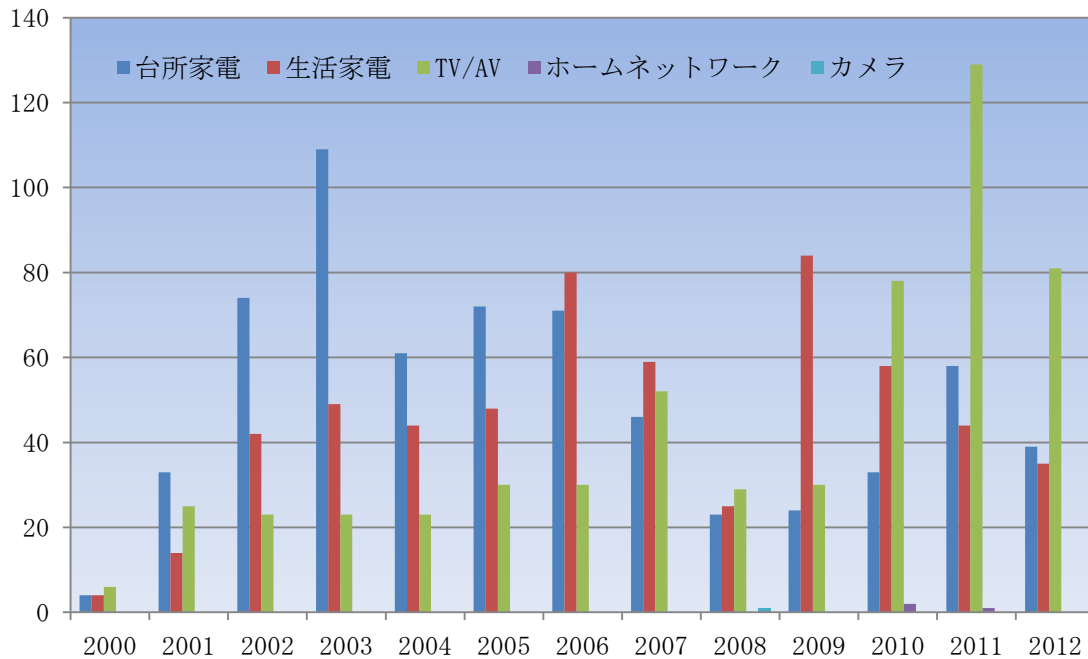


(2) 家電製品のデザイン登録動向

1) 全体の動向

家電製品では、近年は2011年にTV/AVが他の家電製品よりも顕著にピークとなったが、2012年は急激に減少した。生活家電は2009年から減少傾向。台所家電は年々増減幅が激しい。

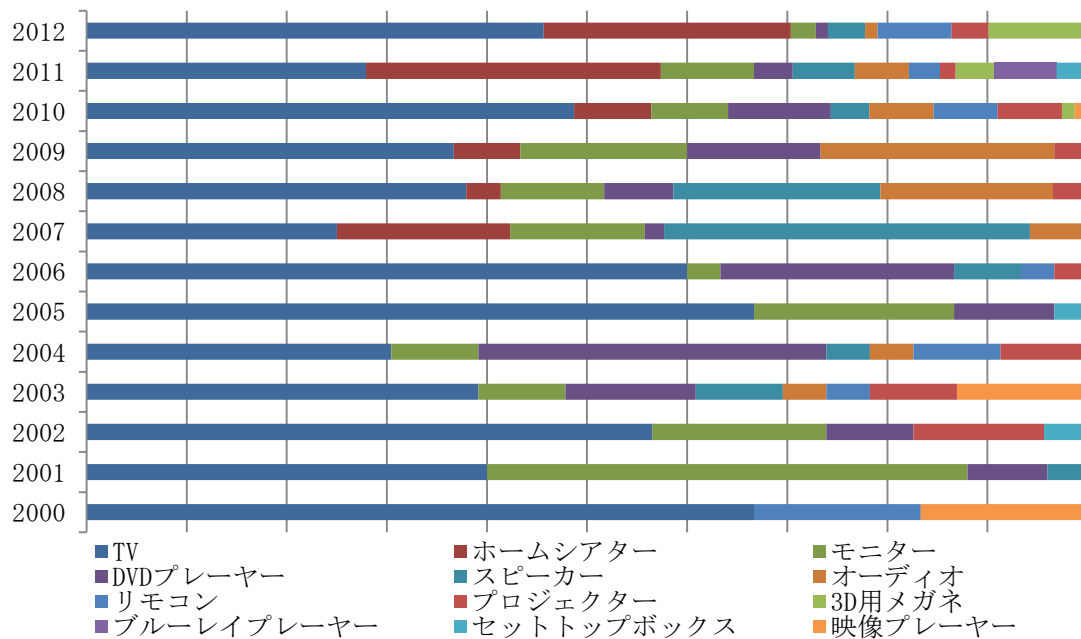
〈表304〉家電製品に属するデザイン登録動向（中国）



2) TV/AVの動向

ここでは、TV/AVに属する各製品の年度別比率を示す。近年はTV、ホームシアター、リモコン、3D用メガネの比率が多くなっている。

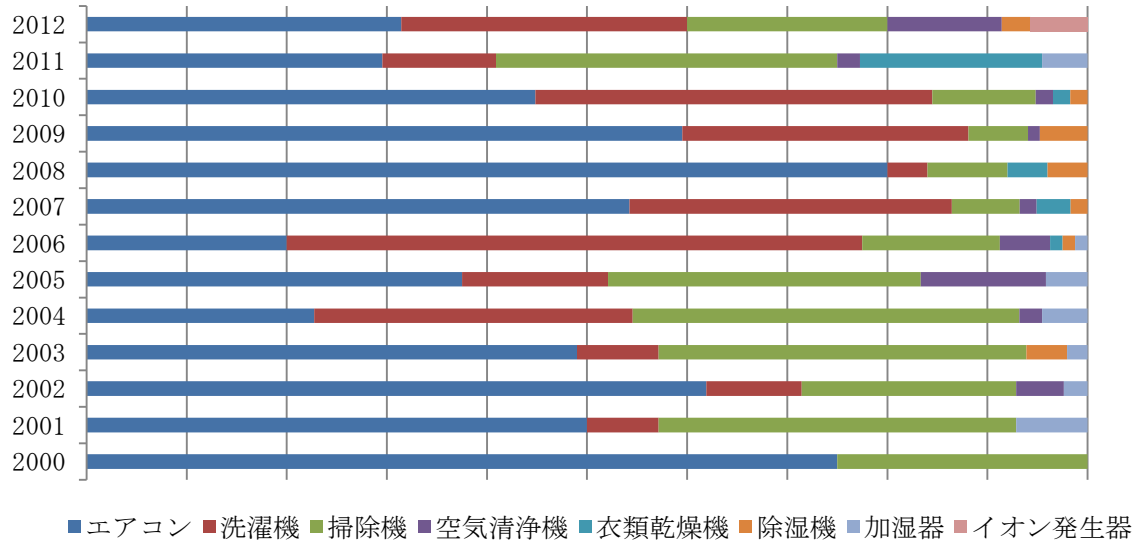
〈表305〉TV/AVに属する各製品の年度別比率（中国）



3) 生活家電の動向

生活家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。近年、エアコン、洗濯機、掃除機の割合が多い。サムスン電子と同様に大気汚染の深刻化のためか空気清浄機の割合が増加している。

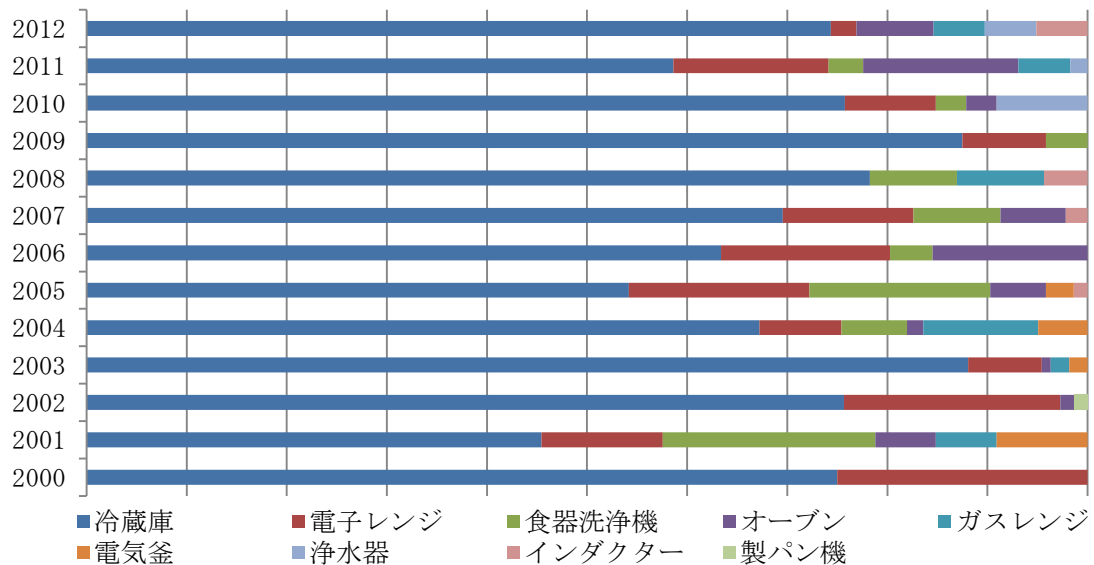
〈表306〉生活家電に属する各製品の年度別比率（中国）



4) 台所家電の動向

台所家電に属する各製品の年度別比率を以下に示す。全体的に冷蔵庫の割合が多く、浄水器、インダクターが増加。電子レンジ、オーブンは減少傾向にある。

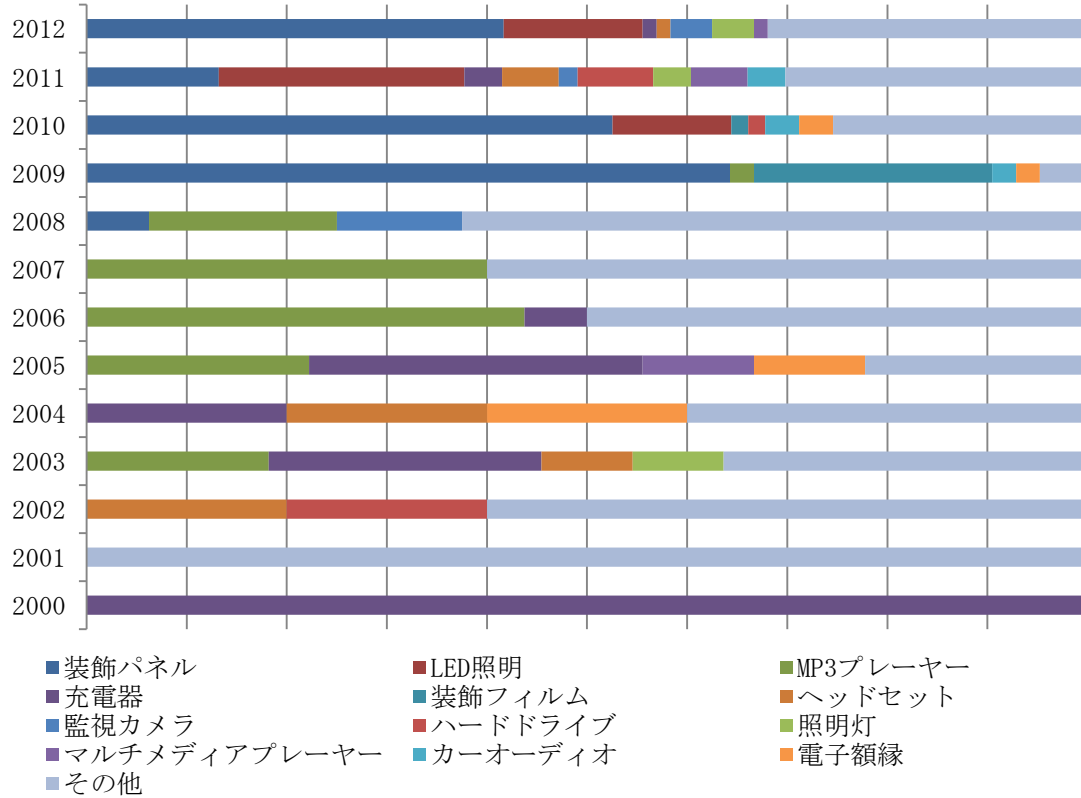
〈表307〉台所家電に属する各製品の年度別比率（中国）



(3) その他のデザイン登録動向

その他の全体件数の推移は上の表で示した。ここでは、その他に属する各製品の年度別比率を示す。装飾パネルが2012年に急激に増加。監視カメラ、照明灯も増加した。LED照明は減少傾向である。

〈表308〉その他に属する各製品の年度別比率（中国）



第4編 日本企業との比較

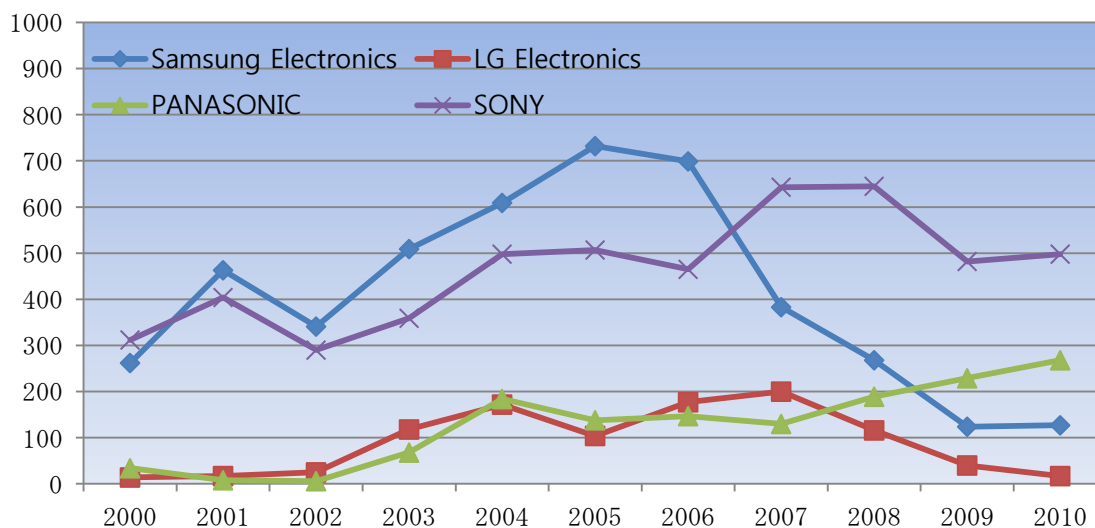
第1章 各国別における特許出願動向の比較

前回は、サムスン電子およびLG電子と日本の代表的電機メーカーであるソニーおよびパナソニックとの米国出願の件数比較を行ったが、この追補版では、前記で分析してきた新興国7ヶ国（台湾、ロシア、インド、ブラジル、南アフリカ共和国、ベトナム、シンガポール）における特許出願を日本企業と比較して分析してみる。

1-1 各国別における特許出願動向の比較<台湾>

まず、台湾における各企業の特許出願件数では、ソニーが最も多く出願しているのが分かる。2006年に若干減少したものの2007年は大幅に増加し、その後2009年に再び減少したが2010年は小幅ながら増加している。次のサムスン電子は、2005年のピーク以後近年は大幅に減少している。パナソニックは、近年緩やかな増加傾向を見せている。LG電子にいたっては、2007年以後急激に減少し、2010年は出願件数が20件にも満たない。近年は、ソニーの出願件数の多さが目立っている。

<表309>各国別における日本企業と韓国企業の特許出願動向（台湾）

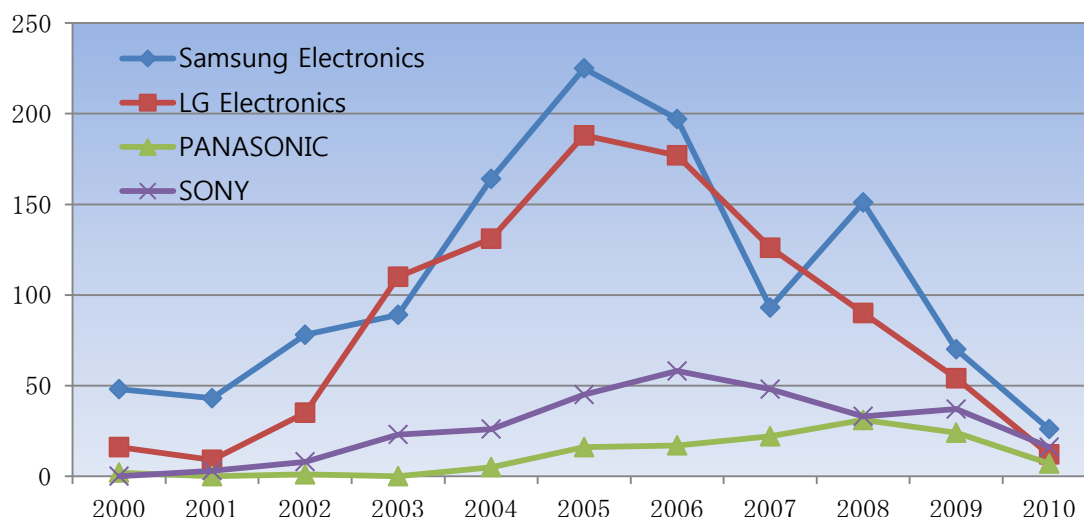


1-2 各国別における特許出願動向の比較<ロシア>

ロシアにおける各企業の特許出願件数では、サムスン電子が最も多い。2005年にピークとなった後は2007年に大幅減少し、翌年2008年に一時期増加するも2009年は急減している。次のLG電子も2005年にピークとなり、その後は大きく減少している。ソニーは、2006年に最も多く出願しているが近年は緩やかな減少傾向を見せている。

パナソニックは、出願件数が全体的に見て非常に少ない。ロシアへの特許出願動向においては、日本企業と韓国企業の出願件数に非常に大きな差が見られる。

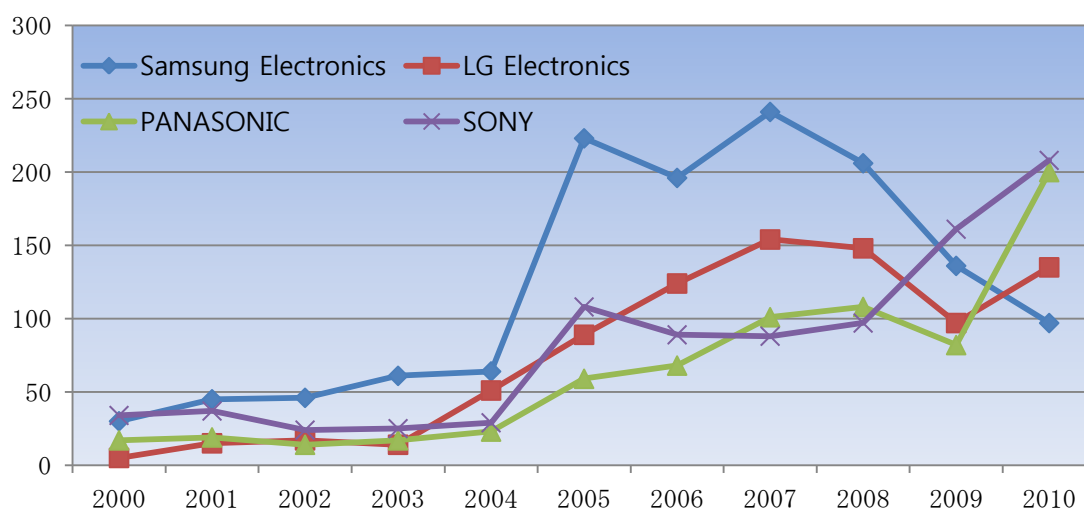
〈表310〉各国別における日本企業と韓国企業の特許出願動向（ロシア）



1-3 各国別における特許出願動向の比較〈インド〉

インドにおける各企業の特許出願件数では、サムスン電子が圧倒的に最も多く出願している。これは、昨今話題になった鍵付きの冷蔵庫を販売するなど、現地のニーズに合わせた製品化が大きな利益を上げているものと見られる。2004年から2005年にかけて3倍以上増加し、翌年若干減少するも2007年はここ10年間でピークとなった。しかし、近年は大幅な減少が見られる。次のソニーもサムスン電子と同様2004年から2005年にかけて大きく増加しているが、近年はサムスン電子とは反対に急激に増加している。LG電子は2007年のピーク以後2009年に減少したが、2010年は再び増加している。パナソニックは、ソニーと同様に近年大幅な増加傾向を見せている。

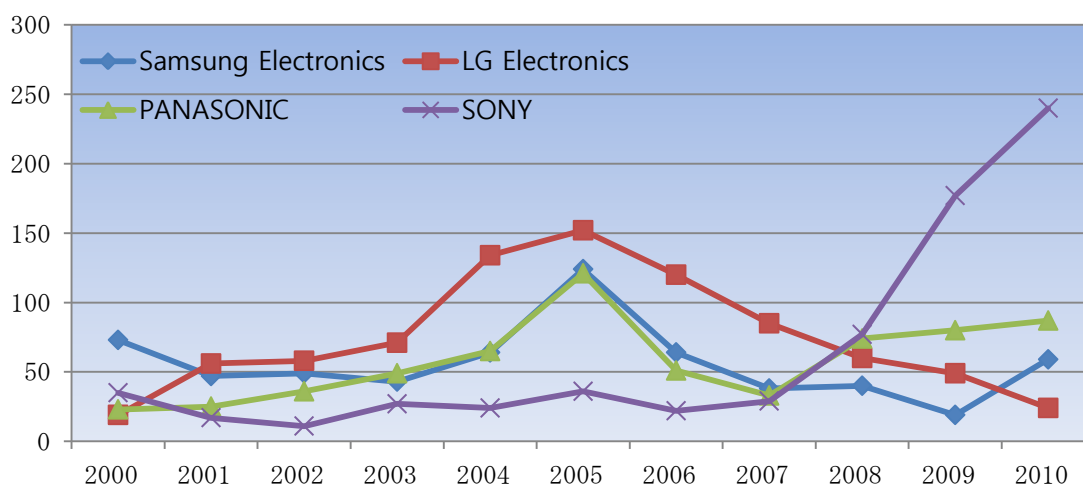
〈表311〉各国別における日本企業と韓国企業の特許出願動向（インド）



1-4 各国別における特許出願動向の比較<ブラジル>

ブラジルにおける各企業の特許出願件数では、LG 電子が他 3 社を抜いて最も多く出願しているが、2005 年以後徐々に出願件数が減少し、2010 年は 4 社のうち最も少ない。次のソニーは 2007 年まで横ばい状態であったが、近年大幅に増加しているのが分かる。パナソニックは 2005 年のピーク後大幅に減少したが、近年は増加傾向である。出願件数が最も少ないサムスン電子は、2004 年から 2007 年までパナソニックと同様の動向であったが、2009 年に大幅に減少、2009 年は再び増加している。

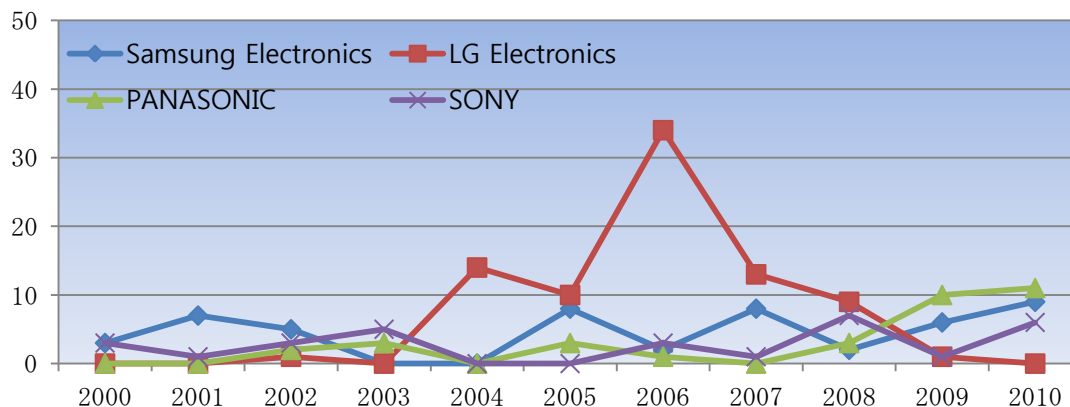
<表312>各国別における日本企業と韓国企業の特許出願動向（ブラジル）



1-5 各国別における特許出願動向の比較<南アフリカ>

南アフリカにおける各企業の特許出願件数では、LG 電子が最も多いが、2006 年の急激な増加以後、近年は大幅に減少しており、2010 年は出願件数が 0 件である。次のサムスン電子は、毎年出願件数の変化が激しいが、近年は増加傾向である。パナソニックは、2007 年まで年間の出願件数が極めて少数であったが、2009 年より伸び増加傾向である。ソニーもパナソニックと同様に年間の出願件数が極めて少ない。近年はやや増加している。

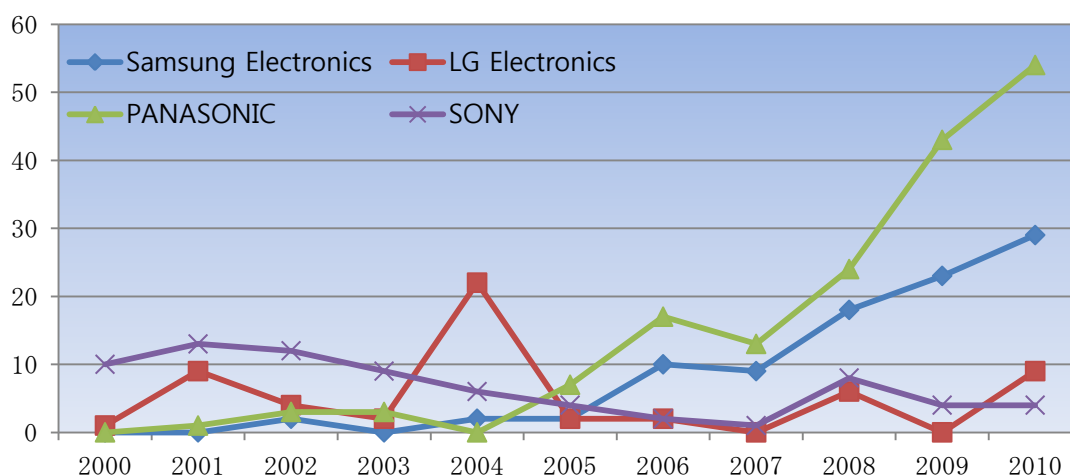
<表313>各国別における日本企業と韓国企業の特許出願動向（南アフリカ）



1-6 各国別における特許出願動向の比較<ベトナム>

ベトナムにおける各企業の特許出願件数では、パナソニックが圧倒的に多い。グラフを見て分かるように、近年は急激に出願件数を伸ばしている。次のサムスン電子は、2005年まで出願件数が極めて少数であったが、近年は大幅に増加している。ソニーは、近年減少傾向である。LG電子は2004年のピーク以後大幅に減少、毎年出願件数の変化が激しい。2009年は増加している。

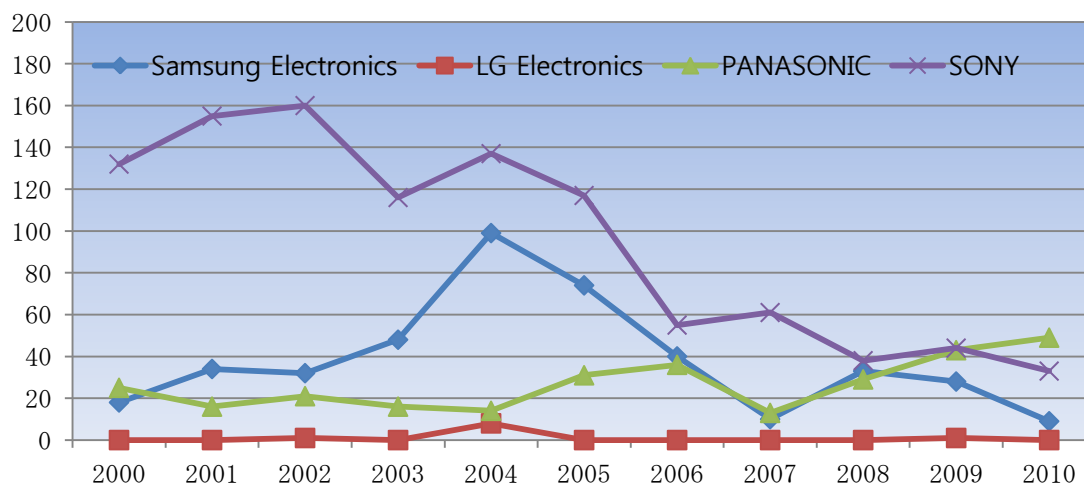
<表314>各国別における日本企業と韓国企業の特許出願動向（ベトナム）



1-7 各国別における特許出願動向の比較<シンガポール>

シンガポールにおける各企業の特許出願件数では、ソニーの出願件数が圧倒的に多いのが顕著である。2002年に最も多く出願されたが、近年は減少の一途をたどっている。次のサムスン電子は、2004年のピーク以後2007年まで大幅に減少している。2008年に増加したものの再び減少している。パナソニックは、2007年から近年にかけて増加傾向である。LG電子は、ここ10年間における出願件数が10件と極めて少ない。

<表315>各国別における日本企業と韓国企業の特許出願動向（シンガポール）



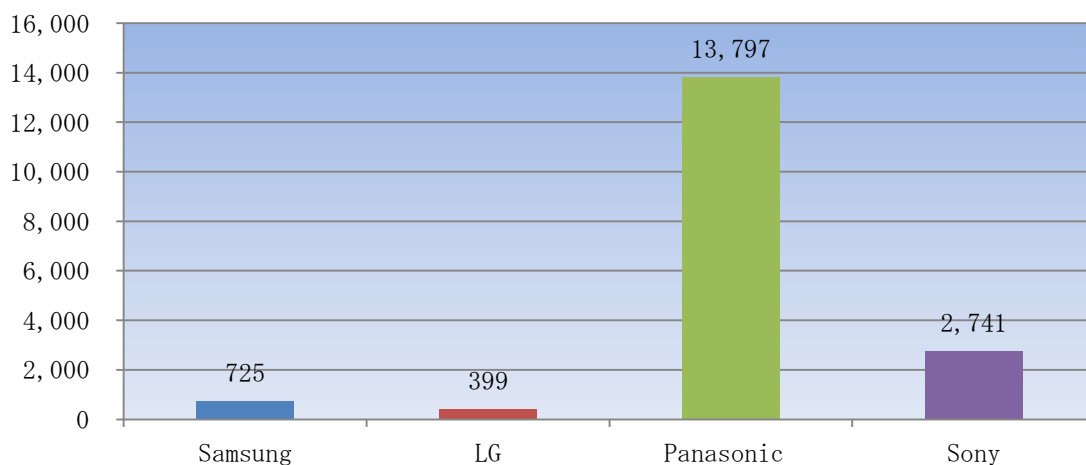
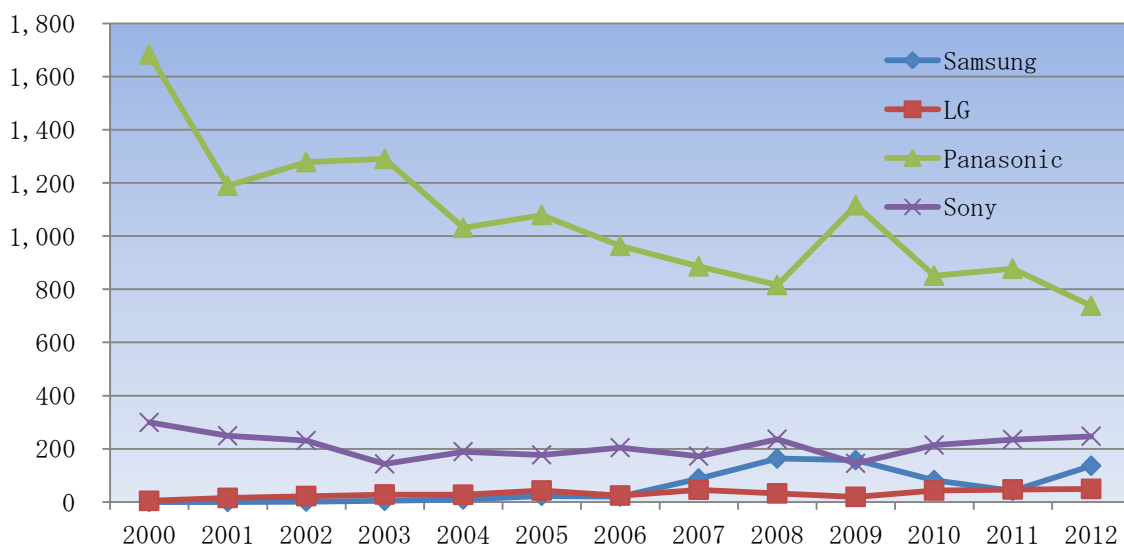
第2章 各企業におけるデザイン登録動向の比較

第1章では、特許出願における日本企業との比較をしたが、第2章では主要4ヶ国（日本、米国、欧州、中国、韓国）におけるデザイン登録動向を日本企業と比較して分析してみる。

1-1 各企業におけるデザイン登録動向の比較 <日本>

まず、日本における各企業のデザイン登録件数では、パナソニックが群を抜いて多く、ここ10年間の総合計は13700件台にも上る。2000年に最も多く登録され、その後は減少傾向だが、他3社よりも圧倒的に多く登録されている。次のソニーは、小幅ながら近年は増加傾向である。サムスン電子は、2009年以後大幅に減少したが2012年は再び増加している。LG電子は、あまり変化がなく横ばい状態である。

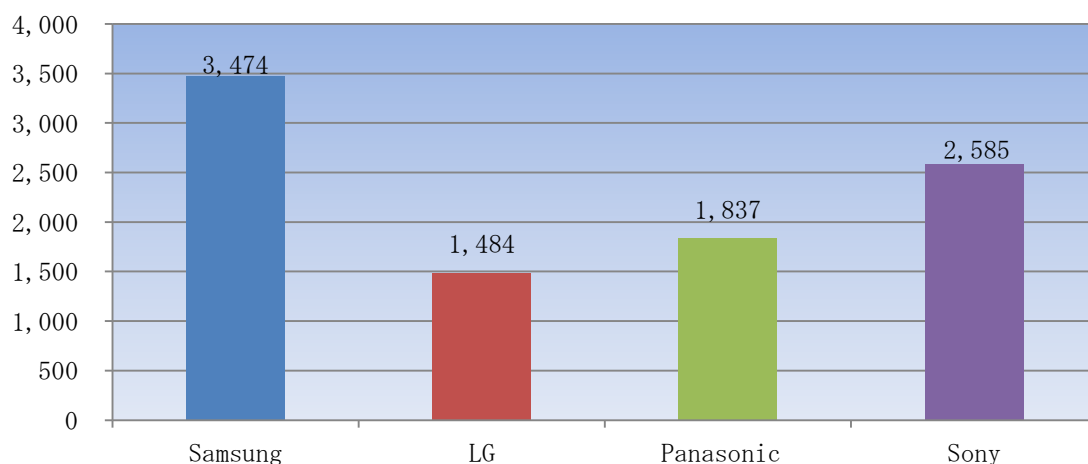
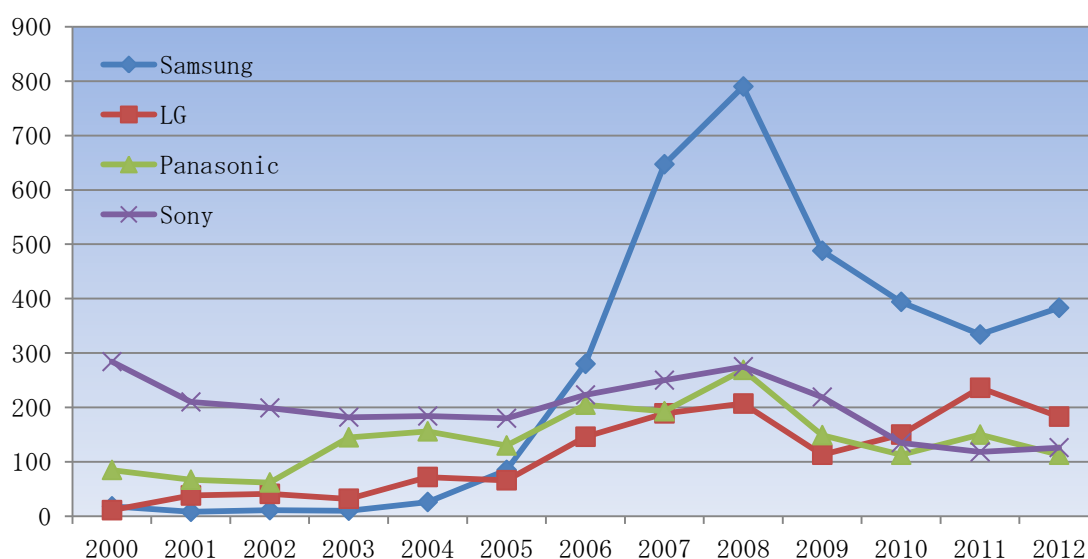
<表316>各企業における日本デザイン登録の年度別推移(登録)



1-2 各企業におけるデザイン登録動向の比較<米国>

米国における各企業のデザイン登録件数では、グラフを見ても分かるように、サムスン電子の登録件数が著しく多い。2006年から2008年にかけて急増しその後は減少しているが、2012年は再び増加傾向である。次のソニーは、2008年のピーク後徐々に減少している。パナソニックもソニーと同様、2008年をピークに減少傾向を見せている。LG電子は、2005年まで登録件数がそれほど多くなかったが、近年は増加している。

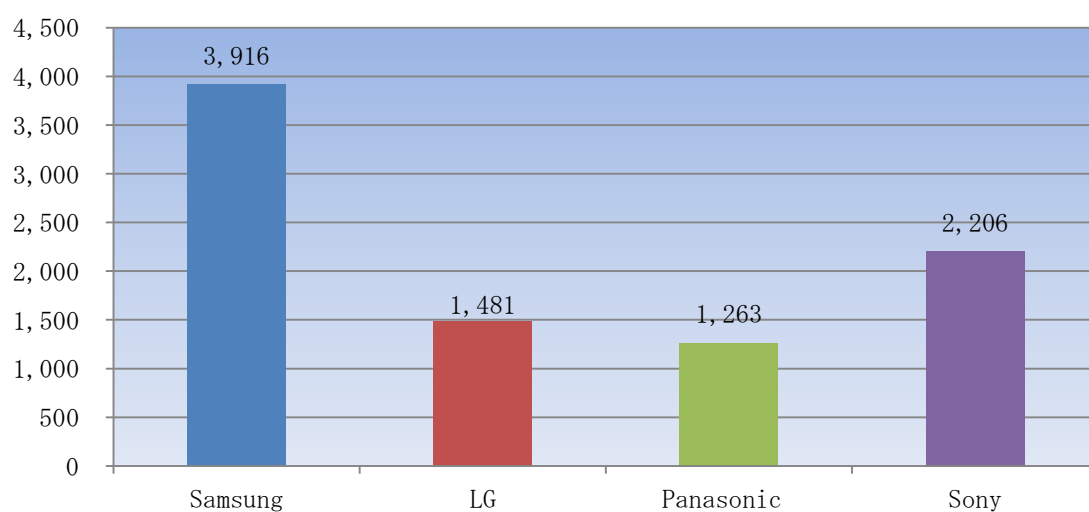
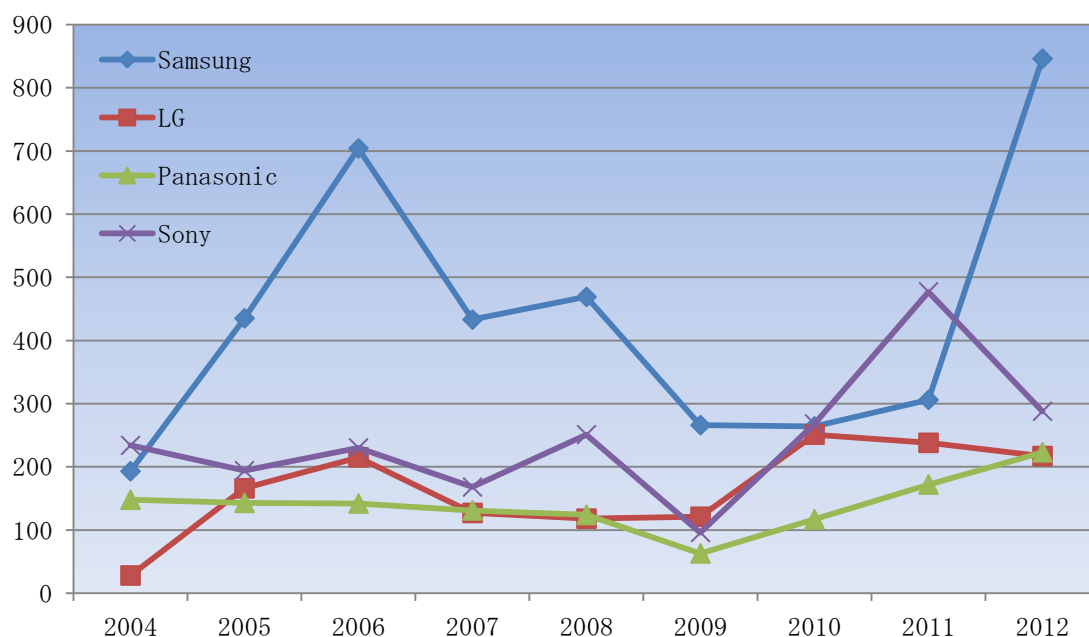
<表317>各企業における米国デザイン登録の年度別推移(登録)



1-3 各企業におけるデザイン登録動向の比較<欧州>

欧州における各企業のデザイン登録件数では、サムスン電子が最も多い。2006年に急増後減少傾向であったが、2012年は急激に伸びている。次のソニーは、2009年に大幅に減少するも翌年から登録件数が増加、2012年は再び減少している。LG電子は2010年に増加したもののその後は緩やかに減少傾向をたどっている。パナソニックは2009年の減少以後、急激に増加している。

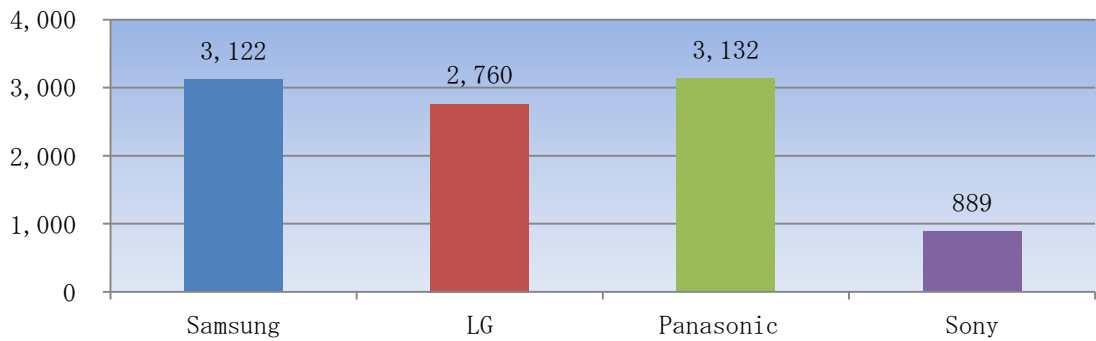
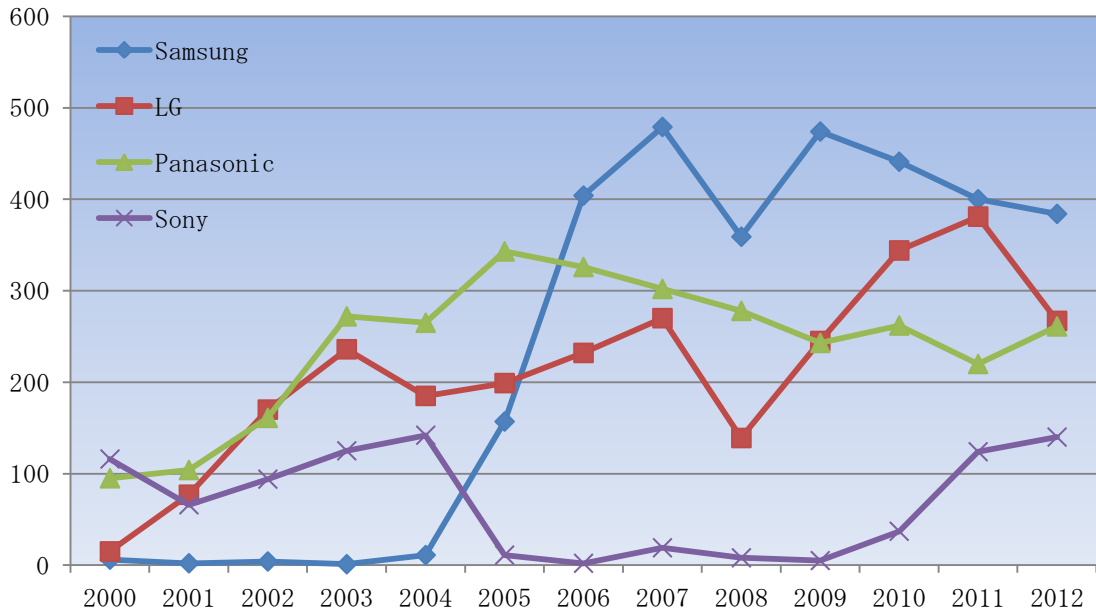
〈表318〉各企業における欧州デザイン登録の年度別推移(登録)



1-4 各企業におけるデザイン登録動向の比較〈中国〉

中国における各企業のデザイン登録件数では、パナソニックが最も多い。2005年にピークとなり、その後減少しているが2012年は再び増加するなど、大幅な減少はない。次のサムスン電子は2005年に急激に登録件数を増やした。2008年に減少するものの翌年増加し、近年は再び減少傾向だが、他3社よりも登録件数が多い。次のLG電子は、2008年の大幅な減少から翌年急激に増加、2012年は再び減少している。ソニーは、他3社のうち極めて登録件数が少ないのが顕著である。2004年以後大幅に減少し2009年までしばらく横ばい状態であったが、近年は大きく増加している。

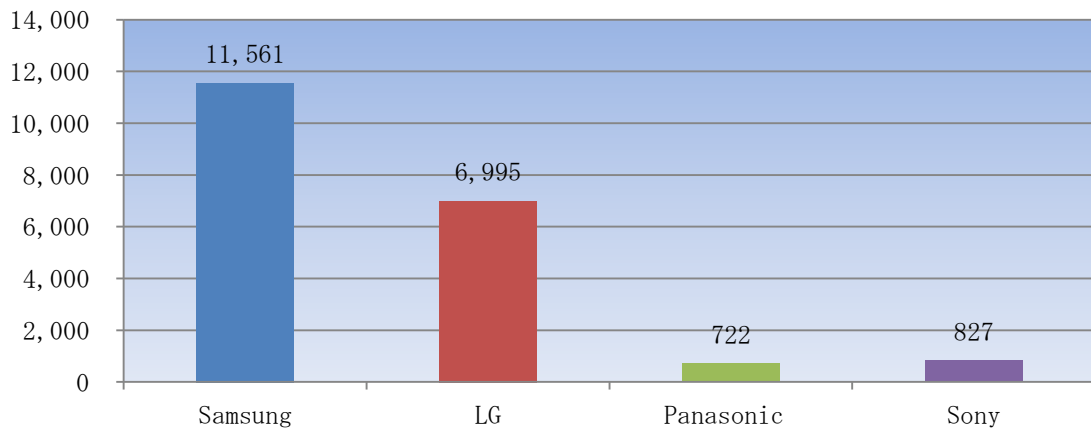
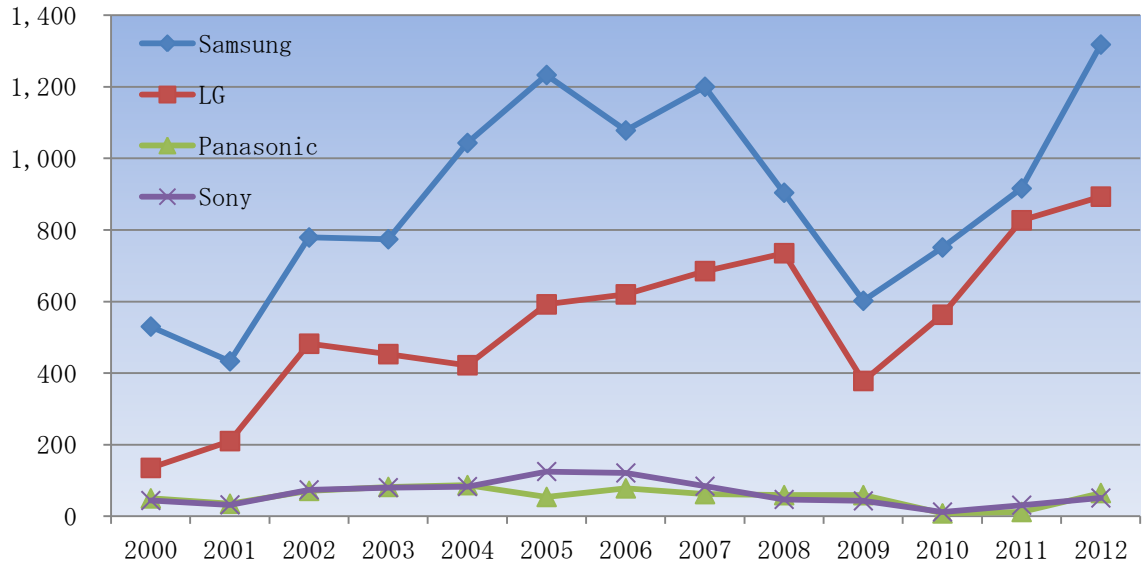
〈表319〉各企業における中国デザイン登録の年度別推移(登録)



1-5 各企業におけるデザイン登録動向の比較<韓国>

韓国における各企業のデザイン登録件数で最も多いのは、グラフを見て分かるように11,561件登録されているサムスン電子である。2009年に急激に落ち込んだが、翌年から上昇し始め2012年は近年で最も多く登録されている。その次のLG電子もサムスン電子と同様に2009年に大幅に減少したが近年は増加の一途をたどっている。ソニーは、2005年に最も多く登録されたがその後は緩やかに減少し2012年は若干増加している。パナソニックは、2009年までほぼ横ばい状態が続き2010年に大幅に減少したが、その後は増加している。

〈表320〉各企業における韓国デザイン登録の年度別推移(登録)



[特許庁委託]
韓国企業の技術動向調査(追補版)
(サムスン電子、LG電子編)

[著者]
韓洋国際特許法人(代表弁理士 金延洙)
金世元 パートナー弁理士
金哲進 パートナー弁理士
金 煥 パートナー弁理士
鄭熙景 国際部
黄正恵 国際部
安美淑 国際部
池崎 麻理絵 国際部

[オブザーバー]
日本貿易振興機構 ソウル事務所
岩谷一臣

[発行]
日本貿易振興機構 在外企業支援・知的財産部 知的財産課
〒107-6006 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル6階
TEL: 03-3582-5198
FAX: 03-3585-7289

2013年12月発行
禁無断転載

本冊子は、作成時点に入手した情報に基づくものであり、その後の状況によって変わる場合があります。また、掲載した情報・コメントは著者及び当機構の判断によるものですが、一般的な情報・解釈がこのとおりでであることを保証するものでないことを予めお断りします。

